


Hyperion® Essbase®

リリース 6



スプレッドシートアドインユーザーズ ガイド for 1-2-3



Hyperion Solutions Corporation

H70D06-60000J0

© 1991-2000 Hyperion Solutions Corporation. All rights reserved.

米国特許番号 : 5,359,724

Hyperion、Essbase および Arbor は Hyperion Solutions Corporation の登録商標であり、Hyperion Solutions および Hyperion Essbase は、Hyperion Solutions Corporation の商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation の登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation の商標です。IBM、DB2、Lotus および 1-2-3 は、IBM Corporation の登録商標です。その他のブランド名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

Hyperion Solutions Corporation が発行した文書による許可がない限り、この製品の購入者が個人的な使用目的以外でこのマニュアルの一部または全部をいかなる形式または方法でも（転写、記録、情報検索システムへの利用などの電子的または機械的な方法を含む）複製または転載することを禁じます。

警告：この文書に含まれる情報はすべて、予告なしに変更されることがあります。Hyperion Solutions Corporation は、この文書の誤りに対して責任を負いません。また、このマニュアルの提供、実行または使用に関して生じた損害に対しても責任を負いません。

Hyperion Solutions Corporation
1344 Crossman Avenue
Sunnyvale, CA 94089

Printed in the U.S.A.

目次

まえがき

リリース 6 の概要	xix
------------------	-----

第 1 章 : Hyperion Essbase の概要

Hyperion Essbase の一般的なユーザ	1-2
クライアント サーバ環境の構成要素	1-3
サーバ	1-4
Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン	1-4
ネットワーク	1-4
Hyperion Essbase のアプリケーション製品	1-5
Hyperion Essbase スプレッドシート ツールキット	1-5
Hyperion Essbase のパーティション オプション	1-5
Hyperion Essbase の SQL (Structured Query Language) インターフェイス	1-5
Hyperion Essbase のアプリケーション プログラミング インターフェイス	1-6
Hyperion Essbase の通貨換算	1-6
Hyperion Integration Server	1-6
Hyperion オブジェクト	1-7
Hyperion Web ゲートウェイ	1-7
多次元データベース	1-7
多次元とは	1-7
データベース アウトライン	1-9
次元	1-10
メンバ	1-10
属性	1-12

式	1-12
別名	1-12
集計	1-12

第 2 章 : Hyperion Essbase の基本チュートリアル

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用するための準備	2-2
Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの組み込み	2-2
Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの起動	2-4
オンライン ヘルプへのアクセス	2-5
マウス操作の使用可能	2-6
チュートリアルに入る前に	2-10
Hyperion Essbase のオプションの設定	2-10
基本チュートリアルの注意事項	2-15
Sample Basic データベースについて	2-16
データの取得	2-17
データベースへの接続	2-18
パスワードの変更	2-20
データベースからのデータの取得	2-20
データ取得要求のキャンセル	2-22
1 つ前のデータベース ビューの復元	2-23
詳細度の高いデータへのドリルダウン	2-24
詳細度の低いデータへのドリルアップ	2-30
ドリルダウンおよびドリルアップ動作のカスタマイズ	2-31
データのピボット、保持、抑制	2-35
行と列のピボット	2-35
データ サブセットの保持	2-40
データ サブセットの削除	2-43
データ取得無しでのワークシートの操作	2-43
Missing、ゼロ値、下線文字の抑制	2-48
ワークシートのフォーマット設定	2-52
テキストとセルのフォーマット設定	2-53
メンバ名の別名の表示	2-64
メンバ名と別名の同時表示	2-66
メンバラベルの繰返し表示	2-68
Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用したクエリの作成	2-71
クエリの作成と変更	2-72

クエリの作成	2-74
クエリの削除	2-85
メッセージおよび確認の表示	2-86
ヘルプへのアクセス	2-87
Hyperion Essbase クエリ デザイナから複数のデータベースへの接続	2-87
Hyperion Essbase クエリ デザイナの実行結果に対する ワークシート オプションの適用	2-89
メンバの選択	2-90
保存と切断	2-100
ワークシートの保存	2-101
Hyperion Essbase からの切断	2-101
ログ オフ	2-103
応用チュートリアル	2-103

第 3 章 : Hyperion Essbase の応用チュートリアル

チュートリアルに入る前に	3-2
データベースへの接続	3-2
Hyperion Essbase のオプションの設定	3-5
高度なデータ取得処理の実行	3-9
データのフィルタ処理	3-10
データのソート	3-17
非対称型レポートへのデータの取得	3-21
フォーマット設定されたワークシートでの作業	3-24
データ取得時の式の保存	3-31
データ範囲の取得	3-35
関数を使用したデータの取得	3-38
動的計算メンバの取得	3-43
動的時系列に対する最新時間間隔の指定	3-47
フリー フォーム レポート作成によるデータ取得	3-52
リンク レポート オブジェクトの使用方法	3-64
ファイルからデータ セルへのリンク	3-65
データ セルへのセル ノートのリンク	3-69
データ セルへの URL のリンク	3-71
リンク レポート オブジェクトのアクセスおよび編集	3-75
複数のデータベースへの接続	3-84
アクティブなデータベース接続の表示	3-86

リンク パーティションへのアクセス	3-86
サーバ上のデータの更新	3-90
データベースの計算	3-94
データからの複数のワークシートの作成	3-96
通貨換算処理	3-102
通貨換算データの取得	3-102
Sample Currency データベースへの接続	3-103
アドホックな通貨レポートの作成	3-106

第 4 章 : HIS ドリルスルーの使用方法

ドリルスルーとは	4-1
ドリルスルー ウィザードとは	4-4
チュートリアルに入る前に	4-4
Hyperion Essbase のオプションの設定	4-7
このチュートリアルで使用するサンプル	4-13
ドリルスルーの使用方法	4-14
スプレッドシートからドリルスルーへのアクセス	4-14
表示またはカスタマイズするドリルスルー レポートの選択	4-21
列の選択と順序の設定	4-24
データの順序設定	4-27
データのフィルタ処理	4-31
Hyperion Essbase からの切断	4-38

索引

目的

このマニュアルでは、Lotus 1-2-3 for Windows 対応の Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用するために必要な詳細情報をお届けします。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの機能およびオプションについて説明し、このソフトウェアを使用するために必要な概念、プロセス、操作手順、フォーマット、タスクについて説明します。また、具体的な使用例も多く示します。

Hyperion Essbase は、財務、経理、営業の専門家が必要とする複雑な計算の要求を満たすオンライン分析処理 (OnLine Analytical Processing: OLAP) ソフトウェアです。Hyperion Essbase は、ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のクライアントサーバコンピューティング環境で動作します。この環境では、複数のユーザが各自のデスクトップコンピュータを使用して、中央に集中保管されているデータの取得や分析を行うことができます。

Hyperion Essbase の OLAP サーバ上のデータからレポートを作成する方法には、次に示す 4 つの方法があります。

- Hyperion Essbase スプレッドシート アドインと呼ばれるスプレッドシート インターフェイスを介してデータベース レポートを作成する。この方法についてはこのマニュアルで説明します。
- Hyperion Essbase アプリケーション マネージャのレポートライターを使用してレポート スクリプトを作成し、レポートを実行する。詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

- Hyperion Essbase のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を使用して、データベース レポートを作成し、実行する。詳細は、Hyperion Essbase DOCS ディレクトリ内の『API リファレンス』オンライン マニュアルを参照してください。
- Hyperion Reporting for Hyperion Essbase などのレポート作成ツールを使用する。

対象読者

このマニュアルは、Hyperion Essbase のエンド ユーザのうち、次の作業の一部またはすべてを担当される方を対象としています。

- Hyperion Essbase の起動、Hyperion Essbase データベースへの接続と切断
- データベースからワークシートへのデータの取得
- ドリルダウン、ドリルアップ、ワークシート全体のナビゲートによる複数の観点からのデータの分析と整理
- リンク レポート オブジェクトおよびリンク パーティションを使用した作業
- Hyperion Essbase サーバ上のデータの更新
- ワークシートによるデータベースへのデータのロードや、データベース内データに対する計算の実行
- データからの多数のシートの作成
- 通貨換算処理

マニュアルの構成

このマニュアルの主となる章は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの基本操作と応用操作の手順を段階的に説明するためのチュートリアルとして構成されています。次に、このマニュアルの各章の概要を説明します。

- [xix ページの「リリース 6 の概要」](#)では、Hyperion Essbase の旧バージョンからリリース 6 への移行について説明し、リリース 6 で追加および強化された機能の概要を示します。

- 第 1 章「Hyperion Essbase の概要」では、スプレッドシート インターフェイスを介したデータの取得と処理について基本的な概念を説明します。
- 第 2 章「Hyperion Essbase の基本チュートリアル」では、基本チュートリアルとしてデータの操作、アドホック取得、レポート作成のための基本的な方法を段階的に説明します。
- 第 3 章「Hyperion Essbase の応用チュートリアル」では、特殊なレポートや特殊なフォーマットのデータ ビューを必要とするユーザを対象に、レポート作成およびデータ取得に関する応用操作の手順を説明します。
- 第 4 章「HIS ドリルスルーの使用法」では、HIS ドリルスルーの概要を説明します。
- 索引は用語とその掲載ページ番号のリストです。索引に収録されている用語の掲載ページを表示するには、その索引項目を選択、検索してください。

注意：Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプには、Hyperion Essbase スプレッドシート ツールキットについて詳しく説明した項があります。この項では、Lotus 1-2-3 のマクロや Visual Basic for Applications (VBA) の関数を使用している Hyperion Essbase の操作のカスタマイズや自動化の方法が説明されています。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプの詳細は、第 2 章「Hyperion Essbase の基本チュートリアル」の「オンライン ヘルプへのアクセス」を参照してください。

『Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for 1-2-3』は、Adobe® Acrobat Reader® (リリース 4 以降) を使ってオンラインで表示および印刷するために、¥essbase¥docs¥client ディレクトリに .pdf ファイルとして収録されています。この .pdf ファイルの名前は Ess123w.pdf です。Adobe Acrobat Reader は、Hyperion Essbase の CD-ROM または <http://www.adobe.co.jp> からダウンロードできます。Hyperion Essbase の CD-ROM では、Acrobat Reader の実行ファイルは、ご使用のプラットフォームと言語のサブディレクトリの下に Adobe ディレクトリに収録されています。Adobe Acrobat Reader をインストールするには、実行ファイルを起動して表示されるメッセージに従って必要な情報を入力してください。

サンプル データベースおよびサンプル ファイル

このマニュアルでは、チュートリアル の操作手順の説明に、Hyperion Essbase サーバソフトウェアに付属のサンプル データベースおよびサンプル ファイルを使用します。第 2 章および第 3 章のほとんどの項では、例として Sample Basic データベースを使用します。通貨換算の項では、Hyperion Essbase の通貨換算のサンプル アプリケーションを使用します。通貨換算のサンプル アプリケーションについては、第 3 章「Hyperion Essbase の応用チュートリアル」を参照してください。また、Sample Basic データベースについては、第 2 章「Hyperion Essbase の基本チュートリアル」を参照してください。

前述のサンプル アプリケーションおよびデータベース以外にも、第 3 章の応用チュートリアルではサンプルの Lotus 1-2-3 ファイルをいくつか使用します。アプリケーション、データベース、ファイルの作成は、各企業または組織におけるサーバのインストール担当者が行います。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者にお問い合わせください。

関連ドキュメント

『Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for 1-2-3』以外に、Hyperion Essbase マニュアルとして次のマニュアルがあります。

- 『Hyperion Essbase 概要』には、このリリースの Hyperion Essbase に関する最新情報や、移行および機能について最も重要な情報が記載されています。
- 『Hyperion Essbase ドキュメント ロードマップ』では Hyperion Essbase のすべてのマニュアルがリストされています。さらにオンライン情報へのアクセス方法についても説明されています。
- 『Hyperion Essbase インストール ガイド』では Hyperion Essbase サーバ、Hyperion Essbase Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン、Hyperion Essbase アプリケーション マネージャ、Hyperion Essbase SQL インターフェイス、Hyperion Essbase API、ランタイム クライアントおよびサンプル アプリケーションのインストールと初期設定の方法について説明します。

- 『Hyperion Essbase クイック パス カード (QPC)』では、Hyperion Essbase データベースの作成、使用および保守に関する作業の概要が記載されています。
- 『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』では、Hyperion Essbase のアーキテクチャ、データベースの設計方法、計算処理の設計方法、Hyperion Essbase セキュリティの設定方法、データベースの保管方法および Hyperion Essbase の最適化方法について説明します。
- Hyperion Essbase アプリケーション マネージャ オンライン ヘルプ ファイルでは、アプリケーション マネージャ ユーザ インターフェイスの使用方法について説明します。
- 『Hyperion Essbase クイック テクニカル リファレンス』では、Hyperion Essbase の関数、計算コマンド、レポート コマンド、ESSCMD コマンドの構文および構成ファイル (.CFG ファイル) の設定について説明します。
- DOCS ディレクトリ内の『テクニカル リファレンス』オンライン マニュアルでは、Hyperion Essbase の関数、計算コマンド、レポート コマンド、ESSCMD コマンドおよび構成ファイル (.CFG ファイル) の設定がリストされ、説明されています。
- 『Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for 1-2-3』では、Hyperion Essbase Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの機能を Microsoft Excel または Lotus 1-2-3 for Windows で使用するための方法について説明します。このマニュアルは、Adobe Acrobat Reader (リリース 3.0.1 以降) を使ってオンラインで表示および印刷するために、¥ESSBASE¥DOCS¥CLIENT ディレクトリに .PDF ファイルとして収録されています。Adobe Acrobat Reader は Hyperion Essbase の CD-ROM に収録されていますが、WWW.ADOBE.CO.JP の URL からダウンロードできます。
- Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン オンライン ヘルプ ファイルには、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの使用方法が記載されています。さらにスプレッドシート マクロや VBA 関数がすべて収録されています。

- DOCS ディレクトリ内の『API リファレンス』オンライン マニュアルでは、Hyperion Essbase API で利用できるプログラム式の関数をリストし、説明しております。これらの関数を使用してプログラミングを開始するのに役立つ情報も記載しています。
- 『Hyperion Essbase SQL インターフェイス ガイド』では、Hyperion Essbase の SQL インターフェイスを介してデータをロードできるようにシステムを設定する方法について説明します。このマニュアルは、Adobe Acrobat Reader (リリース 3.0.1 以降) を使用してオンラインで表示および印刷するために、¥ESSBASE¥DOCS¥CLIENT ディレクトリに .PDF ファイルとして収録されています。Adobe Acrobat Reader は、Hyperion Essbase の CD-ROM に収録されていますが、WWW.ADOBE.co.jp の URL からダウンロードできます。

オンライン ヘルプ

オンライン ヘルプにアクセスするには、Hyperion Essbase の各ダイアログボックスにある [ヘルプ] ボタンをクリックするか、Essbase のメニューから [Essbase ヘルプ] を選択します。

オンライン ヘルプのトピックを印刷するには、該当のトピックを表示して [ファイル] > [印刷] を選択するか、マウスを右クリックして表示されるメニューから [印刷] を選択します。

オンライン マニュアル

オンライン マニュアルとは、印刷物として提供されるマニュアルの電子データ版を指します。

オンライン マニュアルを表示するには、Adobe Acrobat Reader を起動し、¥essbase¥docs¥client ディレクトリにある Hyperion Essbase .pdf ファイルのうち該当するものを開きます。

表記ルール

次の表は、このマニュアルで使用されている表記ルールを示します。

表 i: 表記ルール

項目	説明
▶	矢印は、1つ以上のステップで構成される操作手順の始まりを示します。
大カッコ ([])	構文例の記述で項目が大カッコで囲まれている場合、その項目の指定はオプションです。
太字	本文に記載のとおりに入力する必要のある語や文字は太字で表記します。また、操作手順の説明では主要なインターフェイス要素を太字で表記します。
英大文字	ファイル名、関数、DOS コマンド、各種 ID は、英大文字で表記します。たとえば、GDC.INI ファイルのように表記します。
例	使用例は、このフォントで表記します。
[Ctrl] + [0]	複数のキー名がプラス記号でつながっている場合は、最初のキーと2番目のキーを同時に（ただし若干最初のキーの方を先に）押すことを意味します。
斜体	コマンド構文中の変数フィールドは斜体字で表記します。斜体字で表記された変数の箇所には、ユーザが値を入力します。
省略記号 (...)	省略記号は主題と関係のない内容の省略を示します。構文例で省略記号が使用されている場合は、一般に、直前の項目を複数回繰り返して指定できることを示します。
マウス ボタンの左右	このマニュアルの例や手順の説明では、右利き用マウスの使用を前提としています。左利き用マウスをご使用の場合は、マウス ボタンの左右の記載を読み替えてください。

表 i: 表記ルール (続き)

項目	説明
メニュー コマンド	<p>メニュー コマンドは、次に示す形式で記載します。</p> <p>[メニュー名]>[メニュー コマンド]>[下位メニュー コマンド]</p> <p>例:[ファイル]>[デスクトップ]>[アカウント]</p>
<i>n</i> 、 <i>x</i>	<p>変数 <i>n</i> の位置にはユーザが数字を指定する必要があります。同様に、変数 <i>x</i> の位置にはユーザが文字を指定する必要があります。</p>

追加サポート

Hyperion では、マニュアルおよびオンライン ヘルプを提供する以外に、製品情報に関して次の追加サポートを行っています。

マニュアルの追加注文

印刷版マニュアルの追加注文は、お近くのサポート オフィスに連絡してください。Hyperion Essbase の各マニュアルは、<http://www.hyperion.com> から入手できます。

トレーニング サービス

Hyperion では講義形式のトレーニング サービスを 2 種類用意しています。1 つは Hyperion が実施するトレーニング サービスで、すべての Hyperion 製品を対象に Hyperion の専門トレーニング スタッフが直接指導します。もう 1 つは Hyperion の提携パートナーによるトレーニング サービスで、Hyperion の認可を受けたトレーニング センターでスタッフが直接指導を行います。なお後者の場合、受講できるコースは Hyperion 提供のコースの一部と、提携パートナーが独自に企画したコースになります。

Hyperion ではエンド ユーザ、管理者、情報システムの専門家を対象にトレーニング サービスを提供しています。Hyperion 製品は全世界でさまざまなユーザにご利用いただいております。多岐に渡るユーザの要望に応えるため、Hyperion ではさまざまな形式や場所で講義形式のトレーニング サービスを実施しています。また、生産性の向上と日常業務の効率化を目的とするユーザを対象に、カスタム トレーニング サービスも用意しています（カスタム トレーニングとは、特定の作業を想定して設定、調整されたアプリケーションの操作に習熟するためのトレーニングのことです）。

Hyperion では、一部の製品および業務についてさまざまな形でマルチメディア トレーニングを提供している以外に、新しいトレーニング プログラムの開発も常に進めています。エンド ユーザ向けのトレーニングについては、コンピュータベース トレーニング（Computer-Based Training: CBT）コースがあります。これらのトレーニング コースを利用すると、製品の諸機能の概要を低コストで学べます。さらに Hyperion では、一部の製品および業務について基本操作をマスターした上級ユーザを対象に、

ビデオテープや CD-ROM を使用したトレーニング サービスも用意しています。CBT およびマルチメディアの導入により、高品質の対話形式によるトレーニングがどこにいても利用できます。

トレーニング サービスの詳細は、お近くのサポート オフィスに連絡してください。

コンサルティング サービス

Hyperion では、国際性と地域性の両方を視野に入れたコンサルティング サービスを提供しています。Hyperion のコンサルティング サービスではすべての製品ラインを対象に、設計のレビュー、プロジェクト管理、インプリメンテーション、テクニカル サポート、追加サポートを行っています。コンサルティング サービスは Hyperion の提携パートナーも提供しています。提携パートナーによるコンサルティング サービスについては、Hyperion の Web サイト (<http://www.hyperion.com>) を参照してください。詳細はお近くのサポート オフィスに連絡してください。

テクニカル サポート

Hyperion では、ユーザが製品に関する問題を迅速かつ正しく解決するために電話および Web サイトを利用したテクニカル サポートを提供しています。Hyperion 製品はすべてサポートの対象となります。すでに保守契約を締結いただいている場合は追加料金は不要です。また、年中無休 24 時間体制のサポートが必要なユーザや複数の言語、時間帯にまたがる国際サポートが必要なユーザを対象にした追加サポートも行っています。詳細は、お近くのサポート オフィスに連絡してください。

Web 上の Worldwide Services ページ

Hyperion では、セキュリティの確保された Web サイト Worldwide Services Page をご用意し、次のサポートとサービスの詳細な情報を提供しています（弊社 Web サイト <http://www.hyperion.com> で [Support & Service] を選択してください）。

- サポートとサービスの詳細情報
- 製品ニュースと最新情報
- トレーニング コースの開催スケジュールおよびオンライン申込みフォーム
- ドキュメント情報
- 主な問合せ先
- パッチ（ダウンロード可能）、リリースノート、インストール手順情報、テクニカル サポート情報、オンライン登録フォーム、ユーザ登録フォーム、製品改善要求のリストと検索
- 製品ヘルプ、ユーザグループ ミーティング、委員会ミーティングの議事録と日程およびユーザフォーラム

弊社サイトにアクセスするための登録方法については、お近くのサポート オフィスに連絡してください。

リリース 6 の概要

この章では、Hyperion Essbase のリリース 6 と旧リリースの間の互換性、移行についての情報、追加または強化された機能について簡単に説明します。この章は次の項で構成されています。

- [xix ページ「リリース 6 への移行」](#)
- [xx ページ「リリース 6 の新機能」](#)

リリース 6 への移行

Hyperion Essbase を旧リリースからリリース 6 に移行（アップグレード）する場合、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのリリース 6 が Hyperion Essbase OLAP Server のリリース 6 との連携を前提とする点に注意してください。Hyperion Essbase サーバが Hyperion Essbase のシステム管理者によってリリース 6 にアップグレードされた場合、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのリリース 5.x では限られた機能以外は使用できなくなります。なるべく早めに Hyperion Essbase スプレッドシート アドインをリリース 6 にアップグレードすることをお勧めします。

Hyperion Essbase の旧バージョンからの移行の詳細は、『Hyperion Essbase 概要』および『Hyperion Essbase インストール ガイド』を参照してください。

リリース 6 の新機能

Hyperion Essbase のリリース 6 では、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインのさまざまな機能が強化され、新しい機能も数多く追加されています。

リリース 6 では属性の表示方法が簡単になりました。メンバ選択機能または Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用して、目的の属性の名前をワークシートに直接入力すると、レポートに属性を表示できます。またワークシート上で区別しやすくするために、属性にスタイルも適用できます。

旧リリースのデータ取得ウィザードは、リリース 6 では Hyperion Essbase クエリ デザイナ (EQD) に置き換えられました。レポート出力用クエリの作成には EQD を使用します。EQD は次の作業に使用できます。

- レポートに使用するレイアウトの設計
- レポートに使用するメンバ (属性を含む) の選択
- メンバのフィルタ処理
- データのフィルタ処理
- データのソート

またクライアントのプラットフォームとして、Microsoft Excel 2000 および Lotus 1-2-3 Millennium リリース 9 (および 9.1) が新しくサポートされました。

1

Hyperion Essbase の概要

Hyperion Essbase は、プランニング、分析、管理レポート作成の各用途に最適化された多次元データベース ソフトウェアです。Hyperion Essbase では、革新的技術を採用した設計とクライアントサーバ型オープン アーキテクチャが独自の方法で融合されています。Hyperion Essbase により、組織の意思決定支援システムを過去の実績についてのアドホックなクエリとレポートを作成するのみのシステムから、過去の分析と将来のプランニングの両方を対象とした、動的で実用的なシステムへのレベルアップが可能です。過去のデータとプロジェクト データの集計および詳細な分析によって、業務内容を正確に把握し、適切な処置が可能になります。

Hyperion Essbase は処理能力と柔軟性を兼ね備えているため、次のさまざまなオンライン分析処理 (OLAP) に利用できます。

- 予算策定
- 予測および四半期など周期単位のプランニング
- 財務連結処理および財務報告書作成
- 顧客および製品の収益性分析
- 価格、数量、複合分析
- エグゼクティブ情報システム (Executive Information System: EIS)

Hyperion Essbase を使用すると、新しいツールやクエリ言語の学習、複雑なプログラミング技術の習得を要することなく、社内の複数ユーザによるデータの共有、アクセス、更新が可能です。また、さまざまな視点からの社内データの分析が詳細度を自由に設定して実行できます。

Hyperion Essbase の一般的なユーザ

Hyperion Essbase は、さまざまな用途を想定して設計されています。財務分析では予算分析、通貨換算、集計のための不可欠なツールとして使用できます。原価計算では、経費配分計画の評価に Hyperion Essbase の強力な機能を利用できます。製品の管理および分析では、複数の製品ラインと流通経路のプランニングと分析に使用できます。さらに、スプレッドシートデータの格納データベースとしても使用できます。つまり、スプレッドシートのユーザなら誰でも Hyperion Essbase の潜在的なユーザになります。

Hyperion Essbase は多種多様な環境で使用できるため、社内で Hyperion Essbase を使用する個人が、アプリケーションの組込みと実行においていくつもの役割を担うことがあります。このマニュアルでは、それぞれの役割をシステム管理者やユーザなどの肩書きで表記します。ただし実際には、1つの役割を複数の人が協力して担当する場合があります。

- **Hyperion Essbase システム管理者** : Hyperion Essbase のシステム管理者は、一般にネットワーク運用に関する経験を持ち、ソフトウェアパッケージのインストールとシステム機能の管理を担当します。Hyperion Essbase システム管理者は Hyperion Essbase ソフトウェアのインストール以外にも、状況に応じて Hyperion Essbase ユーザアカウントの設定、セキュリティシステムの設定、Hyperion Essbase OLAP サーバーの保守なども行います。
- **アプリケーション デザイナ** : アプリケーション デザイナは、Hyperion Essbase データベースの設定、データベース アウトラインの作成、計算スクリプトやレポート スクリプトの作成を担当します。Hyperion Essbase のシステム管理者とアプリケーション デザイナの役割は、ある程度重複する場合があります。一般にアプリケーション デザイナは、スプレッドシートやデータベース アプリケーションの作成の経験があり、運用上の問題とその解決手段についての知識を備えています。
- **ユーザ** : ユーザは Microsoft Excel for Windows または Lotus 1-2-3 を使用し、スプレッドシートを介して Hyperion Essbase データベースを処理します。一般に Hyperion Essbase のユーザは、スプレッドシート プログラムを主なツールとして使用してデータの調査と分析を行うアナリストや経営担当者です。

クライアント サーバ環境の構成要素

クライアント サーバ コンピューティングとは、個々の PC ワークステーションがローカル エリア ネットワーク (LAN) を介して 1 台の強力なサーバに接続されているアーキテクチャを指します。PC ワークステーションはクライアントとして動作し、サーバにデータを要求します。サーバはクライアントからの要求を処理し、クライアントが必要とする結果を戻します。

Hyperion Essbase は、クライアントサーバシステムとして作成されます。Hyperion Essbase のクライアントサーバ環境では、システムのパフォーマンスとマルチユーザ機能が大幅に強化されます。図 1-1 に、Hyperion Essbase の構成要素とその関係を示します。

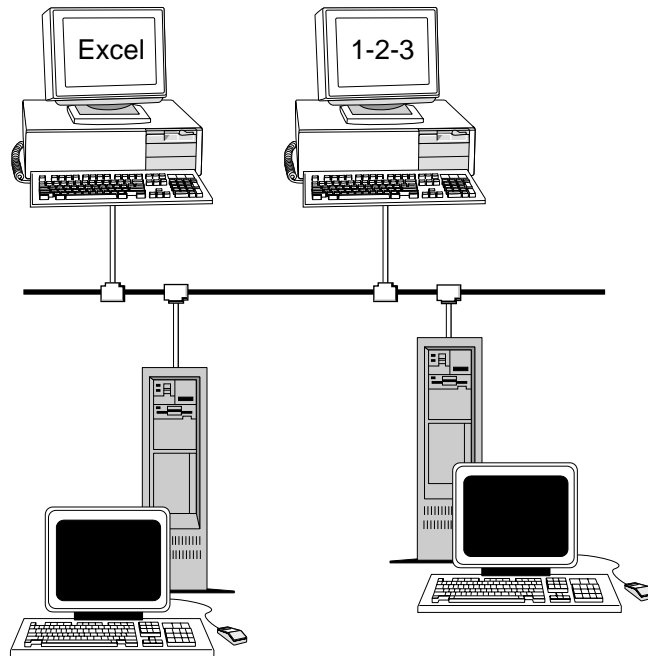


図 1-1: Hyperion Essbase の構成要素

サーバ

Hyperion Essbase OLAP サーバーでは、データが次元と呼ばれるカテゴリに分けられます。Hyperion Essbase OLAP サーバーは分析できる次元の数が無制限の多次元データベースです。Hyperion Essbase では真の意味でのクライアントサーバアーキテクチャが採用されているため、データ、データベースアウトライン、計算機能、データセキュリティ制御機能はすべて Hyperion Essbase サーバ上に置かれます。

Hyperion Essbase サーバは、Windows 95、Windows 98、Windows NT、UNIX の各オペレーティングシステムで動作します。

Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインは、Microsoft Excel および Lotus 1-2-3 とシームレスに連携するソフトウェア プログラムです。Hyperion Essbase をインストールすると、Lotus 1-2-3 に特別なメニューが追加されます。このメニューによって、[接続]、[ピボット]、[ドリルダウン]、[計算] などの拡張コマンドが使用できます。ユーザはクリックやドラッグ アンド ドロップなど簡単なマウス操作によって、Hyperion Essbase サーバ上のデータへのアクセスや分析ができます。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインでは、Hyperion Essbase サーバ上のデータに対する複数のユーザからの同時アクセスや更新が可能です。

ネットワーク

Hyperion Essbase は、名前付きパイプまたは TCP/IP プロトコルをサポートする PC ベースの LAN 上で動作します。

注意： サポートされているネットワーク環境および技術上の要件の詳細は、Hyperion Essbase OLAP サーバー パッケージに付属の『Hyperion Essbase インストール ガイド』を参照してください。

Hyperion Essbase のアプリケーション製品

Hyperion Essbase サーバでは、OLAP アプリケーションの利用範囲を拡張し機能を強化するための製品がオプションとして用意されています。次に製品について説明します。

Hyperion Essbase スプレッドシート ツールキット

Hyperion Essbase スプレッドシート ツールキットには、20 個を超えるマクロおよび VBA (Visual Basic for Applications) 関数があります。これらのマクロと関数を使用して、Microsoft Excel や Lotus 1-2-3 のカスタム アプリケーションを作成できます。カスタム アプリケーションには Hyperion Essbase コマンドが組み込まれます。Hyperion Essbase コマンドには EssCascade、EssConnect、EssDisconnect などがあり、対応する Hyperion Essbase のメニュー コマンドと同等の機能を持ちます。詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプ ファイルを参照してください。

Hyperion Essbase のパーティション オプション

Hyperion Essbase のパーティション オプションを使用すると、データ モデル間で共有またはリンクされるデータ領域の定義が可能になります。パーティションを行うと、Hyperion Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティが向上します。パーティションを使用すると、社内ニーズへの対応の迅速化、計算時間の短縮、信頼性と可用性の向上、複数次元の詳細な分析も可能です。詳細は、3-86 ページの「[リンク パーティションへのアクセス](#)」を参照してください。

Hyperion Essbase の SQL (Structured Query Language) インターフェイス

Hyperion Essbase の SQL インターフェイスでは、Hyperion Essbase サーバをオープンなデータベース接続クライアントとして利用して、PC および SQL (Structured Query Language) リレーショナル データベースにアクセスできます。Hyperion Essbase の SQL インターフェイスを使用すると、社内のさまざまなデータ ソースに分散したデータを Hyperion Essbase

サーバに簡単に移動できます。この結果、ユーザはアクセスや分析が容易になります。詳細は、『Hyperion Essbase SQL インターフェイスガイド』を参照してください。

Hyperion Essbase のアプリケーション プログラミング インターフェイス

Hyperion Essbase のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を使用すると、アプリケーション開発者は Hyperion Essbase の信頼がおけるさまざまな機能 (データ保管、データ取得、データ操作) を活用しながら、カスタム アプリケーションを標準的なツールで迅速に作成できます。Hyperion Essbase の API では Visual Basic と C がサポートされています。詳細は、DOCS ディレクトリ内の『API リファレンス』オンライン マニュアルを参照してください。

Hyperion Essbase の通貨換算

Hyperion Essbase の通貨換算プロダクトでは外国の財務データの変換、分析、レポート作成が可能です。任意の為替レートシナリオのモデリングが可能であり、さらにデータのアドホックな通貨換算をスプレッドシートからも直接実行できます。通貨換算プロダクトは、FASB52 (Financial Accounting Standards Board 52) に準拠しています。詳細は、[3-102 ページ](#)の「[通貨換算処理](#)」を参照してください。

Hyperion Integration Server

Hyperion Integration Server は、Hyperion Essbase および Microsoft Excel とともに動作します。Hyperion Integration Server は、リレーショナル データソースと Hyperion Essbase OLAP サーバーの間を仲介する各種のツールおよびデータ統合サービスで構成されています。Hyperion Integration Server のツールの 1 つに HIS ドリルスルーがあります。ドリルスルーを使用すると、リレーショナル データベースから取得したデータを組み込んだスプレッドシートレポートの表示とカスタマイズが可能です。詳細は、[第 4 章「HIS ドリルスルーの使用法」](#)を参照してください。

Hyperion オブジェクト

Hyperion オブジェクトは、Hyperion Essbase サーバ上のデータへのアクセスと操作を実現するアプリケーション プログラムを迅速かつ容易に作成する ActiveX コントロールです。Hyperion オブジェクトと他のコントロールとの組合せにより、新しいプログラムを作成するためのビジュアルな設計環境を実現します。

Hyperion Web ゲートウェイ

Hyperion Web ゲートウェイは、WWW (World Wide Web) を介した OLAP アプリケーションから Hyperion Essbase への高速で対話形式の読取り / 書込みアクセスを可能にするマルチスレッド型のサーバアプリケーションです。Hyperion Essbase と Hyperion Web ゲートウェイとの組合せにより、Web ベースの包括的ソリューションを実現します。包括的ソリューションでは、包括的運用を目的とした OLAP アプリケーションの開発 (洗練した経営レポートの作成、アドホックな多次元分析、イントラネットまたはインターネット上でのプランニング、予算策定、予測) が可能です。

多次元データベース

Hyperion Essbase 多次元データベースは、データの保管と編成に使用します。このデータベースは、大量の数値データを持つ集計 / 計算集約的なアプリケーションの処理に最適です。また、このデータベース内のデータは、ユーザが望む形で表示するために編成されます。

多次元とは

次元とは、特定のデータセットを見る視点のことです。また代替次元とは、同じデータを見る別の視点のことです。多次元とは、あるシステムで同時に複数の視点からデータセットを見ることが可能な場合になります。具体的に次元とは、時間、会計、製品ライン、市場、予算など (図 1-3 を参照) のカテゴリです。また、1 つの次元が互いに複雑な関係を持つ複数のカテゴリで構成される場合もあります。

多次元ビューの場合とは異なり、ワークシートでは次に示すとおり、データの保管は2つの次元（通常は時間と会計）で行われます。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
2	Sales	1212	1421	1354	1178	1254	1465
3	COGS	345	392	387	321	320	401
4	Margin	867	1029	967	857	934	1064
5							
6	Marketing	46	24	95	11	56	5
7	Freight	21	71	93	23	88	21
8	Discounts	2	24	52	14	53	59
9	Total Expenses	69	119	240	48	197	85
10							
11	Gross Profit	798	910	727	809	737	979
12							
13							

図 1-2: 1つのワークシート内のデータを2つの次元で表したところ

Hyperion Essbase のアプリケーションに定義できる次元の数は無制限なので、大量のデータを複数の視点から分析できます。次に、多次元データを4つの視点から見る場合の概念図を示します。データの取得と分析には、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインソフトウェアを使用できます。

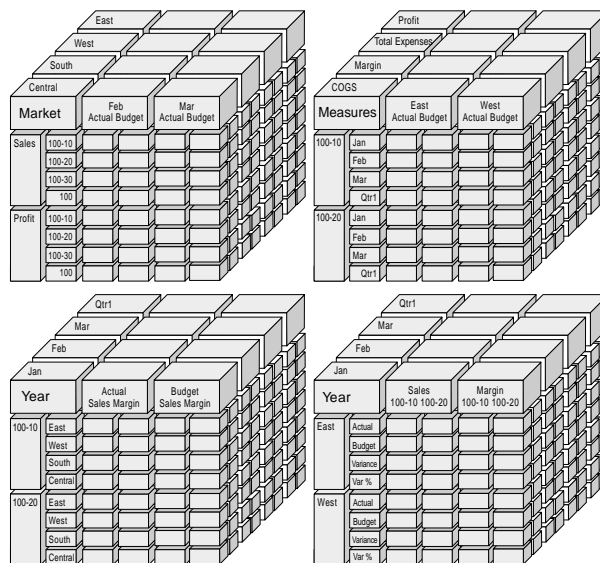


図 1-3: 5次元データベースによって実現される複数の視点

データベース アウトライン

Hyperion Essbase を理解するには、データベース アウトラインを把握することが重要です。多次元データベースを定義するには、まずデータベース アウトラインを設計することが必要です。データベース アウトラインは、データベース編成（構造）、データベースメンバ、データベースルールで構成されます。図 1-4 を参照してください。

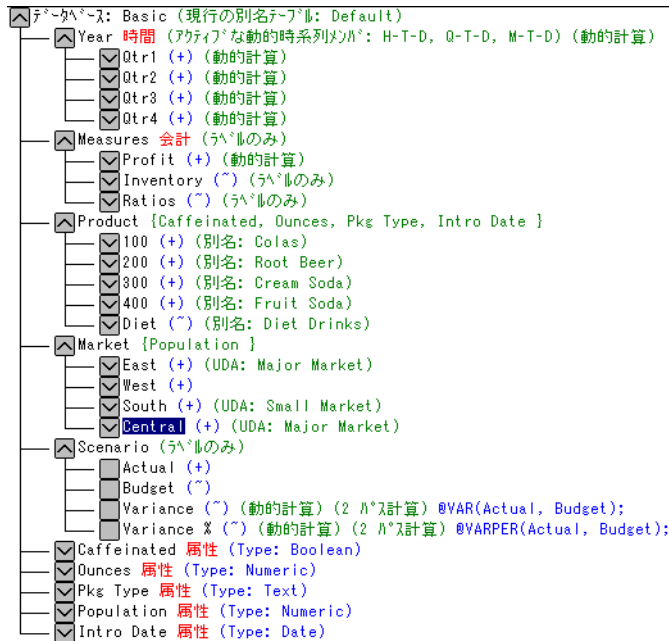


図 1-4: Hyperion Essbase データベース アウトライン

注意： 一般にデータベース アウトラインは、アプリケーション デザイナーまたは Hyperion Essbase システム管理者が作成します。データベース アウトライン作成の詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

データベース アウトラインの構成要素は次のとおりです。

- 次元
- メンバ
- 属性
- 式
- 別名
- 集計

次にデータベース アウトラインの各構成要素について説明します。

次元

次元は、データベース アウトライン内における最も基本的なデータのカテゴリ定義です。データの参照を効果的に行うには、少なくとも2つの次元（例：時間と会計）が必要です。他にも製品、市場、シナリオなどの次元が考えられます。データを次元に分類すると、集計構造やアプリケーション関連データを柔軟に定義できます。Hyperion Essbase では、定義する次元の数は無制限です。

メンバ

メンバとは次元の要素の名前です。1つの次元を構成するメンバの数は無制限です。Hyperion Essbase の計算、レポート作成、次元構築機能では、次の用語を使ってメンバを表します。

- 親：親とは、従属する集計ブランチを持つメンバです。たとえば下の図では、月を表すメンバが属するブランチを持つ "Qtr1" が親にあたります。

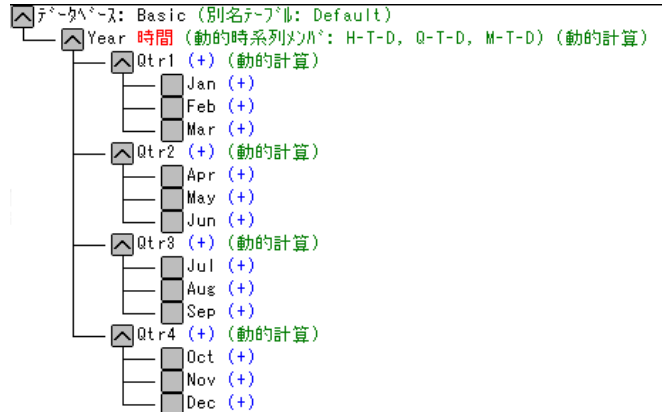


図 1-5: データベース メンバ間の関係

- 子：子とは親を持つメンバです。たとえば上の図では、"Jan"、"Feb"、"Mar" は "Qtr1" の子にあたります。
- 兄弟：兄弟とは同じ親を持ち、同じブランチ（レベル）に所属するメンバです。たとえば上の図では、"Jan"、"Feb"、"Mar" が兄弟にあたります。ただし "Apr" は、別の親（"Qtr2"）を持つので、"Jan"、"Feb"、"Mar" の兄弟ではありません。
- 子孫：1つの親より下位レベルのメンバをその親の子孫といいます。たとえば、"Year" のブランチに属するメンバはすべて "Year" の子孫です。上の図では "Qtr1"、"Jan"、"Feb"、"Mar"、"Qtr2"、"Apr"、"May"、"Jun"、"Qtr3"、"Jul"、"Aug"、"Sep"、"Qtr4"、"Oct"、"Nov"、"Dec" はすべて "Year" の子孫です。
- 祖先：あるメンバの上位ブランチに属するメンバを、最初のメンバの祖先といいます。たとえば上の図では、"Qtr2" と "Year" は "Apr" の祖先です。
- 世代：世代は、メンバのブランチに割り当てられる番号です。世代はツリーのルート（次元名）として、リーフノードに向かって番号が大きくなります。

- レベル：レベルとは、メンバのブランチに割り当てられる番号です。レベルはリーフ ノードをレベル 0 として、ルート（次元名）に向かって番号が大きくなります。

属性

属性とはデータの特性です。たとえば製品の場合、サイズや色が属性にあたります。属性では、次元のメンバをメンバの特性に基づくグループ化や分析が可能です。属性次元は、基本次元と関連付ける必要があります。詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

式

各データベース メンバは、データベース アウトライン内で関連付けられた式を 1 つ以上持ちます。たとえば、図 1-4 の場合、"Scenario" という次元の "Variance" という 2 つのメンバに式が含まれています。式はシンプルな場合と複雑な場合があります。詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

別名

Hyperion Essbase では、データベース メンバに代替の名前（別名）を付けることができます。ワークシートによって同じメンバに種々のラベルを付ける場合、別名を使用すると便利です。たとえば、ワークシートで Cost_of_Goods_Sold メンバを COGS という別名で参照できます。別名は異なる言語でのレポート作成や、正式な出力名（アカウント番号など）にも使用できます。

集計

Hyperion Essbase のアプリケーションにおける集計は、メンバ ブランチによって定義されます。集計パスはデータベース アウトラインによって決まります。この決定は、各次元におけるメンバの位置（インデント）に基づきます。あるメンバの下位に別のメンバが存在する場合、これら 2 つのメンバは集計関係にあるといいます。メンバのインデントは、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのドリルダウン機能で重要な

意味を持ちます。データのナビゲートでは、集計のレベルでのドリルダウンが可能です。データベース アウトラインは、データの操作のレベルを決定する道路地図に当たります。

2

Hyperion Essbase の基本 チュートリアル

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを Lotus 1-2-3 に組み込んだ場合でも、Lotus 1-2-3 のほとんどの操作は従来どおりで変更はありません。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの組み込みによる変化は、新しいメニューと Hyperion Essbase ツールバーが 1 つずつ、そして Hyperion Essbase OLAP サーバにアクセスするためにマウスのショートカットが追加されたのみです。

このチュートリアルで説明しているのは基本的な作業です。つまり、Hyperion Essbase を使用する場合によく行うと考えられる作業です。第 3 章では、より高度な作業について説明します。

この章は次の項で構成されています。

- 2-2 ページ「Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用するための準備」
- 2-10 ページ「チュートリアルに入る前に」
- 2-16 ページ「データの取得」
- 2-35 ページ「データのピボット、保持、抑制」
- 2-52 ページ「ワークシートのフォーマット設定」
- 2-71 ページ「Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用したクエリの作成」
- 2-85 ページ「クエリの削除」
- 2-86 ページ「メッセージおよび確認の表示」
- 2-87 ページ「ヘルプへのアクセス」
- 2-90 ページ「メンバの選択」

- 2-100 ページ「保存と切断」
- 2-103 ページ「応用チュートリアル」

注意：この章のチュートリアルの各項目はそれぞれ 1 つ前の項で記載された作業に基づいています。したがって、作業は記載どおりの順序で行ってください。

この章のチュートリアルでは、Sample Basic というサンプル データベースを例として操作手順を説明します。このサンプル データベースは、Hyperion Essbase とともにインストールされます。Sample Basic データベースへのアクセスまたは Hyperion Essbase サーバ上のその他のデータベースへのアクセスについては、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用するための準備

この項では、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用するために必要な予備知識と準備作業について説明します。内容は次のとおりです。

- 2-2 ページ「Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの組み込み」
- 2-4 ページ「Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの起動」
- 2-5 ページ「オンライン ヘルプへのアクセス」
- 2-6 ページ「マウス操作の使用可能」

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの組み込み

環境設定を手動で更新する場合や、Lotus 1-2-3 から Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを削除していた場合は、Lotus 1-2-3 の機能を使用して Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを Lotus 1-2-3 に組み込む必要があります。この機能によって、Lotus 1-2-3 のメニュー バーに Hyperion Essbase メニューが追加され、Lotus 1-2-3 から `¥essbase¥bin` ディレクトリにある Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ファイ

ルを参照できるようになります。このファイルは、ローカル PC に Hyperion Essbase スプレッドシート アドインをインストールした場合はローカル PC のハードドライブに、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインをネットワークドライブで実行するように PC の動作環境を設定した場合は、ネットワークドライブにあります。

- ▶ Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを Lotus 1-2-3 に組み込むには、次の手順に従ってください。

1. Lotus 1-2-3 では、[ファイル]>[アドイン]>[アドイン管理]の順に選択します。

Lotus 1-2-3 の [アドイン管理] ダイアログボックスが表示されます。

2. [登録] をクリックして、ファイル ESS123.12A を選択します。このファイルは、ローカル PC のハードドライブに Hyperion Essbase スプレッドシート アドインをインストールした場合は、インストール先ドライブの¥essbase¥bin ディレクトリにあります。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインをネットワークドライブで実行するために PC の動作環境を設定した場合（インストール作業は Hyperion Essbase のシステム管理者が担当）は、このファイルはインストール先ドライブの bin ディレクトリにあります。
3. [開く] をクリックして、ESS123.12A アドイン ファイルを選択します。アドイン ファイルの横にチェックマークが付いていることを確認します。

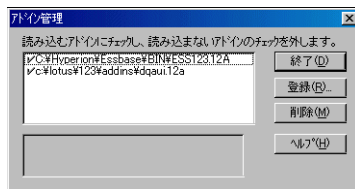


図 2-1: [アドイン管理] ダイアログボックス

4. [完了] をクリックして [アドイン管理] ダイアログボックスを閉じ、[Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン] を起動します。

Hyperion Essbase の起動画面が表示されます。

Hyperion Essbase の起動画面が表示されない場合や、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのメニュー オプションが表示されない場合は、『Hyperion Essbase インストール ガイド』に記載のトラブルシューティングに関する説明を参照してください。

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの起動

Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン for Lotus 1-2-3 は、Lotus 1-2-3 アドインとして組み込まれます。したがって、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用するには、Windows から Lotus 1-2-3 を起動する必要があります。

Hyperion Essbase サーバに接続する前にワークシートを開く必要があります。ワークシートを開かずに Hyperion Essbase サーバに接続しようとすると、エラー メッセージが表示されます。

- ▶ Hyperion Essbase セッションを開始するには、次の手順に従ってください。

1. Lotus 1-2-3 を起動します。

Lotus 1-2-3 の起動画面がいったん表示されて消えた後、Hyperion Essbase の起動画面が表示されます。

Hyperion Essbase のメニューが、Lotus 1-2-3 のメニュー バーに表示されます。Hyperion Essbase のメニューが表示されない場合は、Lotus 1-2-3 のアドイン機能を使用して Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを Lotus 1-2-3 に組み込む場合もあります。詳細は、[2-2 ページの「Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの組み込み」](#)を参照してください。

2. Lotus 1-2-3 のメニュー バーから [Essbase] を選択して、メニューを開きます。

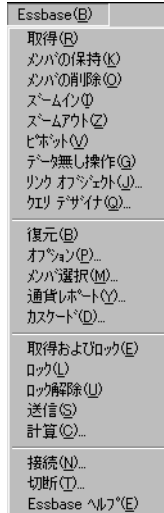


図 2-2: [Essbase] メニュー

注意: Lotus 1-2-3 のステータス バーが表示されない場合は、[表示] > [ステータスバーの表示] の順に選択すれば表示できます。

オンライン ヘルプへのアクセス

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインには、文脈依存のオンライン ヘルプ システムがあります。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプにアクセスするには、次の 3 通りの方法があります。どの方法を使用するかは必要な情報の種類によります。

- オンライン ヘルプ システム全体にアクセスして情報の表示や検索を行う: ヘルプ システム全体にアクセスするには、[Essbase] > [Essbase ヘルプ] を選択します。オンライン ヘルプにアクセスしたら、オンライン ヘルプ システムを使用して Hyperion Essbase スプレッドシート アドインについての全般的な情報、Essbase コマンドの説明、各種操作の手順説明、スプレッドシート ツールキット マクロおよび VBA (Visual Basic for Applications) 関数の説明など、様々な情報を検索して表示できます。

- Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのダイアログ ボックスから文脈に沿った情報にアクセスする : Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの各ダイアログ ボックスには [ヘルプ] ボタンがあり、このボタンを使用するとそのダイアログ ボックスに固有のオンライン ヘルプ トピックにアクセスできます。この [ヘルプ] ボタンを使用すると、ヘルプ システム全体を検索しなくても必要な情報を見つけることができます。

注意 : Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプには、Hyperion Essbase スプレッドシート ツールキットについて詳しく説明した項があります。この項では、Lotus 1-2-3 のマクロを使用して Hyperion Essbase の操作のカスタマイズや自動化の方法が説明されています。

- Hyperion Essbase クエリ デザイナの特定の機能についての情報にアクセスする : まず [Hyperion Essbase クエリ デザイナ] ダイアログ ボックスから What is This? ヘルプを起動し、このダイアログ ボックス内の項目をクリックすると、各項目についての情報にアクセスできます。



図 2-3: EQD の [ヘルプ] ボタン

マウス操作の使用可能

このマニュアルでは、マウス操作の表現に次の用語を使用します。

- マウスの左ボタンおよびマウスの右ボタンとは、2 ボタン マウスや 3 ボタン マウス上のボタンを指します。一般に、右利きのユーザの場合、マウスの左ボタンは、Lotus 1-2-3 などの Windows アプリケーションの起動に使用します。マウスの右ボタンは補助的な操作に使用します。クリックという語は、マウスの左ボタンをクリックすることを意味します。右クリックという言葉は、マウスの右ボタンをクリックすることを意味します。

- 選択という語は、マウスの左ボタンを押して離すことによって、カーソルが置かれているオブジェクトを選ぶことを指します。たとえばワークシートセルを選択するには、目的のセルの位置にカーソルを置いた状態で、マウスの左ボタンを押して離します。
- クリック（クリックおよび右クリック）とは、コマンドオブジェクトの上にカーソルを置いた状態で、マウスボタンを押して離す動作をすばやく行うことを指します。たとえばボタンをクリックすると、対応するコマンドを実行できます。
- ダブルクリックとは、マウスボタンを押して離す動作をすばやく2回続けて行うことを指します。たとえば、アプリケーションアイコンをダブルクリックすると、対応する Windows アプリケーションを起動できます。
- ドラッグとは、マウスボタンを押し続けた状態で移動を行うことを指します。オブジェクトの上にカーソルを置き、マウスボタンを押してマウスボタンを押した状態のままそのオブジェクトを動かし、オブジェクトが目的の場所に達した時点でマウスボタンを離します。たとえば Lotus 1-2-3 ワークシートのセルの範囲を強調表示するには、その範囲内のセルの上でカーソルをドラッグします。

注意：Hyperion Essbase では、ピボットと呼ばれるドラッグ操作を使用します。ピボットにはマウスの右ボタンを使用する必要があります。ピボットを実行するには、選択した項目をドラッグする間、マウスの左ボタンではなくマウスの右ボタンを押し続ける必要があります。

Hyperion Essbase の導入により、Lotus 1-2-3 上でのマウス操作の機能が強化されます。次の作業にマウスが使用できます。

- データの取得
- データベースメンバに対するドリルダウンとドリルアップ
- データの行および列のピボット（移動または入替え）
- リンクレポートオブジェクトへのアクセス
- リンクパーティションへのアクセス

- ▶ Hyperion Essbase データの取得、ドリルダウン、ドリルアップのためにダブルクリックを使用可能にするには次を実行します。

1. [Essbase] > [オプション] を選択します。
2. [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [グローバル] タブを選択します。
3. [**ダブルクリックを使用可能にする**] チェック ボックスを選択します。

[**ダブルクリックを使用可能にする**] チェック ボックスが選択されていると、データの取得、詳細度の高いデータへのドリルダウン（マウスの左ボタン）および詳細度の低いデータへのドリルアップ（マウスの右ボタン）を実行できます。ダブルクリック オプションが使用可能になると、Lotus 1-2-3 のセル内編集機能は無効になります。

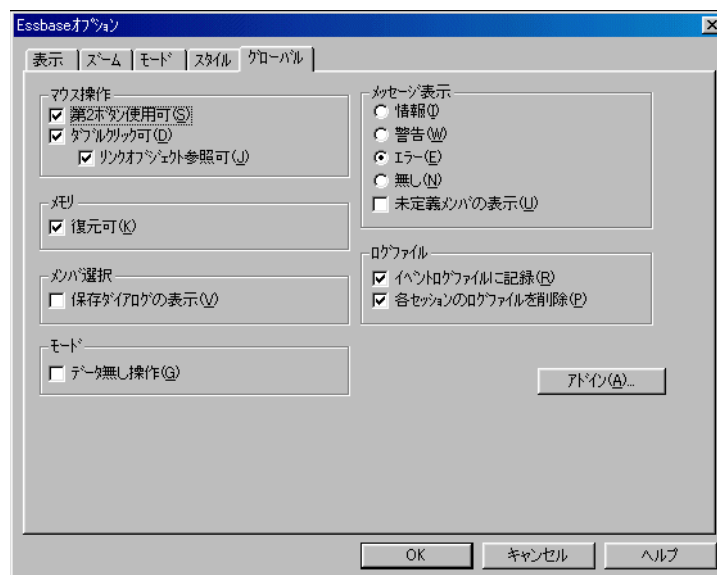


図 2-4: [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [グローバル] タブ

4. [OK] をクリックしてワークシートに戻ります。

データセルのダブルクリックによって、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスが表示されるようにするためのマウスの左ボタンの設定については、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

チュートリアルに入る前に

この項では、基本チュートリアルの実行に必要な事柄を説明します。基本チュートリアルに入る前に読んでください。

- 2-10 ページ「Hyperion Essbase のオプションの設定」
- 2-15 ページ「基本チュートリアルの注意事項」
- 2-16 ページ「Sample Basic データベースについて」

Hyperion Essbase のオプションの設定

チュートリアルに入る前に、ワークシート オプションが図 2-6 ~ 図 2-9 に示す初期設定になっていることを確認してください。オプションが別の設定になっていると、実際のワークシートの表示がこの章で紹介する画面例と一致しない場合があります。

注意： [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの各オプションについては、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

1. [Essbase] > [オプション] を選択します。
2. [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [表示] タブを選択します。

3. [表示] タブの画面が下の図と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

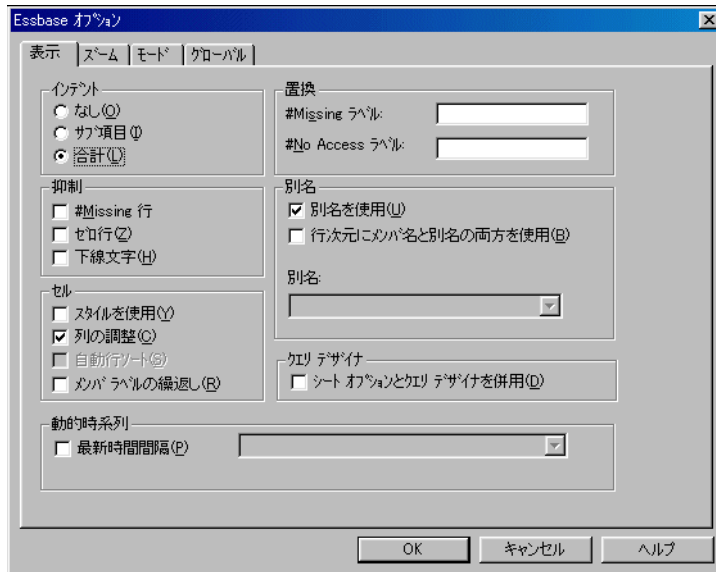


図 2-5: 表示オプションの初期設定

4. [ズーム] タブを選択します。

5. [ズーム] タブの画面が下の図と同じになるようにチェック ボックス およびオプション ボタンを選択します。

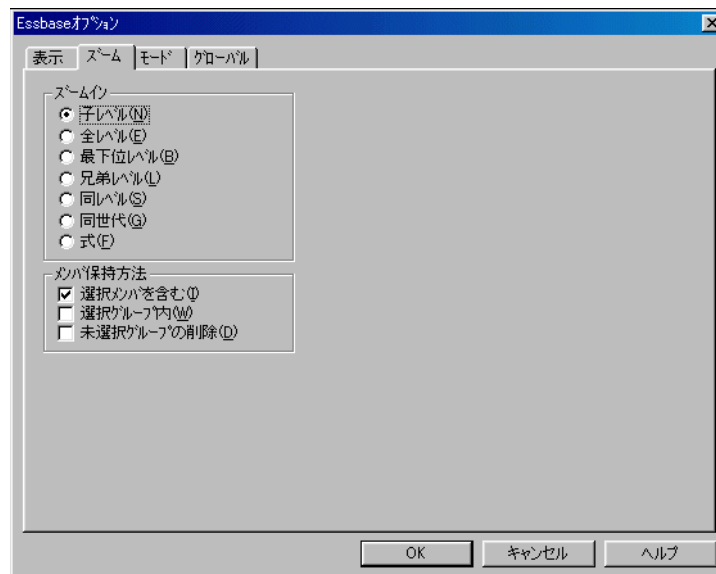


図 2-6: ズーム オプションの初期設定

6. [モード] タブを選択します。

7. [モード] タブの画面が下の図と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

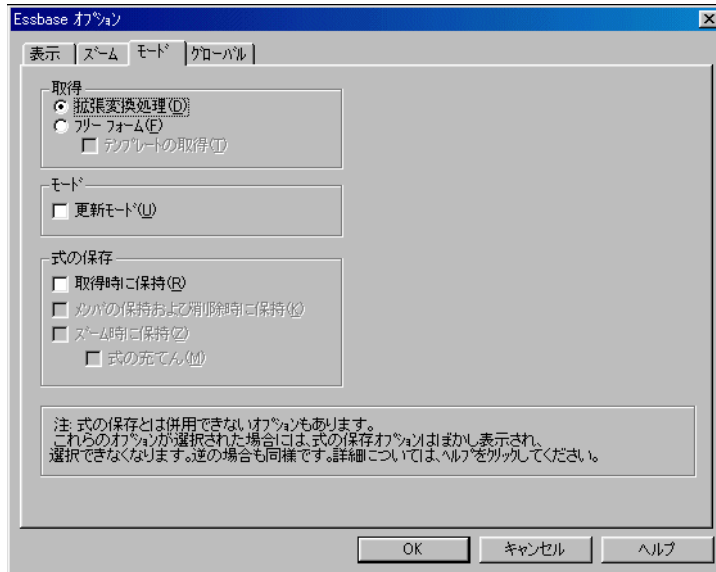


図 2-7: モード オプションの初期設定

注意：Hyperion Essbase データベースに接続済みの場合は、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスには [スタイル] タブも表示されています。このタブは今では設定する必要はありません。

8. [グローバル] タブを選択します。

9. [グローバル] タブの画面が下の図と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

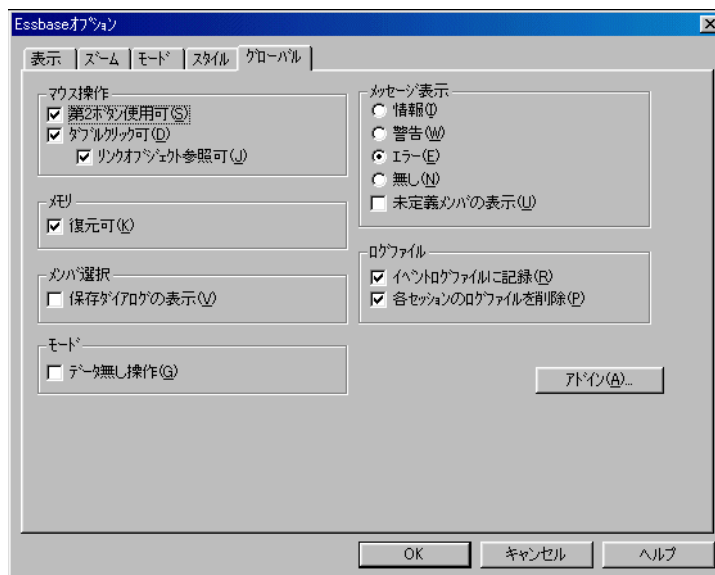


図 2-8: グローバル オプションの初期設定

注意: [マウス操作] の各ボックスが、2-6 ページの「マウス操作の使用可能」の説明に従って設定済みであることを前提としています。

10. [OK] をクリックします。このセッションの設定が保存され、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスが閉じられます。

基本チュートリアルの注意事項

このチュートリアルを実行するときは、次の点に注意してください。

- 網掛けの枠内に記載されている作業は、このチュートリアルでは実行しません。これらの作業は将来の参考のためのみに示されています。これらの作業の詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。
- このチュートリアルは、Sample Basic データベースに接続した状態で実行してください。接続していない場合は、実際のワークシートの表示がこの章で紹介する画面例とは異なります。
- 一般に、Hyperion Essbase のコマンドを使用する方法としては、次の 3 通りがあります。
 - Hyperion Essbase メニューから目的のコマンドを選択する
 - Hyperion Essbase ツールバーで目的のボタンをクリックする
 - マウスの左ボタンまたはマウスの右ボタンのどちらかをダブルクリックする（[ズーム イン]および[ズームアウト]コマンドのみ）
- [Hyperion Essbase オプション]ダイアログ ボックスの各オプションは、2-10 ページの「Hyperion Essbase のオプションの設定」に記載のとおり設定してください。オプションが別の設定になっていると、ワークシートの表示がこの章で紹介する画面例と異なる場合があります。
- [Hyperion Essbase オプション]ダイアログ ボックスでワークシート オプションの設定を変更した場合は、新しい設定を有効にするために取得またはドリルダウンを行う必要があります。
- このチュートリアルで紹介する操作手順は記載のとおりに行ってください。この章のチュートリアルの各項目はそれぞれ 1 つ前の項目に基づいています。各項目の最後の数ステップを次の項目の準備作業に当てている場合があります。これらのステップを飛ばさないでください。
- 作業手順の途中で間違った操作を行った場合、[Essbase] > [復元] を選択すると、ワークシートの表示が操作を行う前の状態に戻ります。

- Sample Basic データベースでは、比率や割合を表す値がきわめて高い精度まで計算されます（例：55.26162826）。Lotus 1-2-3 では、セルにフォーマットを適用して、データ値を表示するときの小数点以下の桁数を制御できます。詳細は、Lotus1-2-3 のマニュアルを参照してください。
- このチュートリアルの画面例で示す数値は、実際のデータベース上の数値とは異なる場合もあります。画面例で示す数値は、ロード直後のデータベースを想定しています。
- このチュートリアルの画面例では、わかりやすくするために、ワークシートの列の一部があらかじめ調整されています。ワークシートの列幅は変更しなくても、チュートリアルの操作手順を実行するうえで問題はありません。列幅を調整する場合は、[Hyperion Essbase オプション] ダイアログ ボックス（[表示] タブ）の [列の調整] オプションを使用してください。

Sample Basic データベースについて

このチュートリアルで例として使用する Sample Basic データベースでは、飲料水業界に属する架空の会社を想定しています。この会社の主力商品は各種の炭酸飲料です。これらの商品は米国市場（州および地域に分類）で販売されています。財務データは月単位で収集され、四半期および年単位で集計されます。この会社では売上高、商品販売コスト、給与などの財務および経理データの計算に Hyperion Essbase を使用しています。さらに、実績データと予算データおよびこの両者の間の差異と差異パーセントを追跡しています。

データの取得

今まで Hyperion Essbase 環境の概要を説明してきました。今度はこの知識に基づいて Hyperion Essbase サーバに接続し、Hyperion Essbase および Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを実際を使用してみます。この項では典型的な Hyperion Essbase セッションを例として、データベースに接続してデータを取得するさまざまな方法を説明します。

この項では、次に示す基本的なデータ取得操作の概要を説明します。

- 2-18 ページ「データベースへの接続」
- 2-20 ページ「パスワードの変更」
- 2-20 ページ「データベースからのデータの取得」
- 2-22 ページ「データ取得要求のキャンセル」
- 2-23 ページ「1つ前のデータベース ビューの復元」
- 2-24 ページ「詳細度の高いデータへのドリルダウン」
- 2-30 ページ「詳細度の低いデータへのドリルアップ」
- 2-31 ページ「ドリルダウンおよびドリルアップ動作のカスタマイズ」

注意： 2-10 ページの「Hyperion Essbase のオプションの設定」で説明したとおりオプションが設定されていることを確認してください。[Hyperion Essbase オプション] ダイアログ ボックスの設定が先に示した図のとおりになっていない場合、ワークシートの表示はこの章で紹介する画面例とは異なります。

通常の方法取得作業は、次の3通りの方法のどれからでも実行できます。

- Lotus1-2-3 メニュー バーの [Essbase] メニューから目的のコマンドを選択する。
- Hyperion Essbase ツールバーで目的のボタンをクリックする。
- 該当のセルにカーソルを置いてマウスの左ボタンまたは右ボタンをダブルクリックする（[取得]、[ズーム イン]、[ズーム アウト] コマンドの場合）。

データベースへの接続

Hyperion Essbase のデータにアクセスするには、まずサーバ上のデータベースに接続する必要があります。このチュートリアルではサーバ、アプリケーション、データベースへの接続に必要な権限を持っていることを前提としています。

1. [Essbase] > [接続] を選択します。

[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。

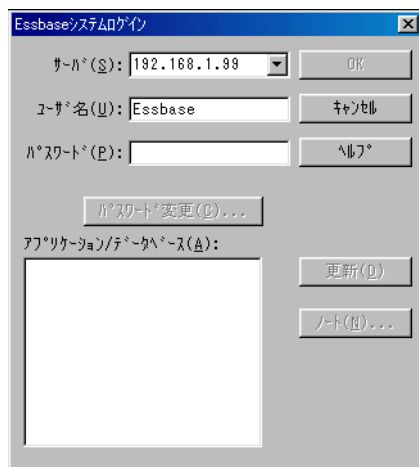


図 2-9: [Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックス

注意: 次の手順を実行するには、Hyperion Essbase サーバの名前と自分のユーザ名およびパスワードを知っていることが必要です。不明な場合は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

2. [サーバ] リスト ボックスから、アクセスするサーバを選択します。(アクセスするサーバの名前がリストにない場合は、サーバ名を直接入力してください。)
3. [Tab] を押して [ユーザ名] テキスト ボックスに移動し、ユーザ名を入力します。

4. [Tab] を押して [パスワード] テキスト ボックスに移動し、パスワードを入力します。

注意: パスワードはサーバへの接続時に変更できます。パスワードの変更方法は、2-20 ページの「パスワードの変更」を参照してください。

5. [OK] をクリックしてサーバに接続します。

[アプリケーション/データベース] リスト ボックスに、使用できるアプリケーションとデータベースの対 (ペア) が表示されます。Hyperion Essbase サーバでは、同時に複数のアプリケーションにアクセスできます。各アプリケーションは複数のデータベースを持てます。リストには、セキュリティ アクセスの可能なデータベースのみが表示されます。

このチュートリアルでは、Sample Basic データベースを使用します。Hyperion Essbase のインストール時に Sample Basic データベースがインストールされていると、リストに Sample Basic が表示されます。[アプリケーション/データベース] リスト ボックスに Sample Basic が表示されていない場合は、Hyperion Essbase のシステム管理者にインストールを依頼してください。

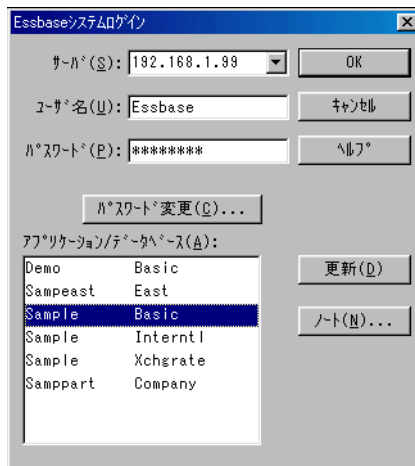


図 2-10: 使用可能なアプリケーションとデータベースのペア

6. [アプリケーション/データベース] リスト ボックスの Sample Basic をダブルクリックします。またはこのリスト ボックスから Sample Basic を選択して [OK] をクリックします。

選択したアプリケーションがまだ起動されていない場合は、Hyperion Essbase によって自動的に起動されます。ただし、アプリケーションのロードに多少時間がかかる場合があります。アプリケーションの起動に要する時間は、そのアプリケーションが持つデータベースの数、データベースのサイズ、データベース インデックスのサイズによって異なります。

パスワードの変更

パスワードの変更が可能なのは、サーバに接続しているときのみです。

注意：すでに説明したとおり、網掛けの枠内に記載されている作業はこのチュートリアルでは実行しません。

- ▶ パスワードを変更するには
- 1.[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスで、[パスワード 変更] ボタンを選択します。
 - 2.[パスワード変更] ダイアログ ボックスの [新パスワード] テキスト ボックスに、新しいパスワードを入力します。
 - 3.[パスワードの確認] テキスト ボックスで、新しいパスワードをもう一度入力します。
入力するパスワードは必ず同じにしてください。
 - 4.[OK] をクリックすると、パスワードが変更されます。
 - 5.もう一度 [OK] をクリックし、[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスを閉じます。




データベースからのデータの取得

Hyperion Essbase サーバから情報を取得するたびに、次の一連の動作が行われます。

- Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからサーバにデータ取得要求が発行されます。
- サーバが要求を処理し、データを用意します。
- サーバから Hyperion Essbase スプレッドシート アドインにデータが送信されます。
- Hyperion Essbase が受け取ったデータは、Lotus 1-2-3 に渡され、ワークシートに読み込まれます。


この一連の動作の進行過程がユーザにわかるために、Hyperion Essbase では次の 3 種類のカスタム カーソルが使用されます。

表 2-1: Hyperion Essbase のカスタム カーソル

カーソル	説明
	Hyperion Essbase がサーバに情報を要求したときに表示されます。
	サーバによる要求の処理中に表示されます。
	サーバがデータを戻すときに表示されます。

注意： 取得対象データの量が少ない場合は、カーソルの形状変化はごく短時間で行われます。この場合、矢印の向きの変化に気づかないことも考えられます。

▶ データを空のワークシートに取得するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  ボタンをクリックして、新しいワークシートを開きます。

注意： この作業は、Sample Basic データベースに接続した状態で実行してください。接続していない場合は、[2-18 ページの「データベースへの接続」](#)の説明に従って接続してください。

2. [Essbase] > [取得] を選択します。

Hyperion Essbase によってデータが取得され、Lotus 1-2-3 ワークシートに組み込まれます。

	A	B	C	D	E	F
1		Measures	Product	Market	Scenario	
2	Year	105522				
3						
4						
5						
6						

図 2-11: Sample Basic からの最初のデータ取得

[Essbase オプション] ダイアログ ボックス ([グローバル] タブ) の [ダブルクリックを使用可能にする] ボックスをクリックしたので、空のセルをダブルクリックしてデータを取得できます。また、Hyperion Essbase ツールバーの [取得] ボタンをクリックしてもデータを取得できます。

空のワークシートにデータを取得する場合、Hyperion Essbase がデータを戻す順序は各データベース次元の最上位レベルからになります。最上位レベルは、詳細度の高いレベルのデータへの操作 (ドリルダウン) の起点として使用されます。Sample Basic データベースの場合、"Measures"、"Product"、"Market"、"Scenario"、"Year" という 5 つの次元のデータが取得されます。

このチュートリアルの残りの作業については、データセル内でのダブルクリック、[Essbase] > [取得] の選択または Hyperion Essbase ツールバーの [取得] ボタンのクリックの 3 通りの方法でデータを取得できます。

データ取得要求のキャンセル

場合によっては、取得要求のキャンセルが必要になります。たとえば、予想していたより取得処理に時間がかかることがわかった場合や、間違っダブルクリックしてしまった場合などが考えられます。

Hyperion Essbase ではワークシートへのデータの取得はきわめて高速に行われるため、通常の量のデータの取得はキャンセルを実行する前に完了してしまいます。キャンセル機能が最も役に立つのは、大量のデータの取得要求の処理を中止する場合です。

データ取得をキャンセルするには、データ取得処理の実行中に [Esc] キーを押します。

注意：データ取得をキャンセルできるのは、Hyperion Essbase が Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの内部で処理を行っているときのみです。Hyperion Essbase がサーバから処理を行っているときは、データ取得のキャンセルはできません。

1 つ前のデータベース ビューの復元

[復元] コマンドを使用すると、1 つ前のデータベース ビューを復元することができます。データベース ビューとは、データの取得または操作を行った後のワークシートの表示内容です。[復元] は、Lotus 1-2-3 の [編集]>[元に戻す] コマンドと同様、最後に行った操作をキャンセルして操作前の状態に戻すためのコマンドです。Hyperion Essbase では、[復元] コマンドを実行できるために、データ取得要求が処理される前に、現在のビューがマシンのメモリに保存されます。[復元] で元に戻すことができるのは一番最後に行った操作のみなので注意してください。[復元] では、複数の操作を元に戻すことはできません。

このチュートリアルでは、すべてのステップを記載どおりの順序で実行することが必要です。チュートリアルの実行中に間違いに気づいた場合は、Essbase のメニューまたはツールバーにある [復元] コマンドを使用すれば、最後のコマンドをキャンセルして、1 つ前のデータベース ビューに戻ることができます。チュートリアルを最初から開始する必要がある場合は、ワークシート全体を選択して、[編集]>[消去]>[すべて] の順に選択します。次に [Enter] キーを押すか [OK] をクリックして、ワークシート内のデータをすべて消去し、もう一度最初から始めます。

通常の操作中は [復元] を無効にしておくこともできます。[復元] を無効にしておくこと、ローカル マシンのメモリの節約になります。このチュートリアルでは [復元] は無効にしないでください。

▶ [復元] を無効にするには

- 1.[Essbase]>[オプション] を選択し、[**グローバル**] タブをクリックします。
- 2.[**復元を使用可能にする**] チェック ボックスのチェック マークを外します。

詳細度の高いデータへのドリルダウン

Hyperion Essbase では、ワークシート内の多次元データのさまざまなレベルにドリルダウンできます。たとえば、ある年度全体の集計データではなくその年度の特定の四半期または月のデータを表示する場合、"Year" 次元に対してドリルダウンを実行すると、詳細なデータを表示できます。メンバをドリルダウンするには、次の 3 通りの方法があります。

- 目的のメンバを選択し、[Essbase]>[**ズーム イン**] を選択する。
- 目的のメンバを選択し、マウスの左ボタンをダブルクリックする。
- 目的のメンバを選択し、Hyperion Essbase ツールバーの [**ズーム イン**] ボタンをクリックする。

"Year" 次元の下位レベルへのドリルダウン

1. "Year" (セル A2) にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックします。

このドリルダウン操作では、"Year" の下位（子）レベルである "Qtr1"、"Qtr2"、"Qtr3"、"Qtr4" のデータを取得します。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Measures	Product	Market	Scenario		
2	Qtr1	24703					
3	Qtr2	27107					
4	Qtr3	27912					
5	Qtr4	25800					
6	Year	105522					
7							

図 2-12: "Year" 次元のドリルダウンの結果

注意： Hyperion Essbase のデータベースメンバ間の関係については、[1-9 ページの「データベース アウトライン」](#)を参照してください。

Hyperion Essbase ではデータ取得時に、取得対象のメンバを列や行のグループにまとめる（ネストさせる）ことができます。行のグループの内部では、1つのメンバ行グループの中に複数のデータレベルがネストされます。たとえば、"Qtr1"、"Qtr2"、"Qtr3" および "Qtr4" という下位レベルを持つ1つの行グループを、"East" などの特定の地域に対応する単一メンバの行グループの内部にネストできます（次の図を参照してください）。データベースメンバの下位レベルへのドリルダウンは、ネストされたグループヘデータを取得する方法の1つです。

- セル D1 をダブルクリックして "Market" をドリルダウンし、ワークシート上にネストされた下位行グループを作成します。

	A	B	C	D	E	F	G
1			Measures	Product	Scenario		
2	East	Qtr1	5380				
3		Qtr2	6499				
4		Qtr3	6346				
5		Qtr4	5936				
6		Year	24161				
7	West	Qtr1	7137				
8		Qtr2	7515				
9		Qtr3	7939				
10		Qtr4	7270				
11		Year	29861				

図 2-13: "Market" 次元のドリルダウン（行のネスト）の結果

ワークシートには列よりも行の方を多く作成できるので、メンバのドリルダウンの実行時には、Hyperion Essbase はデータを行として取得するために事前設定されます。このデフォルト動作を変更して、ドリルダウンによって取得されたデータが行ではなく列として表示される設定もできます。列形式でのドリル処理は、"Market" や "Scenario" などの次元の最上位レベルのメンバに対してのみ可能です。

次の手順に従って、"Scenario" をドリルダウンし、"Scenario" の各メンバを行ではなく列として取得します。

- [Alt] キーを押します（ステップ 3 まで押し続けます）。
- "Scenario"（セル E1）をダブルクリックします。

3. [Alt] キーを離します。

データがワークシートの列として表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			Measures	Product				
2			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	
3	East	Qtr1	5380	6500	-1120	-17.23076923	5380	
4		Qtr2	6499	7550	-1051	-13.9205298	6499	
5		Qtr3	6346	7550	-1204	-15.94701987	6346	
6		Qtr4	5936	6790	-854	-12.57731959	5936	
7		Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	
8	West	Qtr1	7137	8960	-1823	-20.34598214	7137	
9		Qtr2	7515	9290	-1775	-19.1065662	7515	
10		Qtr3	7939	9870	-1931	-19.56433637	7939	
11		Qtr4	7270	9060	-1790	-19.75717439	7270	
12		Year	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861	

図 2-14: "Scenario" 次元のドリルダウン (列のネスト) の結果

属性メンバのドリルダウン

Hyperion Essbase の属性機能を使用すると、次元の特性（属性）に照らしてデータを取得および分析できます。たとえば、製品のサイズやパッケージ種別に基づいて製品の収益性を分析できます。属性の各次元は、基本次元と関連付けられています。

属性次元は、関連付けられている基本次元のドリルダウンに使用できません。Sample Basic データベースでは、"Product" 基本次元は、複数の属性次元（"Caffeinated"、"Ounces"、"Pkg_Type" など）と関連付けられています。各属性次元は、レベル 0 の属性メンバで構成されています。レベル 0 の属性メンバとは、基本次元のメンバに関連付けられた最下位の属性のことです。たとえば、"Pkg_Type" 属性次元には、"Bottle" および "Can" という 2 つのレベル 0 メンバがあります。

ワークシートに Can と入力することによって、缶で販売された全商品の情報を抽出できます。また、Hyperion Essbase クエリ デザインまたは [Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスを使用して、属性を選択し、ワークシートにも表示できます。

ワークシートを開き、Sample Basic データベースに接続し、[Essbase] > [取得] を選択してください。続いて、"Product" を選択し、直接 Can と入力すると "Product" が "Can" に置き換わります。さらに、セル C1 の外側の任意の場所をクリックし、[Essbase] > [取得] をもう一度選択してください。結果は次のとおりになります。

	A	B	C	D	E
1		Measures	Can	Market	Scenario
2	Year	39578			

図 2-15: レポートにおける属性メンバ

"Can" (セル C1) をダブルクリックして、缶で販売された全商品へのドリルダウンを行います。"Product" のメンバのうちで "Can" 属性を持つものは、"Cola"、"Diet Cola"、"Diet Cream" です。結果は次のとおりになります。

	A	B	C	D	E	F
1				Measures	Market	Scenario
2	Year	Can	Cola	22777		
3			Diet Cola	5708		
4			Diet Cream	11093		

図 2-16: 属性メンバのドリルダウンの結果

レベル 0 の属性メンバのドリルダウン

レベル 0 の属性メンバをドリルダウンする場合、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの動作の概要は次のとおりになります。

- ドリルダウン対象のレベル 0 属性メンバが列にある場合、ドリルダウンを行うと、その属性がピボットされてワークシートの最も内側の行に入ります。
- ドリルダウン対象のレベル 0 属性メンバが行にある場合、ドリルダウンを行っても、ワークシート内でのその属性の位置は変わりません。
- レベル 0 の属性メンバをドリルダウンすると、その属性の右側に、関連付けられた基本メンバが表示されます。
- 1 つのワークシートにレベル 0 の属性メンバが複数存在する場合に、1 つの属性に対してドリルダウンを行うと、そのレベル 0 属性メンバの左側に他の属性が表示されます。ドリルダウン対象のレベル 0 属性メンバが列形式の場合、列から行へのピボットが行われます。一方、ドリルダウン対象のレベル 0 属性メンバが最初から行形式の場合は、行形式のままとなります。
- レベル 0 以外の属性メンバのドリルダウンは、通常の (属性メンバではない) メンバの現在のドリルダウンと同様です。

レベル 0 以外の属性メンバのドリルダウンは、通常の（属性メンバではない）メンバの現在のドリルダウンと同様です。レベル 0 属性メンバに対するドリルダウンの例は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。属性の詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』の Vol. 1 を参照してください。

詳細度の低いデータへのドリルアップ

Hyperion Essbase では、現在のメンバ ツリーを非表示にすると、多次元 データベース アウトラインにおける上位のレベルにドリルアップができます。ドリルアップが必要となるのは、詳細なデータを表示するために次元をドリルダウンした後で元の次元のデータを表示する場合です。たとえば、"Actual" や "Budget" のデータを表示するために "Scenario" 次元をドリルダウンした場合、"Scenario" 次元の集計データを表示するにはドリルアップを行う必要があります。

メンバのドリルアップを行うには、次の 3 通りの方法があります。

- 目的のメンバを選択し、[Essbase] > [ズーム アウト] を選択する。
 - 目的のメンバを選択し、マウスの右ボタンをダブルクリックする。
 - 目的のメンバを選択し、Hyperion Essbase ツールバーの [ズーム アウト] ボタンをクリックする。
- ▶ 現在のワークシート上で "Scenario" 次元のドリルアップを行うには、次の手順に従ってください。
1. "Scenario" 次元の任意のメンバ（つまりセル C2、D2、E2、F2、G2 のいずれか）の上にカーソルを置いて、マウスの右ボタンをダブルクリックします。

Hyperion Essbase により、"Scenario" 次元のメンバが非表示にされま
す。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			Measures	Product				
2			Scenario					
3	East	Qtr1	5380					
4		Qtr2	6499					
5		Qtr3	6346					
6		Qtr4	5936					
7		Year	24161					

図 2-17: "Scenario" 次元のドリルアップの結果

2. セル A3 にカーソルを置いてマウスの右ボタンをダブルクリックし、
"East" のドリルアップを行います。

Hyperion Essbase により、"East"、"West"、"South"、"Central" が非表
示になり、"Market" という 1 つの次元になります。この次元は列 A
に保持されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			Measures	Product				
2			Scenario					
3	Market	Qtr1	24703					
4		Qtr2	27107					
5		Qtr3	27912					
6		Qtr4	25800					
7		Year	105522					

図 2-18: "East" に対するドリルアップの結果

ドリルダウンおよびドリルアップ動作のカスタマイズ

[ズーム イン]および[ズームアウト]コマンドの動作は、[Hyperion
Essbase オプション]ダイアログボックスでカスタマイズできます。次
に、ドリルダウンとドリルアップの手法をいくつか紹介します。

- ▶ ある次元のすべてのメンバを 1 回のドリルダウン操作で取得するには、次
の手順に従ってください。
 1. [Essbase] > [オプション] を選択し、[ズーム] タブを選択します。

[**ズーム**] ページが表示されます。

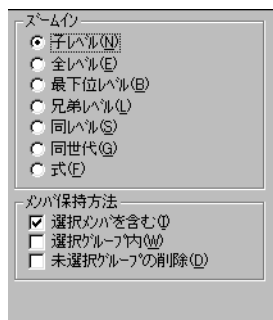


図 2-19: [**ズーム イン**] および [**メンバーの保持期間**] オプションの設定

[**ズーム イン**] オプション グループには、ドリル動作をカスタマイズするための項目があります。ドリルダウン操作時にワークシートに戻されるメンバーを指定できます。たとえば [**最下位レベル**] を選択すると、ドリル操作対象次元の最下位レベルのメンバーのデータが Hyperion Essbase によって取得されます。たとえば、このオプションが選択されているときに "Year" 次元のドリルダウンを行うと、"Jan"、"Feb"、"Mar"、"Apr"、"May"、"Jun"、"Jul"、"Aug"、"Sep"、"Oct"、"Nov"、"Dec" が取得されます。

[**メンバーの保持期間**] オプション グループには、ドリル操作の保持特性をカスタマイズするための項目があります。デフォルトの選択項目である [**選択を組み込む**] を選択すると、選択したメンバーはドリルダウンの結果として取得された他のメンバーとともに保持されます。たとえば、"Qtr1" のドリルダウンを行うと、"Jan"、"Feb"、"Mar" のデータが取得されるとともに、"Qtr1" のデータも取得されます。一方 [**選択を組み込む**] オプションを使用不可にすると、"Jan"、"Feb"、"Mar" のデータのみが取得され、"Qtr1" のデータは除外されます。

注意: [**ズーム イン**] および [**メンバーの保持期間**] オプション グループの詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

2. [**ズーム イン**] オプション グループで、[**全レベル**] オプションを選択して [OK] をクリックし、設定を保存します。

3. セル A3 をダブルクリックして、"Market" のドリルダウンを行います。
4. セル C2 をダブルクリックして、"Scenario" のドリルダウンを行います。

Hyperion Essbase により、"Market" および "Scenario" のすべてのメンバが取得されます。"Market" 次元の場合、現在の 2 つのレベルから最下位レベルのメンバである個々の州へのドリルダウンが行われます。"Scenario" 次元の場合、メンバレベルが 1 つしかないため、[ズーム イン] オプショングループで [次のレベル] が選択されていると "Scenario" のメンバも取得されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1			Measures	Product			
2			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
3	New York	Qtr1	1656	2000	-344	-17.2	1656
4		Qtr2	2363	2610	-247	-9.46360153	2363
5		Qtr3	1943	2290	-347	-15.1528384	1943
6		Qtr4	2240	2320	-80	-3.44827586	2240
7		Year	8202	9220	-1018	-11.0412148	8202
8	Massachusetts	Qtr1	1532	1690	-158	-9.34911243	1532
9		Qtr2	1750	1900	-150	-7.89473684	1750
10		Qtr3	1936	2100	-164	-7.80952381	1936
11		Qtr4	1494	1610	-116	-7.20496894	1494
12		Year	6712	7300	-588	-8.05479452	6712

図 2-20: すべてのメンバレベルへのドリルダウンの結果

5. [Essbase] > [オプション] を選択し、[ズーム] タブを選択します。
6. [ズーム イン] オプションの設定を [次のレベル] に戻します。

ある年度の 1 つの四半期のみをドリルアップする場合は、[メンバの保持期間] オプショングループの [選択したグループ内] を選択します。

- ▶ "Qtr1" のみをドリルアップするには、次の手順に従ってください。
 1. [ズーム] タブの [メンバの保持期間] オプショングループで、[選択したグループ内] チェック ボックスをクリックして [OK] をクリックします。
[選択を組み合わせ] にもチェック マークが付いていることを確認してください。
 2. マウスの右ボタンを押します。"Qtr1" (セル B3) のドリルアップが行われます。

"Year" 次元へのドリルアップによって影響を受けるのが "New York" のみであることに注目してください。他のすべての州については全四半期のデータが表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1			MeasuresProduct				
2			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
3	New York	Year	8202	9220	-1018	-11.04121475	8202
4	Massachusetts	Qtr1	1532	1690	-158	-9.349112426	1532
5		Qtr2	1750	1900	-150	-7.894736842	1750
6		Qtr3	1936	2100	-164	-7.80952381	1936
7		Qtr4	1494	1610	-116	-7.204968944	1494
8		Year	6712	7300	-588	-8.054794521	6712
9	Florida	Qtr1	1070	1300	-230	-17.69230769	1070
10		Qtr2	1339	1570	-231	-14.7133758	1339
11		Qtr3	1495	1730	-235	-13.58381503	1495
12		Qtr4	1125	1300	-175	-13.46153846	1125

図 2-21: 選択したグループ内でのドリルアップの結果

3. 次の作業に進む前に、[**選択したグループ内**] オプションを使用不可にします。
 - a. [Essbase] > [オプション] を選択し、[**ズーム**] タブを選択します。
 - b. [**メンバーの保持期間**] オプション グループで、[**選択したグループ内**] チェック ボックスのチェック マークを外します。
4. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

データのピボット、保持、抑制

データをワークシートに取得したら、取得したデータをさまざまな形で操作できます。たとえば行や列をワークシート内の別の位置に移動したり、データ取得中に特定のデータを抑制または保持するために Hyperion Essbase を設定できます。

この項では、ワークシートデータの操作について説明します。内容は次のとおりです。

- 2-35 ページ「行と列のピボット」
- 2-40 ページ「データサブセットの保持」
- 2-43 ページ「データサブセットの削除」
- 2-43 ページ「データ取得無しでのワークシートの操作」
- 2-48 ページ「Missing、ゼロ値、下線文字の抑制」

行と列のピボット


[ピボット] コマンドを使用すると、ワークシートデータの向きを変更できます。[ピボット] コマンドは次の場合に使用します。

- 行グループを列グループに移動する場合
- 列グループを行グループに移動する場合
- 行グループの順序を変更する場合
- 列グループの順序を変更する場合

[ピボット] コマンドを実行するには、次の 2 通りの方法があります。

- ピボット対象のメンバセルを選択して [Essbase] > [ピボット] を選択する。この方法を利用できるのは、行グループから列グループへの移動または列グループから行グループへの移動の場合のみです。
- ピボット対象のメンバセルの中央をクリックし、マウスの右ボタンを押したままで、該当のグループを目的の場所までドラッグする。この方法は、行および列グループの入替え、およびグループ内での順序の変更に利用できます。

- ▶ "Year" データを行グループから列グループにピボットするには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。

注意：この作業を実行するには、Sample Basic データベースに接続済みである必要があります。接続していない場合は、2-18ページの「データベースへの接続」の説明に従って接続してください。

2. [Essbase]>[取得]を選択します。
3. "Measures" (セル B1) および "Product" (セル C1) のドリルダウン (ダブルクリック) を行います。
4. [Alt] キーを押した状態でセル E1 をダブルクリックし、"Scenario" のドリルダウンを行います。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1						Market		
2				Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
3	100	Profit	Year	30468	41940	-11472	-27.35336195	30468
4		Inventory	Year	29448	31590	2142	6.780626781	29448
5		Ratios	Year	57.27288145	57.6240049	-0.351123447	-0.609335377	57.27288145
6		Measures	Year	30468	41940	-11472	-27.35336195	30468
7	200	Profit	Year	27954	35950	-7996	-22.24200278	27954
8		Inventory	Year	33000	31090	-1910	-6.143454487	33000
9		Ratios	Year	55.53966595	57.46674162	-1.927075664	-3.353375551	55.53966595
10		Measures	Year	27954	35950	-7996	-22.24200278	27954
11	300	Profit	Year	25799	29360	-3561	-12.12874659	25799
12		Inventory	Year	28865	27140	-1725	-6.355932203	28865
13		Ratios	Year	54.23795671	57.13950487	-2.901548161	-5.078007182	54.23795671
14		Measures	Year	25799	29360	-3561	-12.12874659	25799
15	400	Profit	Year	21301	22130	-829	-3.746046091	21301

図 2-22: ピボット前のビュー

5. "Year" (セル C3) を選択し、[Essbase] > [ピボット] を選択します。

	A	B	C	D	E	F
1			Year	Market		
2			Actual	Budget	Variance	Variance %
3	100	Profit	30468	41940	-11472	-27.35336195
4		Inventory	29448	31590	2142	6.780626781
5		Ratios	57.27268145	57.6240049	-0.351123447	-0.609335377
6		Measures	30468	41940	-11472	-27.35336195
7	200	Profit	27954	35950	-7996	-22.24200278
8		Inventory	33000	31090	-1910	-6.143454487
9		Ratios	55.53966595	57.46674162	-1.927075664	-3.353375551
10		Measures	27954	35950	-7996	-22.24200278
11	300	Profit	25799	29360	-3561	-12.12874659
12		Inventory	28865	27140	-1725	-6.355932203
13		Ratios	54.23795671	57.13950487	-2.901548161	-5.078007182
14		Measures	25799	29360	-3561	-12.12874659

図 2-23: 行グループから列グループへのピボットの結果

Hyperion Essbase によって、"Year" 次元が "Market" の次 ("Scenario" 次元のメンバの上) の列グループにピボットされます。

6. 例をもう 1 つ紹介します。"Actual" (セル C2) を選択してください。

7. "Actual" を右クリックし、セル A3 の製品 "100" にドラッグします。

	A	B	C	D	E	F
1			Year	Market		
2			Actual	Budget	Variance	Variance %
3	100	Actual Budget Variance Variance% Scenario			-11472	-27.35336195
4		Inventory	29448	31590	2142	6.780626781
5		Ratios	57.27288145	57.6240049	-0.351123447	-0.609335377
6		Measures	30468	41940	-11472	-27.35336195
7	200	Profit	27954	35950	-7996	-22.24200278
8		Inventory	33000	31090	-1910	-6.143454487
9		Ratios	55.53966595	57.46674162	-1.927075664	-3.353375551
10		Measures	27954	35950	-7996	-22.24200278
11	300	Profit	25799	29360	-3561	-12.12874659
12		Inventory	28865	27140	-1725	-6.355932203
13		Ratios	54.23795671	57.13950487	-2.901548161	-5.078007182
14		Measures	25799	29360	-3561	-12.12874659

図 2-24: 列グループから行グループへのピボット

注意: ピボット操作中には、カーソルの下にメンバラベルボックスが表示されます。このメンバラベルボックスには、ピボット中のメンバの名前が表示されます。ただし、メンバラベルボックスでの向きと実際のピボット結果のデータの向きが異なる場合があります。Hyperion Essbase では、データの向きは移動先セルの位置に基づいて決定されます。

"Scenario" のメンバ ("Actual"、"Budget"、"Variance"、"Variance%") が列グループから行グループにピボットされ、結果の行グループは "Product" のメンバの左に表示されます。

	A	B	C	D	E	F
1				Year	Market	
2	Actual	100	Profit	30468		
3			Inventory	29448		
4			Ratios	57.27288145		
5			Measures	30468		
6		200	Profit	27954		
7			Inventory	33000		
8			Ratios	55.53966595		
9			Measures	27954		
10		300	Profit	25799		
11			Inventory	28865		
12			Ratios	54.23795671		
13			Measures	25799		
14		400	Profit	21301		

図 2-25: 列グループから行グループへのピボットの結果

- ▶ 行グループの順序を変更するには、次の手順に従ってください。
1. "Actual" (セル A2) を選択します。
 2. "Actual" を右クリックし、"Profit" (セル C2) までドラッグします。

	A	B	C	D	E	F	G
1				Year	Market		
2	Actual	100	Profit	Actual	Budget	Variance	% Scenario
3			Inventory	29448			
4			Ratios	57.27288145			
5			Measures	30468			
6		200	Profit	27954			
7			Inventory	33000			
8			Ratios	55.53966595			
9			Measures	27954			
10		300	Profit	25799			
11			Inventory	28865			
12			Ratios	54.23795671			
13			Measures	25799			
14		400	Profit	21301			
15			Inventory	26092			
16			Ratios	53.59966758			

図 2-26: 行グループの順序のピボット

ピボットにより、行グループの順序が変更されます。

	A	B	C	D	E	F
1				Year	Market	
2	100	Profit	Actual	30468		
3			Budget	41940		
4			Variance	-11472		
5			Variance %	-27.35336195		
6			Scenario	30468		
7		Inventory	Actual	29448		
8			Budget	31590		
9			Variance	2142		
10			Variance %	6.780626781		
11			Scenario	29448		
12		Ratios	Actual	57.27288145		
13			Budget	57.6240049		
14			Variance	-0.351123447		
15			Variance %	-0.609335377		
16			Scenario	57.27288145		

図 2-27: 行グループの順序のピボットの結果

この例では、最終的に元のセルと移動先セルの両方がメンバとなっていることに注目してください。Hyperion Essbase では、元のセルと移動先セルが別の行グループのメンバである場合は常にメンバグループの入替えが行われます。行メンバの入替えを行うには、メンバ名が入ったセルを移動先セルとして選択する必要があります。列メンバの入替えも可能です。これには、メンバ名が入った別の列にあるセルを移動先セルとして選択します。

データ サブセットの保持

[メンバの保持] コマンドは、選択したメンバ行または列のみを保持し、他のすべてのデータをワークシートビューから削除するときを使用します。このコマンドは、個々のセルは削除せずに次元スライスを削除するための手段としてきわめて有効です。

- ▶ "Actual" と "Budget" のデータのみを現在のワークシートに保持するには、次の手順に従ってください。

1. "Actual" (セル C2) を選択し、"Budget" (セル C3) を選択します。

	A	B	C	D	E	F
1				Year	Market	
2	100	Profit	Actual	30468		
3			Budget	41940		
4			Variance	-11472		
5			Variance %	-27.35336195		
6			Scenario	30468		
7		Inventory	Actual	29448		
8			Budget	31590		
9			Variance	2142		
10			Variance %	6.780626781		
11			Scenario	29448		
12		Ratios	Actual	57.27268145		
13			Budget	57.6240049		
14			Variance	-0.351123447		
15			Variance %	-0.609335377		
16			Scenario	57.27268145		

図 2-28: [メンバの保持] コマンドの対象となるメンバの選択

2. [Essbase] > [メンバの保持] を選択します。

Hyperion Essbase では "Variance"、"Variance%"、"Scenario" の行がワークシートから削除され、"Actual" および "Budget" のデータのみが保持されます。

	A	B	C	D	E	F
1				Year	Market	
2	100	Profit	Actual	30468		
3			Budget	41940		
4		Inventory	Actual	29448		
5			Budget	31590		
6		Ratios	Actual	57.27288145		
7			Budget	57.6240049		
8		Measures	Actual	30468		
9			Budget	41940		
10	200	Profit	Actual	27954		
11			Budget	35950		
12		Inventory	Actual	33000		
13			Budget	31090		
14		Ratios	Actual	55.53966595		
15			Budget	57.46674162		
16		Measures	Actual	27954		

図 2-29: データサブセット (隣接しているセルの集合) の保持の結果

場合によっては、ワークシートから削除するデータ全体が 1 つのセルの範囲内で隣接していないこともあります。

- ▶ 隣接していないセルを選択して保持するには、次の手順に従ってください。
 1. [Alt] キーを押した状態でセル D1 をダブルクリックし、"Year" のズームインを行います。
 2. "Qtr2" (セル E2) を選択します。

3. [Ctrl] キーを押した状態で、"Qtr4" (セル G2) を選択します。

	A	B	C	D	E	F	G
1						Market	
2				Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
3	100	Profit	Actual	7048	7872	8511	7037
4			Budget	9790	10660	11440	10050
5		Inventory	Actual	29448	29860	36461	35811
6			Budget	31590	29950	34830	32340
7		Ratios	Actual	57.40178857	57.28473167	57.39559978	56.99467561
8			Budget	57.7376566	57.39041794	57.45231167	57.96344648
9		Measures	Actual	7048	7872	8511	7037
10			Budget	9790	10660	11440	10050
11	200	Profit	Actual	6721	7030	7005	7198
12			Budget	8480	8840	8830	9800
13		Inventory	Actual	33000	31361	35253	32760
14			Budget	31090	28040	30260	26460
15		Ratios	Actual	55.38738874	55.49797453	55.06764011	56.21773123
16			Budget	57.36255286	57.40395375	57.11143695	57.9954955
17		Measures	Actual	6721	7030	7005	7198

図 2-30: [メンバの保持] コマンドの対象として隣接していないメンバを選択

4. [Essbase] > [メンバの保持] を選択します。

"Qtr2" と "Qtr4" のデータのみが保持され、"Year" の他のメンバは削除されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1				Market			
2				Qtr2	Qtr4		
3	100	Profit	Actual	7872	7037		
4			Budget	10660	10050		
5		Inventory	Actual	29860	35811		
6			Budget	29950	32340		
7		Ratios	Actual	57.28473167	56.99467561		
8			Budget	57.39041794	57.96344648		
9		Measures	Actual	7872	7037		
10			Budget	10660	10050		
11	200	Profit	Actual	7030	7198		
12			Budget	8840	9800		
13		Inventory	Actual	31361	32760		
14			Budget	28040	26460		
15		Ratios	Actual	55.49797453	56.21773123		
16			Budget	57.40395375	57.9954955		
17		Measures	Actual	7030	7198		

図 2-31: データサブセット (隣接していないセルの集合) の保持の結果

データサブセットの削除

[メンバの削除] コマンドは [メンバの保持] コマンドと逆の操作に使用します。[メンバの削除] では選択したメンバの行または列のみを削除し、他のデータはすべてワークシートビューに保持します。

- ▶ 現在のワークシートビューからデータサブセットを削除するには、次の手順に従ってください。

1. セル B7 の "Ratios" を選択します。
2. [Ctrl] を押した状態で、"Measures" (セル B9) を選択します。
3. [Essbase]> [メンバの削除] を選択します。

"Ratios" と "Measures" のデータのみが削除されます。"Profit" と "Inventory" のデータは保持されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1				Market					
2				Qtr2	Qtr4				
3	100	Profit	Actual	7872	7037				
4			Budget	10660	10050				
5		Inventory	Actual	29860	35811				
6			Budget	29950	32340				
7	200	Profit	Actual	7030	7198				
8			Budget	8840	9800				
9		Inventory	Actual	31361	32760				
10			Budget	28040	26460				
11	300	Profit	Actual	6769	6403				
12			Budget	7680	7000				
13		Inventory	Actual	30334	38142				
14			Budget	28460	35460				

図 2-32: データサブセットの削除の結果

データ取得無しでのワークシートの操作

[データ無し操作] 機能を使用すると、ピボット、ズームイン、ズームアウト、メンバの保持、メンバの削除などのシート操作をワークシートへのデータの取得無しで実行できます。

この機能が特に有効なのは、通常、アプリケーション デザイナーによって指定される動的計算メンバを処理する場合です。[データ無し操作] を有効にすると、スプレッドシート レポートの作成中には値を動的に計算し

ない（つまり、取得時にデータベースを計算しない）ことを Hyperion Essbase に対して効果的に指示できます。動的計算の詳細は、3-43 ページの「動的計算メンバの取得」を参照してください。

- ▶ データを取得せずにワークシートの操作を行うには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [データ無し操作] を選択します。

[データ無し操作] メニュー項目の横にチェック マークが表示されません。

注意： [データ無し操作] を使用可能にする方法としては、[Essbase オプション] ダイアログ ボックス ([グローバル] タブ) で該当のオプションを選択する方法や、Essbase ツールバーの [データ無し操作] ボタンをクリックする方法もあります。

2. セル D2 にカーソルを置いてマウスの右ボタンをダブルクリックし、"Qtr2" のドリルアップを行います。

非表示にされていた "Year" 次元が表示されますが、ドリルアップの結果として変更されたデータの取得は行われません。通常であればデータが表示されるセルは空のままとなります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1				Market					
2				Year					
3	100	Profit	Actual						
4			Budget						
5		Inventory	Actual						
6			Budget						
7	200	Profit	Actual						
8			Budget						
9		Inventory	Actual						
10			Budget						
11	300	Profit	Actual						
12			Budget						
13		Inventory	Actual						
14			Budget						

図 2-33: [データ無し操作] 使用可能時のズームアウトの結果

3. [Alt] キーを押した状態でセル D2 をダブルクリックし、"Year" のドリルダウンを行います。

データの取得無しでドリルダウンが実行されます。

4. セル C3 ("Actual") を選択して、[Essbase]>[ピボット]を選択します。

データの取得無しでピボットが実行されます。

注意: "Scenario" の他のどのメンバに対してピボットを行った場合でも、結果は同じになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1							Market					
2					Actual					Budget		
3			Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year
4	100	Profit										
5		Inventory										
6	200	Profit										
7		Inventory										
8	300	Profit										
9		Inventory										
10	400	Profit										
11		Inventory										
12	Diet	Profit										
13		Inventory										
14	Product	Profit										

図 2-34: [データ無し操作] 使用可能時のピボットの結果

5. セル G1 の "Market" をマウスの右ボタンでクリックし、"Market" を製品 100 (セル A4) にドラッグします。

データの取得無しでピボットが実行されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1						Actual					Budget	
2				Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
3	Market	100	Profit									
4			Inventory									
5		200	Profit									
6			Inventory									
7		300	Profit									
8			Inventory									
9		400	Profit									
10			Inventory									
11		Diet	Profit									
12			Inventory									
13		Product	Profit									
14			Inventory									

図 2-35: [データ無し操作] 使用可能時のピボットの結果

データ取得無しでの操作は、[メンバの保持]および[メンバの削除]コマンドでも有効です。

- ▶ [メンバの保持]または[メンバの削除]コマンドの使用時にデータ取得無しで操作を行うには、次の手順に従ってください。

1. "Qtr1" (セル D2) および "Qtr2" (セル E2) を選択し、[Essbase] > [メンバの保持] を選択します。

選択したメンバのみが保持されますが、データの取得は行われません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1				Actual	Budget					
2				Qtr1	Qtr2	Qtr1	Qtr2			
3	Market	100	Profit							
4			Inventory							
5		200	Profit							
6			Inventory							
7		300	Profit							
8			Inventory							
9		400	Profit							
10			Inventory							
11		Diet	Profit							
12			Inventory							
13		Product	Profit							

図 2-36: [データ無し操作] 使用可能時の [メンバの保持] の結果

2. 製品の 300 (セル B7)、製品の 400 (セル B9)、Diet (セル B11) を選択し、[Essbase] > [メンバの削除] を選択します。

実際にデータベースに対して情報のクエリを行わずに、[メンバの削除]コマンドが実行されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1				Actual	Budget					
2				Qtr1	Qtr2	Qtr1	Qtr2			
3	Market	100	Profit							
4			Inventory							
5		200	Profit							
6			Inventory							
7		Product	Profit							
8			Inventory							
9										

図 2-37: [データ無し操作] 使用可能時の [メンバの削除] の結果

- ▶ データ取得の準備が整ったときに [データ無し操作] をオフにするには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [データ無し操作] を選択します。

[データ無し操作] メニュー項目の横のチェック マークが削除されます。

注意: [データ無し操作] を使用不可にする方法としては、[Essbase オプション] ダイアログ ボックス ([グローバル] タブ) で該当のオプションを選択する方法や、Essbase ツールバーの [データ無し操作] ボタンをクリックする方法もあります。

2. セル A3 をダブルクリックして、"Market" のドリルダウンを行います。

"Market" 次元のドリルダウンが行われ、ワークシートにデータが取得されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1				Actual		Budget			
2				Qtr1	Qtr2	Qtr1	Qtr2		
3	East	100	Profit	2747	3352	2880	3480		
4			Inventory	5384	4490	5200	3530		
5		200	Profit	562	610	960	1070		
6			Inventory	5957	6442	5610	5910		
7			Product	5380	6499	6500	7550		
8			Inventory	25744	26214	24710	24030		
9	West	100	Profit	1042	849	2350	2130		
10			Inventory	8592	9656	10250	10950		
11		200	Profit	2325	2423	2570	2720		
12			Inventory	11755	11643	11070	10900		
13			Product	7137	7515	8960	9290		
14			Inventory	38751	41574	39020	42820		

図 2-38: [データ無し操作] 使用不可時のドリルダウンの結果

注意: 現在のワークシート ビューを変更せずにデータを取得する方法もあります。それには、任意のデータ セルを単にダブルクリックするか、事前に [データ無し操作] を使用不可にして [Essbase] > [取得] を選択します。

Missing、ゼロ値、下線文字の抑制

ワークシート ビューに戻される可能性のあるデータには、次のものがあります。

- 数値のデータ値
- #NoAccess 文字列 (データ値表示のために必要なセキュリティ アクセス権がなかった場合に表示)
- #Missing 文字列 (該当のデータ セルにデータが存在しない場合に表示)
- 値 0 のデータ値

Missing とゼロ値は意味が異なるので注意してください。ゼロ値は Hyperion Essbase データベースにロードされますが、Missing はロードされません。Hyperion Essbase のいずれかのデータ セルにデータが存在しない場合は、#Missing という値がワークシートに戻されます。ある行のいずれかのセルに値が存在していれば、その行はデータ取得時に抑制されません。

Hyperion Essbase では、Missing およびゼロ値をワークシート内に表示することを抑制できます。また、一部のメンバ名に含まれる下線文字を抑制にすることを Hyperion Essbase へ指示できます。

- ▶ Missing の行をワークシート上で抑制するには、次の手順に従ってください。
1. セル C3 でマウスの右ボタンをダブルクリックして、"Profit" のドリルアップを行います。
 2. "Measures" (セル C3) から "Actual" (セル D1) へのピボットを行います。

- セル B4 をダブルクリックして、製品 100 のドリルダウンを行います。

"South" メンバグループでは、製品 100 ~ 30 の行のすべてのセルが Missing となっています。この製品が南部では販売されていないことを意味します。この行を見るためにはワークシート上でスクロールが必要な場合もあります。

	A	B	C	D	E	F	G
1				Measures			
2			Actual		Budget		
3			Qtr1	Qtr2	Qtr1	Qtr2	
4	East	100-10	2461	2940	2550	3050	
5		100-20	212	303	220	300	
6		100-30	74	109	110	130	
7		100	2747	3352	2880	3480	
8		200	562	610	960	1070	
9		Product	5380	6499	6500	7550	
10	West	100-10	1047	1189	1720	1900	
11		100-20	-67	-177	320	200	
12		100-30	62	-163	310	30	
13		100	1042	849	2350	2130	
14		200	2325	2423	2570	2720	
15		Product	7137	7515	8960	9290	
16	South	100-10	745	835	1160	1280	
17		100-20	306	363	570	660	
18		100-30	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	

図 2-39: Missing データ値が表示されている状態のワークシート

- [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
- [抑制] オプショングループの [#Missing 行] チェックボックスをクリックし、[OK] をクリックします。

注意: [Essbase オプション] ダイアログボックスで [式の保存] オプションのいずれかが選択されている場合は、[#Missing 行の抑制] および [ゼロ行の抑制] オプションは使用できません。式の保存の詳細は、3-31 ページの「データ取得時の式の保存」を参照してください。

6. [Essbase] > [取得] を選択してワークシートを更新します。

注意: [Essbase オプション] ダイアログ ボックスでワークシート オプションの設定を変更した場合は、新しい設定を有効にするためにデータの取得またはドリル操作を行う必要があります。

"South" メンバグループの製品 100 ~ 30 が抑制されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4	East	100-10	2461	2940	2550	3050			
5		100-20	212	303	220	300			
6		100-30	74	109	110	130			
7		100	2747	3352	2880	3480			
8		200	562	610	960	1070			
9		Product	5380	6499	6500	7550			
10	West	100-10	1047	1189	1720	1900			
11		100-20	-67	-177	320	200			
12		100-30	62	-163	310	30			
13		100	1042	849	2350	2130			
14		200	2325	2423	2570	2720			
15		Product	7137	7515	8960	9290			
16	South	100-10	745	835	1160	1280			
17		100-20	306	363	570	660			
18		100	1051	1198	1730	1940			
19		200	1465	1540	1640	1700			
20		Product	3077	3267	4180	4410			
21	Central	100-10	843	928	1080	1180			

図 2-40: Missing データ値を抑制した結果

7. [ファイル]>[閉じる]を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

注意: いったん [Essbase オプション] ダイアログ ボックスで [#Missing 行の抑制] を使用可能にすると、データ取得時に抑制された Missing は、[#Missing 行の抑制] を使用不可にしたのみでは再取得できないので注意してください。[Essbase オプション] ダイアログ ボックスで [#Missing 行の抑制] を使用不可にしたのみでは、その時点から Missing の取得が再開されるのみで、使用不可だった期間に取得したデータに含まれていた Missing の再取得は行われません。たとえば上記の操作例が終了した時点では、[#Missing 行の抑制] を使用不可にしたのみでは、製品 100 ~ 30 の Missing をワークシートに戻すことはできません。これらの Missing をワークシートに戻すには、[#Missing 行の抑制] を使用不可にして "Product" メンバのドリルアップを行ったうえで、もう一度ドリルダウンを行う必要があります。

ゼロ値や下線文字も同様の手順で抑制できます。[Essbase オプション] ダイアログ ボックス ([表示] タブ) の [抑制] オプション グループで該当のオプションを選択した後、上記の手順に従ってください。

Hyperion Essbase では、データ取得時に特定の値や文字を抑制できるのみでなく、Missing (#Missing) やアクセス権のないデータ (#NoAccess) に対してユーザ独自のラベルも定義できます。これらの値について代替ラベルを定義すると、デフォルト ラベルのかわりに、その代替レベルが表示されます。#Missing および #NoAccess ラベルの代替ラベルの定義の詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

ワークシートのフォーマット設定

Hyperion Essbase では、ワークシート ビューをさまざまな形でカスタマイズできます。たとえば、ワークシートの特定のメンバ名やデータセルへのビジュアルキュー（スタイル）の適用や、メンバ名の代替名（別名）の表示も可能です。この項では、ワークシートのフォーマット設定について説明します。内容は次のとおりです。

- 2-53 ページ「テキストとセルのフォーマット設定」
- 2-64 ページ「メンバ名の別名の表示」
- 2-66 ページ「メンバ名と別名の同時表示」
- 2-68 ページ「メンバラベルの繰返し表示」

この項では、新しいワークシートを使用します。

テキストとセルのフォーマット設定

スプレッドシートレポートでは、データベース情報を複数の階層に分けて表示する場合があります。ビジュアルキュー（スタイル）を定義して、ワークシート内のテキストやセルに適用すると、特定のデータベースメンバ、次元、セル関数を簡単に追跡できます。スタイルは、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインにおいてデータを表示および識別する手段としてきわめて有効です。

注意：スタイルを適用するには、データ取得要求時に追加の作業が必要になります。詳細は、2-63 ページの「スタイルの削除」を参照してください。

ここからは、次の作業について説明します。


- 2-54 ページ「親メンバに対するスタイルの適用」
- 2-58 ページ「次元のメンバに対するスタイルの適用」
- 2-61 ページ「データセルに対するスタイルの適用」
- 2-62 ページ「スタイルの指定が重複した場合の優先順位」
- 2-63 ページ「スタイルの削除」

注意：Hyperion Essbase のデータベースメンバ間の関係については、1-9 ページの「データベース アウトライン」を参照してください。

親メンバに対するスタイルの適用

データベース内の各次元は、多数の階層レベルで構成される場合があります。ワークシートにデータを表示したときに、そのデータベース アウトラインの階層レベルすべてを把握できるとは限りません。どのメンバに子メンバがあるかをわかりやすくするには、親メンバにフォーマット設定スタイルを適用して、親メンバが属性を持つことを表示できます。

▶ 親メンバにスタイルを適用するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。
2. [Essbase]>[取得]を選択します。

注意：Sample Basic データベースに接続された状態であることが必要です。接続していない場合は、[2-18 ページの「データベースへの接続」](#)の説明に従って接続してください。

3. セル A2 をダブルクリックして、"Year" のドリルダウンを行います。
4. [Essbase]>[オプション]を選択します。

5. [Essbase オプション] ダイアログ ボックスで、[スタイル] タブを選択します。

注意: [スタイル] タブを使用できるのは、データベースに接続しているときのみです。

[スタイル] ページが表示されます。

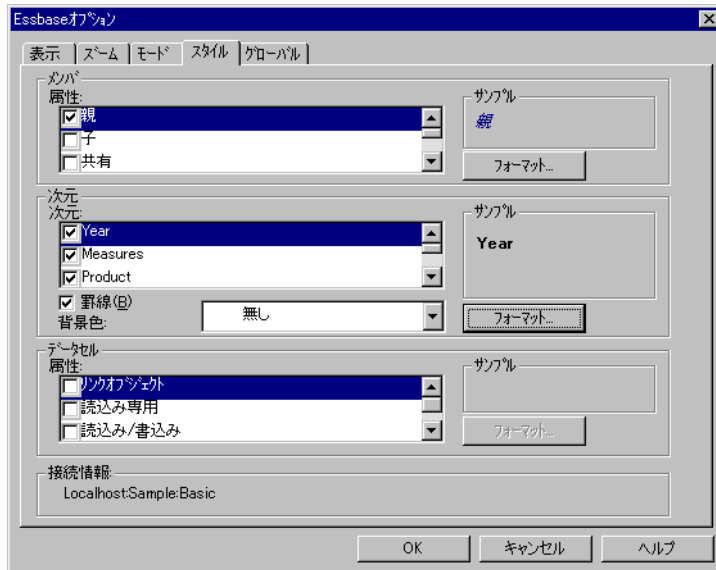


図 2-41: [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [スタイル] タブ

[メンバー] 領域では、データベース メンバの種類 (親メンバ、子メンバ、共有メンバ) に対応するスタイルを定義できます。

6. [メンバー] グループ ボックスで、[親] チェック ボックスをクリックします。

このボックスをクリックすると、親メンバ名の表示に使用するフォントと色のスタイルの定義ができます。Hyperion Essbase のデフォルトでは親メンバはすべて紺色で表示されます。フォントを選択するには、[メンバー] ボックス右の [フォーマット] ボタンをクリックして [フォント] ダイアログ ボックスを開きます。

7. [フォーマット] ボタンをクリックします。
[フォント] ダイアログ ボックスが表示されます。

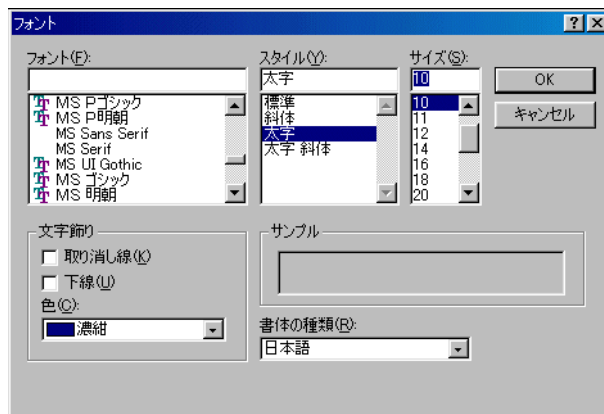


図 2-42: [フォント] ダイアログ ボックス

8. [フォントスタイル] リスト ボックスから [Bold] を選択し、[OK] をクリックします。

注意: [サンプル] ボックスに、選択したスタイルの適用例が表示されます。

9. もう一度 [OK] をクリックします。

スタイルは、定義するのみでは使用可能とはなりません。定義したスタイルを使用可能にするには、[Essbase オプション] ダイアログボックスの [スタイルを使用] チェック ボックスをクリックして、ワークシートをリフレッシュします。

10. [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
11. [セル] オプション グループで [スタイルを使用] チェック ボックスをクリックしてスタイルを使用可能にし、[OK] をクリックします。
12. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシートをリフレッシュし、スタイルを適用します。

親メンバの名前が紺の太字フォントで表示されます。

13. セル A2 をダブルクリックして、"Qtr1" のドリルダウンを行います。

"Jan"、"Feb"、"Mar" は子メンバを持たないため、通常のフォントで表示されます。

	A	B	C	D	E
1		<i>Measures</i>	<i>Product</i>	<i>Market</i>	<i>Scenario</i>
2	Jan	8024			
3	Feb	8346			
4	Mar	8333			
5	<i>Qtr1</i>	24703			
6	<i>Qtr2</i>	27107			
7	<i>Qtr3</i>	27912			
8	<i>Qtr4</i>	25800			
9	<i>Year</i>	105522			

図 2-43: 親メンバに適用されるスタイル

次元のメンバに対するスタイルの適用

1 つ前の操作例では親メンバにスタイルを適用しましたが、親メンバのみでなく、データベース次元のメンバにもスタイルを適用できます。次元に対してスタイルを適用すると、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインの各種の次元メンバをわかりやすく表示できます。

- ▶ 次元にスタイルを適用するには、次の手順に従ってください。
 1. [Essbase] > [オプション] を選択し、[**スタイル**] タブを選択します。
 2. [**次元**] グループ ボックスで "Year" を選択します。
 3. [**セル境界**] チェック ボックスを選択します。選択した次元のメンバが入った各セルの周りに枠線が表示されます
 4. [**背景色**] リスト ボックスから [黄] を選択します。

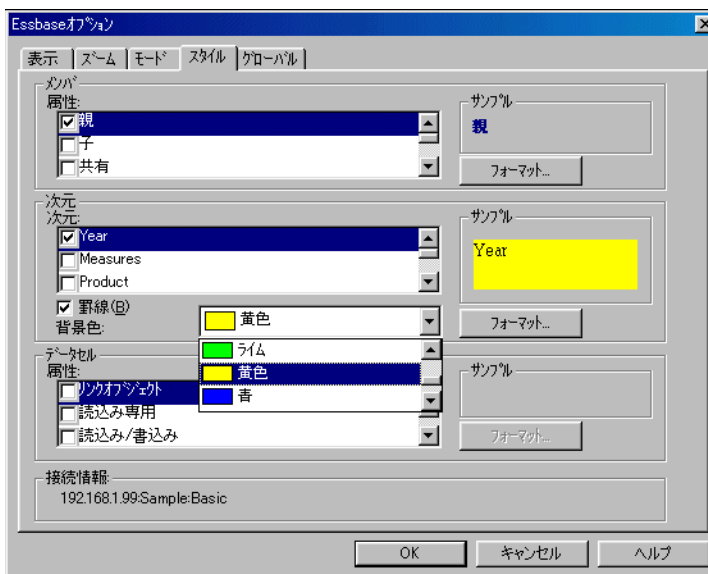


図 2-44: [スタイル] タブでの背景色の選択

5. [**次元**] リスト右の [**フォーマット**] ボタンをクリックします。Hyperion Essbase の [**フォント**] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. [**フォントスタイル**] リスト ボックスから [**Bold**] を選択し、[**OK**] をクリックします。

注意: [**サンプル**] ボックスに、選択したスタイルの適用例が表示されます。

7. 次元のリストから "Measures" 次元を選択し、[**背景色**] リスト ボックスから [**Fuschia**] を選択します。
8. 次元のリストから "Product" を選択し、[**セル境界**] チェック ボックスのチェック マークを外します。
9. [**背景色**] リスト ボックスから [**水色**] を選択します。
10. 次元のリストを下方向にスクロールし、"Market" を選択します。
11. [**セル境界**] チェック ボックスを選択し、[**次元**] リスト右の [**フォーマット**] ボタンをクリックします。

[**フォント**] ダイアログ ボックスが表示されたら、[**フォントスタイル**] リスト ボックスから [**Italic**] を選択し、[**OK**] をクリックします。

12. 次元のリストから "Scenario" を選択し、[**背景色**] リスト ボックスから [**赤**] を選択します。
13. [**フォーマット**] ボタンをクリックし、[**色**] リスト ボックスから [**白**] を選択します。
14. [**OK**] を 2 回クリックし、ワークシートに戻ります。

注意: スタイルを定義すると、設定内容はローカル マシン上の `essbase.ini` ファイルに保存されます。データベースごとにスタイルの設定を変えることもできます。

15. セル D1 をダブルクリックして、"Market" のドリルダウンを行います。
16. [**Alt**] キーを押した状態でセル E1 をダブルクリックして、"Scenario" のドリルダウンを行います。
17. [**Essbase**] > [**取得**] を選択して、ワークシートをリフレッシュします。

新しく定義したスタイルが組み込まれた状態で、ワークシートが再表示されます。たとえば、"Scenario" 次元のメンバは赤の背景色で表示されています。

	A	B	C	D	E	F	G
1			Measures	Product			
2			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
3	East	Jan	1732	2080	-348	-16.7308	1732
4		Feb	1843	2230	-387	-17.3543	1843
5		Mar	1805	2190	-385	-17.5799	1805
6		Qtr1	5380	6500	-1120	-17.2308	5380
7		Qtr2	6499	7550	-1051	-13.9205	6499
8		Qtr3	6346	7550	-1204	-15.947	6346
9		Qtr4	5936	6790	-854	-12.5773	5936
10		Year	24161	28390	-4229	-14.8961	24161
11	West	Jan	2339	2980	-641	-21.5101	2339
12		Feb	2394	2990	-596	-19.9331	2394
13		Mar	2404	2990	-586	-19.5967	2404
14		Qtr1	7137	8960	-1823	-20.346	7137

図 2-45: スタイル適用後の次元の表示

データセルに対するスタイルの適用

データセルにもスタイルを適用できます。たとえば、読取り専用セル、読取り / 書込みセル、リンクオブジェクトのセル、HIS ドリルスルーのセルなどにスタイルを適用して、ワークシート内の他のセルと区別できます。この章のチュートリアルで使用している Sample Basic データベースには、この特性を持つデータセルはありません。第 3 章の応用チュートリアルでは、リンクレポートオブジェクトをデータセルに添付し、そのセルにスタイルを適用する方法を説明します。

注意： 網掛けの枠内に記載した作業は、このチュートリアルでは実行しません。

一般に、データセルへのスタイルの適用は次の手順で行います。

1. [Essbase] > [オプション] を選択し、[スタイル] タブを選択します。
2. [データセル] オプショングループで、[リンクオブジェクト]、[Integration Server ドリルスルー]、[読取り専用]、または [読取り / 書込み] のいずれかのチェックボックスをクリックします。
3. [フォーマット] をクリックします。
4. [フォント] ダイアログボックスで、フォント、フォントサイズ、フォントスタイル、色、効果を指定し、[OK] をクリックします。

注意： [サンプル] ボックスに、選択したスタイルの適用例が表示されます。

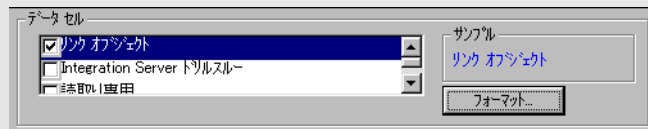


図 2-46: 読取り / 書込みデータセルのスタイルの例

5. ステップ 2 ~ 4 を繰り返して、他のデータセルにもスタイルを設定します。
6. [表示] タブを選択して表示されるページで [スタイルを使用] チェックボックスを選択し、ワークシートにスタイルを適用します。
7. [OK] をクリックし、[Essbase オプション] ダイアログボックスを閉じます。
8. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシートに新しいスタイルを表示します。

スタイルの指定が重複した場合の優先順位

データに背景色を付けるには、次元にスタイルを定義する方法が唯一になります。次元のスタイルが定義されているときに [スタイルを使用] をオンにすると、各次元のメンバはすべてその次元に定義された背景色で表示されます。

テキスト スタイルはメンバ、次元、データ セルに適用できますが、テキスト スタイルの適用では、どの特性が適用されるかを決定するための階層があります。メンバのスタイルは、この階層の最上位に位置します。したがって、メンバのスタイルはスタイルをオフにしない限り、常に適用されます。図 2-45 のセル B6 では、"Qtr1" のラベルが紺の太字で表示されて、背景色は黄色になっています。ラベルが紺のフォントで表示されているのは、親メンバのスタイルで紺のフォントを定義したためです。背景色が黄色なのは、"Year" のスタイルで背景色として黄色を定義したためです。

Hyperion Essbase では、複数のテキスト スタイルを適用するときの優先順位は次のとおりです。

- リンク オブジェクトのセル
- Integration Server ドリルスルーのセル
- 読取り専用セル
- 読取り / 書込みセル
- 親メンバのセル
- 子メンバのセル
- 共有メンバのセル
- 式を含んだセル
- 動的計算メンバのセル
- 属性セル
- 次元セル

子メンバのスタイルを表示するときは、親メンバのスタイルがオフになっていることを確認してから表示してください。共有メンバのスタイルを表示するときは、親メンバと子メンバのスタイルがどちらもオフになっていることを確認してから表示してください。

スタイルの削除

スタイルは、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのデータを追跡するうえできわめて強力な武器となります。ただしスタイルを適用すると、データ取得要求時の処理時間が長くなります。処理時間が長くなると、Hyperion Essbase のデータ取得速度が若干影響を受けます。

ワークシート ビューにスタイルの適用が不要な場合は、スタイルを消去できます。またスタイルをオフにして、[Essbase] > [取得] を選択する方法でビューをリフレッシュしたときにスタイルが表示されないこともできます。ただし、このチュートリアルを続ける場合はスタイルを削除しないでください。削除すると、以降の操作手順の説明で、実際のワークシートの表示が画面例と異なってきます。

注意：ワークシートにスタイルを適用した後に [復元] コマンドを実行すると、適用したスタイルが現在のビューから一時的に削除されます。スタイルは、データ取得を開始するときに再適用されます。網掛けの枠内に記載した作業は、このチュートリアルでは実行しません。

- ▶ ワークシートからすべてのスタイルを削除するには次の操作を実行してください。
 - 1.ワークシートのすべてのセルを選択します。
 - 2.Lotus 1-2-3 のメニュー バーから、[編集] > [消去] > [スタイルのみ] の順に選択します。
- ▶ スタイルを使用不可にするには
 - 1.[Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
 - 2.[セル] オプショングループで、[スタイルを使用] チェックボックスのチェックマークを外し、[OK] をクリックします。

注意：ワークシートからスタイルを消去せずにスタイルをオフにすると、表示をリフレッシュしたとき、現在のワークシートビューではオフにしたスタイルはそのまま残ります。これは、Excel のワークシート フォーマット設定オプションに従って個々のセルに適用される可能性のあるスタイルが削除されるのを防ぐためです。

メンバ名の別名の表示

Hyperion Essbase では、データベース メンバにメンバ名の代替となる名前（別名）を付けることができます。レポートを作成するときは、データベース メンバ名（在庫番号や製品コードであることが多い）の使用や、メンバ名よりもわかりやすい別名の使用も可能です。別名は、Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナが定義します。各データベースに別名テーブル（複数可）を設定できます。

たとえば Sample Basic データベースでは、"Product" のメンバは、100 や 200 などのコードで定義されています。一方、別名テーブルでは、"Product" の各メンバのわかりやすい別名（"Colas" や "Root Beer" など）が定義されています。別名は、他のデータベース メンバの組合せごとに変更できます。たとえば "Product" の 1 つのメンバに対して、販売地域ごとに異なる別名を付けることもできます。詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプまたは『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

- ▶ メンバのデータベース名のかわりに別名を表示するには、次の手順に従ってください。
 1. セル C2 でマウスの右ボタンをダブルクリックして、"Actual" のドリルアップを行います。
 2. [Alt] キーを押した状態でセル D1 をダブルクリックして、"Product" のドリルダウンを行います。
 3. [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
 4. [別名] オプション グループで [別名を使用] チェック ボックスをクリックして、メンバの別名を表示します。

5. [別名] リスト ボックスから [デフォルト] を選択します。

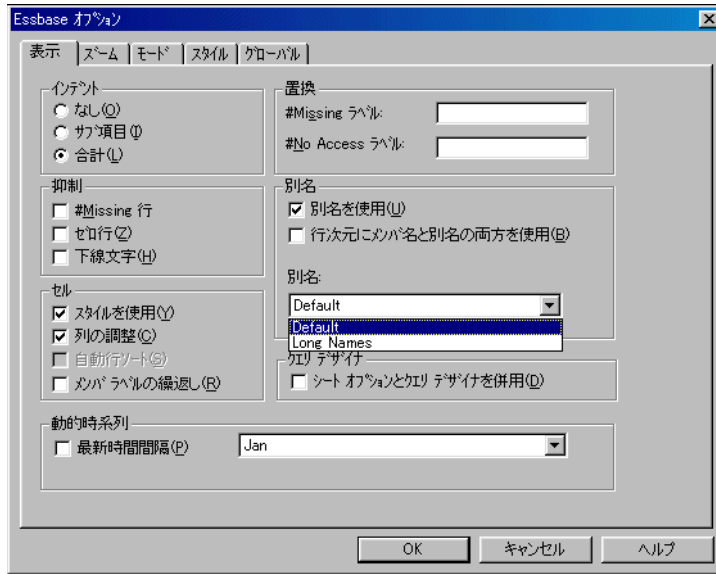


図 2-47: [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [表示] タブを使用した別名の使用可能化

6. [OK] をクリックします。

7. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシートの表示をリフレッシュし、別名を表示します。

製品コード（100 や 200 など）が、あらかじめ定義された別名（"Colas"、"Root Beer"、"Cream Soda" など）で置き換えられます。Sample Basic データベースでは、メンバに別名があらかじめ定義されている次元は "Product" のみです。

	A	B	C	D	E	F	G
1					Measures		
2			Colas	Root Beer	Cream Soda	Fruit Sod	Diet Drinks
3			Scenario	Scenario	Scenario	Scenario	Scenario
4	East	Jan	924	158	184	466	181
5		Feb	888	242	200	513	185
6		Mar	935	162	207	501	189
7		Qtr1	2747	562	591	1480	555
8		Qtr2	3352	610	922	1615	652
9		Qtr3	3740	372	522	1712	644
10		Qtr4	2817	990	592	1537	557
11		Year	12656	2534	2627	6344	2408
12	West	Jan	378	752	755	454	663
13		Feb	337	781	797	479	683
14		Mar	327	792	811	474	679

図 2-48: 別名の表示の結果

前の操作手順で作成して適用したスタイルは、この画面でも有効なままです。

メンバ名と別名の同時表示

Hyperion Essbase では、データベースメンバの別名を表示できるのみでなく、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインの画面に、別名とデータベースメンバ名の両方を同時に表示できます。

- ▶ メンバの名前と別名を表示するには、次の手順に従ってください。
 1. セル B8 でマウスの右ボタンをダブルクリックして、"Qtr2" のドリルアップを行います。
 2. セル C2 の "Colas" をクリックし、[Essbase] > [ピボット] を選択します。
 3. セル C3 の "Year" をクリックし、[Essbase] > [ピボット] を選択します。

4. [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
5. [別名] オプション グループで、[メンバ名と別名の両方を使用] チェック ボックスを選択します。
[別名を使用] がチェックされていることを確認します。
6. [OK] をクリックしてワークシートに戻り、[Essbase] > [取得] を選択します。

行次元の各メンバについて、メンバ名と別名の両方が表示されます。この例では、メンバにあらかじめ別名が設定されている行次元は "Product" のみなので、別名が表示されるのは "Product" 次元のメンバのみになります。"Region" 次元のメンバの場合は別名が表示されるかわりに、各メンバ名が 2 つずつ表示されます。

	A	B	C	D	E	F
1					Year	Measures
2					Scenario	
3	100	Colas	East	East	12656	
4			West	West	3549	
5			South	South	4773	
6			Central	Central	9490	
7			Market	Market	30468	
8	200	Root Beer	East	East	2534	
9			West	West	9727	
10			South	South	6115	
11			Central	Central	9578	
12			Market	Market	27954	
13	300	Cream Soda	East	East	2627	
14			West	West	10731	
15			South	South	2350	

図 2-49: メンバ名と別名の両方を表示した結果

メンバラベルの繰返し表示

Hyperion Essbase のデフォルトでは、ネストされた行および列グループのそれぞれについて、メンバラベルが表示されるのは 1 回のみです。サイズの大きいデータベースに接続して Hyperion Essbase スプレッドシートアドインを使用する場合は、画面に表示しきれないデータ行および列を見るためには、ワークシートのスクロールが必要になります。場合によっては、スクロールによってメンバラベルが画面から消えてしまうこともあります。Hyperion Essbase には、行 / 列の中でデータポイントとして機能しているセルすべてにメンバラベルを繰返し表示するための機能があります。この機能を使用すれば、メンバラベルは常にワークシートビューに表示された状態になります。

- ▶ ワークシートにメンバラベルを繰返し表示するには、次の手順に従ってください。
 1. [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
 2. [別名] オプショングループで、[メンバ名と別名の両方を使用] チェックボックスのチェックマークを外します。

3. [セル] オプション グループで、[メンバラベルの繰返し] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

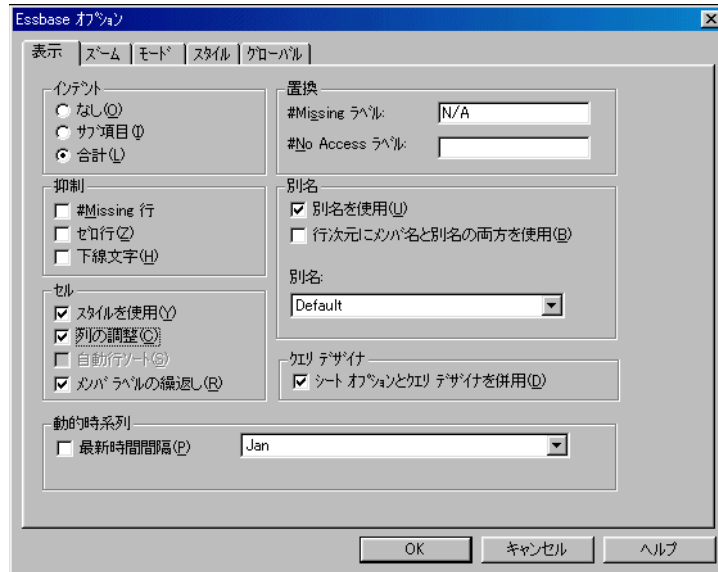


図 2-50: [メンバラベルの繰返し] オプションの使用可能化

4. セル E1 をダブルクリックして、"Year" のドリルダウンを行います。
- 列または行の中でデータポイントとして機能しているすべてのセルにメンバラベルが表示されます。このチュートリアルで使用している Sample Basic データベースの場合、データベースのサイズが比較的小さいためにメンバラベルの繰返し表示は基本的には不要です。メンバラベルの繰返し表示機能は、大きなワークシートをスクロールするときに画面上にメンバラベルが表示されるようにする場合は特に便利です。

	A	B	C	D
1				Measures
2				Scenario
3	Qtr1	Colas	East	2747
4	Qtr1	Colas	West	1042
5	Qtr1	Colas	South	1051
6	Qtr1	Colas	Central	2208
7	Qtr1	Colas	Market	7048
8	Qtr1	Root Beer	East	562
9	Qtr1	Root Beer	West	2325
10	Qtr1	Root Beer	South	1465
11	Qtr1	Root Beer	Central	2369
12	Qtr1	Root Beer	Market	6721
13	Qtr1	Cream Soda	East	591
14	Qtr1	Cream Soda	West	2363
15	Qtr1	Cream Soda	South	561
16	Qtr1	Cream Soda	Central	2414

図 2-51: メンバラベルの繰返しの結果

注意: [Essbase オプション] ダイアログボックスで [メンバラベルの繰返し] チェックボックスのチェックマークを外すのみでは、メンバラベルはワークシートビュー上で繰返し表示されたままです。ラベルの繰返し表示をオフにするには、(1) [メンバラベルの繰返し] チェックボックスのチェックマークを外して新しいワークシートを開く、(2) [メンバラベルの繰返し] チェックボックスのチェックマークを外し、いったん該当の行(列)グループを列(行)グループにピボットした後でもう一度ピボットを行って行(列)グループに戻す、(3) [Essbase] > [復元] を選択して [メンバラベルの繰返し] チェックボックスのチェックマークを外す、という3通りの方法があります。

5. チュートリアルに戻る前に、次の操作を行ってください。
 - a. [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
 - b. [セル] オプショングループで、[メンバラベルの繰返し] チェックボックスのチェックマークを外し、[OK] をクリックします。
 - c. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用したクエリの作成

ここまで説明してきたとおり、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインではデータの取得やシートの操作をきわめて簡単かつ臨機応変に実行できます。さらに Hyperion Essbase には、クエリ デザイナという機能があり、この機能を使用すると次元やデータベース メンバをワークシートに取得するためのデータベース クエリを定義できます。Hyperion Essbase クエリ デザイナ (EQD) は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの旧バージョンでクエリの定義に使用されていたデータ取得ウィザードに代わる新機能です。

Hyperion Essbase を使用して実際にデータを取得する前に、Hyperion Essbase クエリ デザイナの一連のパネルを使用して、ワークシートに表示するデータを指定できます。この機能は、サーバから取得するデータがはっきりしている場合に特に便利です。さらに、クエリを保存しておいて後で再使用することも可能です。

Hyperion Essbase クエリ デザイナのウィンドウ (図 2-52) は、次のパネルで構成されています。

- 操作パネル: Hyperion Essbase クエリ デザイナの各種機能へのアクセスに使用します。特定のクエリで使用されるすべての次元を表示したり、次元の各メンバの各種プロパティにアクセスできます。
- ヒント パネル: 操作パネルで選択した機能の簡単な説明が表示されません。
- プロパティ パネル: 次の機能へのアクセスに使用します。
 - レイアウト: スプレッドシート レポートのレイアウト設計に使用します。デフォルトのレイアウトを変更するには、次元のタイルを選択して選択したタイルを他の次元のボックスの 1 つにドラッグします。[メンバ選択] パネルへのアクセスや、クエリの対象メンバの定義には、次元のタイルをダブルクリックします。
 - メンバ選択: スプレッドシート レポートの行に表示するメンバの選択に使用します。メンバを選択するには、目的のメンバを右クリックして、[選択ルールに追加] を選択します。そのメンバを選択ルールに追加するには、目的のメンバをダブルクリックします。

- メンバフィルタ：属性、世代名、レベル名、パターン文字列、UDA に基づいてメンバ選択をフィルタ処理します。
- データのフィルタ処理：データの行の取得に使用します。この取得は、特定の列の集合における行のランキングに基づいて行われます。[データ制限]パネルは、[データのフィルタ処理]パネルから開きます。
- データ制限：1つの固定データ値、一連のデータ値または #Missing データ値との比較に基づいて行われるデータのフィルタ処理に使用します。
- データのソート：行を昇順または降順でソートするときに使用します。このソートは列のデータ値に基づいて行われます。
- メッセージおよび確認：Hyperion Essbase クエリ デザイナの特定のメッセージのオン/オフを切り替えるときに使用します。
- ヘルプ：Hyperion Essbase クエリ デザイナの説明を表示するときに使用します。

クエリの作成と変更

Hyperion Essbase クエリ デザイナのパネルにアクセスするには、操作パネル上のリストから目的の機能を選択します。

新しくクエリを作成した場合や、既存のクエリを変更した場合は、変更内容が操作パネルに反映されます。開いているクエリの特定の次元またはメンバを表示するには、操作パネルに表示されているクエリ アウトライン上で目的の次元またはメンバをクリックします。画面右側のメンバ選択パネルに、選択したメンバが表示されます。

メンバ選択パネルで選択した既存のクエリを修正できます。たとえばクエリからメンバの削除や、メンバの追加もできます。これには、操作パネルでメンバを選択し、プロパティ パネルで必要な変更を行います。

注意： データ取得ウィザードで作成したファイルは、Hyperion Essbase クエリ デザイナで開くことができます。ただし、選択ルールあたり 3 つ以上のメンバフィルタが設定されたクエリや、3 つ以上のデータ制限が設定されたクエリの場合、メンバフィルタが順序どおりに表示されないことがあります。正しい結果を確実に得るには、必要に応じて操作パネルでメンバフィルタの再整列を行ってください。

Hyperion Essbase クエリ デザイナのオプションの詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

注意： EQD の動作中は、VBA でのワークシート操作（ワークシートの命名や移動）は実行できません。

クエリの作成

- ▶ Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用してクエリを作成するには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [クエリ デザイナ] を選択します。

Hyperion Essbase クエリ デザイナの起動パネルが表示されます。

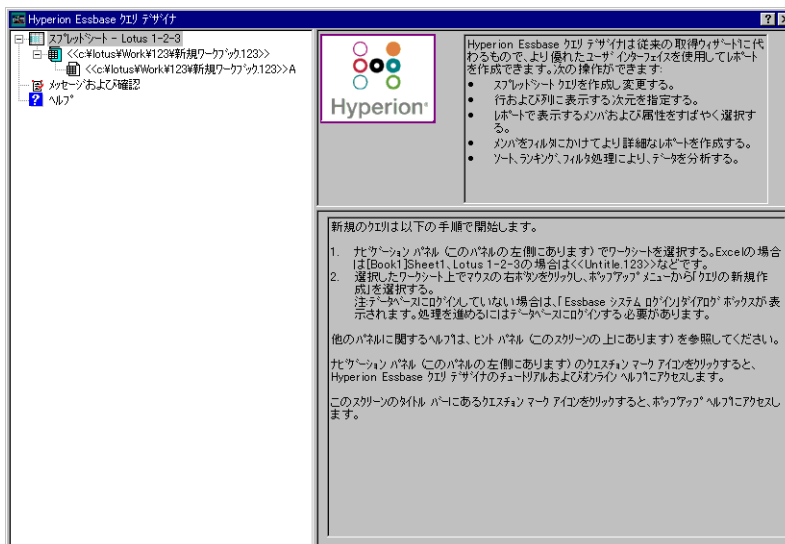


図 2-52: Hyperion Essbase クエリ デザイナの起動パネル

2. 新しいクエリを作成するには、<<c:\lotus\work\123\Untitled.123>>A を選択して右クリックし、[新規作成] > [クエリ] を選択します。

Hyperion Essbase クエリ デザイナのレイアウト パネルが表示されます。

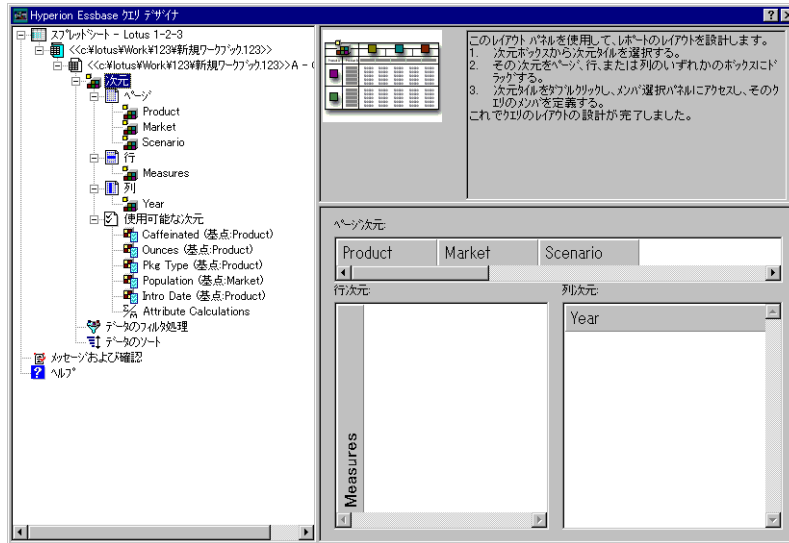


図 2-53: Hyperion Essbase クエリ デザイナのレイアウト パネル

3. 次元タイルを次のとおりにドラッグして、ワークシート レイアウト を定義します。
- a. "Market" および "Product" を [行] の位置にドラッグします。
 - b. "Measures" を [ページ] の位置にドラッグします。

- c. "Scenario" を "Year" の下 ([列] の位置) にドラッグします。

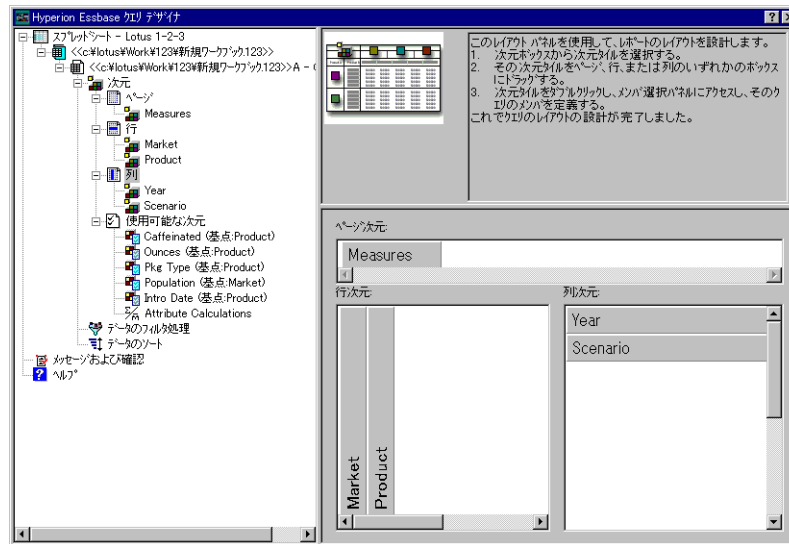


図 2-54: ワークシート レイアウトの変更

4. 操作パネルで、"Measures" のアイコンをクリックして "Measures" 次元を選択します。またはレイアウト パネルで "Measures" のタイトルをダブルクリックします。

メンバ選択パネルが表示されます。メンバ選択パネルでは、"Measures" 次元のメンバを選択できます。

注意: [ページ] の位置でこの次元から選択できるメンバの数は 1 つのみです。

5. "Profit" を選択して右クリックし、[選択ルールに追加] を選択します。または "Profit" をダブルクリックします。これにより、"Profit" が選択ルールに追加されます。

選択ルールのリストに "Profit" が表示されます。



図 2-55: Hyperion Essbase クエリ デザイナーのメンバ選択パネル

注意: Hyperion Essbase クエリ デザイナーでは、選択を行った後の確認作業 ([OK] のクリックなど) は不要です。メンバを選択しなかった次元の場合、その次元の最上位のメンバが使用されます。

6. 次の操作を行って、"Year" 次元のメンバを選択します。
- a. 操作パネルで、"Year" のアイコンをクリックします。またはレイアウト パネルで "Year" のタイルをダブルクリックします。
"Year" 次元に対応するメンバ選択パネルが表示されます。
 - b. "Qtr1" を選択して右クリックし、表示されるメニューから [選択ルールに追加] を選択します。

- c. 同様の方法で、選択ルールに "Qtr2"、"Qtr3"、"Qtr4" を追加します。"Year" は "Column" の位置にあるので、1 つ以上のメンバを選択できます。

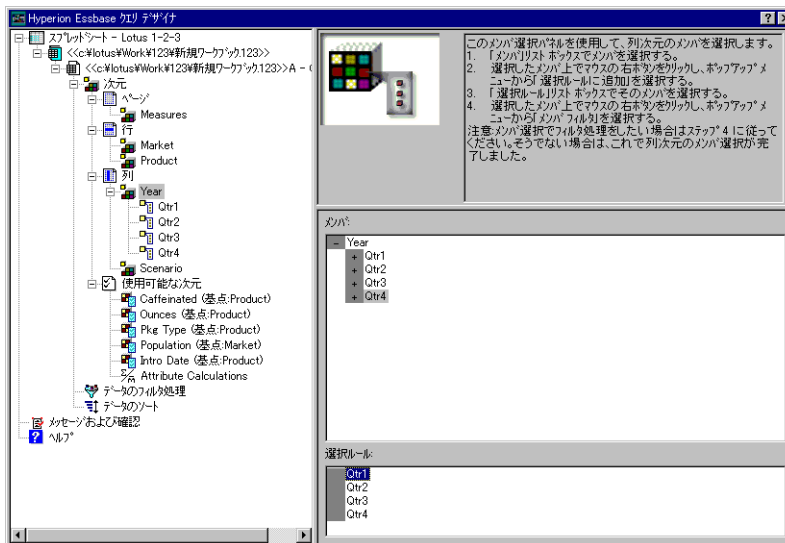


図 2-56: 選択ルールへのメンバの追加

7. 次の操作を行って、"Scenario" 次元のメンバを選択します。
- a. 操作パネルで "Scenario" をクリックします。またはレイアウトパネルで "Scenario" のタイトルをダブルクリックします。
メンバ選択パネルに "Scenario" 次元のメンバが表示されます。
 - b. "Actual" を選択して右クリックし、表示されるメニューから [選択ルールに追加] を選択します。
[選択ルール] ボックスに "Actual" が追加されます。
 - c. 同様の方法で、[選択ルール] ボックスに "Budget" を追加します。

8. 次の操作を行って、"Product" 次元のメンバを選択します。
 - a. 操作パネルで "Product" をクリックします。またはレイアウトパネルで "Product" のタイルをダブルクリックします。

メンバ選択パネルに "Product" 次元のメンバが表示されます。
 - b. 製品コード 100 を選択して右クリックし、表示されるメニューから [選択ルールに追加] を選択します。
 - c. 同様の処理を製品コード 200、300、400 について繰り返します。
 - d. [選択ルール] リスト ボックスで製品コード 100 を選択して右クリックし、表示されるポップアップメニューから [選択] > [子] を選択します。

"100" の子がすべて選択されます。[選択ルール] リスト ボックスの "100" の横に "All Children" が表示されます。
 - e. [選択ルール] リスト ボックスで製品コード 400 を選択して右クリックし、表示されるメニューから [選択] > [子孫] を選択します。

[選択ルール] リストボックスの "400" の横に "All Descendants" が表示されます。

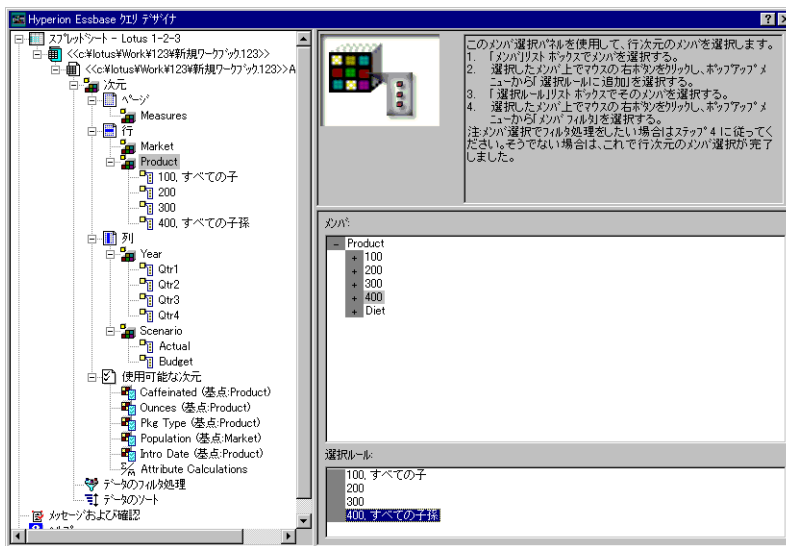


図 2-57: "Product" のメンバの選択

- f. ワークシートに取得するすべての製品コードのリストを表示します。[選択ルール] リスト ボックスの項目のいずれか (たとえば "200") を選択して右クリックし、表示されるメニューから [プレビュー] を選択してください。

[**メンバ選択のプレビュー**] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 2-58: "Product" 次元のメンバの選択結果

- g. [閉じる] をクリックして、[**メンバ選択のプレビュー**] ダイアログ ボックスを閉じます。
9. 次の操作を行って、"Market" 次元のメンバを選択します。
- a. 操作パネルで "Market" をクリックします。またはレイアウト パネルで "Market" のタイルをダブルクリックします。
メンバ選択パネルに "Market" 次元のメンバが表示されます。
 - b. [メンバ] リスト ボックスで "East" を選択して右クリックし、[表示基準] > [世代] を選択します。

- c. "Market" 次元の第 2 世代を選択するには、[メンバ]リストボックスで "Region" を選択して右クリックし、表示されるメニューから [選択ルールに追加] を選択します。または "Region" をダブルクリックします。これにより、"Region" が選択ルールに追加されます。

[選択ルール] リストボックスに "Region" が表示されます。

- d. ワークシートに取得されるメンバのリストを表示するには、[選択ルール] リストボックスで "Region" を選択して右クリックし、表示されるメニューから [プレビュー] を選択します。

[メンバ選択のプレビュー] ダイアログボックスに、"East"、"West"、"South"、"Central" が表示されます。



図 2-59: 世代名の選択

- e. [閉じる] をクリックして、[メンバ選択のプレビュー] ダイアログボックスを閉じます。

これで基本的な Hyperion Essbase クエリを定義できました。操作パネルに、クエリのアウトラインが表示されます。

10. 操作パネルで、<<c:¥lotus¥Work¥123¥Untitled.123>>A - Query1 を選択して右クリックし、[クエリの保存] を選択します。

[Hyperion Essbase クエリ デザイナ クエリとして保存] ダイアログボックスが表示されます。作成したクエリは、サーバまたは自分のクライアントマシンに保存できます。サーバへの保存には、データベース デザイナ以上のセキュリティレベルが必要です。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

11. [クライアント] を選択します。



図 2-60: [Hyperion Essbase クエリ デザイナ クエリとして保存] ダイアログボックス

12. [**ファイルシステム**] ボタンをクリックします。
 [**別名保存**] ダイアログ ボックスが表示されます。

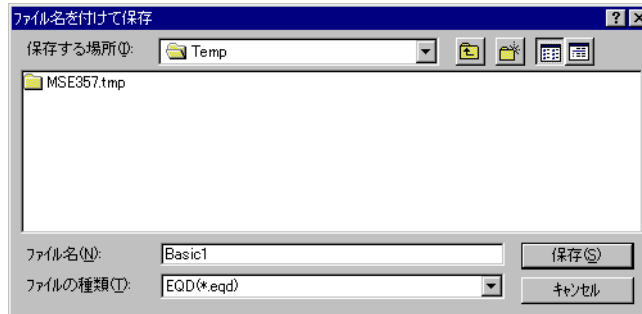


図 2-61: [別名保存] ダイアログ ボックス

13. 位置を選択して、[**ファイル名**] テキスト ボックスに **Basic1** と入力し、[**保存**] をクリックします。

Basic1 クエリは第 3 章でも使用します。

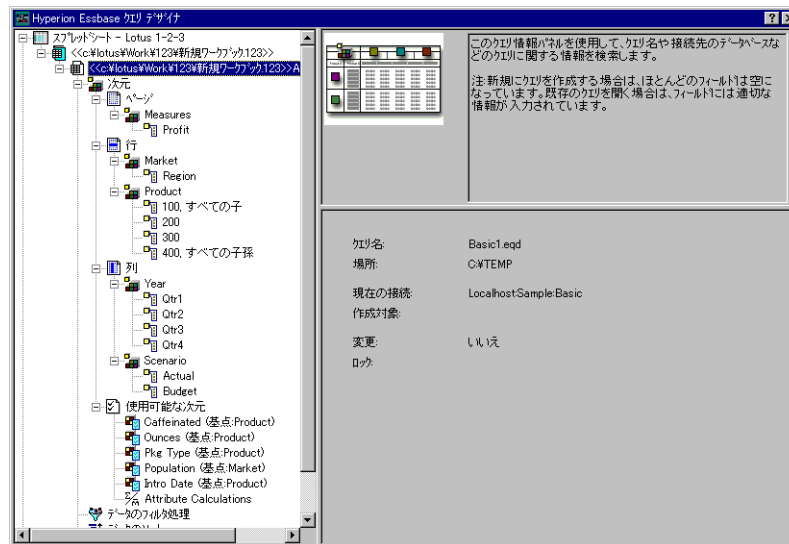


図 2-62: Hyperion Essbase クエリ デザイナのクエリ情報パネル

14. 操作パネルで <<c:\lotus\work\123\untitled.123>>

A - Basic1 を選択して右クリックし、[クエリを適用] を選択します。

クエリの結果がワークシートに表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1						Profit				
2			Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4	
3			Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
4	East	Cola	2461	2550	2940	3050	3298	3440	2430	2410
5		Diet Cola	212	220	303	300	312	310	287	290
6		Caffeine Free Cola	74	110	109	130	130	190	100	150
7		Root Beer	562	960	610	1070	372	830	990	1500
8		Cream Soda	591	770	922	1010	522	660	592	530
9		Grape	645	840	676	860	710	920	618	800
10		Orange	290	350	327	380	377	420	394	440
11		Strawberry	545	700	612	750	625	780	525	670
12	West	Cola	1047	1720	1189	1900	1339	2120	1018	1780
13		Diet Cola	-67	320	-177	200	-154	250	-136	320
14		Caffeine Free Cola	62	310	-163	30	-286	-130	-123	70
15		Root Beer	2325	2570	2423	2720	2540	2820	2439	2840
16		Cream Soda	2363	2620	2739	2970	2937	3230	2692	2850
17		Grape	1143	920	1167	960	1271	1020	1219	920
18		Orange	1002	810	1120	890	1192	1000	940	680
19		Strawberry	-738	-310	-783	-380	-900	-440	-779	-400
20	South	Cola	745	1160	835	1280	1031	1490	965	1510
21		Diet Cola	306	570	363	660	281	570	247	550

図 2-63: Hyperion Essbase クエリ デザイナのクエリの結果

注意: [Essbase] > [オプション] の選択によって表示される [表示] ページで [スタイルを使用] と [シートオプションとクエリ デザイナを併用] の両方が選択されていると、最初のクエリの結果には次元メンバに対して定義したスタイルが適用されます。[シートオプションとクエリ デザイナを併用] が選択されていない場合は [スタイルを使用] が選択されていても、最初のクエリの結果にはスタイルは適用されません。スタイルを適用するには、[Essbase] > [取得] を選択してください。Hyperion Essbase からワークシートにデータが戻されたらズーム、メンバの保持、メンバの削除、ピボットなどを実行することによって、データをさらに詳細に調べることができます。

クエリの削除

クエリの削除は、そのクエリを保存した場所以外からは実行できません。たとえばあるクエリを \essbase\client\sample ディレクトリに保存した場合、クエリは sample ディレクトリからのみ削除できます。Hyperion Essbase クエリ デザイナの内部からクエリを削除することはできません。

メッセージおよび確認の表示

Hyperion Essbase クエリ デザイナでは、特定の操作（移動や削除など）についてのメッセージや確認が、[メッセージおよび確認] パネルに表示されます。

- ▶ メッセージおよび確認のオン / オフを切り替えるには、次の手順に従ってください。
 1. 操作パネルで [メッセージおよび確認] アイコンを選択します。
 2. メッセージをオン（使用可能）にするには、そのメッセージの横に表示されているチェック ボックスを選択します。
 3. メッセージをオフ（使用不可）にするには、メッセージの横のチェック ボックスをもう一度選択します（これにより、チェック ボックスからチェック マークが消えます）。



図 2-64: [メッセージおよび確認] パネル

ヘルプへのアクセス

Hyperion Essbase クエリ デザイナのオンライン ヘルプやチュートリアルへアクセスするには、ヘルプ パネルを使用します。ヘルプ パネルへアクセスするには、操作パネルで [ヘルプ] を選択します。特定のトピックの詳細を知りたいときは、プロパティ パネルで [オンライン ヘルプ] ボタンをクリックします。オンライン チュートリアルにアクセスするには、プロパティ パネルで [チュートリアル] ボタンをクリックします。

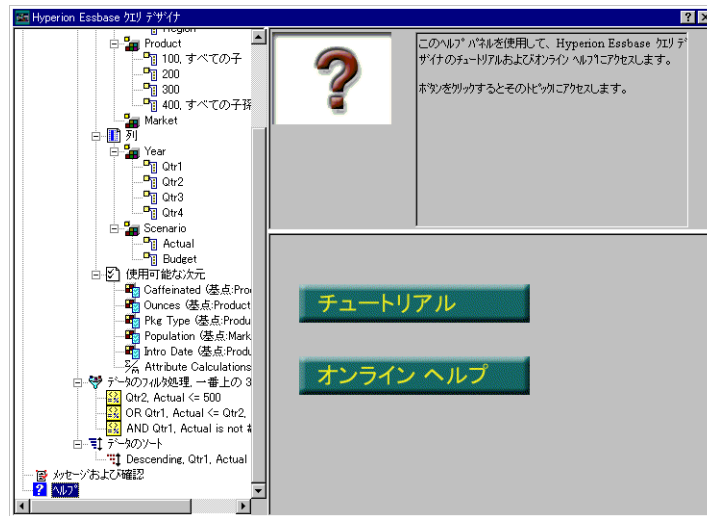


図 2-65: Hyperion Essbase クエリ デザイナのヘルプ パネル

Hyperion Essbase クエリ デザイナから複数のデータベースへの接続

Hyperion Essbase クエリ デザイナでは、複数のデータベースに接続して、データベースごとに別のクエリを作成できます。

- ▶ Hyperion Essbase クエリ デザイナから複数のデータベースに接続するには、次の手順に従ってください。

1. Hyperion Essbase にログオンし、アクセスするサーバに接続します。

2. [Essbase] > [クエリ デザイナ] を選択して、Hyperion Essbase クエリ デザイナを開きます。
3. <<c:\lotus\work\123\Untitled.123>>A を選択して右クリックし、表示されるメニューから [接続] を選択します。
[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 自分のパスワードを入力して [OK] をクリックします。[Sample Basic] を選択して [OK] をクリックします。
5. <<c:\lotus\work\123\Untitled.123>>A を選択して右クリックし、表示されるメニューから [新規作成 > ワークシート] を選択します。
6. 新規のワークシート、つまり <<c:\lotus\work\123\Untitled.123>>B を選択して右クリックし、表示されるメニューから [接続] を選択します。
[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. 自分のパスワードを入力して、[OK] をクリックします。[Samppart Company] を選択して、[OK] をクリックします。

注意： 1 つのワークシートに接続できる数は 1 つのみになります。
接続情報は、既存のクエリを開くか新しいクエリを作成したときのみ、Hyperion Essbase クエリ デザイナのクエリ情報パネルに表示されます。

8. Sample Basic に基づく新しいクエリを作成するには、<<c:\lotus\work\123\Untitled.123>>A を選択して右クリックし、[新規作成] > [クエリ] を選択します。
9. Samppart Company に基づく新しいクエリを作成するには、<<c:\lotus\work\123\Untitled.123>>B を選択して右クリックし、[新規作成] > [クエリ] を選択します。
10. 既存のクエリを開くには、右クリックして表示されるメニューから [クエリを開く] を選択します。

今まで説明してきた手順に従うと、新しいクエリを作成したり既存のクエリを開いたりできます。

Hyperion Essbase クエリ デザイナの実行結果に対するワークシート オプションの適用

Hyperion Essbase クエリ デザイナで作成したクエリの実行結果に対して、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスで前に設定した任意のワークシート オプションも適用できます。

- ▶ 前に設定したワークシート オプションをHyperion Essbaseクエリ デザイナで使用可能にするには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [オプション] を選択します。
2. [Essbase **オプション**] ダイアログ ボックスで、[**表示**] タブを選択します。
3. [シート オプションとクエリ デザイナを併用] チェック ボックスを選択し、[OK] を選択します。
4. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシートをリフレッシュします。

Hyperion Essbase クエリ デザイナで作成したクエリの結果が表示され、前に設定したワークシート オプションが適用されます。たとえば "Product" 次元の各メンバについて、製品コードのかわりに別名が表示されるようになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1						Profit				
2			Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4	
3			Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
4	East	Cola	2461	2550	2940	3050	3298	3440	2430	2410
5		Grape	645	840	676	860	710	920	618	800
6		Cream Soda	591	770	922	1010	522	660	592	530
7		Root Beer	562	960	610	1070	372	830	990	1500
8		Strawberry	545	700	612	750	625	780	525	670
9		Orange	290	350	327	380	377	420	394	440
10		Diet Cola	212	220	303	300	312	310	287	290
11		Caffeine Free Cola	74	110	109	130	130	190	100	150
12	West	Cream Soda	2363	2620	2739	2970	2937	3230	2692	2850
13		Root Beer	2325	2570	2423	2720	2540	2820	2439	2840
14		Grape	1143	920	1167	960	1271	1020	1219	920
15		Cola	1047	1720	1189	1900	1339	2120	1018	1780
16		Orange	1002	810	1120	890	1192	1000	940	680
17		Caffeine Free Cola	62	310	-163	30	-266	-130	-123	70
18		Diet Cola	-67	320	-177	200	-154	250	-136	320
19		Strawberry	-738	-310	-783	-380	-900	-440	-779	-400
20	South	Root Beer	1465	1640	1540	1700	1612	1710	1498	1330

図 2-66: クエリの結果 (オプションの適用あり)


5. [ファイル]>[閉じる]を選択してワークシートを閉じます。ワークシートの保存は不要です。

メンバの選択

Hyperion Essbase データベースには、数百または数千ものメンバを格納できます。そのため個々のメンバ名を覚えておくことは困難です。[Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスを使用すると、メンバを検索および選択して、ワークシート内でのメンバのレイアウトを定義できます。さらに論理型の演算子 (AND、OR、NOT など) またはその他の検索パラメータを使用して、メンバ選択のための基準と条件を指定できます。メンバ選択は、特定のデータを取得してスプレッドシート レポートを作成するための重要な手法の 1 つです。

注意: [Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスの詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

- ▶ "Product" 次元の特定のメンバを表示するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。

注意: この作業は、Sample Basic データベースに接続した状態で実行してください。接続していない場合は、[2-18 ページの「データベースへの接続」](#)の説明に従って接続してください。

2. [Essbase]>[取得]を選択します。
3. "Product" を選択し、[Essbase]>[ピボット]を選択して、"Product" を列次元ではなく行次元として表示します。

A	B	C	D	E	F
1		Measures	Market	Scenario	
2	Product	Year	105522		
3					
4					
5					

図 2-67: メンバ選択の初期ワークシート表示

4. もう一度 "Product" を選択し、[Essbase] > [メンバの選択] を選択します。

[Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

[Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスでは、[次元] リストボックスに "Product" 次元が表示され、[メンバ] リストボックスに "Product" 次元の子である "Colas"、"Root Beer"、"Cream Soda"、"Fruit Soda"、"Diet Drinks" が表示されています。

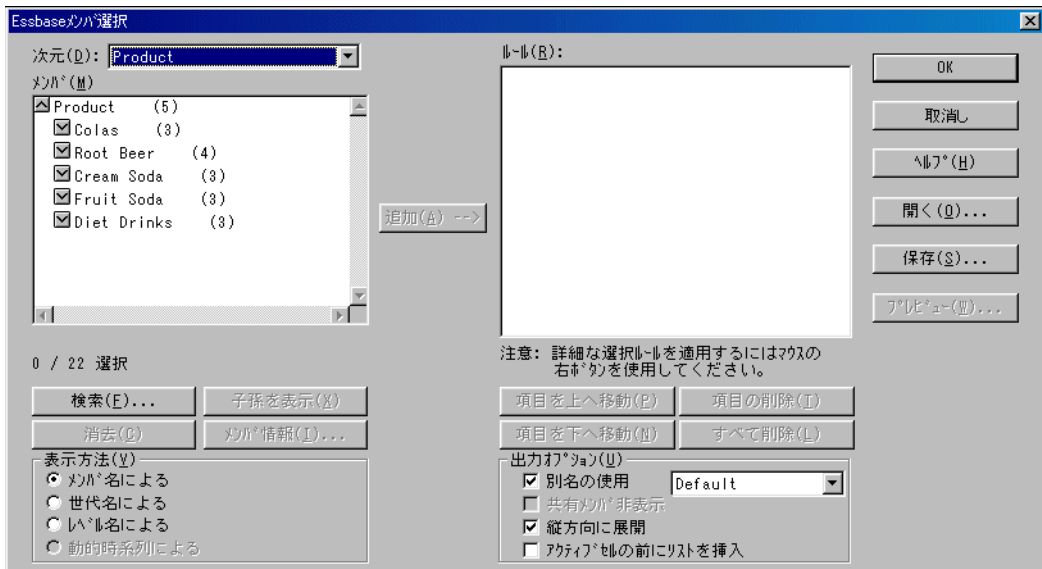


図 2-68: [Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックス

5. "Colas" を選択し、[**メンバ情報**] ボタンをクリックします。

[**メンバ情報**] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、選択されたメンバについての情報（次元、世代、レベル、ストレージ設定、式、UDA、メンバコメント）が表示されま

す。



図 2-69: [**メンバ情報**] ダイアログ ボックス

6. [OK] をクリックして [**メンバ情報**] ダイアログ ボックスを閉じます。
7. [**Essbase メンバの選択**] ダイアログ ボックスで [**追加**] をクリックします。[**ルール**] リスト ボックスに "Colas" が追加されます。

注意: 項目を追加するには、[**メンバ**] リスト ボックスで追加する項目をダブルクリックする方法もあります。

8. "Cream Soda" を選択して、[検索] ボタンをクリックします。

[メンバの検索] ダイアログ ボックスが表示されます。

[メンバの検索] ダイアログ ボックスでは、選択した次元のメンバに対してパターン照合検索を実行できます。使用できるワイルドカードパターンは検索文字列末尾のアスタリスク (*) と、任意の 1 文字を意味する ? 文字です。指定した検索文字列に一致するメンバが検索 (アルファベット順) されます。検出されたメンバは選択状態になるので、グループとして選択できます。

注意: 検索文字列には、文字列末尾のアスタリスクおよび任意の文字を意味する ? という 2 つのワイルドカード文字を使用できます。* ワイルドカード文字は任意の文字列を意味し、? ワイルドカード文字は任意の 1 文字を意味します。ワイルドカードを使った検索文字列の正しい指定例には、たとえば J?n、100* があります。*-10 および J*n は、誤った指定例です。

9. [メンバの検索] ダイアログ ボックスのテキスト ボックスで、D* と入力します。

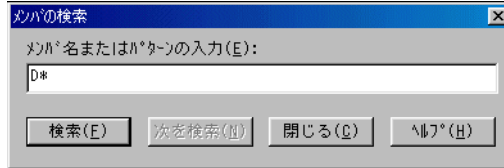


図 2-70: [メンバの検索] ダイアログ ボックス

10. [検索] をクリックして、D* に一致するすべてのメンバを検索します。

Hyperion Essbase により "Diet Cream" が検索、選択されます。このとき "Diet Cream" の親である "Cream Soda" も選択されますが、これは検索前に強調表示になっていたためです。

11. [閉じる] をクリックして [メンバの検索] ダイアログ ボックスを閉じます。

12. "Cream Soda" の選択を解除し、"Diet Cream" のみが選択された状態で [追加] をクリックします。[ルール] リスト ボックスに、"Colas" と、新しく選択した "Diet Cream" が表示されます。
13. [Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスで、[ルール] リスト ボックスから "Colas" を選択して右クリックします。表示されるポップアップ メニューから [すべての子およびメンバ] を選択します。
[選択ルール] リスト ボックスの "Colas" の横に、[すべての子およびメンバ] が表示されます。
14. [選択ルール] リスト ボックスで "Colas" と [すべての子およびメンバ] を選択し、もう一度右クリックします。
15. 表示されるポップアップ メニューから [サブセット] を選択します。
[サブセット] ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスでは、選択したメンバに対してさらに詳しく条件を定義できます。

注意: [サブセット] ダイアログ ボックスでは、最大で 50 の条件を定義できます。
16. [サブセット] ダイアログ ボックスの 1 番目のリスト ボックスで Caffeinated を選択します。続いて、2 番目のリスト ボックスで [Is] を選択します。さらに、3 番目のリスト ボックスで Caffeinated_True を選択します。
17. [AND 条件として追加] ボタンをクリックします。
[条件] リスト ボックスに Caffeinated = Caffeinated_True が表示されま
す。

[AND 条件として追加] を使用する場合、[条件] リストボックスでのサブセット条件は、AND ロジックを使用して判定されます。AND ロジックの場合、現在の条件および (AND) [条件] リストボックスで指定した第 2 の条件の両方を満たすメンバのみが選択されます。

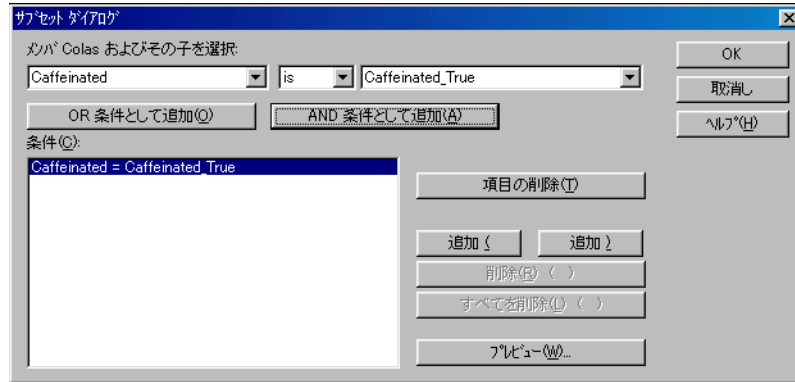


図 2-71: [サブセット] ダイアログ ボックス (条件追加前)

18. 1 番目のリスト ボックスで Ounces を選択します。2 番目のリスト ボックスで論理演算子 "=" を選択します。3 番目のリスト ボックスでは Ounces_12 を選択します。
19. [AND 条件として追加] ボタンをクリックします。
[条件] ボックスに Ounces = Ounces_12 と表示されます。
20. 1 番目のリスト ボックスで Ounces を選択します。2 番目のリスト ボックスで論理演算子 "<=" を選択します。3 番目のリスト ボックスでは Ounces_32 を選択します。
21. [OR 条件として追加] ボタンをクリックします。
[条件] ボックスに Ounces <= Ounces_32 と表示されます。

[OR 条件として追加] を使用する場合、[条件] リストボックスでのサブセット条件は OR ロジックを使用して判定されます。OR ロジックの場合、現在の条件または (OR) [条件] リストボックスで指定した第 2 の条件のどちらかを満たすメンバが選択されます。

22. 1 番目のリスト ボックスで Pkg Type を選択します。2 番目のリスト ボックスで [Is] を選択します。3 番目のリスト ボックスで Bottle を選択します。
 23. [AND 条件として追加] ボタンをクリックします。
[条件] リスト ボックスに Pkg Type = Bottle と表示されます。
 24. [条件] ボックスで Ounces <= Ounces_32 を選択し、続いて [追加 (] ボタンをクリックします。
 25. Pkg Type = Bottle を選択し、[追加)] ボタンをクリックします。
[追加 (] ボタンは選択した項目への左カッコの追加、[追加)] ボタンは右カッコの追加に使用します。カッコを使用すると複数のサブセット条件をグループにまとめて、条件の分析優先順位を指定できます。[条件] リスト ボックスの各項目は、左カッコまたは右カッコのどちらかを持てますが、両方を持てません。例ではまず 32 オンス以下でビン売りのメンバが判定されます。続いて、12 オンスのメンバに対する条件の適用結果が判定されます。
- 注意:** [条件] リスト ボックスで選択されている項目からカッコの組を個別に削除するには、[削除 ()] ボタンを使用します。[条件] リスト ボックスからカッコの組をすべて削除するには、[すべてを削除 ()] ボタンを使用します。

[サブセット] ダイアログ ボックスの表示は次のとおりになります。

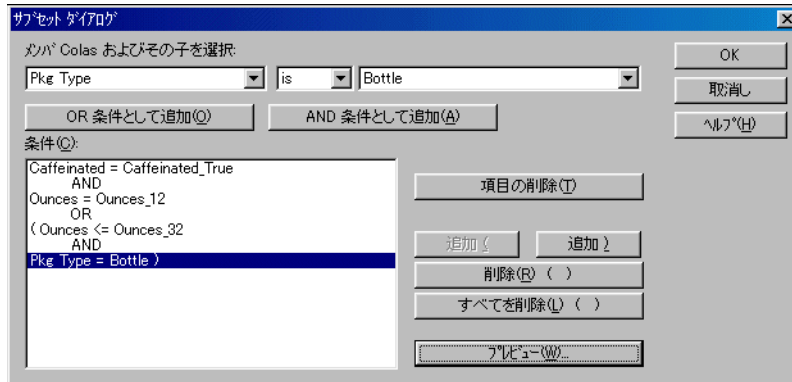


図 2-72: [サブセット] ダイアログ ボックス (条件追加後)

26. [プレビュー] をクリックして、[メンバのプレビュー] ダイアログ ボックスを開きます。

[メンバのプレビュー] ダイアログ ボックスには、定義した条件に従って選択されたメンバが表示されます。



図 2-73: サブセット条件に基づくメンバ選択の結果

27. [閉じる] をクリックして、[メンバのプレビュー] ダイアログ ボックスを閉じます。
28. [OK] をクリックします。[サブセット] ダイアログ ボックスが閉じ、[Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスに戻ります。
- [選択ルール] リスト ボックスには、[サブセット] ダイアログ ボックスで設定した条件が表示されています。
29. Diet Cream を選択して [項目を上へ移動] ボタンをクリックし、ワークシート上での Diet Cream の表示順序を変更します。
- [項目を上へ移動] または [項目を下へ移動] ボタンをクリックするたびに、[選択ルール] リスト ボックス内で、選択した項目とその関連サブセット条件が 1 つずつ上または下の位置に移動します。移動できるのは、最上位レベルの項目 ([メンバ] リスト ボックスから追加した項目) のみです。個々のサブセット条件を移動することはできません。

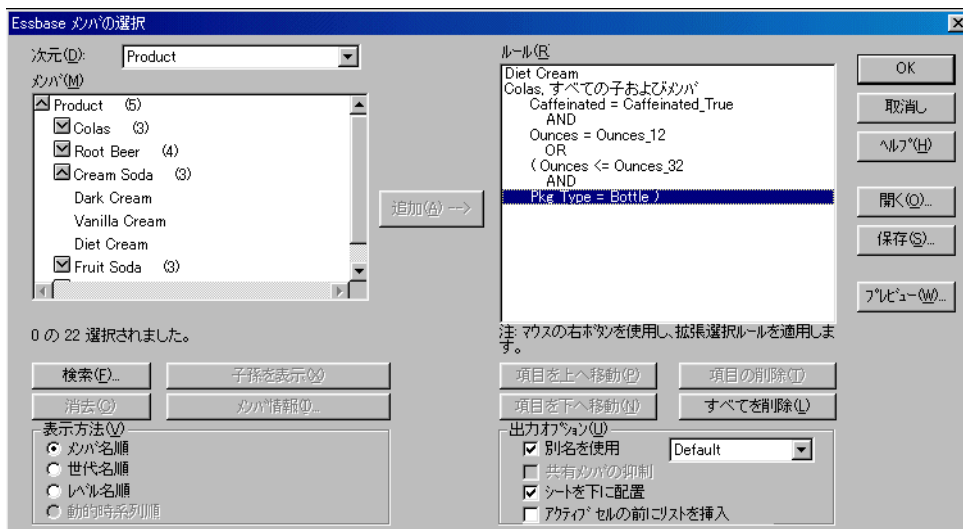


図 2-74: メンバ選択の完了

30. [**プレビュー**] をクリックして、ワークシートに取得されるメンバをプレビューします。
 [**メンバのプレビュー**] ダイアログ ボックスが表示されます。
31. リストのプレビューが終わったら、[**閉じる**] をクリックします。



図 2-75: ワークシートに取得するメンバ

32. [**OK**] をクリックします。[**Essbase メンバの選択**] ダイアログ ボックスが閉じ、ワークシートに新しいメンバが挿入されます。

	A	B	C	D	E
1			Measures	Market	Scenario
2	Diet Cream	Year	105522		
3	Cola				
4	Diet Cola				
5	Caffeine Free Cola				

図 2-76: メンバ選択の結果

注意: [**復元**] コマンドでは、メンバ選択操作を元に戻すことはできません。

33. Diet Cream 以降の各製品について、製品名の横に **Year** と入力します。

このステップは、レポート内ですべての製品が一致する "Year" 次元を持つために必要です。

	A	B	C	D	E
1			Measures	Market	Scenario
2	Diet Cream	Year	105522		
3	Cola	Year			
4	Diet Cola	Year			
5	Caffeine Free Cola	Year			

図 2-77: すべての製品に "Year" 次元を追加した後のワークシート

34. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシート内の値を更新します。

選択したメンバのデータが取得され、以前に設定したスタイルが適用されます。

	A	B	C	D	E
1			Measures	Market	Scenario
2	Diet Cream	Year	11093		
3	Cola	Year	22777		
4	Diet Cola	Year	5708		
5	Caffeine Free Cola	Year	1983		

図 2-78: メンバ選択を使ったデータ取得の結果

保存と切断

基本的なデータ取得、操作、フォーマット設定作業が終了したら、ワークシートを保存して Hyperion Essbase から切断できます。ここからは、次の作業について説明します。

- 2-101 ページ「ワークシートの保存」
- 2-101 ページ「Hyperion Essbase からの切断」
- 2-103 ページ「ログ オフ」

ワークシートの保存

Hyperion Essbase セッションの任意の時点で、Lotus 1-2-3 コマンドの [ファイル] > [保存] または [ファイル] > [別名保存] を使用して、アクティブなワークシートを保存できます。個々のユーザがデータベースビューの個人ライブラリを保持できます。保存したワークシートを将来のセッションで開いて最新のデータ値を取得すれば、そのワークシートビューを更新できます。

注意: ワークシートの保存を行うと、[Essbase オプション] ダイアログボックスでの設定内容も保存されます。ただし、そのワークシートが保護されている場合を除きます。保護されているワークシートに対して定義したオプション設定は保存できません。

Hyperion Essbase からの切断

データの取得および操作が終わったら、Hyperion Essbase サーバから切断し、これまで使用していたサーバ上のポート（ユーザアカウント）を解放して Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの他のユーザがポートを使用できるようにします。

- ▶ サーバから切断するには、次の手順に従ってください。
 1. [Essbase] > [切断] を選択します。

[Essbase の切断] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、データベースに接続されているワークシートを切断できます。



図 2-79: Hyperion Essbase の [切断] ダイアログ ボックス

2. リストからワークシート名を選択して、[切断] をクリックします。
3. アクティブなシートがすべて切断されるまで、ステップ 2 を繰り返します。
4. [閉じる] をクリックして、「Essbase の切断」ダイアログ ボックスを閉じます。

注意: 単に Lotus 1-2-3 を閉じるのみでも、サーバから切断できます。電源切断やシステム障害などによる Lotus 1-2-3 セッションの異常終了では、サーバとの接続は切断されません。

ログ オフ

Hyperion Essbase には、ユーザの接続を制御するための 2 つの管理機能があります。

- 強制ログアウト : 管理者は随時ユーザの接続を切断できます。一般に、強制ログオフはデータベースの保守を行うときに使用されます。
- 自動ログアウト : 管理者が指定した期間にアクティブでなかったユーザは、Hyperion Essbase によって自動的に切断されます。

詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

応用チュートリアル

Hyperion Essbase の基本チュートリアルはこれで終わりです。今までの学習で、より複雑な作業に移るための準備が整いました。次の章ではサンプル Lotus 1-2-3 ファイルを使用して、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインの各種応用操作の実行方法を学びます。

3

Hyperion Essbase の応用 チュートリアル

第 2 章の基本チュートリアルでは、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインにおけるデータの取得とシート操作の基本を学習しました。この章では、第 2 章で学んだ基本知識に基づいて、Hyperion Essbase および Hyperion Essbase スプレッドシートアドインについてさらに詳しく学習します。

この章は次の項で構成されています。

- 3-2 ページ「チュートリアルに入る前に」
- 3-9 ページ「高度なデータ取得処理の実行」
- 3-64 ページ「リンク レポート オブジェクトの使用方法」
- 3-84 ページ「複数のデータベースへの接続」
- 3-86 ページ「リンク パーティションへのアクセス」
- 3-90 ページ「サーバ上のデータの更新」
- 3-94 ページ「データベースの計算」
- 3-96 ページ「データからの複数のワークシートの作成」
- 3-102 ページ「通貨換算処理」

この応用チュートリアルでは、Lotus 1-2-3 のサンプル ファイルをいくつか使用します。Hyperion Essbase をデフォルト インストールした場合は、これらサンプル ファイルも一緒にインストールされています。サンプル ファイルの保管場所は、`¥essbase¥client¥sample` ディレクトリです。このチュートリアルでも Sample Basic データベースに接続します。

チュートリアルに入る前に

応用チュートリアルに入る前に、この後の 2 つの項、3-2 ページの「データベースへの接続」および 3-5 ページの「Hyperion Essbase のオプションの設定」で説明する作業を実行してください。また、2-15 ページの「基本チュートリアルの注意事項」および 2-16 ページの「Sample Basic データベースについて」では、チュートリアルの実行に関する重要な注意事項を説明しています。チュートリアルに入る前に必ず読んでください。

データベースへの接続

この応用チュートリアルで使用する Hyperion Essbase データにアクセスするには、まずサーバ上の Sample Basic データベースに接続することが必要です。このチュートリアルではサーバ、アプリケーション、データベースへの接続に必要なアクセス権を持っていることを前提としています。

1. [Essbase] > [接続] を選択します。

[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。

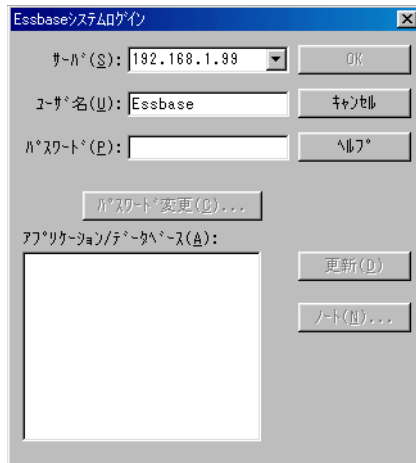


図 3-1: [Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックス

注意： 次の手順を実行するには Hyperion Essbase サーバの名前と、自分のユーザ名およびパスワードを知っていることが必要です。不明な場合は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

2. [サーバ] リスト ボックスから、アクセスするサーバを選択します。(アクセスするサーバの名前がリストにない場合は、サーバ名を直接入力してください。)
3. [Tab] を押して [ユーザ名] テキスト ボックスに移動し、ユーザ名を入力します。
4. [Tab] を押して [パスワード] テキスト ボックスに移動し、パスワードを入力します。

注意： パスワードはサーバへの接続時に変更できます。2-20 ページの「パスワードの変更」を参照してください。

5. [OK] をクリックしてサーバに接続します。

リストボックスに、使用できるアプリケーションとデータベースの組合せが表示されます。Hyperion Essbase サーバでは、同時に複数のアプリケーションにアクセスできます。各アプリケーションは複数のデータベースを持てます。リストには、セキュリティ アクセス権を持つデータベースのみが表示されます。

このチュートリアルでは Sample Basic データベースを使用します。Hyperion Essbase のインストール時に Sample Basic データベースがインストールされていれば、リストに Sample Basic が表示されています。[アプリケーション / データベース] リストに Sample Basic が表示されていない場合は、Hyperion Essbase のシステム管理者にインストールを依頼してください。



図 3-2: 使用可能なアプリケーションとデータベースのペア

6. [アプリケーション / データベース] リストの Sample Basic をダブルクリックするか、[アプリケーション / データベース] リストから Sample Basic を選択して [OK] をクリックします。

選択したアプリケーションがまだ起動されていない場合は、Hyperion Essbase によって自動的に起動されます。その場合、アプリケーションのロードに多少時間がかかることがあります。アプリケーションの起動に要する時間は、アプリケーションが持つデータベースの数、データベースのサイズ、データベース インデックスのサイズによって異なります。

Hyperion Essbase のオプションの設定

チュートリアルに入る前に、ワークシート オプションが図 3-3 ~ 図 3-6 に示す初期設定になっていることを確認してください。

注意： [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの各オプションについては、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

1. [Essbase] > [オプション] を選択します。
2. [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [表示] タブを選択します。
3. 実際の画面が図 3-3 と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

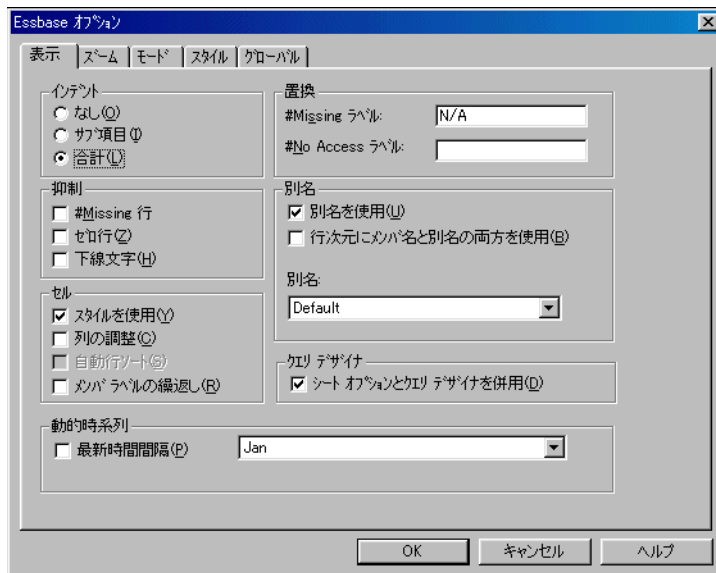


図 3-3: 表示オプションの初期設定

4. [ズーム] タブを選択します。

5. 実際の画面が図 3-4 と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

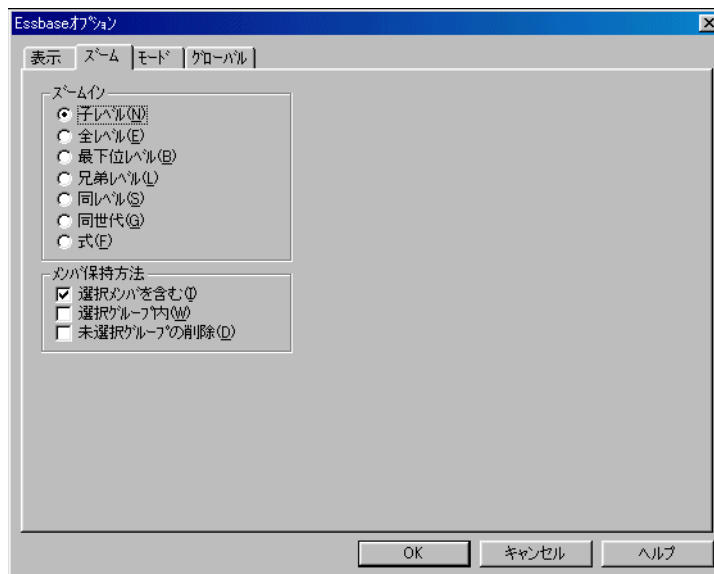


図 3-4: ズーム オプションの初期設定

6. [モード] タブを選択します。

7. 実際の画面が図 3-5 と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

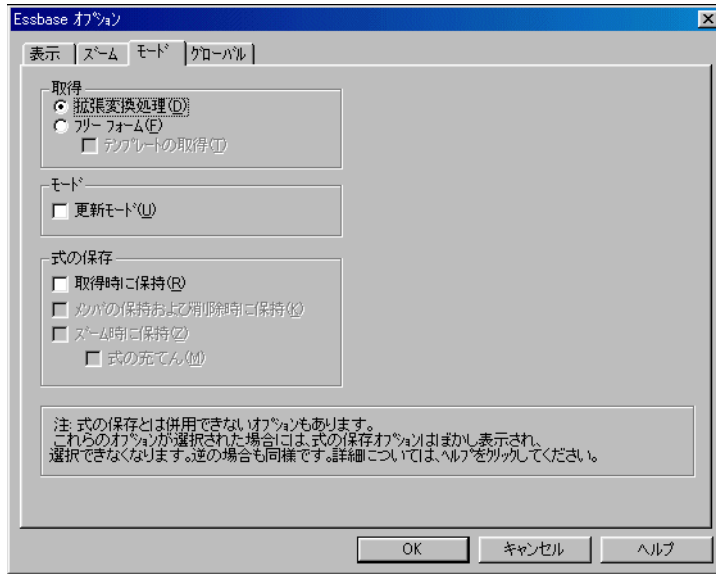


図 3-5: モード オプションの初期設定

8. [スタイル] タブは使用しません。
9. [グローバル] タブを選択します。

10. 実際の画面が図 3-6 と同じになるようにチェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

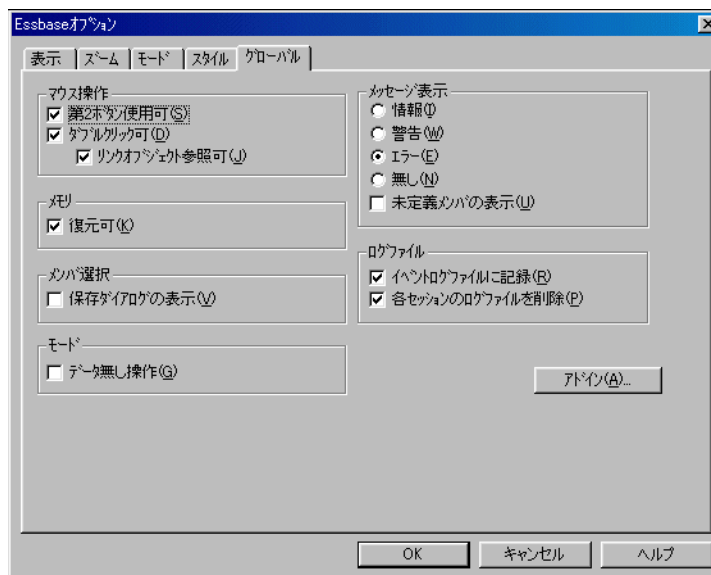


図 3-6: グローバル オプションの初期設定

11. [OK] を選択します。このセッションの設定が保存され、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスが閉じます。

注意: [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの設定は、チュートリアルで各種サンプル Lotus 1-2-3 ファイルにアクセスすると変わる場合もあります。チュートリアルで変更を指示されるまではオプションの設定はそのままにしてください。オプションが別の設定になっていると、実際のワークシートの表示がこの章で紹介する画面例と異なる場合があります。

高度なデータ取得処理の実行

第 2 章の基本チュートリアルでは、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインにおける基本的なデータ取得およびシート操作処理の実行方法を説明しました。この項では、次に示す高度なデータ取得操作の実行方法を説明します。

- 3-10 ページ「データのフィルタ処理」
- 3-17 ページ「データのソート」
- 3-21 ページ「非対称型レポートへのデータの取得」
- 3-24 ページ「フォーマット設定されたワークシートでの作業」
- 3-31 ページ「データ取得時の式の保存」
- 3-35 ページ「データ範囲の取得」
- 3-38 ページ「関数を使用したデータの取得」
- 3-43 ページ「動的計算メンバの取得」
- 3-47 ページ「動的時系列に対する最新時間間隔の指定」
- 3-52 ページ「フリー フォーム レポート作成によるデータ取得」

通常のデータ取得作業は、次の 3 通りのどの方法でも実行できます。

- Lotus 1-2-3 メニュー バーの [Essbase] メニューから目的のコマンドを選択する。
- Hyperion Essbase ツールバーで目的のボタンをクリックする。
- 該当のセルにカーソルを置いてマウスの左ボタンまたは右マウス ボタンをダブルクリックする（原則として [取得]、[ズーム イン]、[ズーム アウト] コマンドの場合のみ。ただし、[リンク オブジェクト] オプションを有効にした場合は [リンク オブジェクト] コマンドも可）。

データのフィルタ処理

Hyperion Essbase では大きいデータベースの操作も簡単かつ迅速に実行できますが、データベースのサイズがきわめて大きい場合、データのフィルタ処理とソートに Lotus1-2-3 の機能を使用するのは実用的ではありません。一方、Hyperion Essbase OLAP サーバにはデータのフィルタ処理とソートのための強力な機能があります。第 2 章では Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用して、次元に基づいたレイアウトを定義する方法と、表示するメンバを選択する方法を学習しました。Hyperion Essbase クエリ デザイナには、条件付きデータ取得を定義するための強力な使用が簡単なツールもあります。

Hyperion Essbase クエリ デザイナの機能に慣れるために、ここからの操作手順の説明では、第 2 章で作成して保存したクエリ Basic1 を具体的な例として使用します。

注意：第 2 章のチュートリアルを実行していない場合は、2-71 ページの「Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用したクエリの作成」の説明に従って Basic1 クエリを作成して保存してください。

1. [Essbase] > [クエリ デザイナ] を選択します。

Hyperion Essbase クエリ デザイナのクエリ情報パネルが表示されません。

2. 操作パネルで、<<c:¥lotus¥Work¥123¥Untitled.123>>A 右クリックし、表示されるメニューから [クエリを開く] を選択します。

[クエリを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 第 2 章で指定した場所から Basic1 ファイルを選択します。

4. [OK] をクリックします。

プロパティ パネルに表示されているメンバの選択内容は、Hyperion Essbase クエリ デザイナの最後のセッションから変わっていません。

5. 操作パネルで、[データのフィルタ処理] を選択します。

[データのフィルタ処理] パネルに、データのフィルタ処理の設定が表示されます。フィルタは、取得されるデータ列の数を制御するために使用します。データ列の数は、ユーザが定義する列基準に基づいて決まります。ビューの列に存在するデータ値に対して、データフィルタ処理基準を定義できます。

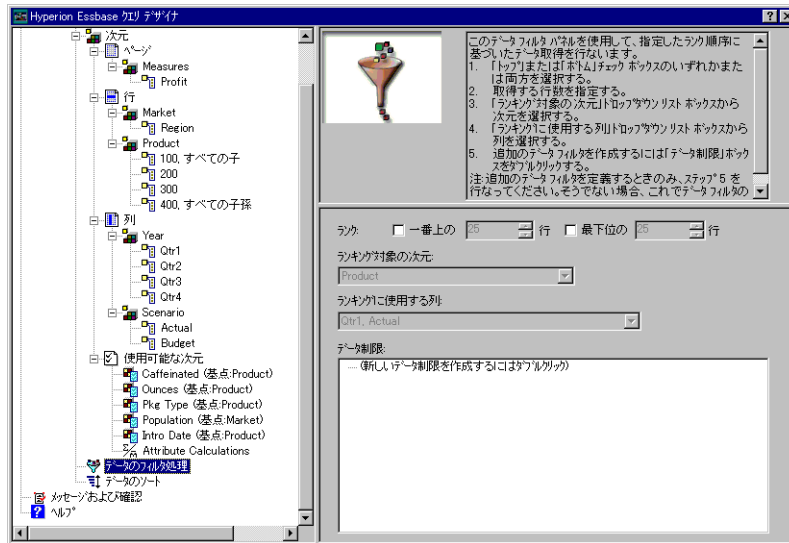


図 3-7: [データのフィルタ処理] パネル

6. [データのフィルタ処理] パネルには、次の項目があります。

- ランキングの行数を指定するためのチェック ボックス: データの先頭または末尾から何行をランキングするかの指定に使用します。先頭と末尾のどちらから行を取得するかを指定できます。選択は以前に選択した行次元メンバに基づいて行います。先頭または末尾からの取得を基準として指定する場合、一番上の 10 のように行数を指定します。デフォルトでは先頭から 25 行が取得されます。
- [ランキング対象の次元] リスト ボックス: ランキングを適用する次元の指定に使用します。

- [ランキングに使用する列]リスト ボックス: データ値の基準となるデータ列の指定に使用します。
 - [データ制限] ボックス: より大、より小、等しいなど、標準的なデータ比較演算の指定に使用します。比較演算子をデータ列 (複数可) のデータ値に対して適用できます。また、2 つの列の値の比較にも基準を適用できます。
 - OR演算子とAND演算子に対応するボタン: 複数の列基準を定義する場合は、演算子を使用して基準をリンクできます。
7. [**トップ**] チェック ボックスをクリックし、[**行**] テキスト ボックスに値 30 を入力します。
- このクエリを適用すると、次元の先頭から 30 行が取得されます。
8. [**次元**] リスト ボックスから "Product" を選択します。例では "Product" がランキング適用対象の次元です。
9. [**列**] リスト ボックスから Qtr1, Actual を選択します。この例では Qtr1, Actual がデータ値の基準となる列です。
10. 操作パネルで、[**データのフィルタ処理**] アイコンを選択します。右クリックして表示されるメニューから [**クエリを適用**] を選択します。

クエリの結果は次のとおりになります。

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
2						Profit				
3			Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4	
4	East	Cola	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
4	East	Cola	2461	2550	2940	3050	3298	3440	2430	2410
5		Grape	645	840	676	860	710	920	618	800
6		Cream Soda	591	770	922	1010	522	660	592	530
7		Root Beer	562	960	610	1070	372	830	990	1500
8		Strawberry	545	700	612	750	625	780	525	670
9		Orange	290	350	327	380	377	420	394	440
10		Diet Cola	212	220	303	300	312	310	287	290
11		Caffeine Free Cola	74	110	109	130	130	190	100	150
12	West	Cream Soda	2363	2620	2739	2970	2937	3230	2692	2650
13		Root Beer	2325	2570	2423	2720	2540	2820	2439	2640
14		Grape	1143	920	1167	960	1271	1020	1219	920
15		Cola	1047	1720	1189	1900	1339	2120	1018	1780
16		Orange	1002	810	1120	890	1192	1000	940	680
17		Caffeine Free Cola	62	310	-163	30	-286	-130	-123	70
18		Diet Cola	-67	320	-177	200	-154	250	-136	320
19		Strawberry	-738	-310	-783	-380	-900	-440	-779	-400
20	South	Root Beer	1465	1640	1540	1700	1612	1710	1498	1330
21		Cola	745	1160	835	1280	1031	1490	965	1510
22		Cream Soda	561	810	529	770	591	840	669	930
23		Diet Cola	306	570	363	660	281	570	247	550
24	Central	Cream Soda	2414	2770	2579	2930	2648	2980	2450	2690
25		Root Beer	2369	3310	2457	3350	2481	3470	2271	4130
26		Grape	1050	1030	1155	1120	1220	1150	970	890
27		Orange	991	910	1075	1020	1073	1010	1070	890
28		Diet Cola	908	1130	1045	1320	1089	1340	889	1180

図 3-8: データのフィルタ処理を行ったクエリの結果

[データ制限] ボックスにデータ比較演算を指定すると、出力されるデータをさらに絞り込みます。

11. 操作パネルで [データのフィルタ処理] アイコンを選択します。

指定したデータ フィルタがプロパティ パネルに表示されます。

12. [データ制限] ボックスの内側でダブルクリックします。

プロパティ パネルに、データ制限の設定が表示されます。

13. [値] オプションを選択し、[値] ボックスに 500 と入力します。

[データ] リスト ボックスの [is] オプションが、[=] に変わっていることを確認してください。

14. [データ] リスト ボックスの下矢印をクリックし、[<=] を選択します。

15. [列] リスト ボックスから Qtr1, Actual を選択します。

16. 操作パネルで、[データのフィルタ処理] アイコンを選択します。右クリックし、表示されるメニューから [クエリを適用] を選択します。

この時点で、クエリの結果には、"Actual" および "Budget" のデータのうち、500 以下のみが表示されていることを確認してください。
17. 操作パネルで [データのフィルタ処理] アイコンを選択します。プロパティ パネルに、データのフィルタ処理の設定が表示されます。
18. [データ制限] ボックスで Qtr1, Actual<= 500 を選択して右クリックし、表示されるメニューから [新規データ制限] を選択します。
19. [データ] ボックスの下矢印をクリックし、< を選択します。
20. [データ値] リスト ボックスから Qtr2, Actual を選択します。[他の制限と結合] の下にある [OR] ボタンをクリックします。
21. 操作パネルで、[データのフィルタ処理] アイコンをクリックして、[データのフィルタ処理] パネルを開きます。
22. [データ制限] ボックスの内側でダブルクリックし、新しいデータ制限を作成します。
23. [データ] ボックスの下矢印をクリックし、[Is Not] を選択します。
24. [#Missing 値] オプションに対応するボタンをクリックします。

このオプションを有効にすると、#Missing 値を持つデータが破棄されます。
25. [列] リスト ボックスから Qtr1, Actual を選択します。[他の制限と結合] の下にある [AND] ボタンを選択します。

データ制限の表示は次のとおりになります。

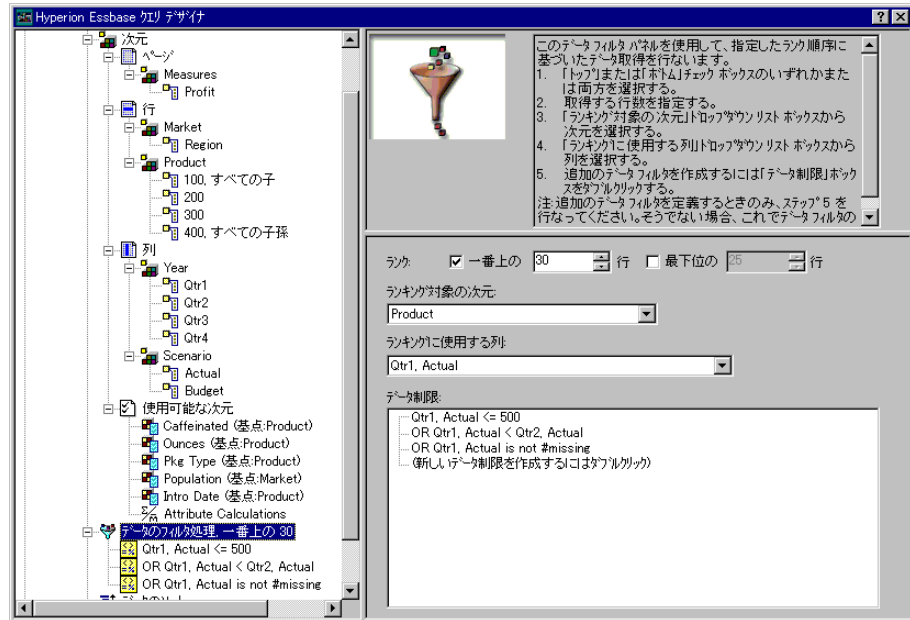


図 3-9: データのフィルタ処理

26. [データのフィルタ処理] アイコンを選択して右クリックし、表示されるメニューから [クエリを適用] を選択します。

該当するすべてのクエリのデータが取得されます。取得された Qtr1, Actual のデータは、500 以下であるまたは Qtr2, Actual 未満のものになります。結果は次のとおりになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1						Profit				
2			Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4	
3			Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
4	East	Cola	2461	2550	2940	3050	3298	3440	2430	2410
5		Grape	645	840	676	860	710	920	618	800
6		Cream Soda	591	770	922	1010	522	660	592	530
7		Root Beer	562	960	610	1070	372	830	990	1500
8		Strawberry	545	700	612	750	625	780	525	670
9		Orange	290	350	327	380	377	420	394	440
10		Diet Cola	212	220	303	300	312	310	267	290
11		Caffeine Free Cola	74	110	109	130	130	190	100	150
12	West	Cream Soda	2363	2620	2739	2970	2937	3230	2692	2850
13		Root Beer	2325	2570	2423	2720	2540	2820	2439	2840
14		Grape	1143	920	1167	960	1271	1020	1219	920
15		Cola	1047	1720	1189	1900	1339	2120	1018	1780
16		Orange	1002	810	1120	890	1192	1000	940	680
17		Caffeine Free Cola	62	310	-163	30	-286	-130	-123	70
18		Diet Cola	-67	320	-177	200	-154	290	-136	320
19		Strawberry	-738	-310	-783	-380	-900	-440	-779	-400
20	South	Root Beer	1465	1640	1540	1700	1612	1710	1498	1330
21		Cola	745	1160	835	1280	1031	1490	965	1510
22		Diet Cola	306	570	363	660	281	570	247	550
23	Central	Cream Soda	2414	2770	2579	2930	2648	2980	2450	2690
24		Root Beer	2369	3310	2457	3350	2481	3470	2271	4130
25		Grape	1050	1030	1155	1120	1220	1150	970	890
26		Orange	991	910	1075	1020	1073	1010	1070	890
27		Diet Cola	908	1130	1045	1320	1089	1340	889	1180
28		Cola	843	1080	928	1180	915	1170	793	1060
29		Caffeine Free Cola	457	620	500	610	556	690	567	730
30		Strawberry	77	90	87	90	130	140	205	210

図 3-10: データのフィルタ処理の結果

注意: データ制限をすべて削除するには、操作パネルで [データのフィルタ処理] アイコンを選択して右クリックし、表示されるメニューから [全データ制限の削除] を選択します。または [データ制限] ボックスで任意のデータ制限を選択して右クリックし、表示されるメニューから [全データ制限の削除] を選択します。

特定のデータ制限を削除するには、クエリアウトライン上で目的のデータ制限を選択して右クリックし、表示されるメニューから [データ制限の削除] を選択します。または [データ制限] ボックスから目的のデータ制限を選択して右クリックし、表示されるメニューから [データ制限の削除] を選択します。

データのソート

[データのソート処理] パネルを使用すると、Basic1 クエリの出力データを昇順または降順にソートできます。

1. 操作パネルで [データのソート] アイコンを選択します。

プロパティ パネルに、データのソートの設定が表示されます。選択した行を取得する順序を指定するためのデータ ソート基準を [データのソート] パネルに指定できます。

[データのソート] パネルには次の項目があります。

- [ソート対象の次元] リスト ボックス: クエリに行形式で指定されている次元のリストが表示されます。
- [ソートに使用する列] リスト ボックス: クエリに列形式で指定する次元 (複数可) を選択するために使用します。

- [配列] リストボックス: 選択した列のソート順序として昇順または降順のどちらかを指定できます。また、特定の行次元グループをソートの対象としても指定できます。たとえば、"Product" や "Market" を基準としたソートが可能です。

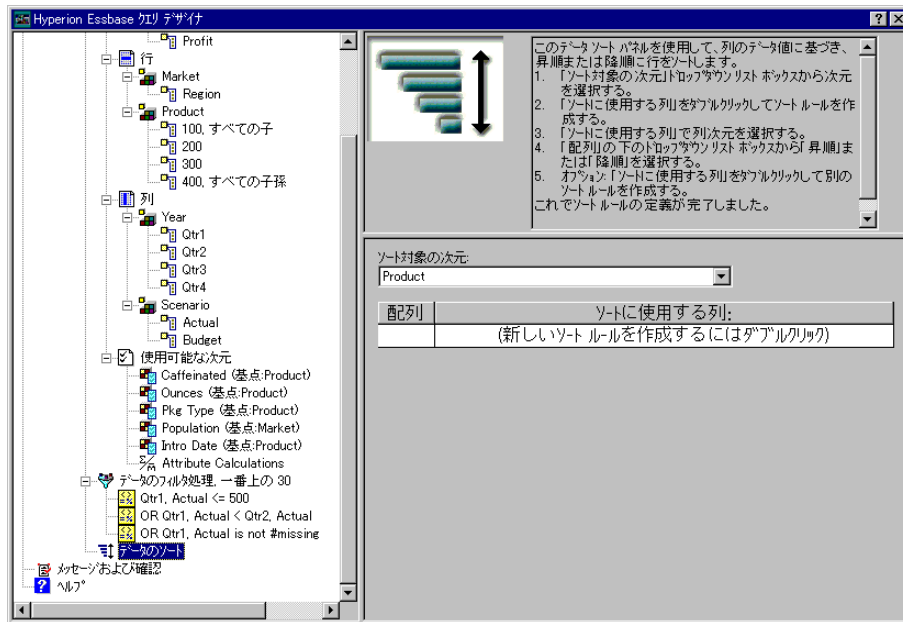


図 3-11: [データのソート] パネル

2. [ソートに使用する列] リストボックスをダブルクリックします。
デフォルトでは Qtr1, Actual が選択されます。[配列] リストボックスにおけるデフォルトのソート順序は [昇順] です。
3. [昇順] をクリックします。[昇順] の横に下矢印が表示されます。
4. 下矢印をクリックします。[昇順] の下に [降順] が表示されます。

5. [配列] リスト ボックスから [降順] を選択します。

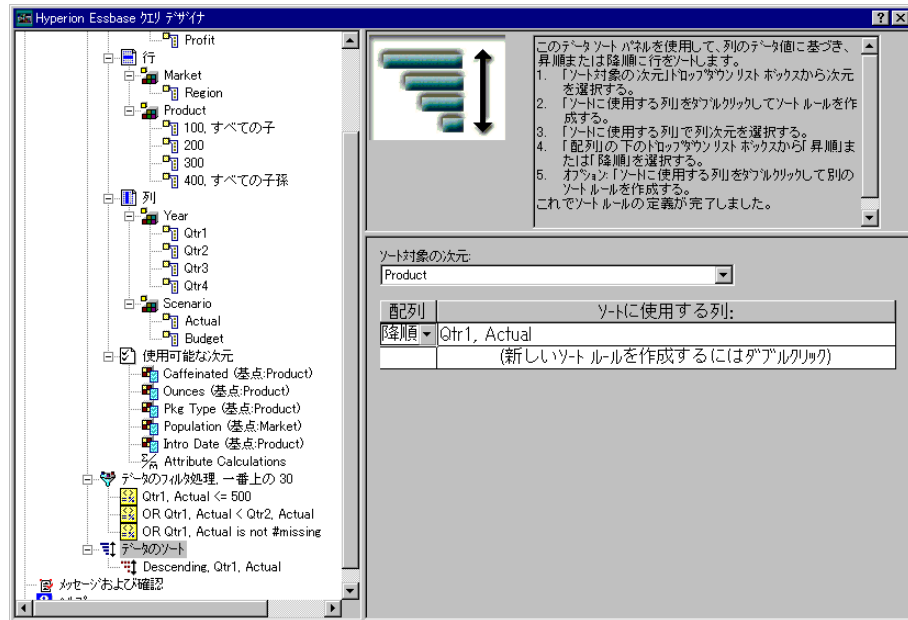


図 3-12: データ ソート順序の指定

6. [ソートに使用する列] リスト ボックスの次の行をダブルクリックします。

デフォルトでは Qtr1, Actual が選択されます。

7. 下矢印をクリックし、Qtr1, Budget を選択します。

[配列] リスト ボックスのソート順序が、デフォルトの [昇順] になっていることを確認してください。

8. 操作パネルの [データのソート] の下に表示されている Ascending, Qtr1, Budget を選択します。右クリックして表示されるメニューから [ソートルールの削除] を選択します。

クエリから Ascending, Qtr1, Budget ソート ルールが削除されます。

9. 操作パネルで [データのソート] アイコンを選択します。右クリックし、表示されるメニューから [クエリを適用] を選択します。

下の図のとおりにより四半期ごとに降順でソートされたデータが表示されます。

	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1					Profit				
2		Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4	
3		Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
4	Cola	2461	2550	2940	3050	3298	3440	2430	2410
5	Grape	645	840	676	860	710	920	618	800
6	Cream Soda	591	770	922	1010	522	660	592	530
7	Root Beer	562	960	610	1070	372	830	990	1500
8	Strawberry	545	700	612	750	625	780	525	670
9	Orange	290	350	327	380	377	420	394	440
10	Diet Cola	212	220	303	300	312	310	287	290
11	Caffeine Free Cola	74	110	109	130	130	190	100	150
12	Cream Soda	2363	2620	2739	2970	2937	3230	2692	2850
13	Root Beer	2325	2670	2423	2720	2540	2820	2439	2840
14	Grape	1143	920	1167	960	1271	1020	1219	920
15	Cola	1047	1720	1189	1900	1339	2120	1018	1780
16	Orange	1002	810	1120	890	1192	1000	940	680
17	Caffeine Free Cola	62	310	-163	30	-286	-130	-123	70
18	Diet Cola	-67	320	-177	200	-154	250	-136	320
19	Strawberry	-738	-310	-783	-380	-900	-440	-779	-400
20	Root Beer	1465	1640	1540	1700	1612	1710	1498	1330
21	Cola	745	1160	835	1280	1031	1490	965	1510
22	Diet Cola	306	570	363	660	281	570	247	550
23	Cream Soda	2414	2770	2579	2930	2648	2980	2450	2690
24	Root Beer	2369	3310	2457	3350	2481	3470	2271	4130
25	Grape	1050	1030	1155	1120	1220	1150	970	890
26	Orange	991	910	1075	1020	1073	1010	1070	890
27	Diet Cola	908	1130	1045	1320	1089	1340	889	1180
28	Cola	843	1080	928	1180	915	1170	793	1060
29	Caffeine Free Cola	457	620	500	610	556	690	567	730
30	Strawberry	77	90	87	90	130	140	205	210

図 3-13: フィルタ処理とデータのソートの結果

注意: ランキングとソートには必ず同じ値を指定してください。たとえば、[ランキング対象の次元] ボックスに "Product" を指定した一方で、[ソート対象の次元] ボックスには "Market" を指定することはできません。異なる値を指定した場合、Hyperion Essbase クエリ デザイナにより両方の値が、最後に指定した方の値に自動的に変更されます。

10. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

非対称型レポートへのデータの取得

ワークシートにデータを取得する場合、結果のレポートを対称型または非対称型のいずれかで出力できます。対称型レポートには、同じメンバのグループが繰り返し現れるという特徴があります。たとえば図 3-13 に示す対称型レポートでは、"Actual" および "Budget" のメンバが、"Year" のメンバ ("Qtr1"、"Qtr2"、"Qtr3"、"Qtr4") それぞれにネストされています。

非対称型レポートは、ネストされたメンバのグループの内容が異なっている (1 つ以上のメンバが異なる) のが特徴です。メンバの数が異なる場合と、メンバの名前が異なる場合があります。

非対称型レポートを作成するには、次のどの方法でも使用できます。

- フリーフォーム取得モードでワークシートにメンバ名を入力する。
- [選択したグループ内] オプションを選択にした状態 ([Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [ズーム] ページで指定) でドリル操作を実行する。
- データ取得時に、Missing、ゼロ値、または下線文字を含む行を抑制にする。

非対称型レポートにデータを取得する場合、Hyperion Essbase の内部では、非対称型レイアウトを保持するための追加の処理が行われます。この処理のためレポートのサイズが大きい場合には、取得に要する時間が長くなる場合があります。レポートの最適化の詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』の Vol. II を参照してください。

Hyperion Essbase をデフォルト インストールした場合は、サンプル ファイル `Asymm.xls` も一緒にインストールされています。この項では、このサンプル ファイルを使用して、非対称型レポートの作成方法を説明します。

- ▶ サンプル ファイル `Asymm.xls` を表示するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[開く]を選択します。
2. `¥essbase¥client¥sample` ディレクトリから、`Asymm.xls` ファイルを開きます。

PC のソフトウェアのインストール状況によっては、このファイルにアクセスできないかまたはファイルが別のディレクトリにある場合があります。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Sales						
2							
3			<i>Actual</i>	<i>Budget</i>	<i>Budget</i>	<i>Budget</i>	
4			Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	
5	East	Colas	6292	6760	7300	5570	
6		Root Beer	5726	5650	5600	5780	
7		Fruit Soda	3735	4150	4350	3850	
8							
9	West	Root Beer	8278	7970	8320	7820	
10		Cream Soda	8043	7720	8300	7570	
11							

図 3-14: 非対称型レポート

`Asymm.xls` では、行および列次元グループが非対称です。したがって "Product" 次元のネストされたメンバグループは、Market ごとにメンバ構成が異なります。たとえば Colas および Fruit Soda は East では表示されていますが、West では表示されていません。また、"Actual" データは "Qtr1" のみに表示されている一方、"Budget" データは "Qtr2"、"Qtr3"、"Qtr4" に表示されています。さらにこのサンプルファイルでは、"Scenario" 次元と "Year" 次元のメンバにスタイルが表示されています。

3. `Asymm.xls` ファイルは次の操作でも使用するので、開いたままにします。

非対称型レポートにおけるピボット

非対称型レポートでメンバのグループに対してピボットを行う場合、保持されるのはピボットの対象外である次元に固有のメンバのみです。

- ▶ 上記の概念を `Asymm.xls` ファイル (すでに開いた状態) を使用して確認するには、次の手順に従ってください。

1. マウスの右ボタンを使って、"East" を "Qtr1" の下のセルにドラッグします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1					Sales				
2									
3		<i>Actual</i>		<i>Budget</i>		<i>Budget</i>		<i>Budget</i>	
4		Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4	
5		East	West	East	West	East	West	East	West
6	Colas	6292	6950	6760	8800	7300	9100	5570	8430
7	Root Beer	5726	8278	5650	7970	5600	8320	5780	7820
8	Fruit Soda	3735	8403	4150	5840	4350	6070	3850	5280
9	Cream Soda	4868	8043	4030	7720	3850	8300	3170	7570
10									

図 3-15: 非対称型レポートにおけるピボットの結果

Hyperion Essbase により、すべての固有メンバに "Product" のメンバが組み込まれます。たとえば、図 3-14 で 2 回表示されていた "Root Beer" は、今度の画面では 1 回のみ表示になります。一方、図 3-14 の 1 つの Market のみに表示されていた "Colas" は、今度の画面では "East" と "West" に表示されています。

"Product" 行グループ間の空の行も削除されます。ピボット操作を行うたびに、すべてのセルが空の行や列がすべて削除されます。

2. 変更内容を保存せずに `Asymm.xls` を閉じます。

フォーマット設定されたワークシートでの作業

Hyperion Essbase では、柔軟で臨機応変なデータ取得が可能だけでなく、フォーマット設定されたワークシートへのデータの取得もサポートされています。ワークシートに設定されるフォーマットには次のものがあります。

- 行間および列間のスペース
- データベース アウトラインで定義されていないテキストやデータを含むセル値
- ワークシートの先頭にあり、連続しない位置にあるメンバ名
- Lotus 1-2-3 の式 (3-31 ページの「データ取得時の式の保存」も参照)
- ビジュアル キュー (スタイル)

ワークシートにフォーマットを設定して保存した後も、そのワークシートフォーマットに新しいデータを取得して処理ができれば便利です。この項では、フォーマット設定されたワークシートでの作業について説明します。内容は次のとおりです。

- 3-25 ページ「フォーマット設定されたワークシートを操作する場合のルール」
- 3-26 ページ「フォーマット設定されたワークシートへのデータの取得」
- 3-29 ページ「フォーマット設定されたワークシート上でのデータのピボット」

フォーマット設定されたワークシートを操作する場合のルール

フォーマット設定されたワークシートにデータを取得するときは、次の点に注意が必要です。

ルール 1

フォーマット設定されたワークシート内では、最初の Hyperion Essbase データ セルより前に数値セルを置くことはできません。たとえば、図 3-16 では、最初の Hyperion Essbase データ セルは B6 です。したがって、行 1 ~ 5 のセルおよびセル A6 には数値を設定できません。また、これらのセルに数値を取る式の設定もできません。

ルール 2

Hyperion Essbase データの行または列のセルには、テキストや数値を設定できません。たとえば図 3-16 では、列 B、C、D、F のセル、行 6 ~ 9、行 11 ~ 14 のセルには、非データ テキストや数値の設定はできません。非データ テキストや数値を設定した場合は、取得されたデータで上書きされるかセルが空になります。ただし [式の保存] オプションを使用すれば、これらのセルに式を設定できます。[式の保存] オプションの詳細は、3-31 ページの「データ取得時の式の保存」を参照してください。

ヒント：セル内に保持を要するテキストがある場合は、そのテキストまたは値を Lotus 1-2-3 の式として定義して、[式の保存] のオプションを使用してください。

ルール 3

[Essbase オプション] ダイアログ ボックス ([モード] タブ) で [取得時に保持] チェック ボックスが選択されている場合、[ピボット] コマンドは使用できません。

ルール 4

[ピボット] コマンドを実行すると、データベース メンバ名以外のテキストの入ったセルはすべて削除されます。

フォーマット設定されたワークシートへのデータの取得

Hyperion Essbase をデフォルト インストールした場合は、サンプル ファイル P&l.xls も一緒にインストールされています。この項では、P&l.xls サンプル ファイルを使用して、フォーマット設定されたワークシート（フォーマット設定されたテキスト、式、保護されたセルを含むワークシート）へのデータ取得方法を説明します。

▶ P&l.xls ワークシートを表示するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[開く]を選択します。
2. %essbase%\client\%sample ディレクトリから、P&l.xls ファイルを開きます。

マシンへのソフトウェアのインストール状況によっては、このファイルにアクセスできないかまたはファイルが別のディレクトリにある場合があります。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Market: Central					The Beverage Company		
2	Product: 200					Planning Dept.		
3	Scenario: Budget							
4								
5		Jan	Feb	Mar	Qtr1	% Sales		
6	Misc	5	10	10	25	0.30		
7	Payroll	200	200	200	600	0.07		
8	Marketing	350	350	350	1050	9.61		
9	Total Expenses	555	560	560	1675	16.12		
10								
11	COGS	1170	1180	1200	3550	36.67		
12	Sales	4000	2820	2860	9680	100.00		
13	Margin	2830	1640	1660	6130	63.33		
14	Profit	2320	1080	1100	4570	47.21		
15								
16	Ratio Analysis							
17	Markup	70.8%	58.2%	58.0%	63.3%			
18	Marketing %	7.5%	12.4%	12.2%	9.6%			

図 3-16: フォーマット設定されたサンプルワークシート

3. [Essbase]>[オプション]を選択し、[表示]タブを選択します。
4. [セル] オプショングループで、[列の調整]がチェックされていることを確認してください。

5. [モード] タブを選択します。
6. [式の保存] グループで [取得時に保持] チェックボックスを選択し、式の保存モードを使用可能にします。

注意: [取得時に保持] を使用可能にすると、データ取得に要する時間が多少長くなる場合があります。

7. [OK] をクリックします。

デフォルトでは Hyperion Essbase の取得操作を行うと、ワークシート上の取得領域では Lotus 1-2-3 の式がデータ値によって上書きされます。また取得操作を行うと、取得領域外のセルに設定されている式も削除されます。ただし、[取得時に保持] オプションを使用すると、ワークシート内の領域にある式がデータの取得によって上書きされない定義が可能です。

8. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシートを最新のデータ値に更新します。

Hyperion Essbase では、ワークシート内の一部のテキストセルがデータベースメンバ名に対応していないと判断します。Hyperion Essbase がワークシート内のテキストを解釈できない場合は、次のメッセージが表示されます。

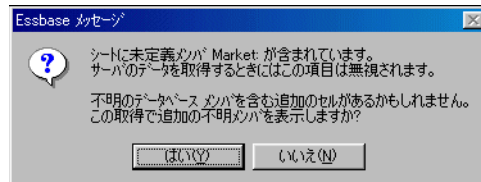


図 3-17: Hyperion Essbase 不明メンバ メッセージ

この例では、最初に検出される不明メンバはセル A1 の "Market:" です。Hyperion Essbase は、このセルの "Market" の後にあるコロン (:) を認識しません。表示されたメッセージに対して [はい] をクリックすると、Hyperion Essbase が次に検出した不明メンバが表示されます。[いいえ] をクリックすると、Hyperion Essbase によるデータ取得が続行されます。

注意: フォーマット設定されたワークシートを頻繁に扱う場合は、Hyperion Essbase によりこのメッセージが表示されない設定ができます。詳細は、3-29 ページの「フォーマット設定されたワークシート上でのデータのピボット」を参照してください。

9. [いいえ] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じ、データの取得を続けます。

Hyperion Essbase により、新しいデータが取得されますが、ワークシート内のフォーマットと式は保存されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Market: Central				The Beverage Company			
2	Product: 200				Planning Dept.			
3	Scenario: Budget							
4								
5		Jan	Feb	Mar	Qtr1	% Sales		
6	Misc	#Missing	#Missing	#Missing	0	0.00		
7	Payroll	210	210	210	630	0.07		
8	Marketing	300	310	320	930	11.05		
9	Total Expenses	510	520	530	1560	18.53		
10								
11	COGS	1170	1180	1200	3550	42.16		
12	Sales	2740	2820	2860	8420	100.00		
13	Margin	1570	1640	1660	4870	57.84		
14	Profit	1060	1120	1130	3310	39.31		
15								
16	Ratio Analysis							
17	Markup	57.3%	58.2%	58.0%	57.8%			
18	Marketing %	10.9%	11.0%	11.2%	11.0%			

図 3-18: フォーマット設定されたワークシートでのデータ取得の結果

10. P&L.xls を保存せずに閉じます。

注意: この章の 3-31 ページの「データ取得時の式の保存」の項では、[式の保存] の各オプションの使用方法を紹介します。

フォーマット設定されたワークシート上でのデータのピボット

[ピボット]コマンドを使用すると、フォーマット設定されたワークシートとフォーマット設定されていないワークシートのどちらでも、アドホックレポートを作成できます。ただしフォーマット設定されたワークシートの場合、設定されているラベルや式によっては、ピボット操作の結果が保証されない場合もあります。ピボットによって圧縮または保存されるのは、ワークシート上のデータベース要素のみです。また、ワークシートのピボットされたデータによって上書きされない領域にあるラベルは保持されます。

注意：Hyperion Essbase では、式の保存モードが有効な場合、式を含むワークシート上ではピボット操作を実行できません。

次にサンプルファイル `Inv.xls` を使用して、ワークシート内でのデータのピボット方法を説明します。このサンプルファイルは、Hyperion Essbase のインストール時に一緒にインストールされています。このファイルは、ワークシート上でのピボットを可能にするために、[取得時に保持]オプションを無効にした状態で保存されています。

- ▶ `Inv.xls` ワークシートを表示するには、次の手順に従ってください。
 1. [ファイル]>[開く]を選択します。
 2. `¥essbase¥client¥sample` ディレクトリから、`Inv.xls` ファイルを開きます。

PC のソフトウェアのインストール状況によっては、このファイルにアクセスできないかまたはファイルが別のディレクトリにある場合があります。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Market		<i>Inventory Analysis</i>				
2	Actual						
3			Jan	Feb	Mar		Qtr1
4							
5	Sales	100	8314	8327	8407		25048
6		200	8716	8960	8951		26627
7		300	7874	8046	8077		23997
8		400	6634	6736	6778		20148
9		Product	31538	32069	32213		95820
10							
11	Opening Inventory	100	29448	29124	28929		29448
12	* Adjusted for Audit	200	33000	32100	31125		33000
13		300	28865	28964	29095		28865
14		400	26092	26246	26409		26092
15		Product	117405	116434	115558		117405
16							
17	Stock to Sales		3.72	3.63	3.59		
18			=====	=====	=====		

図 3-19: フォーマット設定されたワークシート (ピボット前)

3. [Essbase] > [オプション] を選択し、[グローバル] タブを選択します。
4. [メッセージの表示] グループの [不明メンバの表示] チェックボックスのチェックマークを外し、フォーマット設定されたワークシートでの作業中は Hyperion Essbase メッセージが表示されないようにします。

5. マウスの右ボタンを使用して "Sales" (セル A5) を、"Jan" (C4) の下にネストされているセルにドラッグします。

Hyperion Essbase により "Sales" メンバグループのピボットが行われ、月を表す各メンバの下に "Sales" メンバグループがネストされます。ただし、ピボット時に保持されるのはデータベース要素のみです。たとえば、"Stock to Sales" のすべてのデータと "Adjusted for Audit" のデータは、ピボット時に削除されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1			<i>Inventory Analysis</i>		Market		
2					Actual		
3		Jan		Feb		Mar	
4		Sales	Opening Inventory	Sales	Opening Inventory	Sales	Opening Inventory
5							
6	100	8314	29448	8327	29124	8407	28929
7	200	8716	33000	8960	32100	8951	31125
8	300	7874	28865	8046	28964	8077	29095
9	400	6634	26092	6736	26246	6778	26409
10	Product	31538	117405	32069	116434	32213	115558
11							
12	* Adjusted for Audit						
13							
14							
15							
16							
17	Stock to Sales						
18			=====	::	=====	=====	


図 3-20: フォーマット設定されたワークシートでのピボットの結果

6. Inv.xls を保存せずに閉じます。

データ取得時の式の保存

3-26 ページの「フォーマット設定されたワークシートへのデータの取得」では、[取得時に保存] オプションを使用して、既存のワークシート内のフォーマットと式を保存しました。一般に、[式の保存] オプションは、データ取得時、[メンバの保持] または [メンバの削除] 操作時およびドリル操作時に式を保存するために使用します。さらに Hyperion Essbase では、ドリル操作時にワークシートに取得された追加のメンバ用にも式を複製できます。この項では、作成するレポートにおける [式の保存] の各種オプションの使用方法を説明します。

オプションの中には、他の特定のオプションが有効でなければ使用できないものもあります。[式の保存]オプションを使用するときは、次の注意事項と制限事項があります。

- [Essbase オプション]ダイアログボックスの[モード]タブで[詳細設定]オプションを選択して、[取得時に保持]を有効にする必要があります。[式の保存]オプションは、フリーフォーム取得モードでは使用できません。
 - [保存および削除時のみ保持]および[ズーム時に保持]を有効にするには、[取得時に保持]を有効にすることが必要です。
 - [式の充てん]を有効にするには、[ズーム時に保持]を有効にする必要があります。
 - [取得時に保持]チェックボックスを選択すると、[表示]タブの[#Missing 行の抑制]および[ゼロ行]オプションが無効になります。逆に[表示]オプションのいずれかを選択すると、[式の保存]オプションはすべて自動的に無効になります。
 - [ズーム時に保持]チェックボックスを選択すると、[ズーム]ページの[選択されていないグループの削除]オプションが無効になります。[選択されていないグループの削除]オプションを有効にすると、自動的に[ズーム時に保持]が無効になります。
 - [取得時に保持]を有効にすると、データ取得に要する時間が多少長くなる場合があります。
 - 原則として、式範囲の最後には空の行を挿入します。これは[ズーム時に保持]を有効にしてドリルダウンを行ったときに、式のセル範囲が正しく表示されるのを保障するためです。詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンラインヘルプを参照してください。
 - 式保持オプションがオンの場合、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインでは式の配列はサポートされません。ワークシートに式の配列がある場合、Hyperion Essbase ではその配列は保存されません。
- ▶ データの取得または保持を行う際に式を保存するには、次の手順に従ってください。
1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。

2. [Essbase] > [取得] を選択します。
3. セル A2 をダブルクリックして、"Year" のドリルダウンを行います。
4. [Alt] キーを押した状態でセル E1 をダブルクリックし、"Scenario" のドリルダウンを行います。
5. セル G3 を選択し、このセルに式 $=B3/B7*100$ を入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		Measures	Product	Market				
2		Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario		
3	Qtr1	24703	30580	-5877	-19.21844343	24703	$=B3/B7*100$	
4	Qtr2	27107	32870	-5763	-17.53270459	27107		
5	Qtr3	27912	33980	-6068	-17.85756327	27912		
6	Qtr4	25800	31950	-6150	-19.24882629	25800		
7	Year	105522	129380	-23858	-18.44025352	105522		
8								
9								
10								

図 3-21: セルへの Lotus 1-2-3 の式の入力

6. [Enter] を押します。

Lotus 1-2-3 により、セル G3 に入力した式が計算され、"Qtr1" データは "Year" データに対するパーセンテージが表示されました。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		Measures	Product	Market				
2		Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario		
3	Qtr1	24703	30580	-5877	-19.21844343	24703	23.41028411	
4	Qtr2	27107	32870	-5763	-17.53270459	27107		
5	Qtr3	27912	33980	-6068	-17.85756327	27912		
6	Qtr4	25800	31950	-6150	-19.24882629	25800		
7	Year	105522	129380	-23858	-18.44025352	105522		
8								
9								
10								

図 3-22: Lotus 1-2-3 の式を使った Hyperion Essbase データの計算結果

7. [Essbase] > [オプション] を選択し、[モード] タブを選択します。
8. [式の保存] 領域で [取得時に保持] および [保存および削除時のみ保持] チェック ボックスを選択します。[OK] をクリックします。
9. セル D2 の "Variance"、セル E2 の "Variance%"、セル F2 の "Scenario" をそれぞれ選択します。

10. [Essbase]> [メンバの削除] を選択します。

Hyperion Essbase により、選択した列が削除されますが、入力した Lotus 1-2-3 の式は保持対象のデータセットとともに保存されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Measures	Product	Market			
2		Actual	Budget				
3	Qtr1	24703	30580	23.41028411			
4	Qtr2	27107	32870				
5	Qtr3	27912	33980				
6	Qtr4	25800	31950				
7	Year	105522	129380				
8							
9							
10							

図 3-23: [保存および削除時のみ保持] を有効にした列の削除の結果

11. [Essbase]> [オプション] を選択し、[モード] タブを選択します。
12. [式の保存] 領域で [ズーム時に保持] チェックボックスをクリックし、[OK] をクリックします。
13. セル A3 をダブルクリックして、"Qtr1" のドリルダウンを行います。

Hyperion Essbase により "Qtr1" のドリルダウンが行われ、"Qtr1" メンバとともに式が下位に移動します。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Measures	Product	Market			
2		Actual	Budget				
3	Jan	8024	9940				
4	Feb	8346	10350				
5	Mar	8333	10290				
6	Qtr1	24703	30580	23.41028411			
7	Qtr2	27107	32870				
8	Qtr3	27912	33980				
9	Qtr4	25800	31950				
10	Year	105522	129380				
11							

図 3-24: [ズーム時に保持] を有効にしたドリルダウンの結果

14. [Essbase]> [復元] を選択します。
15. [Essbase]> [オプション] を選択し、[モード] タブを選択します。

16. [式の保存] 領域で [式の充てん] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。
17. セル A3 をダブルクリックして、"Qtr1" のドリルダウンを行います。

Hyperion Essbase により "Qtr1" のドリルダウンが行われ、式が "Qtr1" の各メンバ ("Jan"、"Feb"、"Mar") 用に複製されます。複製された式を表示する場合は、セル D3、D4、D5、D6 をクリックすると、Lotus 1-2-3 の数式バーに新しい構文が表示されます。

	A	B	C	D	E	F
1		Measures	Product	Market		
2		Actual	Budget			
3	Jan	8024	9940	29.60121002		
4	Feb	8346	10350	29.9011178		
5	Mar	8333	10290	32.29844961		
6	Qtr1	24703	30580	23.41028411		
7	Qtr2	27107	32870			
8	Qtr3	27912	33980			
9	Qtr4	25800	31950			
10	Year	105522	129380			
11						

図 3-25: [式の充てん] を有効にしたドリルダウンの結果

18. 次の操作に進む前に以下を行ってください。
- [Essbase]> [オプション] を選択し、[モード] タブを選択します。
 - [式の保存] のオプションをすべてオフにします。
 - [ファイル]> [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

データ範囲の取得

一般的な Lotus 1-2-3 ワークシートでは、ワークシート上でマウスをドラッグすることによってセルの範囲を選択できます。またセルの範囲を選択したうえで、ワークシート内の選択した範囲のみにデータを取得する指示を Hyperion Essbase に与えることもできます。データ範囲の取得は次の場合に特に便利です。

- ワークシートに複数のレポートがある場合。
- ワークシートに外部の情報 (フォーマット設定されたレポートへのデータ取得ではサポートされていない情報) が含まれている場合。

- サーバ上のデータ値の一部のみの取得が必要な場合（範囲を指定すると、大きいデータベースからデータを取得する時間を大幅に短縮できます）。
- ワークシート上の最初の列以外の場所にデータを取得する必要がある場合。

Hyperion Essbase をデフォルト インストールした場合は、サンプル ファイル Profit.xls も一緒にインストールされています。このサンプル ファイルを使用して、データ範囲の取得方法を説明します。

▶ Profit.xls ファイルを表示するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[開く]を選択します。
2. %essbase%\client%\sample ディレクトリから、Profit.xls ファイルを開きます。

PC のソフトウェアのインストール状況によっては、このファイルにアクセスできないかまたはファイルが別のディレクトリにある場合があります。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

Profit.xls では、操作しやすくするためにセル範囲 (B2 ~ F9) があらかじめ選択されています。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2			100	Central				
3			Actual		Budget			
4			Sales	Profit %	Sales	Profit %		
5		Qtr1	1111	27.3	2222	34.5		
6		Qtr2	1111	28.4	2222	35.1		
7		Qtr3	1111	28.8	2222	35.3		
8		Qtr4	1111	27.6	2222	38.1		
9		Year	1111	28.1	2222	35.7		
10								
11								
12				Central	Actual	Profit %		
13		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year		
14		100-10	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	
15		100-20	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	
16		100-30	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	

図 3-26: 取得対象として選択されたセル範囲

3. [Essbase] > [取得] を選択して、選択した範囲を更新します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2			100	Central				
3			Actual		Budget			
4			Sales	Profit %	Sales	Profit %		
5		Qtr1	8074	27.3	8200	34.5		
6		Qtr2	8701	28.4	8870	35.1		
7		Qtr3	8894	28.8	9060	35.3		
8		Qtr4	8139	27.6	7800	38.1		
9		Year	33808	28.1	33930	35.7		
10								
11								
12				Central	Actual	Profit %		
13		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year		
14	100-10	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	
15	100-20	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	
16	100-30	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	

図 3-27: 最初のデータ範囲の取得結果

選択されたセル範囲のデータのみが更新されます。

4. セル B12 ~ G16 を選択します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2			100	Central				
3			Actual		Budget			
4			Sales	Profit %	Sales	Profit %		
5		Qtr1	8074	27.3	8200	34.5		
6		Qtr2	8701	28.4	8870	35.1		
7		Qtr3	8894	28.8	9060	35.3		
8		Qtr4	8139	27.6	7800	38.1		
9		Year	33808	28.1	33930	35.7		
10								
11								
12				Central	Actual	Profit %		
13		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year		
14	100-10	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	
15	100-20	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	
16	100-30	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0	

図 3-28: 取得対象のセルの選択

5. [Essbase] > [取得] をもう一度選択して、選択した範囲を更新します。
Hyperion Essbase により選択した範囲のデータが更新されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2			100	Central				
3			Actual		Budget			
4			Sales	Profit %	Sales	Profit %		
5		Qtr1	8074	27.3	8200	34.5		
6		Qtr2	8701	28.4	8870	35.1		
7		Qtr3	8894	28.8	9060	35.3		
8		Qtr4	8139	27.6	7800	38.1		
9		Year	33808	28.1	33930	35.7		
10								
11								
12				Central	Actual	Profit %		
13			Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year	
14		100-10	24.6	25.1	24.7	23.8	24.6	
15		100-20	29.6	31.3	32.1	29.7	30.7	
16		100-30	28.9	30.0	31.0	31.4	30.4	

図 3-29: 2 番目のデータ範囲の取得結果

6. Profit.xls を保存せずに閉じます。

関数を使用したデータの取得

Hyperion Essbase のセル取得関数である EssCell は、1 つのデータベース値を 1 つのワークシートセルに取得するときに使用できます。EssCell 関数をワークシートに直接入力するか、Lotus 1-2-3 のメニューバーから EssCell 関数を選択します。

注意: EssCell を使用するには、データベースに接続する必要があります。

EssCell は、Hyperion Essbase でデータ取得操作を実行したときまたは Lotus 1-2-3 でワークシートの再計算を実行したときに、データの取得を行う関数です。Hyperion Essbase をデフォルト インストールした場合は、サンプル ファイル Summary.xls も一緒にインストールされています。このサンプル ファイルでは、セル B16 および B17 に EssCell 関数があらかじめ設定されています。

▶ Summary.xls ファイルを表示するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[開く]を選択します。
2. %essbase%\client%\sample ディレクトリから、Summary.xls. ファイルを開きます。

PC のソフトウェアのインストール状況によっては、このファイルにアクセスできないまたはファイルが別のディレクトリにある場合があります。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

	A	B	C	D	E	F	G
1	200						
2	Texas						
3							
4		Budget					
5		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year	
6	Sales	1460	1560	1630	1320	5970	
7	COGS	560	590	630	500	2280	
8	Margin	900	970	1000	820	3690	
9	Marketing	160	160	170	120	610	
10	Payroll	60	60	60	110	290	
11	Misc	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
12	Total Expenses	220	220	230	230	900	
13	Profit	680	750	770	590	2790	
14							
15							
16	Year Sales	#N/A					
17	Year Margin %	#N/A					

図 3-30: EssCell 関数が設定されたワークシート

Summary.xls のセル B16 および B17 には、EssCell 関数が設定されています。これらのセルのどちらかを選択すると、ワークシートの先頭にある Lotus 1-2-3 の数式バーに、EssCell 関数の構文が表示されます。

EssCell 関数をセルに定義するときの構文は次のとおりです。

```
@EssCell(mbrList)
```

mbrList に指定できる値は次のいずれかです。

- **NULL 値** : 関数のパラメータが空であれば、Hyperion Essbase から各次元の先頭にあるデータ値が戻ります。

- **カンマ区切りのメンバ名リスト** : メンバ名は二重引用符で囲んで指定してください。指定できるメンバの数は、1つの次元につき1つのみです。特定の次元のメンバをリストに入れなかった場合、指定しなかった次元については、先頭のメンバのデータ値が戻されます。さらに、メンバリストでは別名の使用も可能です。別名を使用する場合も、メンバ名を使用する場合と同様のルールが適用されます。
- **Lotus 1-2-3 のセル参照** : 指定する参照は、有効なメンバ名を含むセルを指定する必要があります。200 や 300-10 などのメンバ名は、数値セルではなくテキストセルとしてフォーマット設定することが必要です。

たとえば、Summary.xls ファイルのセル B16 に設定されている EssCell 関数の構文は、次のとおりになります。

```
@EssCell("Sales", A1, A2, B4, F5)
```

ワークシートを開いた時点では、これらのセルの値は #N/A となります。これらの値をデータベース内のデータで更新するには、Hyperion Essbase からデータの取得を実行することが必要です。

3. [Essbase] > [取得] を選択します。

Hyperion Essbase により、セル B16 および B17 の EssCell 関数が計算されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1	200						
2	Texas						
3							
4		Budget					
5		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year	
6	Sales	1460	1560	1630	1320	5970	
7	COGS	560	590	630	500	2280	
8	Margin	900	970	1000	820	3690	
9	Marketing	160	160	170	120	610	
10	Payroll	60	60	60	110	290	
11	Misc	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
12	Total Expenses	220	220	230	230	900	
13	Profit	680	750	770	590	2790	
14							
15							
16	Year Sales	5970					
17	Year Margin %	61.81					

図 3-31: EssCell 関数を含むワークシートでのデータ取得

この時点で EssCell 関数を更新して、別の州のデータを取得します。

4. セル A2 の内容を "Texas" から "Florida" に変更します。

セルが更新されるとただちにセル B16 および B17 の値が更新されます。これは Lotus 1-2-3 によってワークシートが再計算されるためです (ただし、変更時に自動計算を行うことを Lotus 1-2-3 に設定している場合)。他のデータセルは変更されません。ワークシートを完全に更新するには、サーバからデータを取得する必要があります。

	A	B	C	D	E	F	G
1	200						
2	Florida						
3							
4		Budget					
5		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year	
6	Sales	1460	1560	1630	1320	5970	
7	COGS	560	590	630	500	2280	
8	Margin	900	970	1000	820	3690	
9	Marketing	160	160	170	120	610	
10	Payroll	60	60	60	110	290	
11	Misc	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
12	Total Expenses	220	220	230	230	900	
13	Profit	680	750	770	590	2790	
14							
15							
16	Year Sales	5030					
17	Year Margin %	60.04					

図 3-32: EssCell 関数の更新

ヒント: ワークシートに EssCell 関数が多数設定されている場合は、Lotus 1-2-3 を手動計算モードに切り替えてください。手動計算モードに切り替えると、データを手動で取得するかワークシートを手動で計算しない限り、セルを取得しても計算が行われない設定になります。詳細は、Lotus1-2-3 のマニュアルを参照してください。

5. [Essbase] > [取得] を選択して、レポートを更新します。

EssCell の実行が失敗した場合、Hyperion Essbase のエラーメッセージが表示されます。下の表に Hyperion Essbase によって EssCell のセルに表示されるメッセージを挙げてあります。各メッセージがどのような場合に表示されるかを説明します。

メッセージ	原因
#N/A	ワークシートがデータベースに接続されていません。
#VALUE!	リストまたは参照に指定したメンバ名が無効です。
#NAME?	関数に指定したテキスト名が二重引用符で囲まれていません。

6. Summary.xls を保存せずに閉じます。

このサンプルファイルでは、EssCell 関数があらかじめ定義されていました。自分で作成した EssCell 関数をワークシートに入力するには、次の手順に従ってください。

シートの最上部にある 1-2-3 の数式バーに EssCell 構文を入力します。

注意：EssCell 関数の詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインのオンラインヘルプを参照してください。

動的計算メンバの取得

動的計算メンバとは、通常のデータベース計算に要する時間を短縮するために、バッチ計算処理から除外されたデータベースメンバです。データベースアウトライン内の動的計算メンバには Hyperion Essbase のアプリケーションデザイナーによってタグが付けられます。このタグによって、個別のデータ取得要求があるまで動的計算メンバを計算しない指示を Hyperion Essbase に与えます。この計算方式を動的計算といいます。データベースメンバの動的計算を行うと、Hyperion Essbase サーバ側では次のようなメリットがあります。

- ディスク使用量の減少
- データベースの再構築に要する時間の短縮
- データベースのバックアップに要する時間の短縮

Hyperion Essbase によって動的に計算されるデータベース値の場合、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインにおけるデータ取得に要する時間が多少長くなります。これは Hyperion Essbase 側で、ワークシートにデータを取得する前に計算を実行することが必要なためです。動的計算の詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

ヒント: スプレッドシート レポートの編集を行う間は、[データ無し操作]機能を有効にしてください。これにより、レポートの作成中に、Hyperion Essbase がデータベースの動的計算を行うのを防ぐことができます。[データ無し操作]機能の詳細は、[2-43 ページの「データ取得無しでのワークシートの操作」](#)を参照してください。

動的計算メンバのデータ取得には時間がかかるので、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインで動的計算メンバを他のメンバと区別できるよう、動的計算メンバには固有のビジュアル キュー（スタイル）を定義する必要があります。

次に `Asymm.xls` ファイルを使用して、動的計算メンバの使用方法を説明します。

- ▶ `Asymm.xls` ファイルを表示するには、次の手順に従ってください。

 1. [ファイル]>[開く]を選択します。
 2. `¥essbase¥client¥sample` ディレクトリから、`Asymm.xls` ファイルを開きます。
 3. セル C3 でマウスの右ボタンをダブルクリックして、"Actual" のドリルアップを行います。
 4. セル C3 で、"Scenario" のドリルダウンを行い、"Scenario" のすべてのメンバを表示します。

"Scenario" のメンバは "Qtr1" についてのみ表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1					Sales		
2							
3			<i>Actual</i>	<i>Budget</i>	<i>Variance</i>	<i>Variance %</i>	<i>Scenario</i>
4			Qtr1	Qtr1	Qtr1	Qtr1	Qtr1
5	East	Colas	6292	5870	422	7.189097104	6292
6		Root Beer	5726	5460	266	4.871794872	5726
7		Fruit Soda	3735	3880	-145	-3.737113402	3735
8							
9	West	Root Beer	8278	7700	578	7.506493506	8278
10		Cream Soda	8043	6890	1153	16.73439768	8043

図 3-33: "Scenario" のメンバの表示

- [Essbase] > [オプション] を選択し、[スタイル] タブを選択します。

注意: [スタイル] タブを表示するには、Sample Basic データベースに接続されていることが必要です。データベースへの接続の詳細は、3-2 ページの「データベースへの接続」を参照してください。

- [メンバ] グループで、[動的計算] が表示されるまで下にスクロールします。
- [動的計算] チェック ボックスを選択し、[フォーマット] ボタンをクリックします。
- [フォントスタイル] リストから [Bold Italic] を選択します。
- [色] リストから [灰色] を選択します。
- [OK] をクリックして [表示] タブを選択します。
- [セル] オプション グループで [スタイルを使用] をクリックします。
[OK] をクリックします。

12. [Essbase] > [取得] を選択します。

データが表示され、設定したすべてのビジュアルキュー（スタイル）つまり動的計算メンバに対して新しく設定したスタイルと第 2 章で設定したスタイルの両方が適用されます。"Variance" および "Variance%" の列は、灰色の太斜体フォントで表示されるので、動的計算メンバであることがわかります。（"Variance" および "Variance%" の背景色は赤になっていますが、これは以前に "Scenario" 次元の全メンバの背景色として赤を指定したためです。）

	A	B	C	D	E	F	G
1					Sales		
2							
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4			Qtr1	Qtr1	Qtr1	Qtr1	Qtr1
5	East	Colas	6292	5870	422	7.189097104	6292
6		Root Beer	5726	5460	266	4.871794872	5726
7		Fruit Soda	3735	3880	-145	-3.737113402	3735
8							
9	West	Root Beer	8278	7700	578	7.506493506	8278
10		Cream Soda	8043	6890	1153	16.73439768	8043

図 3-34: 動的計算メンバの取得結果

注意: 場合によっては、動的計算メンバに対して定義したスタイルが、他のスタイル設定によって無効になる可能性もあります。たとえば、ある親メンバが動的計算メンバでもあるときに、親メンバと動的計算メンバの両方にスタイルを設定した場合、親メンバのスタイルの方が動的計算メンバのスタイルよりも優先されます。この場合、動的計算メンバのスタイルを有効にするには、親メンバのスタイルを削除する必要があります。スタイルの優先順位については、2-62 ページの「スタイルの指定が重複した場合の優先順位」を参照してください。

13. Asymm.xls ファイルを保存せずに閉じます。


動的時系列に対する最新時間間隔の指定

動的時系列メンバとは、年累計値または月累計値など、動的累計レポート作成に使用される既定義のデータベースメンバのことです。データベース アウトラインでは、動的時系列メンバは個別のメンバとして表されるのではなく、年、月、日などのキーとなる特定の時間間隔を使用した世代名に対応します。

たとえば、Sample Basic データベースでは、"Year" 次元の世代 2 に対して "Quarter" という世代名が作成されます。世代 2 には、"Qtr1"、"Qtr2"、"Qtr3"、"Qtr4" のメンバが含まれます。世代名 "Quarter" の作成時に、Hyperion Essbase によって "Q-T-D" という動的時系列メンバが作成されます。"Q-T-D" は、四半期累計 (Quarter-To-Date) を意味します。

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインで動的時系列を使用するには、必要な累計計算データの [最新時間間隔] を選択します。動的時系列メンバの計算値は、レポートに使用する最新時間間隔を定義したときに算出されます。たとえば Sample Basic データベースでは、"Year" 次元のレベル 0 メンバにあたるのは、"Jan"、"Feb"、"Mar" の個々の月です。当月が "8月" である場合に、当月までの四半期売上高データを知りたいときは四半期累計計算を行うと、"Jul" および "Aug" の売上高データを得ることができます。

▶ 上記の動的時系列の概念を実例で確認するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル] > [新規作成] を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。
2. [Essbase] > [オプション] を選択し、[ズーム] タブを選択します。
3. [ズーム イン] オプショングループから [次のレベル] を選択します。
4. [選択したグループ内] チェック ボックスのチェック マークを外し、[OK] をクリックします。
5. [Essbase] > [取得] を選択します。
6. セル B1 をダブルクリックして "Measures" のドリルダウンを行います。

7. セル B2 の "Year" をクリックします。
8. セル B2 に Q-T-D と入力して [Enter] を押し、あらかじめ定義した動的時系列メンバ (Q-T-D) を入力します。

	A	B	C	D	E
1			Product	Market	Scenario
2	Profit	Q-T-D	105522		
3	Inventory	Year	117405		
4	Ratios	Year	55.26162827		
5	Measures	Year	105522		
6					
7					

図 3-35: ワークシートへの動的時系列メンバの入力

注意: 他にどのような動的時系列メンバがあるかは、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプのリストを参照してください。

9. [Essbase] > [オプション] を選択し、[表示] タブを選択します。
10. [動的時系列] 領域で、[最新時間間隔] チェック ボックスを選択します。

11. リスト ボックスから "May" を選択します。[OK] をクリックします。

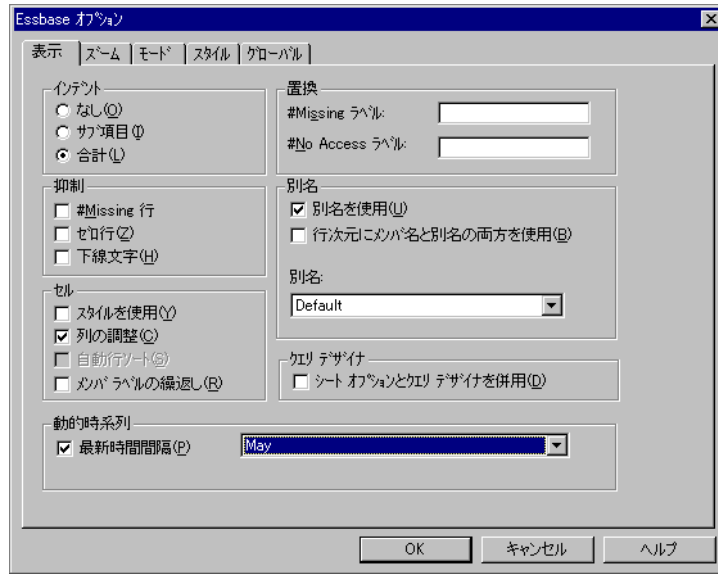


図 3-36: 動的時系列における最新時間間隔の指定

注意: 最新時間間隔を指定しなかった場合は、最初のレベル 0 メンバ ("Jan") がデフォルトとして使用されます。

12. [Essbase] > [取得] を選択します。

注意: [取得およびロック]、[ズーム イン]、[ズーム アウト] の各コマンドは、動的時系列メンバとともに使用できません。

"Q-T-D" メンバのデータが表示されます。ワークシート内のデータ値は、"Apr" および "May" の集計値です。これは、四半期累計の動的時系列における最新の月として "May" を指定したためです。

	A	B	C	D	E
1			Product	Market	Scenario
2	Profit	Q-T-D	17573		
3	Inventory	Year	117405		
4	Ratios	Year	55.26162827		
5	Measures	Year	105522		

図 3-37: 動的時系列における最新時間間隔の指定の結果

13. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

注意: 上記のレポートは簡単に作成できます。方法は Q-T-D (May) のとおり動的時系列メンバ名の後に最新時間間隔の名前をカッコで囲み入力するのみです。フリー フォーム取得モードでは、動的時系列メンバと最新時間間隔をこの順序で隣接するセルに入力することが必要です。動的時系列メンバと最新時間間隔は、Hyperion Essbase クエリ デザイナまたはメンバ選択機能を使用しても選択できます。

注意: 動的時系列の詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

代替変数の使用方法

Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナは、Hyperion Essbase 固有の値を表すグローバル変数を定義するために代替変数を使用します。たとえば、動的時系列における最新時間間隔を表す代替変数としては Latest を使用できます。アプリケーション デザイナは、Hyperion Essbase アプリケーション マネージャを使用して、代替変数と代替変数の特定アプリケーションにおける対応値を設定します。設定した変数と値は、Hyperion Essbase によって Hyperion Essbase サーバに保管されます。動的時系列レポートを作成するときは、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインにあらかじめ定義されている代替変数を利用できます。

例として、アプリケーション デザイナによって当月を表す代替変数がサーバに設定されている場合を考えてください。変数の名前は CurMnth で、値は "Aug" です。ワークシート内でこの代替変数を使用した場合、サーバ上では "Aug" が当月として設定されているため、データの取得を行うと "Aug" の値が戻ります。後になってアプリケーション デザイナが CurMnth 代替変数の値を "Oct" に変更した場合は、データの取得を行うと "Oct" のデータが戻ります。

チュートリアルで使用している Sample Basic データベースには、あらかじめ定義されている代替変数はありません。実際に使用するデータベースにアプリケーション デザイナが設定した代替変数が存在する場合、ワークシートに代替変数を直接入力できます。たとえば次のとおり、空のワークシートを開いてメンバ名を入力できます。

	A	B	C	D	E
1		Product	Measures	Market	Scenario
2	&CurMnth				
3					
4					
5					

図 3-38: ワークシートへの代替変数の入力

注意: セル A2 の代替変数 CurMnth に注目してください。セルに代替変数を直接入力するときは、その変数の前にアンパサンド (&) を付ける必要があります。

この例の場合、データの取得を行うと次の結果になります。

	A	B	C	D	E	F
1		Product	Measures	Market	Scenario	
2	Aug	9545				
3						
4						
5						

図 3-39: 代替変数に対するデータ取得の結果

Hyperion Essbase から該当のサーバに対して、代替変数 CurMnth の値 ("Aug") についてのクエリが行われます。戻されるデータは "Aug" のデータのみです。

注意: 代替変数を含むワークシートをテンプレートとして保存する場合は、データを取得する前に必ずワークシートを保存してください。たとえば、図 3-39 に示すワークシートをテンプレートとして保存した場合、このテンプレートを取得するたびに代替変数 CurMnth ではなく "Aug" が表示されます。

フリー フォーム レポート作成によるデータ取得

ここまでアドホックなデータ取得や、Hyperion Essbase クエリ デザイナのクエリおよびメンバ選択操作による Hyperion Essbase データをワークシートに取得する方法を学習しました。Hyperion Essbase では、前述の取得方法以外にも、フリー フォーム レポート作成がサポートされています。フリー フォーム レポート作成を使用すると、ワークシートにデータを入力するのみで、特定の取得対象を Hyperion Essbase に指示できます。フリー フォーム レポート作成は、データベース アウトライン内の次元とメンバを詳しく把握している場合に特に便利です。

Hyperion Essbase でのフリー フォーム レポート作成によるデータ取得には次の 2 つのモードがあります。

- 詳細設定
- フリー フォーム

どちらの取得モードでも、ワークシートに直接、メンバ名を入力する点は同じです。次に、2 つのモードの類似点と相違点を説明します。


詳細設定モードの使用方法

データ取得要求を発行すると、Hyperion Essbase サーバのスパレッドシート詳細設定エンジンによりワークシートが走査され、内容が解釈されます。詳細設定取得モードでワークシートへの名前の直接入力によってレポートを作成する場合、Hyperion Essbase によりメンバ名が解釈され、レベルの位置に基づいたデフォルト ビューが作成されます。

詳細設定モードで作業を行うときは、次の点に注意が必要です。

- メンバ名が数字の場合は、メンバ名の前に必ず一重引用符を付けることが必要です。たとえば "Product" 次元のメンバである "100" の場合は、ワークシートに '100 と入力します。
- 一部のデータベース次元だけを使ってレポートを定義する場合、最初のデータセルに 0 などのダミー値の入力が必要になることもあります。Hyperion Essbase ではこのダミー値をデータ取得時にデータベースセルの内容によって上書きします。ダミー値として使用できる値は数値のみです。

▶ 詳細設定取得モードでフリー フォーム レポートを作成するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。
2. [Essbase]>[オプション]を選択し、[モード]タブを選択します。
3. [取得]オプショングループで[詳細設定](デフォルト設定)を選択し、[OK]をクリックします。

4. 下の図に示すようにメンバ名およびデータを入力します。

注意：メンバ名が数字の場合（たとえば、100）は、メンバ名の前に必ず一重引用符を付ける必要があります（たとえば、'100'）。このルールは、メンバ名を構成するワード間にスペースが入っている場合も適用されます。

	A	B	C	D	E	F
1	Sales	East	Budget			
2						
3		Qtr1	Qtr2			
4	100					
5	200					
6	300					
7	400					
8						
9						

図 3-40: 新しいフリー フォーム レポートの作成

5. [Essbase] > [取得] を選択するか、任意のデータ セルをダブルクリックします。

Hyperion Essbase によりフリー フォーム レポートに入力したメンバのデータが取得され、この章の冒頭で [Essbase オプション] ダイアログ ボックス上で設定した [別名を使用] オプションが有効になります。

	A	B	C	D	E	F
1	Sales	East	Budget			
2						
3		Qtr1	Qtr2			
4	Colas	5870	6760			
5	Root Beer	5460	5650			
6	Cream Soda	3680	4030			
7	Fruit Soda	3880	4150			
8						

図 3-41: フリー フォーム レポートへのデータの取得

次に、データベースの一部の次元のみを使用してフリー フォーム レポートを定義する手順を示します。詳細設定モードでは、ワークシート内でのデータの起点を Hyperion Essbase に指示するために、最初の Hyperion Essbase データセルに 0 といったダミーのデータ値の入力が必要な場合もあります。ダミー値として使用できる値は数値のみです。

例：

1. [Essbase] > [復元] を選択します。
2. セル A1、B1、C1 を削除します。
3. セル B4 に 0 と入力して、Hyperion Essbase にデータ セルの参照ポイントを指定します。

	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3		Qtr1	Qtr2			
4	100	0				
5	200					
6	300					
7	400					
8						

図 3-42: 一部の次元のみを使ったフリー フォーム レポートの定義

4. [Essbase] > [取得] を選択します。

フリー フォーム レポートに組み込まなかった次元が Hyperion Essbase によってワークシートに追加され、データの取得が行われます。

	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3		Measures	Market	Scenario		
4		Qtr1	Qtr2			
5	Colas	7048	7872			
6	Root Beer	6721	7030			
7	Cream Soda	5929	6769			
8	Fruit Soda	5005	5436			
9						

図 3-43: 一部の次元のみを使ったフリー フォーム レポートでのデータの取得

5. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。


フリー フォーム モードの使用法

詳細設定モードの場合と同様にフリー フォーム モードでも、ワークシート内の任意の場所にメンバ名を入力できます。ワークシートの内容は、データ取得要求の処理の過程で解釈されます。さらにフリー フォーム モードでは、ワークシートへのデータの取得に、Hyperion Essbase のレポート スクリプト コマンドを使用できます。

レポート スクリプト コマンドは、最新のメンバ情報を動的に戻すメンバ参照を定義するとき特に便利です。たとえば最後に行ったデータ取得以降に、追加された製品を含むすべての製品を表示するレポートを作成する場合を考えてください。標準の取得モードでは、該当の製品に対してズーム インを行わない限り、追加された製品はレポートに反映されません。レポート スクリプト コマンド <IDESCENDANTS を使用すると、Hyperion Essbase により指定したメンバとそのすべての子孫が取得されます。レポート スクリプト コマンドの構文とレポート作成方法の詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』および DOCS ディレクトリ内の『テクニカル リファレンス』オンライン マニュアルを参照してください。

フリー フォーム 取得モードで作業を行うときは、次の点に注意してください。

- メンバ名が数字の場合は、メンバ名の前に必ず一重引用符を付ける必要があります。たとえば "Product" 次元のメンバである "100" の場合は、ワークシートに '100 と入力する必要があります。
- フリー フォーム モードでは取得操作のキャンセルはできません。
- フリー フォーム モードでは Hyperion Essbase のスタイルは適用できません。
- Hyperion Essbase により、データ取得時には空の行や列は常に削除されます。
- フリー フォーム モードでは、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [表示] タブにある [行の自動ソート] オプションが有効になります。このオプションを選択した場合、データは対称の行に取得されます。これらの行は、データベース アウトラインで指定された順序でソートされます。

- 式の保存オプションとモード オプション ([Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [モード] タブ) の中には、フリー フォーム モードでは使用できないものもあります。
 - フリー フォーム モードで動的時系列を使用する場合、動的時系列メンバと最新時間間隔を同じセルに指定できません (たとえば、"Q-T-D (Feb)" といった指定)。1 つのセルに Q-T-D などの動的時系列メンバを入力し、その隣の (別の) セルに最新時間間隔を (Feb) のようにカッコで囲んで入力する必要があります。
- ▶ フリー フォーム取得モードでフリー フォーム レポートを作成するには、次の手順に従ってください。
1. [ファイル] > [新規作成] を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。
 2. [Essbase] > [オプション] を選択し、[モード] タブを選択します。
 3. [取得] オプション グループで [フリー フォーム] を選択します。
 4. [表示] タブを選択します。
 5. [セル] オプション グループで、[行の自動ソート] を選択します。
[OK] をクリックします。
 6. 図 3-44 に示すとおりに入力します。

	A	B	C	D	E	F
1	Product	COGS				
2	Jan					
3	East					
4	Budget					
5	Actual					
6						
7						

図 3-44: フリー フォーム レポートでのメンバ名の入力

7. [Essbase] > [取得] を選択します。


Hyperion Essbase により、指定したメンバのデータが取得され、ラベルの位置に従ってデフォルト ビューが作成されます。3 つのメンバについて、行グループから列グループへのピボットが行われている点に注意してください。

	A	B	C	D	E	F
1		Product	COGS	Jan	East	
2	Budget	2590				
3	Actual	3007				
4						
5						

図 3-45: フリー フォーム取得モードでのデータ取得の結果

8. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

これで、メンバ名とレポート スクリプト コマンドを入力してレポートを作成する準備が整いました。

1. [ファイル] > [新規作成] を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。
2. 図 3-46 に示すとおり、空のワークシートにメンバ名を入力します。

	A	B	C	D	E	F
1		Actual	Sales	East		
2		Jan	Feb	Mar		
3						
4						
5						

図 3-46: フリー フォーム レポートでのメンバ名の入力

3. セル A3 に <IDESCENDANTS Product と入力します。[Enter] を押します。

	A	B	C	D
1		Actual	Sales	East
2		Jan	Feb	Mar
3	<IDESCENDANTS			
4				
5				

図 3-47: フリー フォーム レポートでのレポート スクリプト コマンドの入力

4. [Essbase] > [取得] を選択します。

Hyperion Essbase により、"Product" のすべての子孫のデータと、ワークシートに入力したメンバのデータが、ワークシートに取得されます。

	A	B	C	D	E	F
1		Actual	Sales	East		
2		Jan	Feb	Mar		
3	Cola	1812	1754	1805		
4	Diet Cola	200	206	214		
5	Caffeine Free Cola	93	101	107		
6	Colas	2105	2061	2126		
7	Old Fashioned	647	668	672		
8	Diet Root Beer	310	310	312		
9	Sasparilla	#Missing	#Missing	#Missing		
10	Birch Beer	896	968	923		
11	Root Beer	1853	1966	1907		
12	Dark Cream	999	1012	1026		

図 3-48: レポート スクリプト コマンドを使用したデータ取得の結果


注意: Hyperion Essbase によるデータの取得が完了すると、レポート スクリプト コマンドは戻されたデータによって上書きされます。フリー フォーム モードでは、[復元] を使用して 1 つ前のビューを復元できます。

5. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

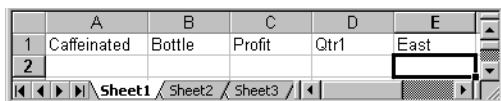
フリー フォーム レポート作成における属性の使用

Hyperion Essbase では、基本次元に関連付けられている属性を指定すると、データを選別して取得できます。たとえば Sample Basic データベースでは、"Product" 基本次元にはパッケージ種別やサイズなどの属性が関連付けられています。ワークシートに属性名を入力して、その属性に対応するデータの取得が可能です。

- ▶ フリー フォーム レポートで属性を使用するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル]>[新規作成]を選択するか  アイコンをクリックして、新しいワークシートを開きます。
2. 図 3-49 に示すとおりに入力します。

"Caffeinated" は、"Product" 基本次元に関連付けられた属性次元の 1 つです。"Bottle" は "Pkg_Type" 属性次元のレベル 0 メンバの 1 つです。"Pkg_Type" 次元は "Product" 基本次元と関連付けられています。レベル 0 メンバとは、ある次元の最下位レベルのメンバのことです。



	A	B	C	D	E
1	Caffeinated	Bottle	Profit	Qtr1	East
2					

図 3-49: フリー フォーム レポートでの属性の使用方法

3. 任意の空きセルをクリックして [Essbase]>[取得]を選択するか、任意の空きデータセルをダブルクリックします。

Hyperion Essbase により "Product" 基本次元のメンバのうち、"Caffeinated" 属性次元のレベル 0 属性メンバ ("Caffeinated_True" および "Caffeinated_False") と "Pkg_Type" 属性次元のレベル 0 メンバ ("Bottle") の両方に関連付けられたすべてのメンバについて、当該年度の第 1 四半期の収益についての情報が取得されます。結果は次のとおりになります。

	A	B	C	D	E	F
1		Caffeinated	Bottle	Profit	Qtr1	East
2	Scenario	2604				
3						

図 3-50: フリー フォーム レポートで属性を使用した結果

- "Caffeinated" 属性次元のレベル 0 属性メンバのデータへのドリルダウンが可能です。結果は次のとおりになります。

	A	B	C	D	E	F
1			Bottle	Profit	Qtr1	East
2	Caffeinated_True	Scenario	142			
3	Caffeinated_False	Scenario	2462			
4						

図 3-51: フリー フォーム レポートでの属性のドリルダウン

- "East" 基本次元のすべてのメンバについて、第 1 四半期の利益に関するデータをさらにドリルダウンするため、セル E1 をダブルクリックします。結果は次のとおりになります。


	A	B	C	D	E	F
1				Bottle	Profit	Scenario
2	New York	Caffeinated_True	Year	-2050		
3		Caffeinated_False	Year	6754		
4		Caffeinated	Year	4704		
5	Massachusetts	Caffeinated_True	Year	30		
6		Caffeinated_False	Year	1577		
7		Caffeinated	Year	1607		
8	Florida	Caffeinated_True	Year	1727		
9		Caffeinated_False	Year	934		
10		Caffeinated	Year	2661		
11	Connecticut	Caffeinated_True	Year	1134		
12		Caffeinated_False	Year	742		
13		Caffeinated	Year	1876		
14	New Hampshire	Caffeinated_True	Year	-84		
15		Caffeinated_False	Year	842		
16		Caffeinated	Year	758		
17	East	Caffeinated_True	Year	757		
18		Caffeinated_False	Year	10849		
19		Caffeinated	Year	11606		

図 3-52: "East" のドリルダウンの結果

世代名とレベル名の入力

フリー フォーム レポートにデータベース メンバ名を入力できるのみでなく、世代名やレベル名もワークシートに直接入力して特定のメンバを取得できます。データベース アウトラインにおけるデータベース次元の世代名とレベル名は、Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナが定義します。データベースでどのような世代名およびレベル名が定義されているかを調べるには、次の 2 通りの方法があります。

- [Essbase メンバの選択] ダイアログ ボックスまたは Hyperion Essbase クエリ デザイナを使用して、世代名およびレベル名を表示する。
 - Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナに連絡して、世代名とレベル名がデータベース アウトラインでどのように定義されているかを問い合わせる。
- ▶ フリー フォーム レポートに世代名とレベル名を直接入力するには、次の手順に従ってください。

1. [ファイル] > [新規作成] を選択するか  アイコンを選択して、新しいワークシートを開きます。
2. [Essbase] > [オプション] を選択し、[モード] タブを選択します。
3. [取得] オプション グループで [詳細設定] を選択し、[OK] をクリックします。[OK] をクリックします。
4. 図 3-53 に示すとおりメンバ名を入力します。

	A	B	C	D	E	F
1		Sales	Budget	West	Year	
2						
3						
4						
5						
6						

図 3-53: フリー フォーム レポートでのメンバ名の入力

5. 図 3-54 に示すとおりに世代名を入力します。

Family は "Product" 次元における世代名の 1 つです。この世代名は、Sample Basic データベースであらかじめ定義済みです。

	A	B	C	D	E	F
1		Sales	Budget	West	Year	
2	Family					
3						
4						
5						
6						

図 3-54: フリー フォーム レポートでの世代名の入力

6. [Essbase] > [取得] を選択します。

Hyperion Essbase により、入力したメンバ名と世代名に対応するデータが取得されます。Family という世代名が個々のメンバに展開されます。

	A	B	C	D	E	F
1		Sales	Budget	West	Year	
2	Colas	34830				
3	Root Beer	31810				
4	Cream Soda	30480				
5	Fruit Soda	22730				
6	Diet Drinks	35690				
7						

図 3-55: 世代名を指定したフリー フォーム取得の結果

7. 下の図に示すとおりに "Year" をレベル名 (Lev0,Year) に変更します。

	A	B	C	D	E	F
1		Sales	Budget	West	Lev0,Year	
2	Colas	34830				
3	Root Beer	31810				
4	Cream Soda	30480				
5	Fruit Soda	22730				
6	Diet Drinks	35690				
7						

図 3-56: フリー フォーム レポートでのレベル名の入力

注意: 0 とカンマの間やカンマと Year の間にスペースを入れないよう注意してください。ワークシートに直接入力する場合、世代名とレベル名は正確に入力する必要があります。

8. [Essbase] > [取得] を選択します。

Hyperion Essbase により、"Year" 次元のレベル 0 メンバ ("Jan"、"Feb"、"Mar" といった個々の月) のデータが取得されます。

	A	B	C	D	E	F
1			Sales	Budget	West	
2	Jan	Colas	2860			
3		Root Beer	2540			
4		Cream Soda	2220			
5		Fruit Soda	1840			
6		Diet Drinks	2810			
7	Feb	Colas	2820			
8		Root Beer	2560			
9		Cream Soda	2310			
10		Fruit Soda	1840			
11		Diet Drinks	2900			
12	Mar	Colas	2820			

図 3-57: レベル名を指定したフリー フォーム取得の結果

9. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。このワークシートの保存は不要です。

リンク レポート オブジェクトの使用方法

リンク レポート オブジェクトとは、Hyperion Essbase データベースのセルにリンクされた外部ファイル、セル ノート、または WWW (World Wide Web) リソースのことです。リンクされたファイル、ノート、Web リソース (URL : Uniform Resource Locator で表記) は、データベースへのアクセス権を持つ Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ユーザによる取得が可能です。

注意: Hyperion Essbase パーティショニング オプションのライセンスを取得し、このオプションを組み込んでいる場合は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのセルからリンクパーティションへもアクセスできます。リンクパーティションの詳細は、3-86 ページの「リンクパーティションへのアクセス」を参照してください。

この項では、次の操作の手順を説明します。

- 3-65 ページ「ファイルからデータセルへのリンク」

- 3-69 ページ「データセルへのセルノートのリンク」
- 3-71 ページ「データセルへの URL のリンク」
- 3-75 ページ「リンクレポートオブジェクトのアクセスおよび編集」

注意：リンクレポートオブジェクトの使用の詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインのオンラインヘルプを参照してください。

ファイルからデータセルへのリンク

リンクレポートオブジェクト機能を使用すると、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインのデータセルに外部ファイルをリンクできます。リンクした外部ファイルは、Hyperion Essbase によって Hyperion Essbase サーバ上に保管されます。したがって、Hyperion Essbase のデータベースへのアクセス権を持つユーザは、このファイルを取得してファイルに保管されているデータをセル内に表示できます。

次に例として、`Asymm.xls` サンプルワークシートに Sample Basic データベースのデータを使用する手順を示します。この例では、サンプルファイル `Budasmp.txt` を "Budget" の値が入ったセルにリンクします。`Budasmp.txt` には、現在の年度の詳しい Budget 値が格納されています。

次の手順に従ってデータセルにファイルをリンクしてください。

1. [ファイル]>[開く]を選択します。
2. `¥essbase¥client¥sample` ディレクトリから、`Asymm.xls` ファイルを開きます。
3. Sample Basic データベースに接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、3-2 ページの「データベースへの接続」を参照してください。

4. セル D5 を選択します。

注意：オブジェクトのリンク先はデータセルのみです。メンバ名のセルにはリンクできません。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Sales							
2								
3			<i>Actual</i>	<i>Budget</i>	<i>Budget</i>	<i>Budget</i>		
4			Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4		
5	East	Colas	6292	6760	7300	5570		
6		Root Beer	5726	5650	5600	5780		
7		Fruit Soda	3735	4150	4350	3850		
8								
9	West	Root Beer	8278	7970	8320	7820		
10		Cream Soda	8043	7720	8300	7570		
11								

図 3-58: 外部ファイルをリンクする対象となるデータセルの選択

5. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します。

[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスが表示されます。

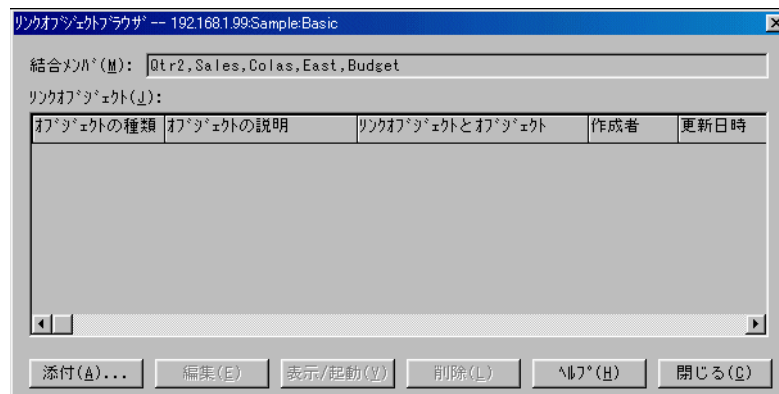


図 3-59: ファイルのリンク

6. [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスで、[添付] ボタンをクリックします。

[リンク オブジェクトの添付] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [添付タイプ] オプション グループで、[ファイル] を選択します。

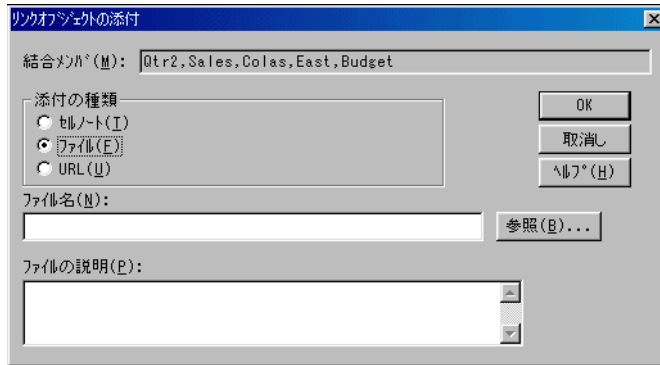


図 3-60: ファイルからデータ セルへのリンク

8. [ファイル名] テキスト ボックス横の [参照] ボタンをクリックします。
[ファイルを参照] ダイアログ ボックスが表示されます。
9. %essbase%\client\%sample ディレクトリに移動して、Budasmp.txt ファイルを選択します。
10. [開く] をクリックします。

11. 図 3-61 に示すとおりに [ファイルの説明] 領域にファイルについての簡単な説明を入力します。

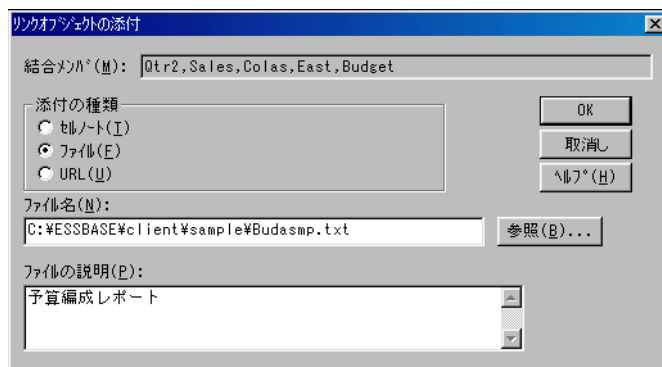


図 3-61: リンクするファイルの選択と説明の入力

注意: [ファイルの説明] テキスト ボックスへの入力はオプションです。

12. [OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じ、ファイルをセルにリンクします。
- Hyperion Essbase によりファイルがサーバにコピーされ、現在のデータセルとのリンクが確立されます。
13. [閉じる] をクリックして、[**リンク オブジェクト ブラウザ**] ダイアログ ボックスを閉じます。
14. Asymm.xls ファイルは次の操作でも使用するので、開いたままにします。

リンク レポート オブジェクトは、添付されているセルにビジュアル キュー (スタイル) を適用して、他のセルと区別できます。

- ▶ スタイルを適用するには次の手順に従ってください。
 1. [Essbase] > [オプション] を選択し、[**スタイル**] タブを選択します。
 2. [データ セル] 領域で、[**リンク オブジェクト**] を選択します。
 3. [**フォーマット**] をクリックします。

4. [**フォントスタイル**] リスト ボックスから [**Italic**] を選択します。
5. [**色**] リスト ボックスから [**灰色**] を選択します。 [**OK**] をクリックします。
6. [**表示**] タブを選択します。
7. [**セル**] オプション グループで、 [**スタイルを使用**] ボックスを選択します。 [**OK**] をクリックします。
8. [**Essbase**] > [**取得**] を選択してワークシートの表示をリフレッシュし、スタイルを適用します。

セル D5 (ファイルをリンクしたセル) が紫の斜体フォントに変わります。さらにワークシートの表示がリフレッシュされ、 [**Essbase オプション**] ダイアログ ボックスで設定した他のオプションも有効になります。

	A	B	C	D	E	F
1	Sales					
2						
3			Actual	Budget	Budget	Budget
4			Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
5	East	Colas	6292	6760	7300	5570
6		Root Beer	5726	5650	5600	5780
7		Fruit Soda	3735	4150	4350	3850
8						
9	West	Root Beer	8278	7970	8320	7820
10		Cream Soda	8043	7720	8300	7570
11						

図 3-62: リンク レポート オブジェクトのセルへのスタイルの適用結果

9. Asymm.xls ファイルは次の操作でも使用するのので、開いたままにします。

データ セルへのセル ノートのリンク

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのデータ セルには、外部 ファイルをリンクできるのみでなく、特定のデータ セルについての情報を含む個別のセル ノートのリンクもできます。セル ノートにはシングル バイト換算で 599 文字まで使用できます。599 文字よりも長い情報をデータ セルにリンクすることが必要な場合は、外部ファイルを作成してそのファイルをデータ セルにリンクしてください。

- ▶ セル ノートをデータ セルにリンクするには、次の手順に従ってください。

1. Asymm.xls ファイルで、セル C5 を選択します。

注意: オブジェクトのリンク先はデータ セルのみです。メンバ名のセルにはリンクできません。

2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します。

[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスが表示されません。

3. [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスで、[添付] をクリックします。

[リンク オブジェクトの添付] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [添付タイプ] オプショングループで、[セル ノート] を選択します。

5. 下の図に示すとおり [セル ノート] ボックスにノートを入力します。

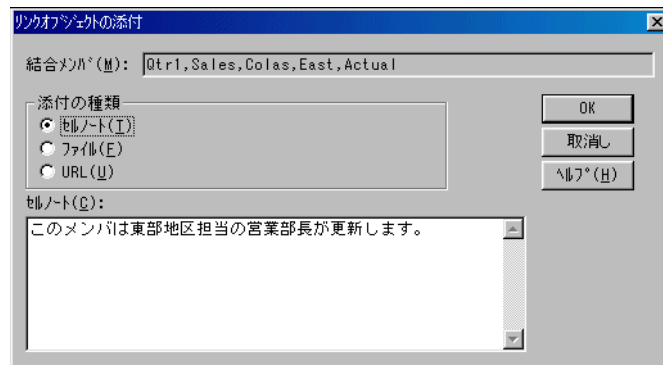


図 3-63: リンクするセル ノートの作成

6. [OK] をクリックします。ダイアログ ボックスが閉じ、作成したセル ノートがリンクされます。

Hyperion Essbase によりノートがサーバにコピーされ、現在のデータセルとのリンクが確立されます。

7. [閉じる] をクリックして、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスを閉じます。
8. [Essbase] > [取得] を選択してワークシートの表示をリフレッシュし、リンク オブジェクトに対して定義したスタイルを適用します。

2 つのデータ セル (C5 および D5) のフォントが、リンク レポート オブジェクトを含んだセルであることを示す、紫の斜体フォントに変わります。

A	B	C	D	E	F	G
1	Sales					
2						
3		Actual	Budget	Budget	Budget	
4		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	
5	East	Colas	6292	6760	7300	5570
6		Root Beer	5726	5650	5600	5780
7		Fruit Soda	3735	4150	4350	3850
8						
9	West	Root Beer	8278	7970	8320	7820
10		Cream Soda	8043	7720	8300	7570
11						

図 3-64: リンク セル ノート作成の結果

9. Asymm.xls ファイルは次の操作でも使用するのので、開いたままにします。

データ セルへの URL のリンク

URL とは、文書、画像、ダウンロード可能なファイルなどの WWW (World Wide Web) 上のリソースを識別するアドレス文字列です。リンク レポート オブジェクト機能を使用すると、データ セルに URL をリンクしてデータベースへのアクセス権を持つユーザは指定の URL に直接リンクできます。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからこのセルへアクセスしたとき、デフォルトの Web ブラウザが開かれて、指定の URL が表示されます。

注意: URL 構文の詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

Web ブラウザを持っていてインターネットにアクセスできる場合は、次の手順に従ってデータセルを Hyperion の Web サイトにリンクしてください。

1. Asymm.xls ファイルで、セル E5 を選択します。

注意：オブジェクトのリンク先はデータセルのみです。メンバー名のセルにはリンクできません。

A	B	C	D	E	F	G
1	Sales					
2						
3			Actual	Budget	Budget	Budget
4			Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
5	East	Colas	6292	6768	7300	5570
6		Root Beer	5726	5650	5600	5780
7		Fruit Soda	3735	4150	4350	3850
8						
9	West	Root Beer	8278	7970	8320	7820
10		Cream Soda	8043	7720	8300	7570
11						

図 3-65: URL のリンク先データセルの選択

2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します。

[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスが表示されません。

3. [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスで、[添付] をクリックします。

[リンク オブジェクトの添付] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [添付タイプ] オプション グループで [URL] を選択します。

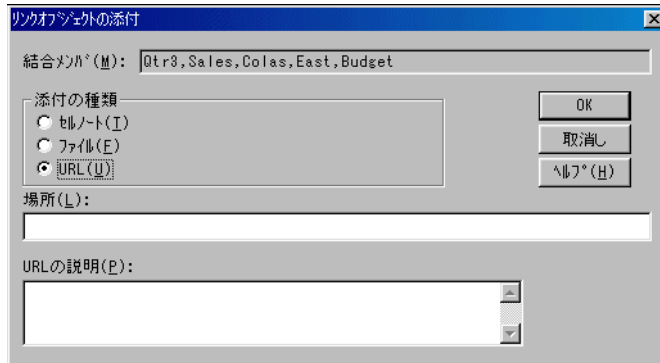


図 3-66: データ セルへの URL のリンク

5. 図 3-67 に示すとおり [場所] テキスト ボックスに URL を、[URL 記述] テキスト ボックスに簡単な説明をそれぞれ入力します。

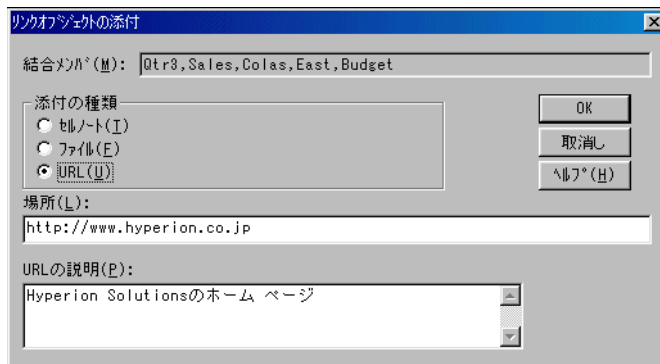


図 3-67: リンクする URL とその説明の入力

注意: [URL 記述] テキスト ボックスへのテキストの入力はオプションです。URL の場所を入力するためのテキスト フィールドにはシングル バイト換算で 512 文字まで入力できます。URL の説明を入力するためのテキスト フィールドにはシングル バイト換算で 80 文字まで入力できます。

6. [OK] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じ、URL をセルにリンクします。

Hyperion Essbase により、URL 文字列がサーバにコピーされ、現在のデータ セルとのリンクが確立されます。

注意: URL の構文は作成時には検査されません。Hyperion Essbase による構文の検査は、ユーザがワークシートからその URL にアクセスするときに行われます。デフォルトの Web ブラウザの場合、URL の有無と有効性の検査が行われます。

7. [閉じる] をクリックして、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスを閉じます。
8. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシートの表示をリフレッシュし、リンク オブジェクトに対して定義したスタイルを適用します。
9. `Asymm.xls` ファイルは次の操作でも使用するので、開いたままにします。

ここまで、リンク レポート オブジェクトの作成方法を学習しました。今度は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからリンク レポート オブジェクトにアクセスする方法を学習します。

リンク レポート オブジェクトのアクセスおよび編集

データセルに添付されたリンク レポート オブジェクトへアクセスおよび編集するには、次の 2 通りの方法があります。

- リンク先のセル（スタイルが適用されているので他のセルと区別できません）を選択し、[Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択する。
- リンク オブジェクトの参照にダブルクリックを使用できるようにする。

注意：リンク オブジェクトの参照にダブルクリックを使用可能になると、データの取得やドリル処理におけるダブルクリックの役割が変わります。詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

このチュートリアルでは、ダブルクリックではなく Essbase のメニュー項目を使用して、リンク レポート オブジェクト（前の数項で作成済み）にアクセスします。

リンク ファイルへのアクセス

データ セルにリンクした外部ファイルを検査する場合も考えられます。

- ▶ データ セルにリンクした外部ファイルへアクセスするには、次の手順に従ってください。
 1. Asymm.xls ファイルで、セル D5 を選択します。
 2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します。
 3. [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスで、Budasmp.txt ファイルを選択します。

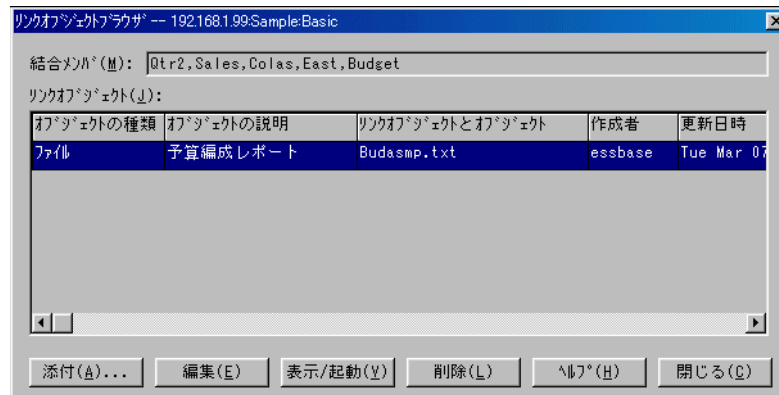


図 3-68: リンクした外部ファイルへのアクセス

4. [表示 / 起動] をクリックして、リンク ファイル Budasmp.txt を表示します。

Budasmp.txt ファイルがソース アプリケーションから開かれます。

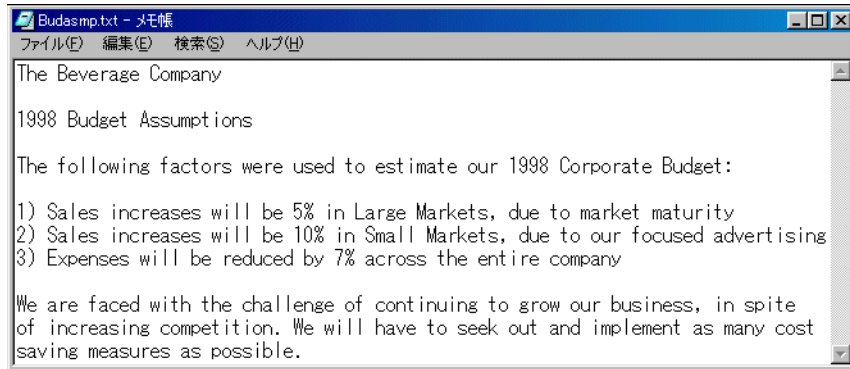


図 3-69: リンク外部ファイルの内容の表示

注意: ファイルの内容の編集にはソース アプリケーションを使用してください。編集が終わってファイルを保存したら、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスの [編集] ボタンをクリックすると、編集したファイルを再添付できます。[リンク オブジェクトの再添付] ダイアログ ボックスが表示されるので、このダイアログ ボックスを使用して編集したファイルをデータ セルに再添付 (再リンク) できます。詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

5. Budasmpt.txt ファイルを閉じ、[閉じる] をクリックして [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスを閉じます。
6. Asymm.xls ファイルは、次の操作でも使用するので、開いたままにします。

リンク セル ノートへのアクセス

以前に作成したセル ノートの編集が必要になる場合もあります。

- ▶ 前に作成したセル ノートへアクセスして編集するには、次の手順に従ってください。

1. Asymm.xls ファイルで、セル C5 を選択します。
2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します。

[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスに、選択したデータ セルにリンクされているセル ノートが表示されます。

3. [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスで、目的のセル ノートを選択します。



図 3-70: リンク セル ノートへのアクセス

- セル ノートの内容を編集するには、[**編集**] をクリックします。
[**セルノートの編集**] ダイアログ ボックスが開いて、選択したセル ノートが表示されます。

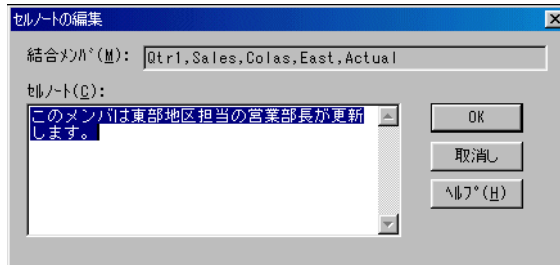


図 3-71: リンク セル ノートの内容の編集

注意: セル ノートの内容を表示するのみの場合は、[**リンク オブジェクト ブラウザ**] ダイアログ ボックスで、[**編集**] ボタンではなく [**表示 / 起動**] ボタンをクリックしてください。

- 下の図に示すとおりセル ノートの内容を編集します。



図 3-72: セル ノートの内容を編集した結果

- [**OK**] をクリックします。[**セルノートの編集**] ダイアログ ボックスが閉じ、セル ノートに対して行った編集内容が保存されます。

Hyperion Essbase によりセルに対して行った編集の内容がサーバ上に保存されます。

7. **[閉じる]** をクリックして、**[リンク オブジェクト ブラウザ]** ダイアログ ボックスを閉じます。
8. `Asymm.xls` ファイルは次の操作でも使用するのので、開いたままにします。

リンク URL へのアクセス

3-71 ページ「データセルへの URL のリンク」の手順が済んでいる場合は、作成した URL へアクセスして編集ができます。

- ▶ リンク URL へアクセスするには次の手順に従ってください。
 1. `Asymm.xls` ファイルで、セル E5 を選択します。
 2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します。
[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスに、選択したデータセルにリンクされている URL が表示されます。
 3. **[リンク オブジェクト ブラウザ]** ダイアログ ボックスで、目的の URL を選択します。

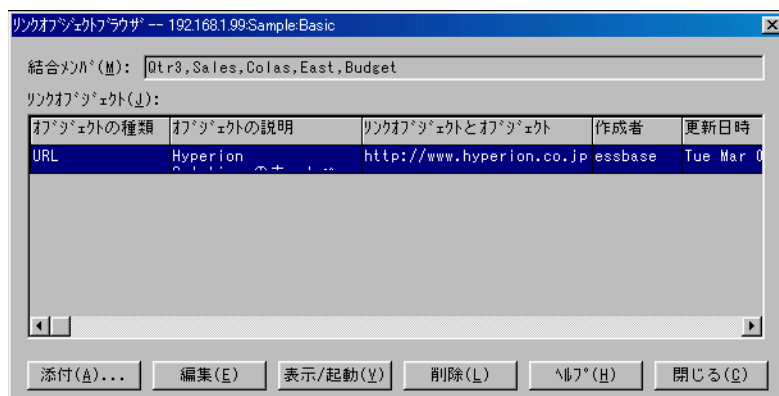


図 3-73: リンク URL へのアクセス

4. リンク URL を表示するには、[表示 / 起動] をクリックします。

Hyperion Essbase により、URL の構文の検査が行われます。構文エラーがあった場合は、エラーメッセージが表示されます。URL の構文が正しければ、デフォルトの Web ブラウザが起動して指定のサイトへの接続が行われます。この例の場合、URL の構文は正しかったため、デフォルトの Web ブラウザが起動して Hyperion の Web サイトへの接続が行われます。

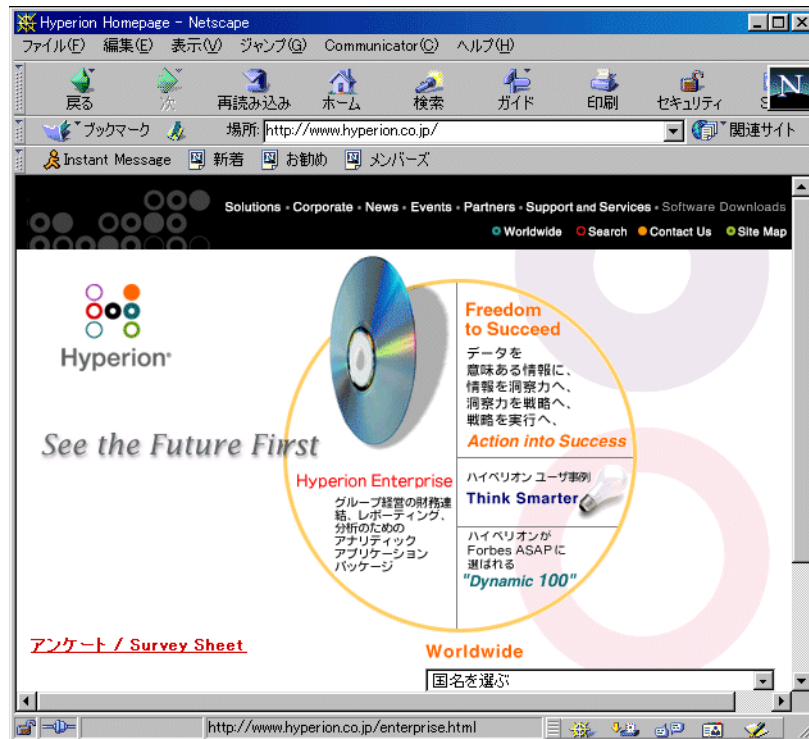


図 3-74: リンク URL の表示

5. Web ブラウザを閉じます。

- ▶ リンク URL を編集するには、次の手順に従ってください。
1. [**リンク オブジェクト ブラウザ**] ダイアログ ボックスで、目的の URL を選択します。
 2. リンク URL を編集するには、[**編集**] をクリックします。
選択した URL が表示された [**URL 編集**] ダイアログ ボックスが表示されます。

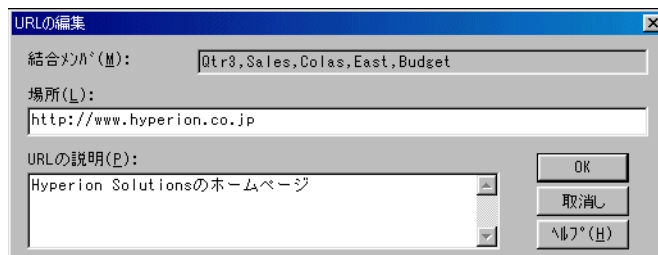


図 3-75: リンク URL の内容を編集するための準備

3. 下の図に示すとおり URL の場所と説明を編集します。

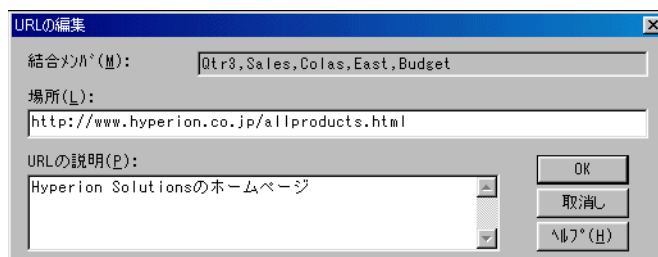


図 3-76: リンク URL の内容の編集

4. [**OK**] をクリックして [**URL 編集**] ダイアログ ボックスを閉じ、編集内容を保存します。

Hyperion Essbase により、URL に対して行った編集内容がサーバ上に保存されます。

5. 新しい URL を表示するには [表示 / 起動] をクリックします。
Web ブラウザが起動して新しい URL への接続が行われます。

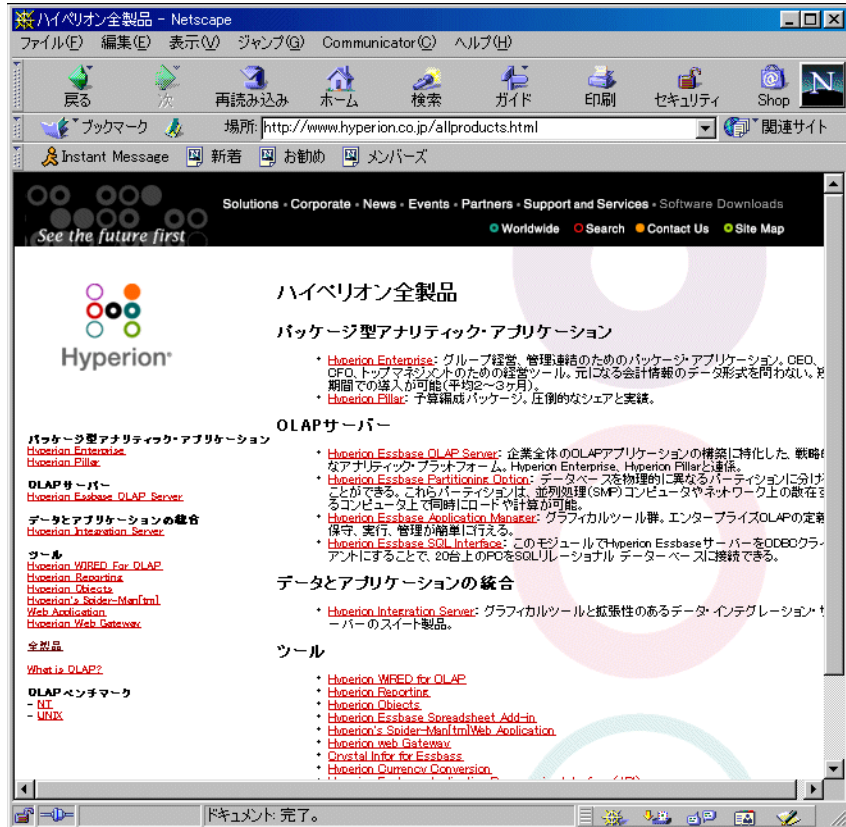


図 3-77: 編集した URL の表示

6. Web ブラウザを閉じます。
7. [閉じる] をクリックして [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスを閉じます。
8. Asymm.xls ファイルを保存せずに閉じます。

複数のデータベースへの接続

Hyperion Essbase では、複数のデータベースへの同時アクセスがサポートされています。データベースは別のアプリケーションに属していても、別のサーバ上に保管されていてもかまいません。Lotus 1-2-3 では、別々のデータベースに接続されている複数のワークシートを開くことができます。1つのワークシートから同時に複数のデータベースへのアクセスはできません。データベース間の接続の切替えには、Essbase メニューの [接続] コマンドを使用します。

注意： サイト上の実動アプリケーションの状況によっては、追加のアプリケーションやデータベースへアクセスできない場合があります。他のアプリケーションへのアクセスが必要な場合は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

このチュートリアルでは他のデータベースへの接続は不要です。

複数のデータベースへアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [接続] を選択します。
2. [Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスで、[サーバ] リスト ボックスからアクセスするサーバを選択します (またはサーバ名を直接入力します)。
3. [Tab] を押して [ユーザ名] テキスト ボックスに移動し、ユーザ名を入力します。
4. [Tab] を押して [パスワード] テキスト ボックスに移動し、パスワードを入力します。
5. [OK] をクリックしてサーバに接続します。

サーバへの接続が完了すると [アプリケーション / データベース] リストに、使用できるアプリケーションとデータベースのペアが表示されます。

6. [アプリケーション / データベース] リストから、接続するアプリケーションとデータベースのペアをダブルクリックします。または、接続するアプリケーションとデータベースのペアを選択して [OK] をクリックします。

選択したアプリケーションがまだ起動されていない場合は、Hyperion Essbase によって自動的に起動されます。その場合、アプリケーションのロードに多少時間がかかることがあります。アプリケーションの起動に要する時間は、アプリケーション内のデータベースの数、データベースのサイズ、データベース インデックスのサイズによって異なります。

7. 新しいワークシートを開いて上記の手順を繰り返して、追加のデータベースへの接続を行います。1つのワークシートに対して同時に開くことができるデータベースの数は1つのみです。

Hyperion Essbase クエリ デザイナから複数のデータベースへの接続については、第 2 章を参照してください。

アクティブなデータベース接続の表示

複数のデータベースへの接続を頻繁に行う場合は、ワークシートごとにアクティブなデータベースの検査が必要な場合があります。データベース接続状況を表示するには、次の 2 通りの方法があります。

- [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [スタイル] タブをクリックして表示される [接続情報] テキスト ボックスを使用する。このテキスト ボックスには、アクティブなワークシートの接続情報が表示されます。
- [Hyperion Essbase の切断] ダイアログ ボックスを使用する。このダイアログ ボックスには、すべてのアクティブなワークシートとその接続情報がリスト形式で表示されます。このダイアログ ボックスは、ワークシートを、対応するデータベースから切断する場合にも使用できます。

リンク パーティションへのアクセス

リンク パーティションは、Hyperion Essbase パーティショニング製品の構成要素です。リンク パーティションを使用すると、様々な次元で構成される 2 つの Hyperion Essbase データベースを、両データベースのすべての次元へのアクセスが可能な状態を維持したままリンクできます。パーティショニング製品を購入して導入している企業では、パーティショニング製品の強力な機能を活用できます。リンク パーティションの設計と導入の方法は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。一般に、パーティションの設定は Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナが行います。

注意：パーティショニング製品を使用すると、Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナは、透過パーティションやリモートパーティションも設定できます。パーティショニングの詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

リンク オブジェクトと呼ばれるタグを付けられたセルには、ビジュアルキュー（スタイル）の設定もできます。これらセルは、リンク先データベース内のリンク パーティションへのアクセス ポイントとなります。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのデータ セルからリンク パーティションへアクセスするには、次の 2 通りの方法があります。

- 目的のセルを選択し、[Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択する。
- リンク オブジェクトの表示にダブルクリックを使用可能にする。

リンク オブジェクトの表示にダブルクリックを使用可能にすると、データの取得やドリル処理におけるダブルクリックの役割が変わります。詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

リンク パーティション セルから [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択したときの Hyperion Essbase の動作は、次のとおりです。

- Hyperion Essbase の [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、アクセス可能なパーティションのリストがあります。このダイアログボックスで、接続先のパーティションを選択します。

注意: [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログボックスには、リンク レポート オブジェクト（セル ノートや外部ファイルなど）のリストが表示される場合もあります。詳細は、3-64 ページの「[リンク レポート オブジェクトの使用](#)方法」を参照してください。

- パーティションを選択すると、Hyperion Essbase によってリンク パーティション内の該当セルに対応するメンバと次元が設定された、新しいワークシートが作成されます。

注意: Hyperion Essbase では、パーティション間での式の保存は行いません。

- Hyperion Essbase によりリンク パーティションからデータ値が取得されます。

この時点でドリルダウンやドリルアップの操作を行って、新しいワークシートについての詳細な情報を取得できます。

注意： このチュートリアルで使用している Sample Basic データベースには、リンクパーティションはありません。

次の手順は Hyperion Essbase のアプリケーション デザイナによってリンクパーティションが設定されていることが前提です。Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのリンクパーティションにアクセスする手順は以下の通りです。

1. リンク オブジェクトセルを見つけます。固有のスタイルが適用されているので他のセルと区別できます。
2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択して、[**リンク オブジェクト ブラウザ**] ダイアログ ボックスを開きます。

注意: リンク オブジェクトの表示にダブルクリックを使用可能にするには、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスで [**リンク オブジェクトを参照可能にする**] チェック ボックスを選択する方法もあります。

3. 接続するパーティションを選択し、[**表示 / 起動**] をクリックします。

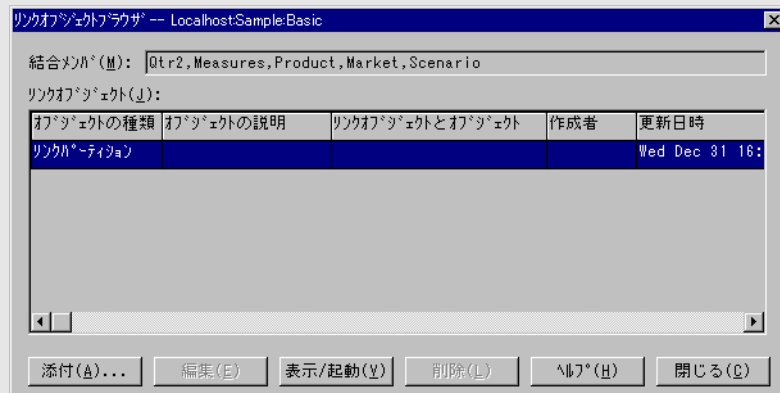


図 3-78: [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックス (リンクパーティション)

Hyperion Essbase により、リンクパーティション内の該当セルのメンバと次元が設定された新しいワークシートが作成されます。

注意： リンク パーティションへアクセスするには、適切なアクセス権が必要です。入力したユーザ アカウントとパスワードがアクセス先リンク パーティションのアカウント情報に一致した場合は、Hyperion Essbase によりリンク パーティションとの接続が確立されます。異なる場合は、[Essbase システム ログイン] ダイアログ ボックスが表示されるので、ユーザ アカウントとパスワードを手動で入力してください。

サーバ上のデータの更新

プランニング、予算策定、予測などを行うアプリケーションでは、データ値は頻繁に変更されます。ワークシートにデータを取得した後で、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインを使用して、値の変更、式の入力、データのフォーマット設定を実行できます。Hyperion Essbase では、複数のユーザによるデータベースへのアクセスや更新が同時に行えます。セキュリティ アクセス権の内容によって、すべてのデータ値を変更できる場合と、特定のデータ値のみを変更できる場合があります。読取り / 書込みアクセスが可能なセルを他のセルと区別するには、ビジュアルキュー（スタイル）を適用してください。詳細は、[2-61 ページの「データセルに対するスタイルの適用」](#)を参照してください。ワークシートからのデータを更新するには、変更する値が格納されているデータベース領域をロックする必要があります。ロックにより、更新するデータを他のユーザが変更することを防止できます。他のユーザは、ロックされたデータの取得はできますが、ロックされたデータに対してのロックや変更はできません。ロックを設定したユーザが、その領域に対して排他的な更新権限を持つこととなります。

注意： サーバ上の属性関連データは更新できません。属性データは常に動的に計算されるので保存されないためです。

データ値をロックするには、次の 3 通りの方法があります。

- [取得およびロック] コマンドを使用する。このコマンドを実行すると、ワークシートにデータが取得されると同時に、サーバ上の対応するデータ領域がロックされます。次に、データの取得を実行すると、Hyperion Essbase によって自動的に前のデータ値のロック解除が行われます。

注意： [取得およびロック] コマンドは、動的時系列メンバとともに使用できません。

- [ロック] コマンドを使用する。このコマンドはすでに取得した情報のロックに使用します。次にデータの取得を実行すると、Hyperion Essbase によって自動的に前のデータ値のロック解除が行われます。
- [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [モード] タブをクリックして表示される [更新モード] チェック ボックスを使用する。このチェック ボックスを選択すると、データの取得を行うたびに对应するデータベース領域が自動的にロックされます。

ワークシートからのデータ値でサーバを更新するには、Hyperion Essbase メニューの [送付] コマンドを使用します。サーバを更新すると、データのロックは [送付] コマンドによって自動的に解除されます (更新モードが有効な場合を除く)。データ ブロックの自動ロックを止めるには、更新モードを無効にする必要があります。

データ ブロックのロックを解除するには、次の 2 通りの方法があります。

- [ロックの解除] コマンドを使用する。このコマンドを実行すると、ロックされているブロックのロックがすべて解除されます。
- サーバによる自動ロック解除を利用する。データ ブロックのロックは、Hyperion Essbase のシステム管理者が定義した最大ロック保持時間が経過すると、データ ブロックのロックはサーバによって自動的に解除されます。この自動ロック解除により、データ ブロックが長期に渡ってロックされるのを防止できます。

次に、サンプル Lotus 1-2-3 ファイルである P&1.xls を使用して、サーバ上のデータの更新方法を説明します。このサンプル ファイルは、デフォルトでは Hyperion Essbase のインストール時に一緒にインストールされています。

- ▶ P&1.xls ワークシートを表示するには、次の手順に従ってください。
 1. [ファイル] > [開く] を選択します。
 2. %essbase%\client%\sample ディレクトリから、P&1.xls ファイルを開きます。

3. [Essbase] > [取得およびロック] を選択します。

Hyperion Essbase によりデータの取得が行われ、該当のデータベース領域がロックされます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Market: Central			The Beverage Company				
2	Product: 200			Planning Dept.				
3	Scenario: Budget							
4								
5		Jan	Feb	Mar	Qtr1	% Sales		
6	Misc	#Missing	#Missing	#Missing	0	0.00		
7	Payroll	210	210	210	630	0.07		
8	Marketing	300	310	320	930	11.05		
9	Total Expenses	510	520	530	1560	18.53		
10								
11	COGS	1170	1180	1200	3550	42.16		
12	Sales	2740	2820	2860	8420	100.00		
13	Margin	1570	1640	1660	4870	57.84		
14	Profit	1060	1120	1130	3310	39.31		
15								
16	Ratio Analysis							
17	Markup	57.3%	58.2%	58.0%	57.8%			
18	Marketing %	10.9%	11.0%	11.2%	11.0%			

図 3-79: [取得およびロック] コマンド実行後の P&L ワークシート

4. "Jan" の "Sales" の値 (セル B12) を 4000 に変更し、[Enter] を押しませす。

Hyperion Essbase により、該当のデータ値が変更されます。

5. [Essbase] > [送付] を選択して、サーバ上のデータを新しい値に更新します。

Hyperion Essbase によりサーバが更新されてデータ ブロックのロックが解除されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Market: Central					The Beverage Company		
2	Product: 200					Planning Dept.		
3	Scenario: Budget							
4								
5		Jan	Feb	Mar		Qtr1	% Sales	
6	Misc	5	10	10		25	0.30	
7	Payroll	200	200	200		600	0.07	
8	Marketing	350	350	350		1050	9.61	
9	Total Expenses	555	560	560		1675	16.12	
10								
11	COGS	1170	1180	1200		3550	36.67	
12	Sales	4000	2820	2860		9680	100.00	
13	Margin	2830	1640	1660		6130	63.33	
14	Profit	2320	1080	1100		4570	47.21	
15								
16	Ratio Analysis							
17	Markup	70.8%	58.2%	58.0%		63.3%		
18	Marketing %	7.5%	12.4%	12.2%		9.6%		

図 3-80: 新しい値をサーバに送信した後の P&L ワークシート

6. P&l.xls を保存せずに閉じます。

注意: Hyperion Essbase には、ワークシート更新ログを取る機能があります。この機能を使用すると、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからサーバに送られたすべてのデータ更新の追跡や記録ができます。Hyperion Essbase のシステム管理者はこの機能を使って、データが失われるのを防ぐための追加の保護を実行できます。詳細は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照するか、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

データベースの計算

サーバに更新データを送信しても、データベースが自動的に再計算されるわけではありません。データベースの計算を実行するためのセキュリティ アクセス権があれば、[計算] コマンドを使用して、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからデータベースの計算を実行できます。このチュートリアルでは、Sample Basic データベースの実際の計算は行いません。Hyperion Essbase における計算の詳細は『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

注意： このチュートリアルでは、計算は実行しないでください。

[Essbase] > [計算] を選択すると、[Essbase 計算] ダイアログ ボックスが表示されます。

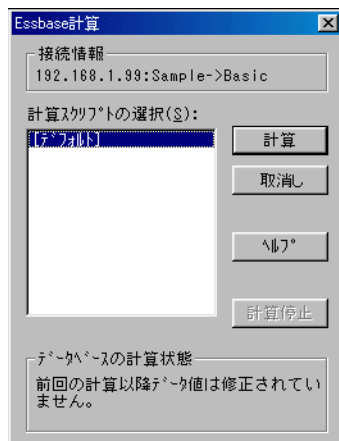


図 3-81: [Essbase 計算] ダイアログ ボックス

[Essbase 計算] ダイアログ ボックスには次の項目があります。

- [接続情報] テキスト ボックス: アクティブなデータベース接続が表示されます。

- [計算スクリプトの選択] リストボックス: サーバ上にあるアクセス可能な計算スクリプトが表示されます。
- [データベースの計算状態] テキストボックス: データベースの現在の計算状態が表示されます。表示される計算状態には次があります。
 - [計算中]: データベース上で現在計算中であることを示します。
 - [最後の計算以降にデータ値が変更されています]: データベースが最後に計算されてからデータ値の変更があったことを示します。最後に行われた計算は、データベース全体または一部の計算のいずれの場合もあります。
 - [最後の計算以降に変更されたデータ値はありません]: データベースが最後に計算されてから、データベース内のデータが変更されていないことを示します。最後に行われた計算は、データベース全体または一部の計算のいずれの場合もあります。

注意: データベースに対して最後に行われた計算が一部のデータに対する計算の場合は、値が最後に変更されて以来、データベース全体の計算が行われていない可能性があります。この場合は、データベース全体の計算を実行すると、計算の結果に最新の情報が確実に反映されます。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

データからの複数のワークシートの作成

予算策定やプランニングのアプリケーションでは、ワークシートを社内の各部署に送ることが頻繁に起こります。ワークシートの配布後、受け取ったユーザは内容を確認して、必要があれば変更を行い、更新したワークシートを配布元に送り返すことができます。Hyperion Essbase のカスケード機能を使用すると、1つのデータベースビューに基づいたワークシート ファイルを複数作成できます。ワークシートの複製時には詳細度を指定できるので、受信側ユーザそれぞれのニーズに対応できます。

Sample Basic データベースには、米国のさまざまな州で製品として販売されている飲料水のデータが格納されています。たとえば、各製品の担当管理職が予算案を確認して必要に応じて修正を加え、財務部門に送り返す場合を考えてください。この場合、各製品の担当管理職に配布するワークシートは、予算額と損益データの組合せごとに作成することが必要です。

- ▶ ワークシート セットを作成するには、次の手順に従ってください。
 1. [ファイル]>[開く]を選択します。
 2. %essbase%\client\%sample ディレクトリから、P&L.xls ファイルを開きます。このファイルには各ワークシートの複製に必要なデータが格納されています。
 3. [Essbase]>[取得]を選択します。

データの取得に [Essbase オプション] ダイアログ ボックスの [別名を使用] オプションを使用します。[別名を使用] オプションは、この例ではすでに設定済みです。製品 "200" (メンバ名) が、あらかじめ定義された別名である "Root Beer" に変更されます。
 4. 作成するワークシートに表示するメンバとして、"Central" (セル B1) および "Root Beer" (セル B2) を選択します。
 5. [Essbase]>[カスケード]を選択します。

[Essbase カスケード オプション] ダイアログ ボックスが表示されず。
 6. [カスケード情報] タブをクリックします。

[**カスケード情報**] ページには選択したメンバのリストと、選択したメンバをカスケードワークシートへの取得時にレベルを指定するオプションがあります。

注意: 各オプションの詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシートアドインのオンラインヘルプを参照してください。

7. [**メンバ**] リストボックスから "Central" を選択し、[選択したメンバのレベルを選択] オプショングループから [**同一レベル**] を選択します。
8. [**メンバ**] リストボックスから "Root Beer" を選択し、[**次のレベル**] (デフォルト設定) を選択します。

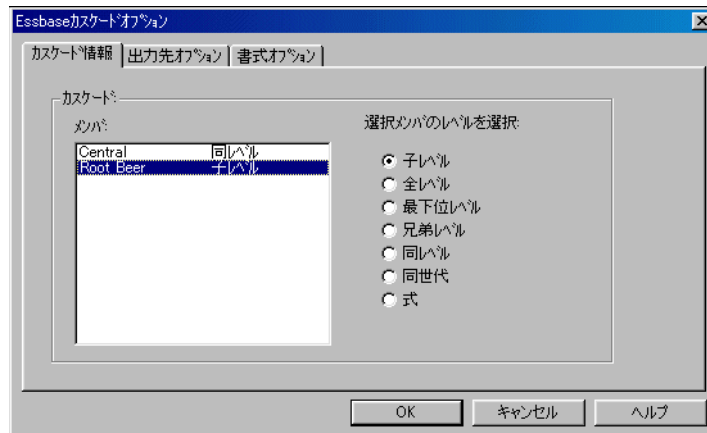


図 3-82: [**カスケード情報**] タブ

この手順により、複製された (カスケード) スプレッドシートレポートには、"Central" と同一レベルのメンバ ("East"、"West"、"South") のデータと、"Root Beer" より下位のレベルのメンバ ("Old Fashioned"、"Diet Root Beer"、"Sarsaparilla"、"Birch Beer") のデータが表示されます。

9. [**宛先オプション**] タブをクリックします。

10. [宛先のディレクトリ] テキストボックスに、カスケードワークシートの保管先ディレクトリの名前として C:\¥temp を入力します。

[参照] をクリックして [参照] ダイアログボックスから宛先ディレクトリを選択する方法もあります。

11. [宛先タイプ] オプショングループで [別々のワークブック] (デフォルト設定) を選択して、カスケードワークシートのそれぞれについて Lotus 1-2-3 ファイルを作成します。

カスケードレポートごとに別のワークシートを持つワークブックを1つのみ作成も可能です。また、カスケードレポートをプリンタに送ることもできます。

12. [ファイル情報] オプショングループの [既存ファイルを上書き] (デフォルト設定) をクリックします。このオプションを指定すると、同じファイル名の既存カスケードワークシートがあった場合、その既存ファイルが上書きされます。

[作成したファイルを開く] を選択して、各カスケードファイルを作成時に Lotus1-2-3 を使って開くこともできます。

注意：作成する複製ワークシートの数によっては、[カスケード] コマンドで作成されるワークシートの合計サイズが、マシンのメモリに保管できる容量を超えてしまうことがあります。したがって、ワークシートを多数複製する場合は、[作成したファイルを開く] オプションは使用しないでください。

13. [命名情報] オプション グループで、[接頭部] テキスト ボックスに BUD と入力します。

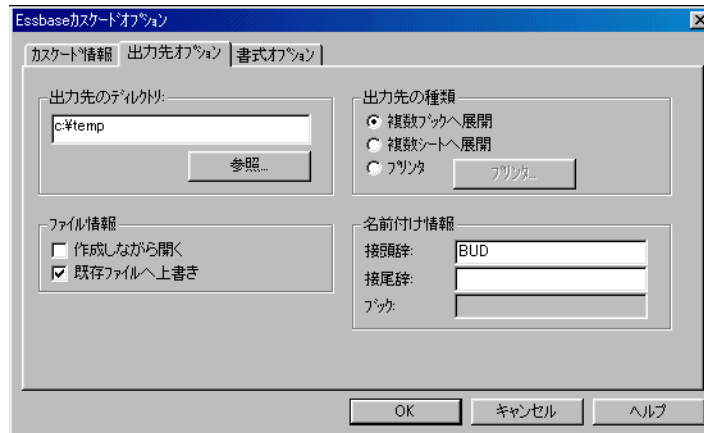


図 3-83: [宛先オプション] タブ

[命名情報] オプション グループで接頭部または接尾部を指定すると、[カスケード] コマンドの実行の結果として作成されるワークシート ファイルのファイル名に、指定した接頭部または接尾部が付きます。デフォルトでは、ワークシート名には、1 から n (n は作成されるワークシートの総数) までの番号が付けられます。ファイル名の構文は、*PrefixnSuffix.123* です。接頭部または接尾部を指定しない場合は、Hyperion Essbase ワークシート 1.123、2.123 が作成されます。ワークブックを 1 つのみ作成する場合も、ワークブック内のワークシート タブ名に同様の命名ルールが適用されます。

注意： 接頭部と接尾部のペアを指定するときは、Hyperion Essbase が一意なファイル名を作成できる文字数を残すことを十分注意してください。ファイル名が重複する場合は、最後に作成されたカスケード ワークシートのみが有効になり、今までに作成された同名のファイルは上書きされます。

14. [**フォーマット オプション**] タブをクリックします。
15. ソース ワークシートのフォーマットを各カスケード ワークシートにコピーするには、[**フォーマットのコピー**] チェック ボックスを選択します。

注意: [**フォーマットのコピー**] でコピーされるのは、Hyperion Essbase で設定したビジュアル キューと、ワークシートで設定したセルフォーマットのみです。式、列のフォーマット、ワークシートのフォーマット、グラフはコピーされません。

[**ヘッダ**] および [**フッタ**] テキスト ボックスで、作成するカスケード ワークシートすべてに共通するヘッダ名とフッタ名を指定します。

16. [**シートのフォーマット**] グループで [**Missing 行の抑制**] チェック ボックスを選択して、データが #Missing 値のみの行が複製されないようにします。
17. [**目次**] グループで [**目次を組み込む**] チェック ボックスを選択します。複製したすべてのワークシートの名前、作成日付、メンバ構成のリストが収録されたテキスト ファイル (リスト ファイル) が作成されます。

Hyperion Essbase のデフォルトでは、リスト ファイルには拡張子 .lst が付きます。

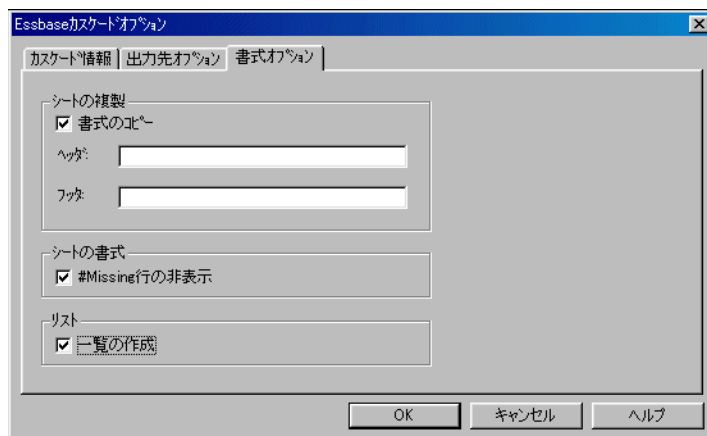


図 3-84: [**フォーマット オプション**] タブ

18. [OK] をクリックし、カスケード ワークシートを作成します。

Hyperion Essbase により、短時間でカスケード ワークシートが作成されます（この例では合計で 9 つのワークシートが作成されます）。各ワークシートは作成されると、自動的に保存されて閉じてから、目次に登録されます。各ファイルは Bud1.xls ~ Bud9.xls という名前で指定したディレクトリに保存されます。カスケードが完了すると、Hyperion Essbase の画面は元のワークシート ビュー（ソース ファイル）に戻ります。

19. テキスト編集アプリケーションを使用して、前に指定した保管先ディレクトリから目次ファイルを開きます。このファイルの名前は BUD0.LST で、すべてのカスケード ワークシートのリストが格納されています。

```

/*****/
/* ファイル名: c:\temp\BUD0.lst */
/* 作成日: Wed Mar 08 16:14:22 2000 */
/*****/
c:\temp\BUD1.xls /* East, Old Fashioned */
c:\temp\BUD2.xls /* East, Diet Root Beer */
c:\temp\BUD3.xls /* East, Birch Beer */
c:\temp\BUD4.xls /* West, Old Fashioned */
c:\temp\BUD5.xls /* West, Diet Root Beer */
c:\temp\BUD6.xls /* West, Sasparilla */
c:\temp\BUD7.xls /* South, Old Fashioned */
c:\temp\BUD8.xls /* South, Diet Root Beer */
c:\temp\BUD9.xls /* South, Sasparilla */

```

図 3-85: カスケード ワークシートのリスト ファイル

20. [ファイル] > [閉じる] を選択してワークシートを閉じます。

このワークシートの保存は不要です。

注意: 製品の属性に基づいて、複数のワークシート ファイルを作成できます。属性名をワークシートの最上部の行に入力します。属性名を選択して、[Essbase] > [カスケード] を選択します。後は上の例の説明に従ってください。

通貨換算処理

一般に、複数の国に拠点を持つ組織では、各拠点が置かれている国の通貨（現地通貨）で業務を行います。このような組織で集計や分析を行うには、現地通貨で入力されたデータを共通の通貨単位に変換する必要があります。

Hyperion Essbase の通貨換算プロダクトは、Hyperion Essbase から別途購入できます。通貨換算プロダクトを購入して通貨換算アプリケーションを導入している企業では、Hyperion Essbase の通貨換算プロダクトの強力な機能を活用できます。通貨換算アプリケーションの設計と導入の方法は、『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

次に、通貨換算処理について簡単に説明します。

- [3-102 ページ「通貨換算データの取得」](#)
- [3-103 ページ「Sample Currency データベースへの接続」](#)
- [3-106 ページ「アドホックな通貨レポートの作成」](#)

通貨換算データの取得

この項では通貨換算の基本概念を中心に、Hyperion Essbase の使用が容易なコマンドの 1 つである [通貨レポート] コマンドなどについて説明します。

通貨換算アプリケーションは、次の 2 つのデータベースで構成されます。

- **メイン データベース** : 現地通貨単位での値と共通通貨単位に変換後の値が格納されます。
- **通貨レート データベース** : 為替レートが格納されています。

換算値を算出するには、メイン データベースに格納されている現地通貨単位のデータ値に、通貨レート データベースに格納されている為替レートを適用します。Hyperion Essbase OLAP サーバ製品のインストールメディアには、Interntl と呼ばれるメイン データベースと、Xchgrate と呼ばれる通貨レート データベースの 2 つのサンプル データベースから構成される通貨換算アプリケーション（インストール オプション）が収録されています。

Sample Interntl データベースは、"Year"、"Measures"、"Product"、"Market"、"Scenario" という 5 つの次元で構成されています。"Market" と "Scenario" 以外の次元は Sample Basic データベースと同じです。"Market" 次元には、"Toronto"、"Vancouver"、"Montreal"、"France"、"Germany"、"Spain"、"UK" のメンバがあります。"Scenario" 次元では、さまざまな通貨の種類 ("Actual" や "Budget" など) が現地通貨単位と換算後の通貨単位の両方で処理されます。このデータベースでは現地通貨のデータはすべて、共通通貨である米ドルに換算されます。

Sample Xchgrate データベースはメイン データベースを構成する下位データベースの 1 つであり、4 つの次元を持ちます。

- "CurTime" 次元には、月別の為替レートが格納されています。
- "CurName" 次元には、各 Market で使用されている通貨の名称が格納されています。
- "CurCategory" 次元には、"Measures" の各種カテゴリに適用可能な各種通貨カテゴリ名が格納されています。たとえば、"Profit" および "Loss" の各項目に適用するレートと、" バランスシート " 項目に適用するレートを別のものにできます。
- "CurType" 次元により、通貨データベースに Scenario ("Actual" や "Budget" など) ごとのレートを格納できます。

Sample Currency データベースへの接続

次の手順を実行するには、Sample Interntl データベースと Sample Xchgrate データベースがサーバにインストール済みであることが必要です。これらのアプリケーションおよびデータベースが使用できない場合は、Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

- ▶ Sample Interntl データベースからデータを取得するには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [接続] を選択します。
2. Sample Interntl データベースを選択して [OK] をクリックし、接続を完了します。

Hyperion Essbase のインストールでは、通貨換算の概念の学習に使用するサンプル Lotus 1-2-3 ファイルもいくつかインストールされます。

3. ¥essbase¥client¥sample ディレクトリから、Local.xls を開きます。

ワークシートには、Actual (Act) データと Budget (Bud) データが、"New York" と "Germany" の現地通貨で入力されています。

	A	B	C	D	E	F
1		Jan	100-10			
2						
3		<i>Act</i>		<i>Bud</i>		
4		New York	Germany	New York	Germany	
5	Sales	678	210	640	190	
6	COGS	271	84	260	80	
7	Margin	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
8						
9	Marketing	94	27	80	20	
10	Payroll	51	31	40	20	
11	Misc	0	0	#Missing	#Missing	
12	Total Expenses	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
13						
14	Margin %	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
15	Profit %	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
16						
17						
18						

図 3-86: 現地通貨データの取得

4. ¥essbase¥client¥sample ディレクトリから、Convert.xls を開きます。
5. [Essbase] > [取得] を選択します。

通貨換算の後、ワークシート内の "Actual" 値と "Budget" 値は次のとおりになります。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Jan	100-10				
2							
3		<i>Actual</i>		<i>Actual @ Bud XChg</i>	<i>Budget</i>		
4		New York	Germany	New York	Germany	New York	Germany
5	Sales	678	130	678	210	640	133
6	COGS	271	52	271	84	260	56
7	Margin	407	78	407	126	380	77
8							
9	Marketing	94	17	94	27	80	14
10	Payroll	51	19	51	31	40	14
11	Misc	0	0	0	0	#Missing	#Missing
12	Total Expenses	145	36	145	58	120	28
13							
14	Margin %	60.03	60.00	60.03	60.00	59.38	57.89
15	Profit %	38.64	32.38	38.64	32.38	40.63	36.84

図 3-87: 通貨換算後のデータ値の取得

ワークシートの内容が、米ドルに変換後のデータであることに注目してください。"New York" の値は前と同じですが、"Germany" の値は通貨換算されています。Hyperion Essbase では、Sample Xchgrate データベースに格納されている為替レートを使用して値の通貨換算が行われます。

6. %essbase%\client%\sample ディレクトリから Rates.xls を開き、Sample Xchgrate データベースに接続します。
7. [Essbase] > [取得] を選択します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1				Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul
2	US\$	Act xchg	P&L	1	1	1	1	1	1	1
3			B/S	1	1	1	1	1	1	1
4		Bud xchg	P&L	1	1	1	1	1	1	1
5			B/S	1	1	1	1	1	1	1
6	CN\$	Act xchg	P&L	1.53	1.53	1.53	1.53	1.53	1.53	1.53
7			B/S	1.55	1.55	1.55	1.55	1.55	1.55	1.55
8		Bud xchg	P&L	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
9			B/S	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
10	Mark	Act xchg	P&L	0.62	0.62	0.62	0.62	0.62	0.62	0.62
11			B/S	0.63	0.63	0.63	0.63	0.63	0.63	0.63
12		Bud xchg	P&L	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7

図 3-88: 通貨データベースからの為替レートの取得

このワークシートには、月別の為替レートのシナリオ、カテゴリ、タイプの組み合わせがすべて表示されています。この例では米ドル (US\$) に変換するので、このサンプル ファイルでは US\$ の基本レートは 1 に設定されています。したがって "New York" のデータについては、現地通貨での値と通貨換算後の値は同じになります。一方、"Germany" のデータについては、通貨データベース内のデータ値に基づいて次の処理が行われます。

- Hyperion Essbase により、"Actual" のデータ値を Act xchg 通貨タイプの値で割った値が算出されます。
- Hyperion Essbase により、Actual @ Bud xchg のデータ値を Bud xchg 通貨タイプの値で割った値が算出されます。
- Hyperion Essbase により、"Budget" のデータ値を Bud xchg 通貨タイプの値で割った値が算出されます。

- Hyperion Essbase の Convert.xls では、すべての数値は "P&L" の "CurCategory" および "Jan" の "CurTime" に基づいています。

注意：通貨換算は、為替レートに基づく乗算または除算として定義できます。この定義はアプリケーション デザイナが行います。

アドホックな通貨レポートの作成

一般に、Sample Interntl のようなメイン データベースには、通貨換算後の値が保管されています。一方、通貨換算を動的に実行する場合があります。Hyperion Essbase では、この機能が [通貨レポート] コマンドとして提供されています。このコマンドを使用すると、データの取得に使用する通貨レートおよびタイプを対話形式で変更できます。

▶ Convert.xls ファイルのデータに対してアドホックな通貨換算を実行するには、次の手順に従ってください。

1. %essbase%\client%\sample ディレクトリから、Convert.xls を開きます。
ワークシートには、米ドルに変換済みのデータが入っています。
2. [Essbase] > [接続] を選択して、Sample Interntl データベースに接続します。
3. [Essbase] > [取得] を選択します。
4. [Essbase] > [通貨レポート] を選択します。

[Essbase 通貨レポート] ダイアログ ボックスが表示されます。

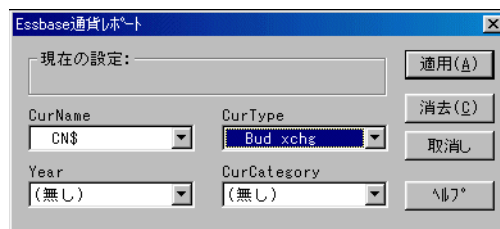


図 3-89: [Essbase 通貨レポート] ダイアログ ボックス

[Essbase 通貨レポート] ダイアログ ボックスを使用すると、データの取得に使用する為替レートを対話形式で変更できます。このダイアログ ボックスには、通貨設定、通貨名、通貨カテゴリ、年を指定するオプションがあります。オプションの詳細は、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

注意: 次元名 "CurName"、"CurType"、"CurCategory" は、通貨データベースのデフォルト名です。アプリケーション デザイナは、次元に別の名前を使用できます。

5. 適用する通貨設定を選択します。

たとえば [CurName] リスト ボックスから CN\$ を選択し、[CurType] リスト ボックスから Bud xchg を選択します。

6. [適用] をクリックして、設定内容を適用します。

7. [Essbase] > [取得] を選択して、ワークシート内のデータをリフレッシュし、アドホック通貨換算の結果を反映します。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Jan	Cola				
2							
3		<i>Actual</i>		<i>Actual @ Bud XChg</i>		<i>Budget</i>	
4		New York	Germany	New York	Germany	New York	Germany
5	Sales	452	61	452	69	427	62
6	COGS	181	24	181	27	173	26
7	Margin	271	36	271	41	253	36
8							
9	Marketing	63	8	63	9	53	7
10	Payroll	34	9	34	10	27	7
11	Misc	0	0	0	0	#Missing	#Missing
12	Total Expenses	97	17	97	19	80	13
13							
14	Margin %	60.03	60.00	60.03	60.00	59.38	57.89
15	Profit %	38.64	32.38	38.64	32.38	40.63	36.84
16							

図 3-90: アドホック通貨換算の実行

Hyperion Essbase により、"New York" および "Germany" の数値がカナダドル (CN\$) に変換されます。

8. [Essbase 通貨レポート] ダイアログ ボックスの [消去] ボタンをクリックして通貨レポート作成機能を無効にし、標準の取得モードに戻ります。

注意: 通貨レポート機能を使ってデータ取得を実行しても、データベース内の値は変更されません。取得の過程で一時的な変換が行われるのみです。変換後のデータ値は常に整合がとれているとは限りません。アドホック通貨換算は以前に別の通貨で算出または集計された値に対して実行されるためです。

データ値の整合性と有効性を保証するには、データ値をデータベース内のターゲット通貨に変換した後で、計算と取得を実行することが必要です。その場合の操作手順は、この項で説明したアドホック通貨換算によるデータ取得手順とは異なります。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合せてください。

4

HIS ドリルスルーの使用法

Hyperion Integration Server は、Hyperion Essbase、Microsoft Excel および Lotus 1-2-3 とともに動作する製品です。Integration Server は、リレーショナル データ ソースと Hyperion Essbase OLAP サーバの間を仲介する各種のツールおよびデータ集計サービスで構成されています。このようなツールの 1 つに HIS ドリルスルーがあります。ドリルスルーを使用することにより、リレーショナル データベースから取得したデータを組み込んだスプレッドシート レポートの表示とカスタマイズが可能になります。ドリルスルー ツールを使用するには、Hyperion Integration Server のライセンスが必要です。

この章の内容は次のとおりです。

- ドリルスルー機能の概要
- チュートリアルで使用するサンプルのデータベース、Lotus1-2-3 ファイル、ドリルスルー レポートについての説明
- ドリルスルーの使用法を学習するためのチュートリアル

ドリルスルーとは

多次元データベースは分析データの保管に大きな力を発揮しますが、分析に必要なデータ要素の中には、リレーショナル データベース内でリレーショナル構造を保持する方が望ましいものもあります。一般に、Hyperion Essbase データベース上のデータのスコープは要約レベルです。要約レベルでは、プランニングと分析のためにデータが要約および計算されます。詳細なトランザクション データは、業務のプランニングおよび分析時には検査されないのが普通です。

たとえば、Hyperion Essbase を使用して East 地域における Qtr1 の小売り売上高を分析している場合を考えてください。特定サイズの特定製品を購入した顧客のリストなどの詳細データは、通常の営業成績の分析には使用されません。ただし、売上実績の分析では、詳細な情報の表示が必要になります。ドリルスルーは、社内の Hyperion Essbase OLAP サーバに保管されている要約および計算されたデータから、リレーショナルデータベースに保管されている詳細データへのドリル処理を可能にするツールです。

Hyperion Essbase からリレーショナルソースへのデータ マッピングは、データベース管理者によってあらかじめ定義されています。たとえば、Hyperion Essbase のメンバである "East"、"West"、"South"、"Central" は、リレーショナル データベース内の "Region" というフィールドにマッピングされます。スプレッドシート内のデータの操作を行うときは、現在のデータがリレーショナルソースにどのようにマッピングされるかを Hyperion Essbase が認識しています。例として次のシートでセル E4 を選択した場合を考えてください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1								East			
2						1996			1997		
3					Feb	Jan	Mar	Feb	Jan	Mar	
4	MARKETING	Bottles	Retail	Colas	3062	9856	3693	3840.47	12348.64	4619.19	
5				Cream_Soda	1195	3790	1404	1486.65	4738.55	1750.13	
6				Root_Beer	1222	3897	1456	1520.66	4883.07	1823.38	
7				DIET	1792	5830	2146	2243.74	7288.31	2673.78	
8			Wholesale	Colas	208	650	246	264.63	817.23	301.69	
9				Cream_Soda	51	156	59	65.71	191.39	73.31	
10				Root_Beer	85	264	102	110.01	325.43	131.64	
11				DIET	88	272	102	110.01	340.33	125.84	
12											
13											

図 4-1: ドリルスルー シートの例

このセルの次元属性は、"East"、"Feb"、"1996"、"Marketing"、"Bottles"、"Retail"、"Colas" です。これらの属性のうち1つ以上を組み合わせたものが、リレーショナルソースからデータを取得するためのドリルスルークエリの基礎となります。

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからは、定義済みのドリルスルー レポートへアクセスできます。ドリルスルー レポートは、シート内の Hyperion Essbase データ セルの次元またはメンバ交差部に基づいて定義されています。ドリルスルー レポートは、社内の管理者によってユーザがアクセスできるよう、Hyperion OLAP Builder と呼ばれる Integration Server のツールを使用して設定されます。つまり、各ドリルスルー レポートは、リレーショナルソースから取得する内容に従って定義済みです。

ドリルスルー レポートには、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスからアクセスします。シート内でドリルスルー セルを選択して [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択すると、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスが開き、ドリルスルー のためのエントリが表示されます。このエントリを選択することにより、ドリルスルー を起動できます。

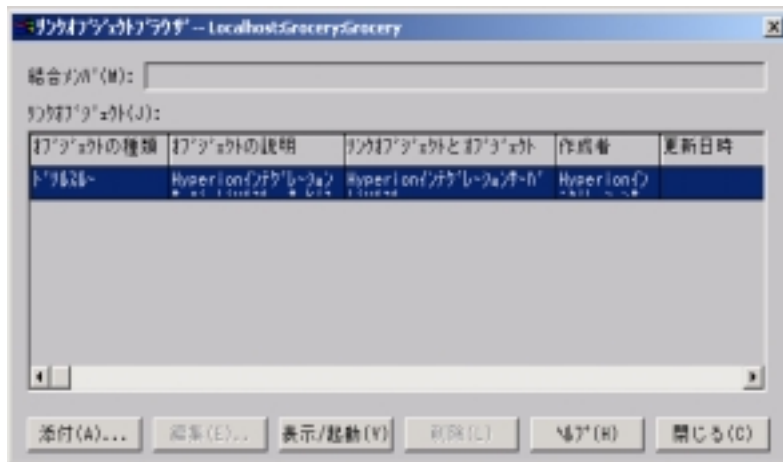


図 4-2: [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスにドリルスルー レポートのエントリが表示されているところ

ドリルスルー レポートが関連付けられているセルをシート内の他のセルと区別する場合は、ドリルスルーのタグが付いたセルに対してスタイルを定義できます。詳細は、4-14 ページの「スプレッドシートからドリルスルーへのアクセス」を参照してください。

ドリルスルー ウィザードとは

Integration Server ドリルスルーのレポートは、ユーザが表示したりカスタマイズできるよう社内の管理者によってあらかじめ定義されます。ドリルスルーのユーザがレポートをカスタマイズできるかどうかは、そのレポートの作成者が決定します。レポートがカスタマイズ可能な場合、カスタマイズには、Integration Server ドリルスルー ウィザードを使用します。ドリルスルー ウィザードは、カスタマイズ作業を段階を追って対話形式で進めるためのグラフィカル ユーザ インターフェイスです。

- リレーショナル データ ソースから取得する列の選択
あらかじめ定義されたレポートの列のうちどれを表示するかを決定します。
- 列の表示順序の選択
シート内におけるデフォルトの列表示順序を変更します。
- データのソート順序の選択
特定の列のデータをソートするとき（管理職リストのアルファベット順でのソートなど）の順序として、昇順または降順を選択します。
- データ フィルタの選択
特定の基準に合致するデータのみが取得されるよう、列に対してフィルタを定義します。

チュートリアルに入る前に

このチュートリアルを実行するには、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのインターフェイスを介して Hyperion Essbase 製品を使用する方法に習熟していることが必要です。チュートリアルに入る前に、このマニュアルの第 2 章、「Hyperion Essbase の基本チュートリアル」および第 3 章、「Hyperion Essbase の応用チュートリアル」を確認してください。

このチュートリアルでは、操作手順の説明に、Hyperion Essbase のサンプル データベースを使用します。このサンプル データベースは、Integration Server 提供のサンプル メタアウトラインを使用してデータベース管理者が作成します。詳細は、『Hyperion Essbase OLAP Builder User’s Guide』を参照してください。サンプル Lotus 1-2-3 ファイル Dtreport.wk4 には、作成するサンプルドリルスルー レポートに必要なメンバ交差部が設定されたシートが格納されています。サンプル データベース、Lotus 1-2-3 ファイルおよびドリルスルー レポートの詳細は、4-13 ページの「このチュートリアルで使用するサンプル」を参照してください。

このチュートリアルで紹介する操作手順を実際のセッションで実行する場合は、ドリルスルーに必要なサンプル データベースや、どの Hyperion Essbase サーバに接続すればよいかなどの詳細を、社内で Hyperion Integration Server 製品ファミリのインストールを担当している方に問い合わせてください。

チュートリアルに入る前に、次のことを確認してください。

- 次のコンポーネントをクライアント PC にインストール済みであることを確認してください。
 - 32 ビット版の Lotus 1-2-3
 - Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン for Lotus 1-2-3
 - ドリルスルー
- ドリルスルー モジュールは、Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのインストール時に自動的にインストールされます。このモジュールは、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスから起動されるまでは、ユーザから見えなくなっています。インストールの詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。
- Hyperion Essbase のシステム管理者によって Hyperion Essbase サーバがインストールされていることが必要です。
 - Hyperion Integration Server および Hyperion Essbase サーバへアクセスできることが必要です。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者または社内で Hyperion Integration Server の管理を担当している方に問い合わせてください。

- 使用するリレーショナル データベースへのアクセス権が必要です (通常は、Hyperion Essbase とは別のユーザ名とパスワードを使用します)。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者、または社内で Hyperion Integration Server の管理を担当している方に問い合せてください。
- サンプル Lotus 1-2-3 ファイル Dtreport.wk4 が ¥Essbase¥Client¥Sample ディレクトリにあることを確認してください。
- ドリルスルー レポートが格納されているサンプル データベースが設定済みで稼働していることが必要です。このチュートリアルで使用するサンプルドリルスルー レポート "Promotion Media Mix for Cities" を使用するには、このサンプル データベースが必要です。ドリルスルーに必要なサンプル データベースの名前については、社内で Hyperion Integration Server のインストールを担当している方に問い合せてください。

注意：Hyperion Integration Server のインストールの詳細は、『Hyperion Integration Server Installation Guide』を参照してください。
Hyperion Essbase のインストールの詳細は、『Hyperion Essbase インストール ガイド』を参照してください。

Hyperion Integration Server このチュートリアルを実行するときは、次の点に注意してください。

- この章のチュートリアルの各項目はそれぞれ1つ前の項に基づいています。したがって、作業は記載どおりの順序で行ってください。
- 網掛けの枠内に記載されている作業は、このチュートリアルでは実行しません。これらの作業は参考のためのみです。これらの作業の詳細は、HIS ドリルスルーのオンライン ヘルプを参照してください。
- この章のチュートリアルでは、サンプル データベースを例として使用して操作手順を説明します。サンプル データベースは Hyperion Integration Server とともにインストールされます。サンプル データベースへのアクセスについては、社内で Hyperion Integration Server のインストールを担当した方に問い合せてください。

- [Hyperion Essbase オプション] ダイアログ ボックスの各オプションは、次の項 4-7 ページの「Hyperion Essbase のオプションの設定」で説明するとおりに設定してください。オプションが別の設定になっていると、スプレッドシートの表示がこの章で紹介する画面例と異なる場合があります。
- 作業手順の途中で間違った操作を行った場合は、[Essbase] > [復元] を選択すれば、スプレッドシートの表示が操作を行う前の状態に戻ります。

Hyperion Essbase のオプションの設定

チュートリアルに入る前に、スプレッドシート オプションが図 4-3 ~ 図 4-7 に示す初期設定であることを確認してください。オプションが別の設定になっていると、実際のスプレッドシートの表示がこの章で紹介する画面例と異なることがあります。

注意： [Hyperion Essbase オプション] ダイアログ ボックスの各オプションの詳細は、[ヘルプ] のクリックによって表示される Hyperion Essbase スプレッドシート アドインのオンライン ヘルプを参照してください。

1. [スプレッドシート] メニューから、[Essbase] > [オプション] を選択します。
2. [Essbase オプション] ダイアログ ボックスで、[表示] タブを選択します。

3. 実際の画面が下の図と同じになるように、チェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

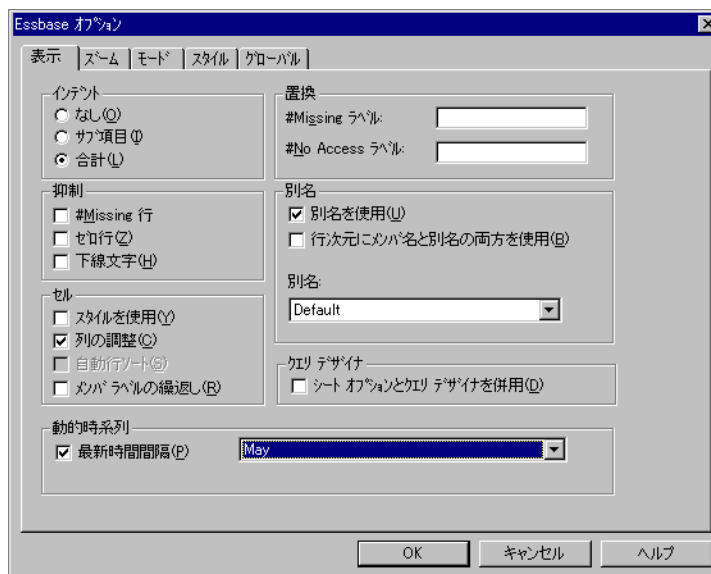


図 4-3: 表示オプションの初期設定

4. [ズーム] タブを選択します。

5. 実際の画面が下の図と同じになるように、チェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

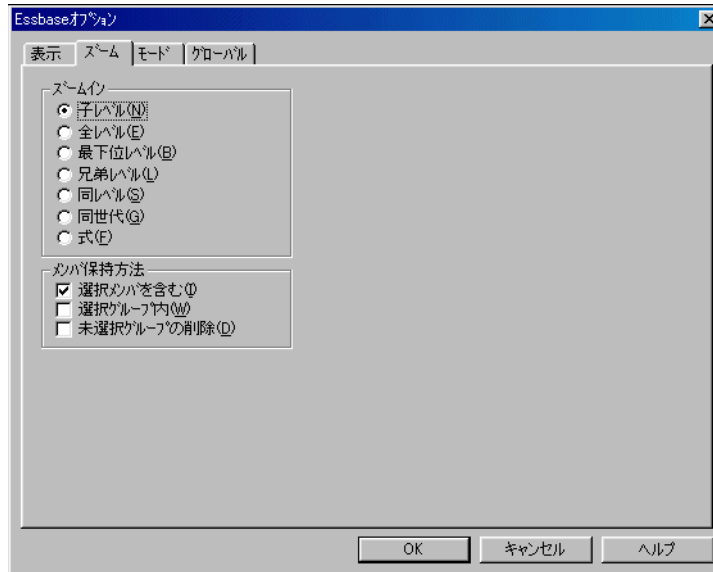


図 4-4: ズーム オプションの初期設定

6. [モード] タブを選択します。

7. 実際の画面が下の図と同じになるように、チェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

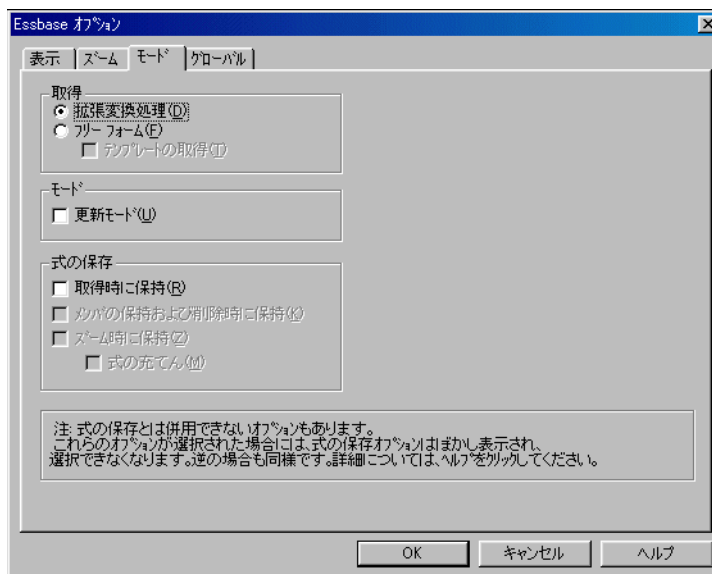


図 4-5: モード オプションの初期設定

8. [スタイル] タブを選択します。

9. 実際の画面が下の図と同じになるように、チェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

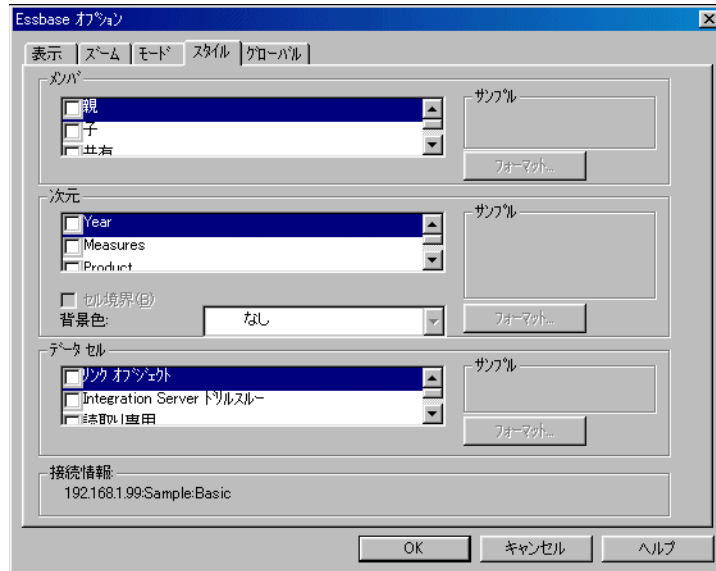


図 4-6: スタイル オプションの初期設定

10. [グローバル] タブを選択します。

11. 実際の画面が下の図と同じになるように、チェック ボックスおよびオプション ボタンを選択します。

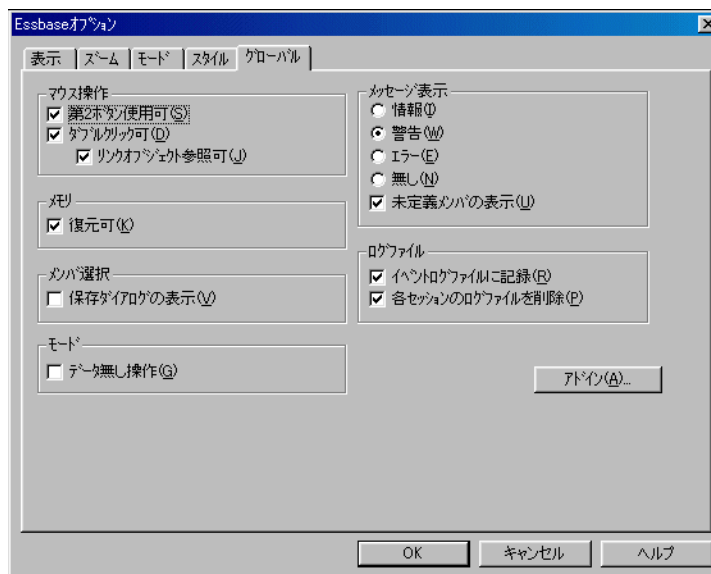


図 4-7: グローバル オプションの初期設定

12. [OK] をクリックします。このセッションの設定が保存され、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスが閉じます。

このチュートリアルで使用するサンプル

このチュートリアルで使用するサンプル データベースには、Scenario、Products、Package、Markets、Accounts、Time、Channel という7つの次元があります。サンプル Lotus 1-2-3 ファイルは、このデータベースから得られた1つのビューです。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1							East				
2						1996			1997		
3					Feb	Jan	Mar	Feb	Jan	Mar	
4	MARKETING	Bottles	Retail	Colas	3062	9656	3693	3840.47	12348.64	4619.19	
5				Cream_Soda	1195	3790	1404	1486.65	4738.55	1750.13	
6				Root_Beer	1222	3897	1456	1520.66	4883.07	1823.38	
7				DIET	1792	5830	2146	2243.74	7288.31	2673.78	
8			Wholesale	Colas	208	650	246	264.63	817.23	301.69	
9				Cream_Soda	51	156	59	65.71	191.39	73.31	
10				Root_Beer	85	264	102	110.01	325.43	131.64	
11				DIET	88	272	102	110.01	340.33	125.84	
12											
13											

図 4-8: サンプル データベースのビュー

このスプレッドシート ビューの場合、詳細レベルのデータはリレーショナル データ ソースに格納されています。つまり、詳細レベルのデータには、Hyperion Essbase からアクセスできません。このリレーショナル ソースには、Cities、Seasons、各種 Media (Print、Radio など) に対応するデータ列などがあります。このチュートリアルでは、Integration Server ドリルスルーのサンプル セッションを段階を追って実行します。具体的には、このサンプル セッションでは上の図に示したデータから、リレーショナル ソースに格納されている詳細データへのドリルダウンを行います。

このチュートリアルでは、"Promotion Media Mix for Cities" という名前のサンプル Hyperion ドリルスルー レポートを使用します。このレポートは Hyperion の他のすべてのドリルスルー レポートと同様、リレーショナル ソースから特定の列を取得するためにあらかじめ定義されています。レポートは、後でドリルスルー ウィザードを使ってカスタマイズします。

注意: サンプル ファイルには、もう1つ "City Demographics" という名前のサンプル レポートも格納されています。このサンプル レポートは、ドリルスルー操作の練習に使用してください。

ドリルスルーの使用方法

ドリルスルーは次の作業からなります。

- Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからドリルスルーへのアクセス
- 表示またはカスタマイズするドリルスルー レポートの選択
- 列の選択と順序の設定
- データのソート
- データのフィルタ処理

以降の各項では、具体的なドリルスルー セッションを例に、上記の作業を段階的に説明します。

スプレッドシートからドリルスルーへのアクセス

Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからは、詳細レベルのドリルスルー レポートにアクセスが可能です。ドリルスルー レポートは、シートにおける Essbase データ セルのメンバ交差部に基づいて定義されます。個々のドリルスルー レポートは、社内の管理者によってあらかじめ定義されています。つまり、どのドリルスルー レポートについてもリレーショナルソースから特定の列を取得したり、これらの列のデータを特定の方法でソートする操作をユーザが実行できるようにあらかじめ設定されています。ドリルスルー ウィザードを使用すると、あらかじめ定義されたこれらのドリルスルー レポートをカスタマイズして、必要なデータのみを取得して所定の方法で表示できます。

あらかじめ定義されているドリルスルー レポートへアクセスするには、スプレッドシート内の [ドリルスルー] セルをダブルクリックします (またはセルの範囲を選択して、[Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択します)。

ドリルスルー レポートが関連付けられたセルをシート内の他のセルと区別する場合は、ドリルスルーのタグが付いたセルに対してスタイルを定義できます。ドリルスルー セルをダブルクリックすると、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスが開き、ドリルスルー レポート エントリが表示されます。1つのセルに複数のレポートが関連付けられている場合もあります。[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスには、リンク パーティションやその他のリンク オブジェクト (セル ノートやアプリケーション ファイル) に対応したエントリも表示されます。ドリルスルー レポートの表示またはカスタマイズが終わると、Integration Server によってリレーショナルソースからデータが取得され、その結果が新しいスプレッドシートに表示されます。

ドリルスルー チュートリアルに入る前に、次の作業を行います。

1. ドリルスルー レポートのサンプル データベースから、適切なメンバ 交差部が格納されているサンプル Lotus 1-2-3 ファイルを開きます。このファイル、つまり `Dtreport.wk4` は、Hyperion Essbase のデフォルトのインストール内容の一部として設定されています。
 2. ドリルスルー レポートが関連付けられているデータ セルのスタイルを設定します。
- ▶ サンプル ファイルとサンプル データベースへアクセスするには、次の手順に従ってください。
1. Lotus 1-2-3 を起動します。
 2. [ファイル]>[開く]を選択し、`Essbase¥Client¥Sample` ディレクトリから `Dtreport.wk4` ファイルを開きます。

このサンプル ファイルの表示は次のようになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1							East				
2						1996			1997		
3					Feb	Jan	Mar	Feb	Jan	Mar	
4	MARKETING	Bottles	Retail	Colas	3062	9856	3693	3840.47	12348.64	4619.19	
5				Cream_Soda	1195	3790	1404	1486.65	4738.55	1750.13	
6				Root_Beer	1222	3897	1456	1520.66	4883.07	1823.38	
7				DIET	1792	5830	2146	2243.74	7288.31	2673.78	
8			Wholesale	Colas	208	650	246	264.63	817.23	301.69	
9				Cream_Soda	51	156	59	65.71	191.39	73.31	
10				Root_Beer	85	264	102	110.01	325.43	131.64	
11				DIET	88	272	102	110.01	340.33	125.84	
12											
13											

図 4-9: ドリルスルー用のサンプル Lotus 1-2-3 ファイル

このサンプル ファイルでは、Hyperion Essbase データベースの特定のメンバのデータが表示されています。ビューではシート内のすべてのメンバ交差部に、あらかじめ定義された 1 つのドリルスルー レポートが関連付けられています。ドリルスルーを使用すると、このレポートへアクセスしてカスタマイズできます。たとえば、Integration Server による取得対象を必要なデータのみ絞り込んだり、取得したデータの表示形式を指定したりといったカスタマイズです。

3. [Essbase] > [接続] を選択し、目的のサンプル データベースに接続します。

注意: このサンプル データベースについては、社内で Hyperion Integration Server のインストールを担当している方に問い合わせてください。

4. [Essbase] > [オプション] を選択し、[スタイル] タブを選択します。
5. [データセル] オプショングループで、[Integration Server ドリルスルー] チェック ボックスをクリックし、続いて [フォーマット] をクリックします。
[フォント] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [フォントスタイル] リスト ボックスから [Bold Italic] を選択します。

- [色] ドロップダウン リストから [赤] を選択し、[OK] をクリックします。

注意: [サンプル] ボックスに、選択したスタイルの適用例が表示されます。

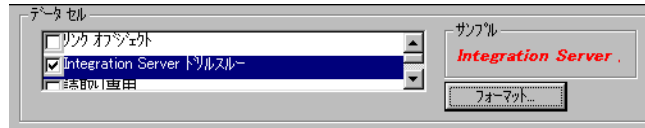


図 4-10: Integration Server ドリルスルーのデータセルのスタイルの例

- [OK] をクリックし、[Essbase オプション] ダイアログ ボックスを閉じます。
- [Essbase] > [取得] を選択して、スプレッドシートに新しいスタイルを表示します。

この例では、サンプルドリルスルー レポートはシート内のすべてのメンバ交差部に関連付けられているため、すべてのセルの表示が赤の太字の斜体フォントに変わります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1							East				
2						1996			1997		
3					Feb	Jan	Mar	Feb	Jan	Mar	
4	MARKETING	Bottles	Retail	Colas	3062	9856	3693	3840.47	12348.64	4619.19	
5				Cream_Soda	1195	3790	1404	1486.65	4738.55	1750.13	
6				Root_Beer	1222	3897	1456	1520.66	4883.07	1823.38	
7				DIET	1792	5830	2146	2243.74	7288.31	2673.78	
8			Wholesale	Colas	208	650	246	264.63	817.23	301.69	
9				Cream_Soda	51	156	59	65.71	191.39	73.31	
10				Root_Beer	85	264	102	110.01	325.43	131.64	
11				DIET	88	272	102	110.01	340.33	125.84	
12											
13											

図 4-11: ドリルスルー スタイルを適用したサンプル Lotus 1-2-3 ファイル

- ▶ Hyperion Essbase スプレッドシート アドインからサンプルドリルスルーレポートへアクセスするには、次の手順に従ってください。
 1. 任意のドリルスルーセル（セル E4 など）を選択します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1							East				
2						1996			1997		
3					Feb	Jan	Mar	Feb	Jan	Mar	
4	MARKETING	Bottles	Retail	Colas	3062	9856	3693	3840.47	12348.64	4619.19	
5				Cream_Soda	1195	3790	1404	1486.65	4738.55	1750.13	
6				Root_Beer	1222	3897	1456	1520.66	4883.07	1823.38	
7				DIET	1792	5830	2146	2243.74	7288.31	2673.78	
8			Wholesale	Colas	208	650	246	264.63	877.23	301.69	
9				Cream_Soda	51	156	59	65.71	191.39	73.31	
10				Root_Beer	85	264	102	110.01	325.43	131.64	
11				DIET	88	272	102	110.01	340.33	125.84	
12											
13											

図 4-12: ドリルスルーセルの選択

注意: シート内の連続するセルを範囲として選択すると、選択範囲内のセルに関連付けられたすべてのドリルスルーレポートを表示できます。この例では、範囲内のセルに関連付けられているドリルスルーレポートは1つのみです。

2. [Essbase] > [リンク オブジェクト] を選択して、[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスを開きます。

または [Essbase オプション] ダイアログ ボックス ([グローバル] ページ) の [リンク オブジェクトを参照可能にする] チェック ボックスを選択した場合は、リンク オブジェクト セルのダブルクリックによって [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスを開くことができます。ただしこの方法の場合、選択できるセルは1つのみです。セルを範囲で選択する場合は、[Essbase] > [リンク オブジェクト] メニュー コマンドを使用してください。

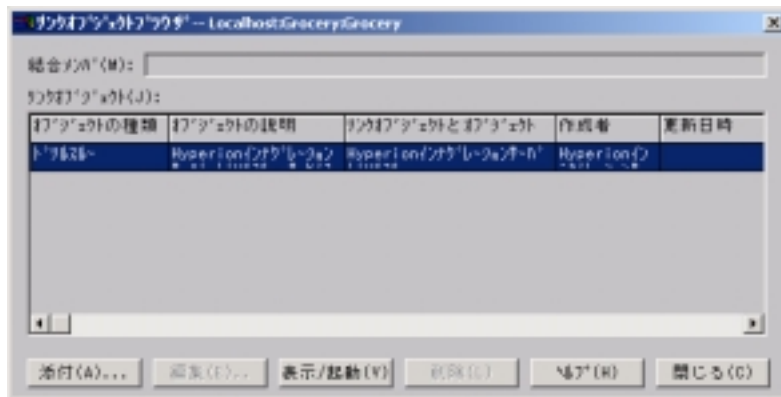


図 4-13: ドリルスルー エントリが選択された状態の [リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックス

- ドリルスルー レポート エントリを選択し、[表示 / 起動] をクリックします。

Hyperion Essbase によってドリルスルーが起動され、[**ドリルスルーレポートの選択**] ダイアログ ボックスが表示されます。

注意 : Hyperion Integration Server が動作していない場合は、ドリルスルーは正しく起動されません。詳細は、Hyperion Essbase のシステム管理者に問い合わせてください。

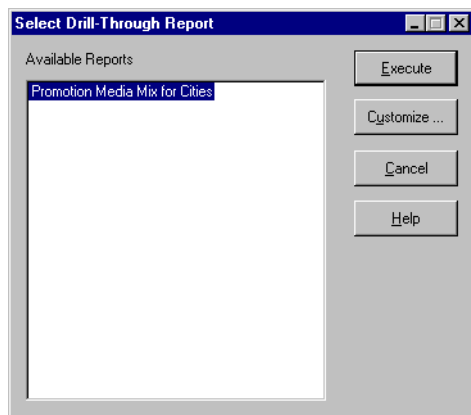


図 4-14: [ドリルスルー レポートの選択] ダイアログ ボックス

- Integration Server およびリレーショナル データ ソースに接続するよう指示するメッセージが [ドリルスルー ログイン] ダイアログ ボックスに表示された場合は、必要な接続情報を入力してください。接続情報については、社内で Hyperion Integration Server の管理とドリルスルー レポートの作成を担当している方に問い合わせてください。

注意 : スプレッドシート内で選択した範囲内のセルに関連付けられているレポートが1つのみで、そのレポートがカスタマイズ可能な設計になっていない場合、ドリルスルーによってそのレポートがただちに生成され、結果がスプレッドシートに表示されます。ユーザによるカスタマイズの可否および Integration Server とリレーショナル データ ソースへのログインの必要性の有無は、レポートの作成者が決定します。詳細は、社内でドリルスルー レポートの作成を担当している方に問い合わせてください。

5. 次の項 4-21 ページの「表示またはカスタマイズするドリルスルー レポートの選択」に進み、カスタマイズするレポートを選択します。

表示またはカスタマイズするドリルスルー レポートの選択

[リンク オブジェクト ブラウザ] ダイアログ ボックスからドリルスルーを起動すると、次の場合に Integration Server の [ドリルスルー レポートの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

- スプレッドシート内で選択したセルまたはセルの範囲に複数のドリルスルー レポートが関連付けられている場合
- 関連付けられているレポートは 1 つのみであるが、ドリルスルー ウィザードを使用してカスタマイズが可能な場合

[ドリルスルー レポートの選択] ダイアログ ボックスには、スプレッドシート内で選択したセルで利用できるドリルスルー レポートのリストが表示されます。Hyperion OLAP Builder でのレポートの定義によっては、レポートの表示のみが可能で、カスタマイズはできない場合もあります。

このチュートリアルで使用するサンプル データベースは、Promotion Media Mix for Cities です。このサンプル レポートは、ドリルスルー ウィザードを使用してカスタマイズします。あらかじめ定義されたドリルスルー レポートをカスタマイズせずに実行するには、次の手順に従ってください。

[使用可能なレポート] リスト ボックスから、表示するレポートを選択します。

4. [実行] をクリックします。

Integration Server によってリレーショナル ソースからデータが取得され、その結果が新しいスプレッドシートに表示されます。新しいシートは、現在のシートの前に追加されます。

- ▶ サンプルのドリルスルー レポートをカスタマイズするには、次の手順に従ってください。
 1. [使用可能なレポート] リストボックスから、Promotion Media Mix for Cities レポートを選択します。

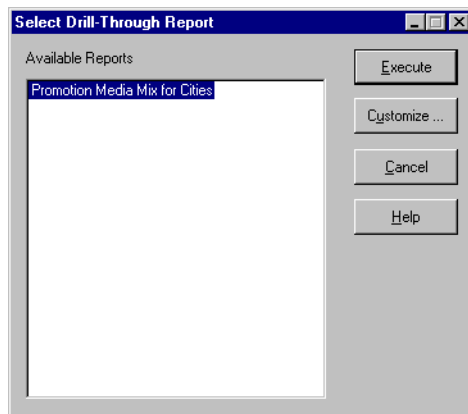


図 4-15: サンプル ドリルスルー レポートの選択

2. [カスタマイズ] をクリックします。

注意: [カスタマイズ] ボタンは、レポートによって有効な場合と無効な場合があります。有効か無効かは、そのレポートの OLAP Builder における定義内容によって決まります。

ドリルスルー ウィザードの最初の画面が表示されます。

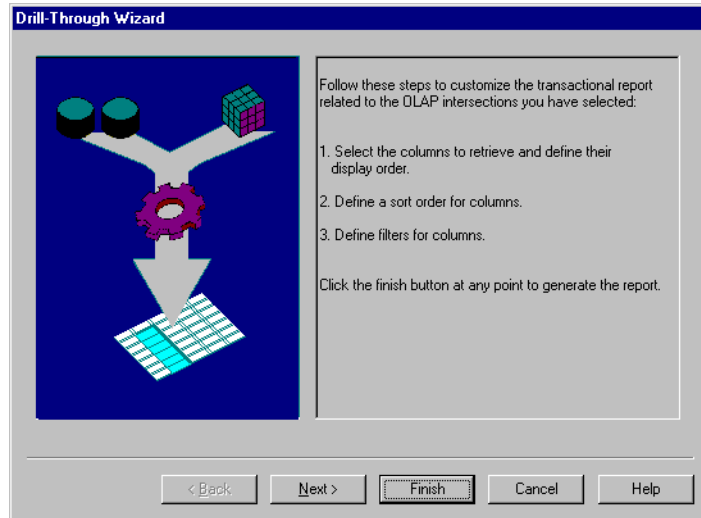


図 4-16: [ドリルスルー ウィザード] の最初の画面

3. [次へ] をクリックして [列および表示順序の選択] ダイアログ ボックスを表示します。

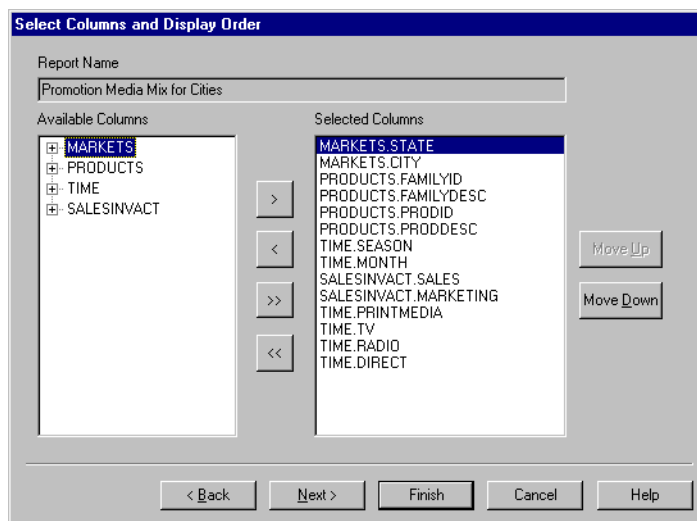


図 4-17: [列および表示順序の選択] ダイアログ ボックス

4. 次の項 4-24 ページの「列の選択と順序の設定」に進んでください。次の項ではカスタマイズしたレポートに取得する列を選択し、選択した列の順序を決定します。

列の選択と順序の設定

ドリルスルー ウィザードを使用すると、あらかじめ定義されているドリルスルー レポートをカスタマイズできます。ドリルスルー ウィザードでは、まずリレーショナル データベースから取得する列を選択して順序を決定します。これらの列には Hyperion Essbase データベースには存在しない詳細情報が格納されています。

[列および表示順序の選択] ダイアログ ボックスでは、リレーショナル データ ソースから Integration Server を介して取得する列を選択できます。このダイアログ ボックスでは、選択した列をカスタマイズ後のレポートでどのように表示するかの指定も可能です。

[使用可能な列] リスト ボックスには、OLAP Builder での定義内容に従ってリレーショナル データ ソースの列のうち、該当のレポートで使用できるものがリストされます。[選択した列] リスト ボックスには、[使用可能な列] リスト ボックスから選択した列が拡張形式で表示されます。[選択した列] リスト ボックスから列を削除できません。削除した列はドリルスルー レポートから除外されます。

この例では、Promotion Media Mix for Cities サンプル レポートに組み込む列を [使用可能な列] リスト ボックスから選択します。選択した列は [選択した列] リスト ボックスに拡張形式で表示されます。この例では、いったん選択した列のいくつかをドリルスルー レポートへの組み込み対象から外す方法も示します。

1. [選択した列] リスト ボックスで、TIME.PRINTMEDIA、TIME.TV、TIME.RADIO、TIME.DIRECT の各列を選択します。

複数の列を一度に選択するには、[Ctrl] キーを押した状態で選択を行ってください。

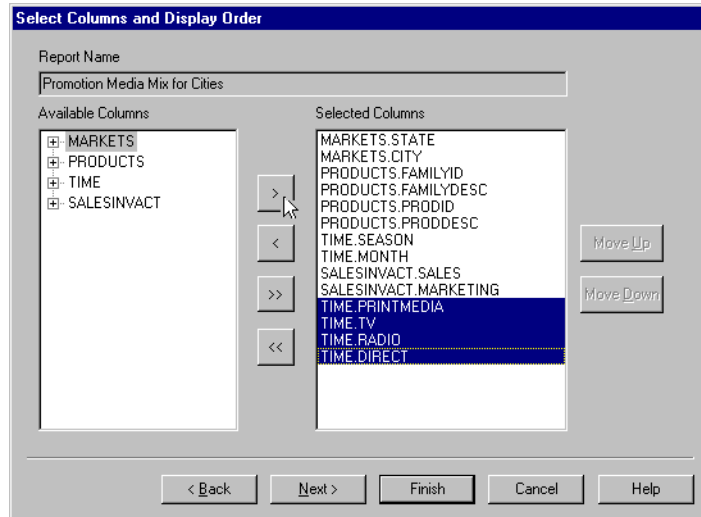







図 4-18: ドリルスルー レポートから削除する列の選択

2.  をクリックして、選択した列を [選択した列] リスト ボックスから [使用可能な列] リスト ボックスに戻します。

1つのリスト ボックスから別のリスト ボックスに列を移動するには、 または  をクリックします。1つのリスト ボックスから別のリスト ボックスにすべての列を移動するには、 または  をクリックします。

3. 列の表示順序を変更します。[選択した列] リスト ボックスで各 PRODUCTS 列を（一度に1つずつ）選択して [上へ移動] を2回クリックし、各 PRODUCTS 列を MARKETS 列の上に移動してください。

カスタマイズ後のレポートでは、列は [選択した列] リスト ボックスに表示されている順序で表示されます。つまり、PRODUCTS 列が最初の（左端の）列、MARKETS 列が2番目の列（以下同様）となります。

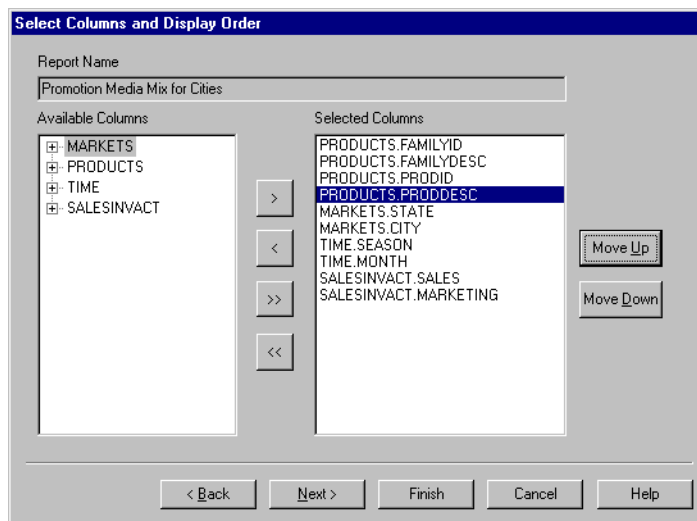


図 4-19: 列の表示順序の変更

4. [次へ]をクリックして[データソート順序の選択]ダイアログボックスを表示し、次の項 4-27 ページの「データの順序設定」に進んでレポートのカスタマイズを続けます。

注意: レポートのカスタマイズが終わったら、任意の時点で[終了]をクリックしてください。これにより、レポートが生成され、その結果が新しいシートに表示されます。新しいシートは、現在のシートの前に追加されます。

データの順序設定


[データソート順序の選択]ダイアログボックスでは、特定の列のデータのソート順序として昇順または降順を選択できます。このソート順序によって、ドリルスルー レポートでの行の表示順序が決まります。たとえば、MARKETS.CITY 列のデータ（個々の都市名）を昇順でソートすると、都市がドリルスルー レポートではアルファベット順に表示されます。

ドリルスルー レポートで行のソート順序を定義するには、次の手順に従ってください。

1. [使用可能な列]リストボックスで、SALESINVACT.MARKETING 列を選択します。

[使用可能な列]リストボックスに表示される列は、4-24 ページの「列の選択と順序の設定」で選択した列です。[列]リストボックスに表示される列は、OLAP Builder でソート順序を定義済みの列です。

OLAP Builder でのレポート作成時にデータソート順序が選択済みの場合は、その選択内容が[順序]リストボックスに表示されます。選択されていない場合のデフォルトのソート順序は[昇順]です。

2.  をクリックして、SALESINVACT.MARKETING 列を [列] リストボックスに移動します。これにより、この列に対してソート順序を定義できるようになります。

1つのリストボックスから別のリストボックスに列を移動するには、**[>]**または**[<]**をクリックします。1つのリストボックスから別のリストボックスにすべての列を移動するには、**[>>]**または**[<<]**をクリックします。

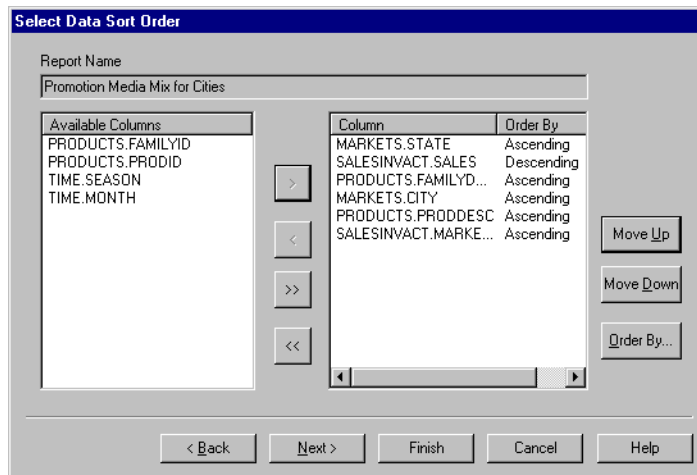


図 4-20: ソートのために対象列を [列] リストボックスに移動

3. 次の手順で [列] リストボックスでの列の表示順序を変更し、列がグループごとに表示されるようにします。
 - a. MARKETS.CITY をクリックし、[上へ移動] を 2 回クリックします。
 - b. SALESINVACT.MARKETING をクリックし、[上へ移動] を 2 回クリックします。

4. [列] リスト ボックスで SALESINVACT.SALES 列をダブルクリックしてデータのソート順序を [降順] から [昇順] に変更します。これによりドリルスルー レポートでは、SALES の値は月順に表示されます。

この時点で、Integration Server による列のソートが行われます。まず州名のアルファベット順、次に都市名のアルファベット順、さらに販売の月順でソートが行われます。

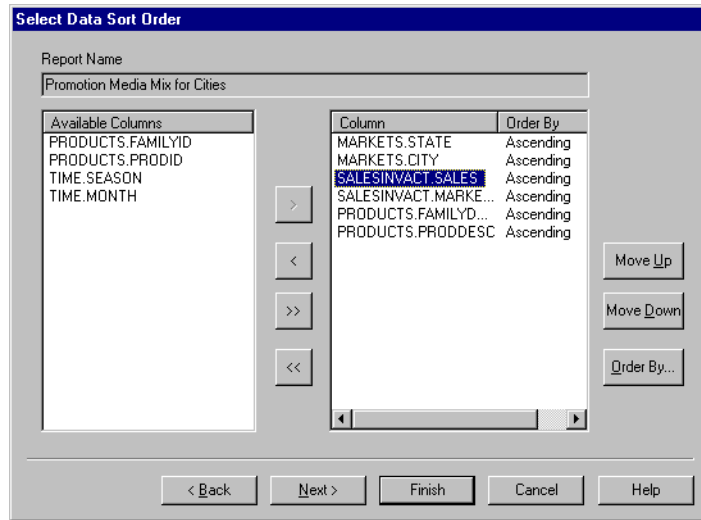


図 4-21: データのソート順序の選択

5. [次へ] をクリックして [データフィルタの選択] ダイアログ ボックスを表示し、次の項 4-31 ページの「データのフィルタ処理」に進んでレポートのカスタマイズを続けます。

- ▶ 複数の列のデータ ソート順序を一度に変更するには、次の手順に従ってください。

1. [Ctrl] キーを押した状態で、[列] リスト ボックスから目的の列を選択します。
2. [順序] をクリックします。

Integration Server の [順序] ダイアログ ボックスが表示されます。

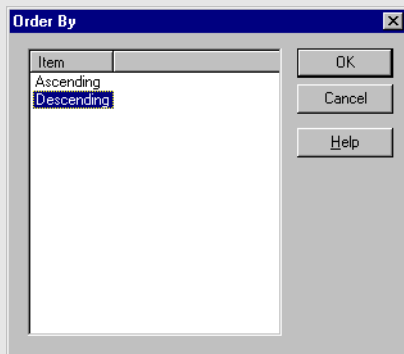


図 4-22: [順序] ダイアログ ボックス

3. [昇順] または [降順] を選択して [OK] をクリックし、[データ ソート順序の選択] ダイアログ ボックスに戻ります。

データのフィルタ処理

フィルタを適用すると、Integration Server によってドリルスルー レポートに取得される内容を指定できます。特定の列について特定の条件を指定すると、その条件を満たすデータのみが取得されます。たとえば、このサンプル データベースの MARKETS.CITY 列には、個々の都市名が設定されています。このサンプル ドリルスルー レポートの場合、この都市リストにフィルタを適用しないで Integration Server によるデータ取得を実行すると、リレーショナルソースからは East 地域のすべての都市のデータが取得されます。これは、このサンプル ドリルスルー レポートの適用対象が East 地域全体であるためです。この項では MARKETS.CITY 列にフィルタを適用して、East の特定の都市のデータのみがレポートに組み込まれるようにします。

▶ フィルタを定義するには次の手順に従ってください。

1. [列] リストボックスから、MARKETS.CITY 列を選択します。

[列] リストボックスに表示される列は、4-24 ページの「列の選択と順序の設定」で選択した列です。

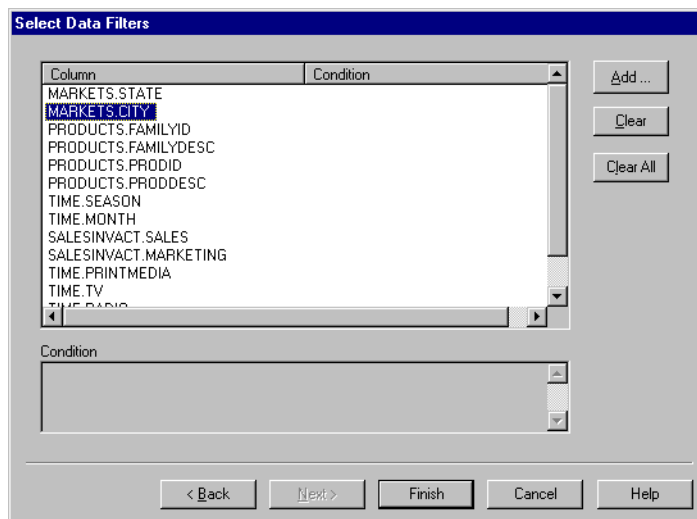


図 4-23: [データ ソート順序の選択] ダイアログ ボックス

注意: 該当の列に対してすでにフィルタが設定されている場合は、そのフィルタが [条件] リストボックスに表示されます。フィルタ文字列全体は、画面下側の [条件] テキストボックスに表示されます。

- MARKETS.CITY 列を選択した状態で、[追加] をクリックします。
Integration Server の [列へのフィルタの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

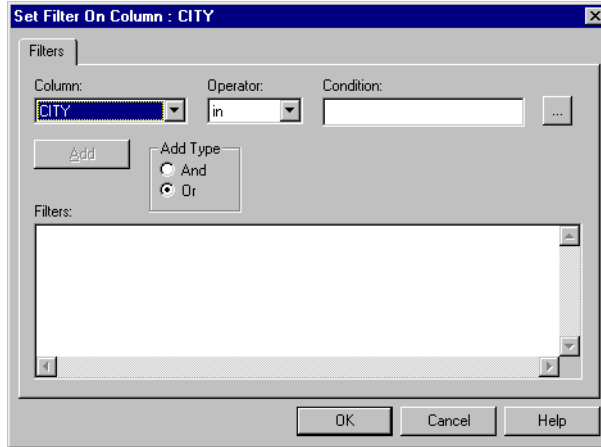



図 4-24: [列へのフィルタの設定] ダイアログ ボックス

- [列] ドロップダウン リスト ボックスから、CITY 列を選択します。
[列] ドロップダウン リスト ボックスに表示される列は、4-31 ページの「データのフィルタ処理」で選択した列です。
- [演算子] ドロップダウン リスト ボックスから、[In] 演算子を選択します。

注意：フィルタ演算子の詳細は、HIS ドリルスルーのオンラインヘルプを参照してください。

- [参照] ボタン  をクリックし、[リストからのフィルタ値の選択] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスには、その列のすべての値がリストされます。

Integration Server の [リストからのフィルタ値の選択] ダイアログボックスが表示されます。

注意: これらの値は、Integration Server によってリレーショナルデータソースから直接取得されます。リレーショナルデータソースに多数の値が格納されている場合は、Integration Server からユーザに対して、データソースからの取得前にすべての値を表示するかどうかの確認が行われます。

6. [Ctrl] キーを押した状態で、Andover、Boston、Cape Cod を選択して [OK] をクリックします。

同時に複数の値を選択できるのは、フィルタ演算子として [In] または [Not In] を選択した場合のみです。

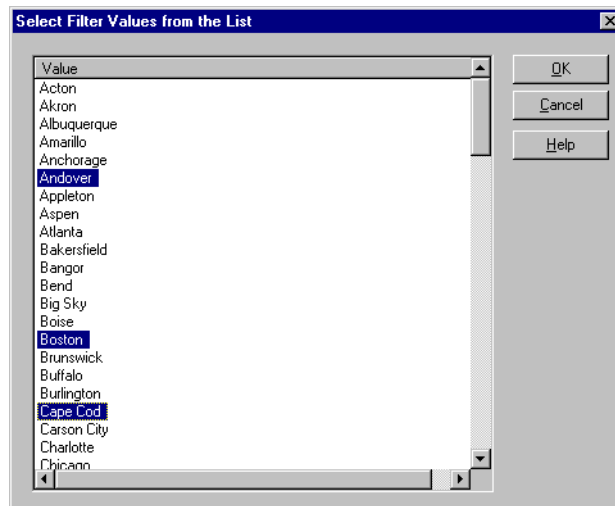


図 4-25: リストからフィルタ値を選択

7. [追加タイプ] オプショングループから [AND] を選択します。

8. [追加] をクリックすると、定義した条件が [フィルタ] リストボックスに追加されます。

注意： 複数のフィルタ条件の使用については、HIS ドリルスルーのオンラインヘルプを参照してください。

注意： この時点で、[列へのフィルタの設定] ダイアログボックスの表示は次のとおりになります。

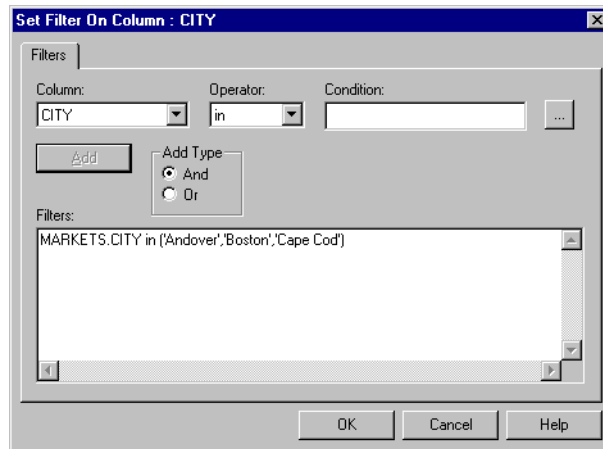


図 4-26: 列に対するフィルタの定義

定義したフィルタにより、ドリルスルーレポートに表示されるのは、Andover、Boston、Cape Cod のデータのみになります。

9. [OK] をクリックし、[**データフィルタの選択**] ダイアログ ボックスに戻ります。

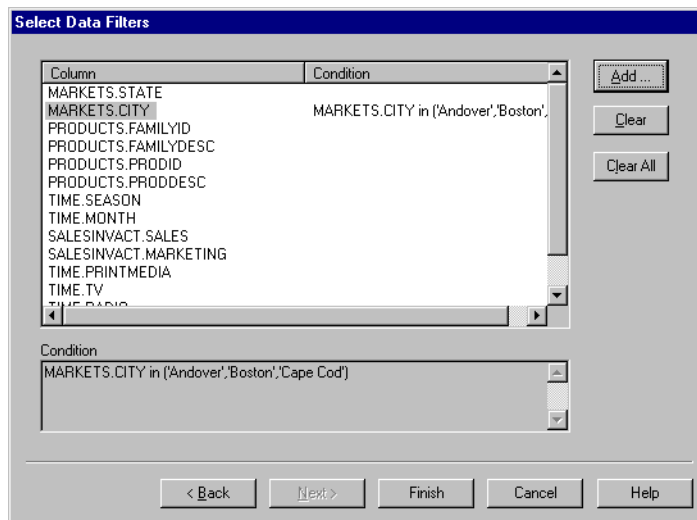


図 4-27: 列に対するフィルタの定義の結果

注意: フィルタを作成するには、[**フィルタ**] リスト ボックスにフィルタ条件を直接入力する方法もあります。詳細は、HIS ドリルスルーのオンライン ヘルプを参照してください。

1 つのフィルタを削除するには、削除するフィルタを選択して [**消去**] をクリックします。すべてのフィルタを削除するには、[**全消去**] をクリックします。

10. [終了] をクリックします。

Integration Server により、カスタマイズされたドリルスルー レポートが生成され、その結果が新しいスプレッドシートに表示されます。新しいシートは、ワークブック上の現在のシートの前に追加されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	FAMILYID	FAMILYDESC	PRODID	PRODDESC	STATE	CITY	SEASON	MONTH	SALES	MARKETING
2	100	Colas	100-10	Kool Cola	Massachusetts	Andover	Winter	Feb	70	15
3	100	Colas	100-30	Caffeine Free Cola	Massachusetts	Boston	Winter	Feb	143	35
4	100	Colas	100-10	Kool Cola	Massachusetts	Boston	Winter	Feb	246	60
5	100	Colas	100-20	Diet Cola	Massachusetts	Boston	Winter	Feb	280	66
6	100	Colas	100-10	Kool Cola	Massachusetts	Cape Cod	Winter	Feb	97	23
7										

図 4-28: ドリルスルー レポートのカスタマイズ結果

この例でのカスタマイズ後のドリルスルー レポートでは、ドリルスルー ウィザードで設定した指定内容が反映されています。

- TIME.PRINTMEDIA、TIME.TV、TIME.RADIO、TIME.DIRECT の各列は、組み込まれていません。
- シート内の列は、[列および表示順序の選択] ダイアログ ボックスの [選択した列] リスト ボックスで指定した順序で表示されています。
- STATE、CITY、SALES、MARKETING、FAMILYDESC、PRODDESC の各列は、昇順でソートされています。ソートはまず STATE 列、次に PRODDESC 列という順序で行われます。たとえば Integration Server は、最初に STATE 列の内容を昇順でソートします。この列にある州は 1 つのみ (Massachusetts) であるため、Integration Server は STATE 列を飛ばして CITY 列に移動し、この列の内容を昇順 (アルファベット順) でソートします。SALES 列では、値が都市ごとに昇順で (月順に) 表示されます。指定したすべての列がソートされるまで同様の処理が続けられます (つまり、各列の内容がまず都市のアルファベット順でソートされ、次に都市ごとに昇順でソートされます)。
- リレーショナル ソースから取得されたのはドリルスルー ウィザードのフィルタで指定したとおり、Andover、Boston、Cape Cod の各都市のデータのみです。

Hyperion Essbase からの切断

ドリルスルーでの作業が終わったら、Hyperion Essbase サーバから切断し、これまで使用していたサーバ上のポートを解放して Hyperion Essbase スプレッドシート アドインの他のユーザが使用できるようにします。

▶ サーバから切断するには、次の手順に従ってください。

1. [Essbase] > [切断] を選択します。

[Essbase の切断] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、任意のシートをデータベースから切断できます。

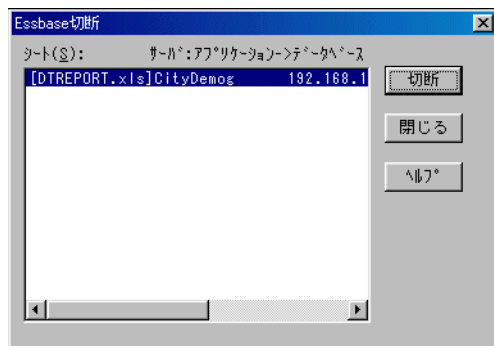


図 4-29: [Essbase の切断] ダイアログ ボックス

注意: ドリルスルーを使用した後で切断を試みると、エラー メッセージが表示される場合があります。エラー メッセージが表示された場合は、切断を行う前にシートから [Essbase] > [取得] を選択してください。

2. リストからシート名を選択し、[切断] をクリックします。
3. アクティブなシートがすべて切断されるまで、ステップ 2 を繰り返します。

4. [閉じる]をクリックし、[Essbase の切断] ダイアログ ボックスを閉じます。

注意: サーバとの接続は Lotus 1-2-3 を閉じることによっても切断できません。電源の切断やシステム障害によって Lotus 1-2-3 セッションが異常終了しても、サーバとの接続は切断されません。

索引

記号

- #Missing 文字列の抑制, 2-48
- #NoAccess 文字列の抑制, 2-48
- * ワイルドカード文字, 2-93
- ? ワイルドカード文字, 2-93

A

- Adobe Acrobat Reader, ix
- Acrobat Reader
 - 「Adobe Acrobat Reader」を参照
- Acrobat Reader のダウンロード, ix
- AND 演算子, 2-90
- API, 1-6

E

- Essbase
 - API, 1-6
 - アーキテクチャ, 1-3
 - アップグレード, xix
 - [オプション] ダイアログ ボックス, 2-10, 3-5, 4-7
 - [カスケード オプション] ダイアログ ボックス, 3-96
 - コンピューティング環境, vii
 - [システム ログイン] ダイアログ ボックス, 2-18, 3-3
 - 新機能, xx
 - セッションの開始, 2-4

接続

「接続」を参照

切断

「切断」を参照

- [切断] ダイアログ ボックス, 2-102
- メニュー, 2-4
- [メンバの選択] ダイアログ ボックス, 2-91, 2-98
- [メンバの選択] ダイアログ ボックス、クエリ デザイナからの表示, 2-76
- EssCell 関数, 3-38
- エラー メッセージ, 3-42
- 構文, 3-39
- Excel
 - アドイン マネージャ、Essbase メニューのインストール, 2-2
 - スプレッドシート アドインの手動組込み, 2-2
- Excel スプレッドシート アドイン
 - 「Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン」を参照

H

- HIS ドリルスルー
 - 「ドリルスルー、Hyperion Integration Server」を参照
- HIS ドリルスルー レポートのカスタマイズ, 4-4, 4-22
- HIS ドリルスルー レポートの実行, 4-20, 4-21
- Hyperion Essbase
 - 移行についての情報, xix

製品, 1-5
対象ユーザ, 1-2
Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン
HIS ドリルスルーへのアクセス, 4-14
インストール、手動組込み, 2-2
起動, 2-4
取得時のカーソル, 2-21
データ更新の記録, 3-93
ユーザ、説明, 1-2
Hyperion Integration Server, 1-6, 4-1

I

Integration Server ドリルスルー
「ドリルスルー、Hyperion Integration
Server」を参照
Interntl サンプル データベース, 3-103

L

LAN
「ネットワーク」を参照
Lotus 1-2-3
サンプル チュートリアル ファイル, 3-1
ステータス バー, 2-5
フォーマットの消去, 2-63
マウス操作, 2-7

M

Missing
抑制, 2-48
抑制の無効化, 3-32
Missing、抑制
カスケード シート内, 3-100
使用できない場合, 3-32

N

NULL 値, 3-39

O

ODBC クライアント, 1-6

OLAP
サーバ
「サーバ」を参照
定義, 1-1
OR 演算子, 2-90

S

Sample Basic
接続, 2-19
説明, 2-16
SQL インターフェイス, 1-5

T

TCP/IP プロトコル, 1-4

U

UDA
「ユーザ定義属性」を参照, 2-94
URL
データ セルへのリンク, 3-71
長さの制限, 3-73
編集, 3-82
リンクしたもののへのアクセス, 3-80
[URL の編集] ダイアログ ボックス, 3-82

V

V2.x モード, 3-56
VBA 関数, ix
Visual Basic for Applications
「VBA 関数」を参照

W

Web ゲートウェイ プロダクト, 1-7
Web リソース、データ セルへのリンク, 3-71
WWW、データ セルへのリンク, 3-71

X

Xchgrate サンプル データベース, 3-103

あ

アウトライン

次元, 1-10

集計, 1-12

説明, 1-9

動的計算メンバ, 3-43

動的時系列メンバ, 3-47

メンバ, 1-10

アクセス

Essbase コマンドの使用法, 2-15

Essbase データ, 2-18, 3-2

HIS ドリルスルー, 4-14

オンライン ヘルプ, 2-5

データベース, 2-18, 3-2

複数のデータベース, 3-84

リンク パーティション, 3-86

リンク レポート オブジェクト, 3-75

アップグレード, xix

宛先

カスケードシート, 3-97

[宛先オプション] ページ, 3-97

アドホック レポート, 1-1, 2-20, 3-29, 3-106

アプリケーション / データベース

HIS ドリルスルー用のサンプル, 4-13

Sample Basic, 2-2, 2-16, 2-19, 3-4

Sample Interntl, 3-102

Sample Xchgrate, 3-102

アプリケーション デザイナ, 1-2

アプリケーション パーティション

「リンクパーティション」を参照

アプリケーション プログラミング インター

フェイス, 1-6

い

移動

行および列

「ピボット」を参照

ワークシート上, 2-43

色、設定, 2-53

インストール

HIS ドリルスルー, 4-5

スプレッドシート アドインの手動組み込み,

2-2

インターネット、URL へのセルのリンク, 3-71

う

[上へ移動] ボタン, 4-26

え

演算子、比較, 2-90, 3-12

お

オブジェクト プロダクト, 1-7

オプション

応用チュートリアルでの設定, 3-5

[カスケード], 3-96

基本チュートリアルでの設定, 2-10

グローバル, 2-8, 2-13, 3-8, 4-11

ズーム, 2-11, 2-31, 3-6, 4-8

スタイル, 2-55

表示, 2-10, 3-5, 4-7

モード, 2-12, 3-7, 3-32, 4-9

[オプション] ダイアログ ボックス, 2-10, 4-7

オペレーティング システム, 1-4

親メンバ

スタイルの適用, 2-54

定義, 1-11

オンライン分析処理, 1-1

オンライン ヘルプ

スプレッドシートのヘルプの表示, 2-5

か

カーソル (Essbase), 2-21

外部ファイル, 3-64

[カスケード オプション] ダイアログ ボックス, 3-96

[カスケード] コマンド, 3-96

[カスケード情報] ページ, 3-97

[カスタマイズ] ボタン, 4-22

カスタム アプリケーション, 1-6, 1-7

下線文字の抑制, 2-51

索引

空

行, 3-24

列, 3-24

為替レート, 3-103

環境 (コンピューティング), vii

換算、通貨, 3-102

関数

「マクロ関数」を参照

管理者, 1-2

き

起動

HIS ドリルスルー, 4-14

Hyperion Essbase, 2-4

Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン
, 2-4

データの取得, 2-21

機能、スプレッドシート アドイン, xx

基本設定

「オプション」を参照, 2-8

行

値の非表示, 2-48, 3-100

空, 3-24

取得, 2-26

選択して削除, 2-43

選択して表示, 2-40

内部でのソート, 3-18

ネスト, 2-25

ピボット, 2-35

ピボット時の削除, 3-23

フィルタ処理, 3-11

列として表示, 2-35

連続していない場合の保持, 2-41

強制ログアウト, 2-103

兄弟 (定義), 1-11

[行の自動ソート] オプション, 3-56

共有メンバ、スタイルの適用, 2-55

く

クエリ

作成, 2-74

取得, 2-71

スタイルの適用, 2-85

定義, 2-71

保存, 2-83

削除, 2-85

クエリ デザイナ

オプション設定の適用, 2-89

クエリの作成, 2-75

操作パネル, 2-71

データのソート, 3-17

[データのソート] パネル, 3-17

データのフィルタ処理, 3-10

[データのフィルタ処理] パネル, 3-11

[名前を付けて保存クエリ] ダイアログボッ
クス, 2-83

ヒント パネル, 2-71

複数のデータベースへの接続, 2-87

プロパティ パネル, 2-71

メッセージ, 3-21

メッセージおよび確認, 2-86

レイアウト パネル, 2-76

クエリの作成, 2-74

クライアント

構成要素, 1-3

サーバと整合のとれたアップグレード, xix

ソフトウェア, 2-1

クライアント / サーバ環境, 1-3

クリック (定義), 2-7

[グローバル] ページ ([Essbase オプション] ダ
イアログ ボックス), 2-8

け

計算

EssCell の使用, 3-41

計算時間の短縮, 3-43

最新時間間隔の指定, 3-47

スクリプト, 3-94

代替変数, 3-51

データベース, 3-43, 3-94

データベースの状態, 3-95

動的, 3-43

動的時系列, 3-47
 [計算] コマンド, 3-94
 [計算スクリプトの選択] オプション, 3-95
 [計算] ダイアログボックス, 3-94
 現在の時間間隔
 「動的時系列」を参照

こ

降順ソート順序
 HIS ドリルスルー, 4-27
 クエリ デザイナ, 3-18
 更新
 データ, 3-90
 ログファイル, 3-93
 更新の監査, 3-93
 更新モード, 3-91
 子(定義), 1-11
 コマンド
 [カスケード], 3-96
 [計算], 3-94
 [取得], 2-22
 [取得およびロック], 3-90
 [消去], 2-23
 [ズームアウト], 2-30
 [ズームイン], 2-24
 [接続], 2-18, 3-3, 3-84
 [切断], 2-101
 [送付], 3-91
 [通貨レポート], 3-102, 3-106
 [データ無し操作], 2-43, 2-47
 [ピボット], 2-35
 [復元], 2-23
 [メンバの削除], 2-43
 [メンバの選択], 2-91
 [メンバ保持], 2-40
 [元に戻す], 2-23
 リリース 6 の新コマンド, xx
 [リンク オブジェクト], 3-65, 3-71
 [ロック], 3-91
 [ロック解除], 3-91
 コンピューティング環境, vii

さ

サーバ, 1-3
 Essbase OLAP、説明, 1-4
 Hyperion Integration Server, 1-6, 4-1
 クライアント / サーバ環境, 1-3
 更新の記録, 3-90
 接続, 2-18, 3-3
 切断, 2-101
 説明, 1-4
 データの送信, 3-90
 名前, 2-18, 3-3
 ネットワーク, 1-4
 パスワードの変更, 2-20
 リリース 6 への移行、クライアントとの整合, xix
 [最新時間間隔] オプション, 3-48
 最新時間間隔、指定, 3-47
 削除
 スタイル, 2-63
 選択したメンバ, 2-43
 フィルタ、HIS ドリルスルー, 4-36
 削除
 「削除」を参照, 2-43
 サブセット
 削除, 2-43
 保持, 2-40
 メンバの定義, 2-94
 [サブセット] ダイアログボックス, 2-94, 2-97
 サンプル
 チュートリアル用のファイル、場所, 3-1
 データベース
 接続, 2-19, 3-103
 説明, x, 2-16, 3-102
 データベース、HIS ドリルスルーに付属,
 4-13
 サンプルのディレクトリ, 3-1
 し
 シート
 「ワークシート」を参照
 シート宛先、[カスケード] オプション, 3-97

- [シート オプションとクエリ デザイナを併用]
 - オプション, 2-89
- シートのカスケード
 - 宛先, 3-97
 - 出力の種類, 3-97
 - 詳細度のレベル, 3-97
 - 名前, 3-99
 - フォーマット, 3-100
 - リストの作成, 3-100
- シートの重複
 - 「シートのカスケード」を参照, 3-96
- 時間間隔, 3-47
- 式
 - EssCell, 3-38
 - セル内, 3-24, 3-32
 - ドリル操作時の展開, 3-32
 - 保存
 - 制限事項, 3-29
 - 他の操作への影響, 3-32
 - 有効化, 3-27, 3-31
- [式の充てん] オプション, 3-32, 3-35
- 式の保持モード
 - [式の充てん], 3-31
 - [取得時に保持], 3-27, 3-31
 - 制限事項, 3-29, 3-32
 - ピボット, 3-29
 - [保存および削除時のみ保持], 3-31
- 式の保存, 3-27, 3-35
- 次元
 - スタイルの適用, 2-58
 - 説明, 1-10
 - 通貨換算, 3-103
 - ドリルアップ, 2-30
 - ドリルダウン, 2-24, 2-28
 - ピボット, 2-35
 - 要素の名前, 1-10
- システム管理者, 1-2
- システム障害, 2-102
- [下へ移動] ボタン, 4-26
- [実行] ボタン, 4-22
- 自動ログアウト, 2-103
- 集計 (定義), 1-12
- 終了、異常, 2-102
- 出力、カスケードシート, 3-96
- 手動計算モード, 3-42
- 取得
 - カーソル, 2-21
 - 関数, 3-38
 - キャンセル, 2-22
 - 行への取得, 2-26
 - 式の保存, 3-27, 3-31
 - 条件付き, 3-10
 - 詳細設定モード, 3-53
 - 詳細度の高いデータ, 2-24
 - 処理時間の短縮, 2-63, 3-21, 3-36, 3-44
 - 処理速度への影響, 2-63, 3-21, 3-44
 - セルの範囲, 3-35
 - 選択したセル, 3-35
 - 通貨換算, 3-102
 - データ, 2-17
 - データの抑制, 2-43
 - 手順の概要, 2-20
 - 動的計算メンバ, 3-43
 - 非対称型レポートへの取得, 3-21
 - フォーマット設定されたシート, 3-24
 - ルール, 3-25
 - フリー フォーム モード, 3-56
 - モード, 3-52
 - 列, 2-26
- [取得および ロック] コマンド, 3-90
- [取得] コマンド, 2-22
- [取得時に保持] オプション
 - 無効化, 3-32
 - 有効化, 3-27, 3-32
- 順序
 - 列、HIS ドリルスルー, 4-27, 4-24, 4-26
- [順序] ダイアログ ボックス, 4-30
- [順序] ボタン, 4-30
- [消去] コマンド, 2-23
- [消去] ボタン, 4-36
- 条件付き取得, 3-10
- 詳細設定エンジン, 3-53
- 詳細設定モード, 3-53, 3-62
- 昇順ソート順序

HIS ドリルスルー, 4-27
クエリ デザイナ, 3-18
ショートカット、マウス操作, 2-7

す

数値、保持, 3-25
[ズームアウト] コマンド
ドリルアップ オプション, 2-30
[ズームイン] コマンド
ドリルダウン オプション, 2-28, 2-30
レベルの選択, 2-32
ズーム コマンド、カスタマイズ, 2-31
[ズーム時に保持] オプション, 3-32, 3-34
[ズーム] ページ ([Essbase オプション] ダイア
ログ ボックス), 2-11, 2-32
スタイル
ESSBASE.INI への保存, 2-59
階層, 2-62
削除, 2-63
重複, 2-62
消去, 2-63
定義, 2-54, 2-55
適用
Integration Server ドリルスルーのセル,
4-15
親メンバ, 2-54
共有メンバ, 2-55
クエリ デザイナの結果, 2-89
次元, 2-58
次元のメンバ, 2-58
データセル, 2-61
メンバ, 2-54
リンク パーティション セル, 3-87
リンク レポート オブジェクトのセル,
3-68
無効化, 2-63
メンバの選択, 2-55
有効化, 2-56
スタイルの重複, 2-62
スタイルの消去, 2-63

[スタイル] ページ ([Essbase オプション] ダイ
アログ ボックス), 2-55
[スタイルを使用] オプション, 2-56
ステータスバー、表示 / 抑制の切替え, 2-5
スプレッドシート
Missing とゼロ値の抑制, 2-48
オプションの設定, 2-10
カスケード, 3-96
グローバル オプション, 2-8, 2-24, 3-30
式の保存, 3-31
ズーム オプション, 2-32
スタイル オプション, 2-53
スタイルの適用, 2-53
説明, 1-8
データ更新ログ ファイル, 3-93
データの取得, 2-17
ドリル操作のオプション, 2-31
配布, 3-96
複数作成, 3-96
別名の表示, 2-64, 2-66
保存, 2-101
メンバ名の表示, 2-66
メンバラベルの繰返し表示, 2-68
モード オプション, 3-31, 3-52
スプレッドシートからのデータ更新の記録,
3-93
スプレッドシート ツールキット プロダクト,
1-5
[すべて消去] ボタン, 4-36

せ

制限事項、[式の保存], 3-32
世代
スプレッドシートへの名前への入力, 3-62
接続
Essbase への接続, 2-18, 3-3
Hyperion Integration Server, 4-14, 4-20
現在の接続の表示, 3-86
データベース, 2-18, 3-2
複数のデータベース, 3-84
リレーショナル データソース, 4-1, 4-14,
4-20

接続解除

「切断」を参照, 2-101

[接続] コマンド, 2-18, 3-3, 3-84

[接続情報] テキストボックス, 3-86, 3-94

接続

「切断」も参照

[切断]

コマンド, 2-101

ダイアログボックス, 2-102

切断

Essbase, 2-101

Hyperion Integration Server, 4-38

強制ログアウト, 2-103

セル

EssCell 関数, 3-38

URL の接続

「リンク」を参照

URL のリンク, 3-71

個別値の取得, 3-38

式, 3-24, 3-27, 3-31, 3-38

スタイルの適用, 2-53, 2-61

データベース外の値, 3-24

ノートのリンク, 3-69

範囲の取得, 3-35

ファイルのリンク, 3-65

フォーマット設定, 2-53, 2-61, 3-68

親メンバ, 2-54

次元のメンバ, 2-58

データセル, 2-61

動的計算メンバ, 3-44

リンクパーティションへのアクセス, 3-86

リンクレポートオブジェクト, 3-65, 3-71

隣接していない場合の選択, 2-41

レポートの接続

「リンク」を参照

セル内での編集, 2-7

セル内編集, 2-7

セルノート

セルへのリンク, 3-69

リンクしたもののへのアクセス, 3-78

[セルノートの編集] ダイアログボックス, 3-79

セル範囲

HIS ドリルスルー, 4-18

削除, 2-43

取得, 3-35

保持, 2-40

隣接していない場合の選択, 2-41

ゼロ値

抑制, 2-48, 2-51

抑制の無効化, 3-32

選択

最新時間間隔, 3-47

削除するセル, 2-43

取得するセルの範囲, 3-35

保持するセル, 2-40

メンバ, 2-90

隣接していないセル, 2-41

[選択されていないグループの削除] オプション, 3-32

[選択したグループ内] オプション, 2-33, 3-21

選択 (定義), 2-7

そ

操作の取消し, 2-23

送信

サーバへのデータの送信, 3-90

ログファイル, 3-93

[送付] コマンド, 3-91

ソート順序

HIS ドリルスルー, 4-27

複数の列のソート, 4-30

クエリ デザイナ, 3-17

ソート条件, 3-10

属性、ドリルダウン, 2-28

た

ダイアログボックス、[ヘルプ] ボタン, 2-6

対称型レポート, 3-21

代替次元

「次元、代替」を参照

代替変数, 3-51, 3-52

代替名

「別名」を参照

多次元データベース
 「データベース」を参照
 ダブルクリック
 定義, 2-7
 有効化
 ドリル操作, 2-8
 リンク オブジェクトの表示, 3-75, 3-87,
 4-19

ち

チュートリアル
 基本操作, 2-1
 準備, 2-10
 注意事項, 2-15

つ

[追加] ボタン, 4-33
 通貨
 「通貨換算」を参照
 通貨換算
 為替レートの変更, 3-107
 サンプル データベース, 3-103
 設定, 3-107
 レポート作成, 3-106
 通貨換算プロダクト, 1-6
 [通貨レポート] コマンド, 3-102, 3-106
 [通貨レポート] ダイアログ ボックス, 3-107
 [次のレベル] オプション, 2-32, 3-97

て

ディスク容量、動的計算のメリット, 3-43
 データ
 Missing, 2-48
 計算, 3-94
 更新, 3-90, 3-93
 サブセットの削除, 2-43
 サブセットの保持, 2-40
 取得
 「取得」を参照
 操作, 2-43
 動的な計算, 3-43

比較演算子, 3-12
 ピボット, 2-35
 表示, 1-8, 2-21
 フィルタ処理, 3-10
 フィルタ処理、HIS ドリルスルー, 4-36
 フォーマット設定, 2-52
 変更, 3-90
 向きの変更, 2-35
 リレーショナル、HIS ドリルスルーの使用,
 4-1
 ロック, 3-90
 ロック解除, 3-91
 データ ソート, 3-10
 データ更新の追跡, 3-93
 データ取得のキャンセル, 2-22
 データ取得の無効化
 「データ無し操作」を参照
 データソース、リレーショナル, 4-20
 データソート順序、HIS ドリルスルー, 4-27
 [データソート順序の選択] ダイアログ ボック
 ス, 4-27
 [データ無し操作] コマンド, 2-43, 2-47
 データの表示, 1-8, 2-21
 データのフィルタ処理, 3-10
 データ ビューの詳細表示
 「ドリルダウン」を参照
 [データ フィルターの選択] ダイアログ ボック
 ス, 4-32
 データ ブロックのロック解除, 3-91
 データ ブロックのロック、複数のユーザ, 3-90
 データベース
 アウトライン, 1-13
 切替え, 3-84
 クエリ
 「クエリ」を参照, 2-71
 計算
 「計算」を参照
 サンプル, 2-16, 3-102, 4-13
 次元, 1-10
 集計, 1-12
 接続
 「接続」を参照
 接続の表示, 3-86

切断, 2-101
選択
 「接続」を参照
定義, 1-7
編成, 1-9
前のビューの復元, 2-23
メンバ, 1-10
リンク
 「リンクパーティション」を参照
ルール, 1-9
ロード, 2-20, 3-4
ロック, 3-90
データベース接続の終了
 「切断」を参照
データベース接続の状況, 3-86
データベースビューの復元, 2-23
データベースへの接続
 「接続」を参照
テキスト
 スタイルの階層, 2-62
 ピボット
 「ピボット」を参照
 フォーマット設定, 2-56
 フォーマットの保持, 3-25
 フリーフォームでの入力, 3-52
電源切断, 2-102
転送プロトコル, 1-4

と

透過パーティション
 「リンクパーティション」を参照
同時
 サーバに対する更新, 3-90
 データベースへのアクセス, 2-19, 3-84
動的計算メンバ、スタイルの適用, 3-44, 3-45
動的時系列
 最新時間間隔の指定, 3-48, 3-50
 定義, 3-47
ドラッグアンドドロップ操作, 2-35
ドラッグ、定義, 2-7
トランザクションレベルのデータ、HISドリル
 スルーでのアクセス, 4-1

ドリル
 [式の充てん], 3-31
 式の保持, 3-31
 集計のドリルダウン, 1-12
 詳細度の低いデータ, 2-30
 属性のドリルダウン, 2-28, 2-29
 ダブルクリックによる実行, 2-7
ドリルスルー、Hyperion Integration Server
 アクセス, 4-3, 4-14
 インストール, 4-5
 サンプル
 データベース, 4-13
 ドリルスルーレポート, 4-13
 ファイル, 4-15, 4-16
 使用方法, 4-14
 説明, 4-1
 セル、スタイルの定義, 4-15
 セルのスタイル, 4-3
 前提条件, 4-5
 チュートリアル実行時の注意事項, 4-6
 手順, 4-14
 複数のレポート, 4-3
ドリルスルーウィザード
 起動画面, 4-23
 説明, 4-4
 ダイアログボックス, 4-23
[ドリルスルーレポートの選択]ダイアログ
 ボックス, 4-21, 4-22
ドリル操作時の式の展開, 3-32

な

名前
 繰返し, 2-68
 スタイルの適用, 2-54
 世代の入力, 3-62
 代替
 「別名」を参照
 別名との同時表示, 2-66
 レベルの入力, 3-62
名前付きパイプ(プロトコル), 1-4

ね

ネットワーク, 1-4

の

ノート、データセルへのリンク, 3-69

は

パーティショニング プロダクト

「リンクパーティション」を参照

パーティション

「リンクパーティション」を参照

配布シート

「シートのカスケード」を参照

パスワード

入力, 3-3

変更, 2-20

[パスワード変更] ダイアログ ボックス, 2-20

パターン照合, 2-95

ひ

比較演算子, 2-90, 3-12

ビジュアル キュー

「スタイル」を参照

非対称型レポート

定義, 3-21

データの取得, 3-21

ピボット, 3-23

ピボット

行または列, 2-35, 3-23

式の保存, 3-29

使用できない場合, 3-25

説明, 2-7, 2-35

データ取得無し, 2-45

テキストへの影響, 3-25

ドラッグによる実行, 2-36

非対称型レポート, 3-23

フォーマット設定されたシート, 3-29

[ピボット] コマンド, 2-35

ビュー、復元, 2-23

表示

Essbase メニュー, 2-4

アクティブな接続, 3-86

オプション, 2-52

オンライン ヘルプ, 2-5

少数メンバ

「ドリル」を参照, 2-30

スタイル, 2-56

スプレッドシート (データ無し), 2-43

スプレッドシート内のデータ, 2-21

多次元データ, 1-8

多数メンバ

「ドリル」を参照

動的計算メンバ, 3-44

別名, 2-64

別名と名前, 2-66

メンバラベルの繰返し, 2-68

リンクパーティション, 3-86

リンク レポート オブジェクト, 3-75

列の順序、HIS ドリルスルー, 4-24

[表示] ページ ([Essbase オプション] ダイアログ ボックス), 2-10, 4-7

開く

Essbase, 2-4

ふ

ファイル

宛先

カスケードシート, 3-98

チュートリアル用のサンプル, x, 3-1

データセルへのリンク, 3-65

保存先

クエリ デザイナのクエリ, 2-84

リンクしたもののへのアクセス, 3-76

フィルタ

HIS ドリルスルー, 4-36

演算子, 4-33

フォーマット設定

親メンバ, 2-54

カスケードシート用のオプション, 3-100

次元のメンバ, 2-58

スタイルの有効化, 2-56

スプレッドシート, 2-52

データセル
読取り / 書込み, 2-61
読取り専用, 2-61
リンク オブジェクト, 3-68, 3-87
テキストとセルのスタイル, 2-61
動的計算メンバ, 3-44
別名と名前の表示, 2-66
別名の表示, 2-64
メンバラベルの繰り返し表示, 2-68
リンク オブジェクト セル, 3-68, 3-87
フォーマット設定されたシート
データの取得, 3-24
ピボット, 3-29
フォント
スタイルリスト, 2-56
フォーマット, 2-55
[フォント]ダイアログ ボックス, 2-56
[復元] コマンド, 2-23
複数のフィルタ条件、HIS ドリルスルー, 4-35
フリー フォーム取得モード, 3-56
注意事項, 3-56
フリー フォーム レポート作成
詳細設定モード, 3-53
世代名とレベル名の入力, 3-62
データの取得, 3-52
フリー フォーム モード, 3-56
プリンタ出力、カスケード シート, 3-98
プログラミング インターフェイス, 1-6
ブロック、データのロック, 3-90

へ

別名
定義, 2-64
テーブル, 2-64
表示
クエリ デザイナの結果, 2-89
手順, 2-64
メンバ名との同時表示, 2-66
[別名保存] コマンド, 2-101
[別名を使用] オプション, 2-64
ヘルプ、アクセス, 2-5

[ヘルプ] ボタン, 2-6
変更
行と列の向き, 2-35
スタイル, 2-53
スプレッドシートのフォーマット, 2-52
パスワード, 2-20
編集
URL, 3-80, 3-82
セル ノート, 3-78
リンク ファイル, 3-77
[編集] メニュー, 2-23

ほ

保持
式
取得時, 3-27, 3-31
データ保持時, 3-31
ドリル操作時, 3-31
選択したメンバ, 2-40
データサブセット, 2-40
保存
クエリ, 2-83
式, 3-24, 3-25
ワークシート, 2-101
[保存および削除時のみ保持] オプション, 3-32
[保存] コマンド, 2-101
保存先
クエリ デザイナのクエリ, 2-83

ま

マウス操作、有効化, 2-6
マウスの左ボタン, 2-6
マウスの右ボタン, 2-6
前のデータベース ビューに戻る, 2-23
マクロ関数
EssCell, 3-38
スプレッドシート ツールキット, ix, 1-5,
2-6

み

[未定義メンバの表示] オプション, 3-27, 3-30

め

- メイン メニュー (Essbase) , 2-4
- メッセージ (Essbase)
 - EssCell, 3-42
 - データベース計算状態, 3-95
 - 表示オプション, 3-30
 - 不明メンバ, 3-27
- メニュー、Essbase, 2-4
- メンバ
 - 親, 1-11
 - 兄弟, 1-11
 - 検索, 2-90, 2-93
 - 子, 1-11
 - 削除, 2-43
 - スタイルの適用, 2-54, 2-58
 - 選択, 2-77, 2-90
 - 選択解除, 2-99
 - 追加, 2-76
 - 定義, 1-10
 - 動的計算, 3-43
 - 動的時系列, 3-47
 - ドリルアップ, 2-26, 2-30
 - ドリルダウン, 2-25, 2-30
 - 名前
 - 「メンバ名」を参照
 - 別名, 2-64
 - 保持, 2-40
- [メンバ情報] ダイアログ ボックス, 2-92
- [メンバ選択] コマンド, 2-91
- メンバの検索, 2-90, 2-93
- [メンバの検索] ダイアログ ボックス, 2-93
- [メンバの削除] コマンド
 - 式の保存モード, 3-31
 - 説明, 2-43
- メンバの選択、クエリ デザイナの使用, 2-76
- [メンバの選択] ダイアログ ボックス, 2-91
- [メンバ選択のプレビュー] ダイアログ ボックス, 2-81
- メンバの追加
 - 「メンバ、追加」を参照
- [メンバのプレビュー] ダイアログ ボックス, 2-97, 2-98

- [メンバの保持] コマンド
 - 式の保存モード, 3-31
 - 説明, 2-40
- [メンバ保持期間] オプション, 2-32
- メンバ名
 - EssCell 関数, 3-40
 - インデント, 1-12, 4-7
 - 繰返し, 2-68
 - スタイルの適用, 2-54
 - スプレッドシートへの入力, 3-52, 3-56
 - 代替
 - 「別名」を参照, 2-64
 - フォーマット設定されたシート, 3-24
 - 別名, 2-64
 - 別名との同時表示, 2-66
- [メンバ名と別名の両方を使用] オプション, 2-67
- [メンバラベルの繰返し] オプション, 2-68

も

- [モード] ページ ([Essbase オプション] ダイアログ ボックス), 2-12, 3-7, 3-32
- [元に戻す] コマンド
 - [復元] コマンドを参照

ゆ

- 有効化
 - [データ無し操作], 2-44
 - 復元の設定, 2-24
 - マウス操作, 2-7, 3-75, 3-87
- ユーザ, 1-2
- ユーザ定義属性, 2-94
- ユーザ名、入力, 3-3

よ

- 抑制
 - Missing とゼロ値, 2-48
 - 下線文字, 2-48
 - データの取得, 2-43
 - 無効化, 3-32

読取り / 書込みセル, 2-61

読取り専用セル, 2-61

ら

ラベル

繰返し, 2-68

スタイルの適用, 2-58

スプレッドシートへの入力, 3-52, 3-56

別名との同時表示, 2-66

メンバ名

「メンバ名」を参照

り

リスト、[カスケード], 3-100

リスト、カスケードシート, 3-100

[リストからのフィルタ値の選択]ダイアログ
ボックス, 4-33, 4-34

リモートデータベース

「リンクパーティション」を参照, 3-86

リリース 6 (Essbase) 新機能, xx

リリース 6 への移行, xix

リレーショナルデータソース, 4-20

リレーショナルデータベース、HIS ドリルス
ルーでのアクセス, 4-1

リンク

URL をデータセルへ, 3-71

外部ファイル, 3-65

セルノート, 3-69

パーティション, 3-86

リンクオブジェクト

パーティション

「リンクパーティション」を参照

レポートオブジェクト

「リンクレポートオブジェクト」を参
照

[リンクオブジェクト]コマンド, 3-66, 3-70,
3-72

[リンクオブジェクトの接続]ダイアログボッ
クス, 3-66, 3-70, 3-72

[リンクオブジェクトブラウザ]ダイアログ
ボックス, 3-83, 3-87, 4-19

LRO, 3-65

リンクパーティション

アクセス権, 3-90

スプレッドシートからのアクセス, 3-86
セル、スタイルの適用, 3-87

リンクレポートオブジェクト

URL, 3-71

外部ファイル, 3-65

作成, 3-64

スタイルの適用, 3-68

スプレッドシートからのアクセス, 3-75
セルノート, 3-69

隣接していないセル, 2-41

る

累計計算, 3-47

累計計算、指定, 3-47

れ

列

空, 3-24

行として表示, 2-35

取得, 2-26

選択して削除, 2-43

選択して表示, 2-40

選択して保持, 2-40

ネスト, 2-25

幅の調整, 2-16, 3-26

ピボット, 2-35

フィルタ処理, 3-11

列、HIS ドリルスルー

選択, 4-24

ソート, 4-27

表示順序の選択, 4-24, 4-26

複数の列のソート, 4-30

リレーショナルソースから取得する列の選
択, 4-24

[列および表示順序の選択]ダイアログボッ
クス, 4-24, 4-25

列の調整

「列の調整」を参照

[列へのフィルターの設定] ダイアログボックス, 4-33

列または行のネスト, 2-25

レベル

カスケード, 3-97

ドリルイン, 2-32

ドリルダウン, 2-29

名前の入力, 3-62

レポート

アドホック, 2-20, 3-29

アドホック通貨, 3-106

作成方法, vii

非対称型, 3-21

フォーマット設定, 3-24

複数作成, 3-96

フリー フォーム, 3-52

保存, 2-101

レポート、HIS ドリルスルー

アクセス, 4-14

カスタマイズ, 4-22

実行, 4-20

切断, 4-38

表示またはカスタマイズ対象の選択, 4-21

レポート オブジェクトのセルへの接続

「リンク」を参照

レポート、作成

アドホック, 2-20, 3-106

[カスケード], 3-96

クエリ デザイナ, 2-71

方法, vii

[メンバの選択], 2-90

レポート スクリプト コマンド, 3-56, 3-59

レポートの作成

「レポート、作成」を参照

連続しない行および列, 2-41

Essbase のログオフ

「切断」を参照

Essbase へのログオン

「接続」を参照, 2-18

Hyperion Integration Server へのログオン,
4-20

リレーショナル データ ソースへのログオン,
4-20

[ロック解除] コマンド, 3-91

[ロック] コマンド, 3-91

論理演算子, 2-95

論理型の演算子, 2-90, 2-95

わ

ワークシート

データ取得無しでの操作, 2-43

フォーマット設定, 2-52

ワイルドカード文字, 2-93

ろ

ローカル エリア ネットワーク

「ネットワーク」を参照

ログアウト、強制または自動, 2-103

ログオン / ログオフ

